

Canon

EOS R8 Mark II



詳細ガイド

JA

目次

はじめに.....	11
カメラと主な付属品.....	12
補足情報.....	13
対応アクセサリー.....	14
使用説明書について.....	15
すぐ撮影するには.....	16
このガイドについて.....	23
使用できるカードについて.....	25
安全上のご注意.....	26
取り扱い上のご注意.....	30
各部の名称.....	33
ソフトウェア/アプリケーション.....	41
準備と基本操作.....	46
バッテリーを充電する.....	47
バッテリーを入れる／取り出す.....	52
カードを入れる／取り出す.....	55
モニターを使う.....	60
電源を入れる.....	62
RFレンズ、RF-Sレンズを取り付ける／取り外す.....	69
EFレンズ、EF-Sレンズを取り付ける／取り外す.....	73
マルチアクセサリースュー.....	77
ファインダーを使う.....	79
基本操作.....	80
メニュー機能の操作と設定.....	93
クイック設定.....	99
画面にタッチして操作する.....	107
静止画撮影モード.....	111
撮影モードの設定方法.....	112
A+：全自動撮影（シーンインテリジェントオート）.....	114
SCN：スペシャルシーン.....	126

ポートレート.....	127
美肌.....	128
集合写真.....	129
風景.....	130
パノラマショット.....	131
スポーツ.....	133
キッズ.....	134
流し撮り.....	135
クローズアップ.....	138
料理.....	139
夜景ポートレート.....	140
手持ち夜景.....	141
HDR逆光補正.....	144
サイレントシャッター.....	145
Fv : フレキシブルAE.....	146
P : プログラムAE.....	149
Tv : シャッター優先AE.....	151
Av : 絞り優先AE.....	153
M : マニュアル露出.....	156
B : バルブ撮影.....	159
カスタム撮影モード.....	161
動画撮影モード.....	162
撮影モードの設定方法.....	163
A+ : 全自動撮影 (シーンインテリジェントオート動画).....	165
SCN : スペシャルシーン動画.....	169
美肌動画.....	170
レビュー用動画.....	171
手ブレ補正動画.....	172
動画自動露出.....	173
動画シャッター優先AE.....	175
動画絞り優先AE.....	177
動画マニュアル露出.....	179

スロー&ファストモーション動画.....	182
撮影.....	186
メニュー目次：静止画撮影.....	189
メニュー目次：動画撮影.....	195
撮影モード.....	201
動画記録サイズ.....	204
動画記録形式.....	216
静止画記録画質.....	218
DPRAW設定.....	222
動画クロップ撮影.....	224
静止画クロップ／アスペクト.....	225
デジタルズーム.....	229
デジタルテレコン.....	231
録音.....	232
露出補正.....	245
露出を自動的に変えて撮る／AEB撮影.....	247
動画ISO感度に関する設定.....	249
静止画ISO感度に関する設定.....	256
動画Av値 1/8段設定.....	265
動画オートスローシャッター.....	266
フリッカーレス撮影.....	267
高周波フリッカーレス撮影.....	269
測光モード.....	275
AF時の検出被写体優先AE.....	276
露出を固定して撮る／AEロック撮影.....	277
カラーモード.....	279
色空間.....	310
明瞭度.....	312
HDR撮影（PQ）.....	313
HDRモード.....	314
オートライティングオブティマイザ.....	320
高輝度側・階調優先.....	321
VRクリアモード.....	322

ホワイトバランスの設定.	323
ホワイトバランスの補正.	336
レンズ光学補正.	341
長秒時露光のノイズ低減.	349
高感度撮影時のノイズ低減.	350
ダストデリートデータ取得.	351
ブレ記録設定.	354
ブリ連続撮影.	356
タイムラプス動画.	358
シネマビュー.	369
動画セルフタイマー.	370
多重露出撮影.	371
フォーカスBKT撮影.	380
ドライブモード.	386
インターバルタイマー撮影.	387
バルブタイマー.	396
サイレントシャッター機能.	398
シャッター方式.	399
カードなしリリース.	401
タリーランプ.	402
手ブレ補正（IS機能）設定.	403
動画自動水平補正.	409
メタデータ.	410
タイムコード.	411
測光タイマー.	419
JPEGへの距離情報付加.	420
撮影画像の確認.	422
高速表示.	425
表示Simulation.	426
OVFビューアシスト.	428
HDR/C.Logビューアシスト.	429
フォルスカラー設定.	433
ゼブラ設定.	435

撮影情報表示設定.	437
クイック設定画面.	453
クイック設定カスタマイズ.	454
表示フレームレート設定.	457
ファインダー表示形式.	459
鏡像表示.	460
自動電源オフ温度.	461
温度上昇緩和.	463
シャットダウン警告ガイダンス.	464
HDMI接続時の表示.	465
Canon LogのHDMI出力レンジ.	467
クリエイティブアシスト設定記憶.	468
動画撮影全般.	469
静止画撮影全般.	474
外部ストロボ撮影.	477
ストロボ撮影の設定.	484
AF／ドライブ.	499
メニュー目次：AFタブ（静止画撮影）.	500
メニュー目次：AFタブ（動画撮影）.	503
AF動作.	506
動画サーボAF.	512
レビュー用AF.	516
AFエリアの選択.	517
手動ピント合わせ（マニュアルフォーカス）.	539
登録人物優先.	545
サーボAF特性.	560
AF機能のカスタマイズ.	567
ドライブモードの選択.	584
セルフタイマー撮影.	587
リモコン撮影.	589
操作をカスタマイズする.	591
再生.	596

メニュー目次：再生タブ	598
画像の再生	600
画像の拡大表示	605
インデックス表示（複数画像表示）	610
動画の再生	613
動画の前後部分のカット	617
4K動画からフレーム切り出し	620
テレビで見る	623
画像プロテクト	625
画像消去	629
静止画の回転	636
動画の回転情報の変更	637
レーティング	638
レーティング設定時にプロテクト	643
印刷指定／DPOF	645
RAW現像	650
クリエイティブアシスト	659
クイック設定からのRAW現像	662
JPEG/HEIF画像のリサイズ	663
JPEG/HEIF画像のトリミング	665
HEIF画像をJPEG画像に変換	668
スライドショー	672
画像検索の条件設定	675
前回の画像から再生	678
再生する情報の設定	679
ハイライト警告表示	682
AFフレーム表示	683
再生時のグリッド	684
動画再生カウント	685
通信機能	687
メニュー目次：通信機能タブ	689
スマートフォン（タブレット）と接続	691
ワイヤレスリモコンと接続	718

EOS Utilityと接続.	723
image.canonに画像送信.	733
Content Transfer Professionalを使用した画像転送.	738
高度な接続.	739
USB (UVC/UAC) 接続で配信.	752
HDMI接続で配信.	758
Camera Connectで配信.	760
Live Switcher Mobileで配信.	771
機内モード.	779
Wi-Fi設定.	780
Bluetooth設定.	782
カメラの名前.	783
エラー内容の表示.	784
エラー表示の対応.	785
GPS機器の設定.	792
USB接続アプリの選択.	799
通信設定をカードに保存・読込.	800
通信の設定初期化.	804
通信機能の基本設定.	805
2回目以降のWi-Fi/Bluetooth接続.	826
仮想キーボードの操作方法.	827
無線通信機能での注意事項.	828
セキュリティについて.	830
ネットワークの設定を確認する.	831
無線通信機能の接続状態.	832
機能設定.	834
メニュー目次：機能設定タブ.	835
フォルダの設定.	839
静止画画像番号.	843
動画クリップ番号.	848
ファイル名の設定.	851
カード初期化.	857
縦位置画像回転表示.	859

動画縦位置情報の付加.	861
日付／時刻／エリア.	862
言語.	865
システム周波数.	866
ヘルプ機能.	867
機能ガイド.	869
電子音.	870
音量.	871
音声モニター.	872
モニターの明るさ.	880
ファインダーの明るさ.	881
ファインダーの色調微調整.	882
画面の表示先設定.	883
メニュー画面の拡大.	884
HDMI出力解像度.	885
センサークリーニング.	886
パスワードの管理.	890
拡張機能の有効化.	895
節電.	896
カメラの初期化.	897
カスタム撮影モード（C1-C3）.	898
カメラ設定をカードに保存・読込.	901
バッテリー情報.	904
著作権情報.	905
その他の情報.	908
操作カスタマイズ.	909
メニュー目次：操作カスタマイズタブ.	910
操作カスタマイズで変更できる内容.	913
カスタム機能／マイメニュー.	945
メニュー目次：カスタム機能タブ.	946
カスタム機能で変更できる内容.	948
メニュー目次：マイメニュータブ.	959

マイメニューの登録.....	960
資料.....	966
パソコンへの画像の取り込み.....	967
スマートフォンへの画像の取り込み.....	971
エクステンショングリップを使う.....	974
故障かな？と思ったら.....	976
エラー表示.....	995
情報表示.....	996
主な仕様.....	1011
商標・ライセンスについて.....	1032

はじめに

はじめに必ずお読みください

撮影の失敗や事故を未然に防ぐため、はじめに[安全上のご注意](#)、および[取り扱い上のご注意](#)をお読みください。また、この「詳細ガイド」をよく読んで正しくお使いください。

試し撮りと撮影内容の補償について

撮影後は画像を再生して、画像が正常に記録されていることを確認してください。万一、カメラ（本製品）やメモリーカードなどの不具合により、画像の記録やパソコンへの画像の取り込みができなかった場合の、記録内容の補償についてはご容赦ください。

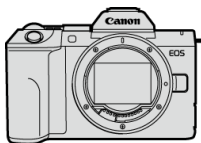
著作権について

あなたがカメラ（本製品）で記録した画像やメモリーカードに取り込んだ音楽および音楽付き画像は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示会などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

- [カメラと主な付属品](#)
- [補足情報](#)
- [対応アクセサリ](#)
- [使用説明書について](#)
- [すぐ撮影するには](#)
- [このガイドについて](#)
- [使用できるカードについて](#)
- [安全上のご注意](#)
- [取り扱い上のご注意](#)
- [各部の名称](#)
- [ソフトウェア/アプリケーション](#)

カメラと主な付属品

ご使用前に、以下のものがすべてそろっているかご確認ください。万一、足りないものがあるときは、お買い求めの販売店にご連絡ください。



カメラ

(ボディキャップ (カメラカバー R-F-5) 付き、シューカバー ER-SC2付き)



バッテリーパック LP-E17

(保護カバー付き)



ストラップ

- その他の付属品については、カメラが入っていた箱の記載をご参照ください。
- メモリーカード (📷)、インターフェースケーブル、HDMIケーブルは付属していません。
- レンズキットをお買い上げのときは、レンズが付属しているか確認してください。
- 付属品は、なくさないように注意してください。
- ソフトウェア (📷) は、キヤノンホームページからダウンロードしてください。

⚠ 注意

- レンズの使用説明書が必要なときは、キヤノンのホームページからダウンロードしてください (📷)。
なお、レンズの使用説明書 (PDFファイル) は、レンズ単体販売用ですので、レンズキットをご購入いただいた場合、レンズに付属するアクセサリが、レンズ使用説明書の記載と一部異なることがあります。ご了承ください。

補足情報

各機能に対応しているレンズ情報、およびカメラに関する補足情報については、下記のサイトでご確認ください。

- <https://cam.start.canon/H001/>



対応アクセサリ

最新の対応アクセサリについては、下記のサイトでご確認ください。

- <https://cam.start.canon/H002/>



使用説明書について

- **使用説明書（製品に付属）**

ご使用前に必ずお読みください。

- **詳細ガイド**

すべての使い方は、この「詳細ガイド」で説明しています。
最新の詳細ガイドは、下記のサイトでご確認ください。

<https://cam.start.canon/C026/>



- **レンズ使用説明書**

下記のサイトでご確認、またはダウンロードしてください。

<https://cam.start.canon/>

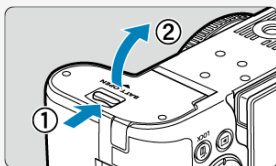


ソフトウェア使用説明書については[ソフトウェア使用説明書](#)を参照してください。

参考

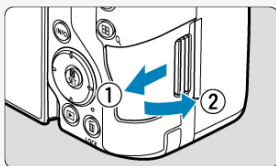
- **[🔍: 使用説明書・ソフトウェア URL]** を選ぶと、カメラのモニターにQRコードを表示できます。

1. バッテリーを入れる (🔋)



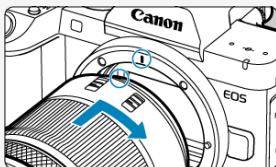
- 購入時はバッテリーを充電してからお使いください (🔋)。

2. カードを入れる (💳)



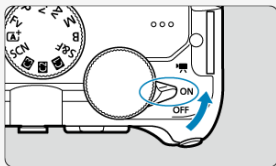
- カードの表を手前にして、「カチッ」と音がするまで差し込みます。

3. レンズを取り付ける (📷)

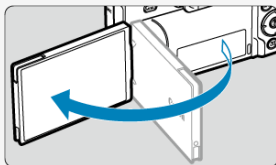


- レンズとカメラの赤いレンズ取り付け指標を合わせて取り付けます。

4. 電源スイッチを〈ON〉にする (🔌)



5. モニターを開いてセットする (🔌)



- モニターに言語の設定画面が表示されたときは、[言語](#)を参照してください。
- モニターにパスワードの設定画面が表示されたときは、[パスワードを設定する](#)を参照してください。
- モニターに日付／時刻／エリアの設定画面が表示されたときは、[日付／時刻／エリア](#)を参照してください。
- モニターに【ようこそ】の画面が表示されたら、画面の指示に従ってカメラとスマートフォンを接続します (🔌)。

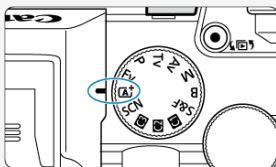
6. フォーカスモードをAFに設定する (🔌)



- [AF: フォーカスモード] を [AF] に設定します。
- フォーカスモードスイッチがあるレンズを装着したときは、レンズのスイッチを〈AF〉に設定します。

静止画を撮影する

1. モードダイヤルを〈A+〉にする

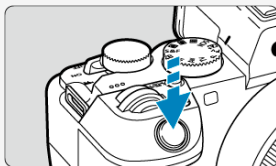


2. ピントを合わせる (🔍)



- 顔を検知すると、ピント合わせを行う追尾フレーム [] が目の付近に表示されます。
- シャッターボタンを軽く押すと、ピントが合います。

3. 撮影する (📷)



- さらにシャッターボタンを押して撮影します。

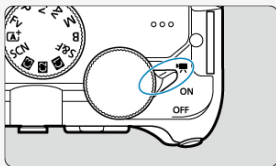
4. 撮影した画像を確認する



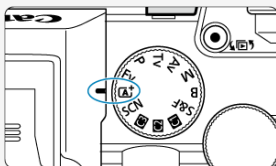
- 撮影した画像がモニターに約2秒間表示されます。
- 〈▶〉ボタンを押すと、もう一度画像が表示されます (🔍)。

動画を撮影する

1. 電源スイッチを〈I/II〉にする



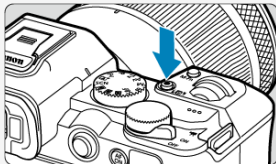
2. モードダイヤルを〈A+〉にする



3. ピントを合わせる

- 初期状態では、[AF: 動画サーボAF設定] の [動画サーボAF] が [する] に設定されているため、常時ピント合わせが行われます (☑)。

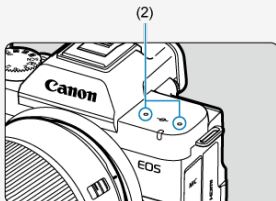
4. 動画を撮影する



- 動画撮影ボタンを押すと、動画撮影が始まります。画面の [●] をタッチしても、動画撮影が始まります。



- 動画撮影中は画面右上に [●REC] (1) が表示され、画面の周囲に赤枠が表示されます。



- 音声はマイク (2) で記録されます。
- もう一度動画撮影ボタンを押すと、動画撮影が終了します。画面の [■] をタッチしても、動画撮影が終了します。

5. 撮影した動画を確認する (🔍)



- 〈▶〉 ボタンを押します。
- 〈📷〉 を2回押します。

このガイドについて

☑ [本文中の絵文字について](#)

☑ [操作説明の前提について](#)

本文中の絵文字について

	メイン電子ダイヤルを示しています。
	サブ電子ダイヤルを示しています。
	〈◇〉十字キーの押す方向を示しています。
	マルチコントローラーを示しています。
	レンズのコントロールリングを示しています。
	クイック設定／設定ボタンを示しています。
	操作ボタンから指を離れたあと、タイマー機能により、ボタンを押した状態が*秒間保持されることを示しています。

- その他、本文中の操作ボタンや設定位置の説明には、ボタンやモニターの表示など、カメラで使われている絵文字を使用しています。

	タイトル右の  は、静止画撮影用の機能であることを示しています。
	タイトル右の  は、動画撮影用の機能であることを示しています。
	タイトル右の 応用 は、応用撮影ゾーン限定の機能であることを示しています。
	関連トピックへのリンクを示しています。
	撮影に不都合が生じる恐れのある注意事項を記載しています。
	補足説明や補足事項を記載しています。
	上手に使うためのヒントや撮影のポイントを記載しています。
	困ったときの助けになる内容を記載しています。

操作説明の前提について

- 電源スイッチが〈ON〉(ON)になっていること
を前提に説明しています。
- メニュー機能やカスタム機能などが初期状態になっていることを前提に説明しています。
- 本文中のイラストは、RF24-105mm F4-7.1 IS STMレンズを取り付けた状態で説明しています。
- このガイドで使用している作例写真は、効果を分かりやすく伝えるためのイメージです。
- 「EFレンズ／EF-Sレンズ使用時」の記載は、マウントアダプターを併用して、EFレンズまたはEF-Sレンズを使用する（装着する）という意味です。

使用できるカードについて

カードの容量に関わらず下記のカードが使用できます。なお、新しく買ったカードや、他のカメラ、パソコンで初期化したカードは、このカメラで初期化（フォーマット）してください（🔗）。

- SD/SDHC/SDXCメモリーカード

* UHS-II、UHS-I対応

動画が記録できるカードについて

動画を撮影するときは、動画記録サイズに適應する性能（書き込み／読み取り速度）を備えたカードを使用してください（🔗）。



このガイドでは、SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、SDXCメモリーカードのことを「カード」と表記しています。

*画像を記録するカードは付属していません。別途ご購入ください。

安全上のご注意

安全に使っていただくための注意事項です。必ずお読みください。
お使いになる方だけでなく、他人への危害や損害を防ぐためにお守りください。



警告

死亡や重傷を負う恐れがある内容です。

- 乳幼児の手の届くところに置かない。
 - バッテリーを子供の手の届く範囲内に置かない。
ストラップを首に巻き付けると、窒息することがあります。
カメラ、アクセサリーの部品や付属品を飲み込むと危険です。飲み込んだ場合は、すぐ医師に相談してください。
 - 電池を飲み込むと危険です。飲み込んだときは、すぐ医師に相談してください。
 - この製品はボタン／コイン電池を使用しています。
ボタン／コイン電池は危険であり、新品が使用済みかにかかわらず、常に子供の手の届かないところに保管してください。
これらの電池を飲み込んだり、体のどこかに入れたりすると、2時間以内に重傷や死亡に至ることがあります。
ボタン／コイン電池を飲み込んだ、または体のどこかに入れた疑いがある場合は、直ちに医師の診察を受けてください。
 - 指定外の電源は使わない。
 - 分解や改造をしない。
 - 強い衝撃や振動を与えない。
 - 破損したときは、内部に触れない。
 - 煙が出ている、異臭がするなどの異常が発生したときは使わない。
 - アルコール、ベンジン、シンナーなどの有機溶剤で手入れしない。
 - 液体でぬらしたり、内部に液体や異物を入れない。
 - 可燃性ガスを含んだ空気中では使用しない。
- 感電、破裂、火災の原因となります。
- レンズやレンズを付けたカメラは、レンズキャップを外した状態で放置しない。
- 光がレンズを通して焦点を結び、火災の原因となります。
- 雷が鳴り出したら、コンセントにつながれた製品に触れない。
- 感電の原因となります。
- バッテリーや電池を使うときは、次のことに注意する。
 - 指定外の製品で使わない。
 - 熱したり、火中投入しない。
 - 指定外の製品で充電しない。
 - 端子に他の金属や金属製のピンやゴミに触れさせない。
 - 液漏れしたものは使わない。
 - 廃却するときは、接点にテープを貼るなどして絶縁する。
- 感電、破裂、火災の原因となります。
- 液漏れして身体や衣服についたときは、水でよく洗い流す。目に入ったときは、きれいな水で十分洗った後、すぐ医師に相談してください。

- バッテリーチャージャーやACアダプターを使うときは、次のことに注意する。
 - 電源プラグやコンセントのほこりを、定期的に乾いた布で拭き取る。
 - めれた手で電源プラグを抜き差ししない。
 - 電源プラグの差し込みが不十分なまま使わない。
 - 電源プラグや端子に金属製のピンやゴミを触れさせない。
 - 雷が鳴り出したら、コンセントにつながれたバッテリーチャージャーやACアダプターに触れない。
- 電源コードに重いものをのせたり、傷つけたり、破損させたり、加工したりしない。
- 使用中および使用後すぐに、製品に布などをかけない。
- コードを引っ張って電源プラグを抜かない。
- 電源に長時間つないだままにしない。
- 5°C～40°Cの範囲外で充電しない。

感電、破裂、火災の原因となります。

- 長時間、身体の同じ部位に触れさせたまま使わない。

熱いと感じなくても、皮膚が赤くなったり、水ぶくれができていたりするなど、低温やけどの原因となることがあります。気温の高い場所で使うときや、血行の悪い方や皮膚感覚の弱い方などが使うときは、三脚などを使ってください。

- 使用が禁止されている場所では、電源を切るなどの指示に従う。

電波の影響で機器類が誤動作し、事故の原因となる恐れがあります。

- ベットの近くにバッテリーを置かない。

バッテリーに噛みついたとき、バッテリーの液漏れ、発熱、破裂により故障や火災の原因となることがあります。

△注意

下記の注意を守らないと、けがを負う可能性または物的損害の発生が想定されます。

- ストロボを目に近付けて発光しない。

目をいためる恐れがあります。

- 長い時間、ファインダー（ファインダーがある製品）や画面を見続けず、乗り物酔いのような症状をおこすことがあります。すぐに製品の使用を中止して休息をとってください。

- ストロボを指や布などで覆ったまま、発光させない。

やけどや故障の原因となります。

- 製品を高温や低温となる場所に放置しない。

製品自体が高温や低温になり、触れるとやけどやけがの原因となります。

- ストラップ使用時は、他のものに引っ掛けたり、強い衝撃や振動を与えない。

- レンズを強く押したり、ぶつけたりしない。

けがやカメラの故障の原因となります。

- 三脚を使うときは、十分に強度があるものを使う。

- カメラを三脚につけたまま移動しない。

けがや事故の原因となります。

- 製品の内部には手を入れない。

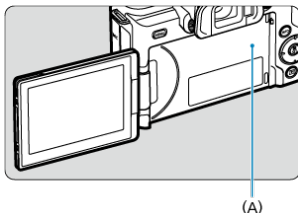
けがの原因となります。

- 使用中や使用後に肌に異常を感じた場合は、使用を中止し医師にご相談ください。

- 本製品から微弱な磁気が出ています。植込み型心臓ペースメーカー等をご使用の方は、異常を感じたら本製品から離れてください。そして、医師にご相談ください。



- 連続撮影を長時間繰り返したり、動画撮影を行うと、モニター収納部 (A) の温度が高くなる場合がありますので触らないでください。やけどの原因となることがあります。



- **[📷: 自動電源オフ温度]** を **[高]** に設定すると、カメラ本体、およびカードがより高温になることがあります。
 - 低温やけどなどの原因になる可能性がありますので、手持ちで撮影することは避けて、三脚などのご使用をおすすめします。
 - 撮影直後はカードに触れないでください。カードが高温になり、やけどの原因となることがあります。温度が下がってからカードを取り出してください。

取り扱い上のご注意

カメラについて

- カメラは精密機器です。落としたり衝撃を与えたりしないでください。
- このカメラは防水構造になっていませんので、水中では使用できません。
- 防塵・防滴性能を発揮させるため、カメラの端子カバー、バッテリー収納部ふた、カードスロットカバーなどの開閉部をしっかりと閉じてください。また、マルチアクセサリシューには、シューカバーを取り付けてください。
- このカメラは、不用意に降りかかる砂塵や、水滴などのカメラ内部への侵入を抑えることで、防塵性、防滴性に配慮した設計を行っていますが、ゴミやほこり、水、塩分などのカメラ内部への侵入を、完全に防ぐことはできません。ゴミやほこり、水、塩分などが、できるだけカメラに付着しないようにしてください。
- カメラに水が付着したときは、乾いたきれいな布で、ゴミやほこり、塩分などが付着したときは、固くしぼったきれいな布でよくふき取ってください。
- ゴミやほこりが多い場所で使用すると、故障の原因になります。
- 使用後はカメラの清掃をおすすめします。ゴミやほこり、水、塩分などをカメラに付着したままにすると、故障の原因になります。
- 万一、カメラが水に濡れて、内部に浸水（水没）したり、ゴミやほこり、塩分などが内部に侵入した恐れがあるときは、早めに修理受付窓口にご相談ください。
- カメラを磁石やモーターなどの強力な磁気が発生する装置の近くに、絶対に置かないでください。また、電波塔などの強い電波が発生しているところで使用したり、放置したりしないでください。電磁波により、カメラが誤動作したり、記録した画像データが破壊されることがあります。
- 直射日光下の車の中などは予想以上に高温になります。カメラの故障の原因になることがありますので、このような場所にカメラを放置しないでください。
- カメラには精密な回路が内蔵されていますので、絶対に自分で分解しないでください。
- 指などでシャッター幕の動作を阻害しないでください。故障の原因になります。
- レンズ、ファインダーなどにゴミが付いているときは、市販のプロアワーで吹き飛ばすだけにしてください。カメラボディおよびレンズは、有機溶剤を含むクリーナーなどでふかないでください。特に汚れがひどいときは、修理受付窓口にご相談ください。
- カメラの電気接点は手で触らないでください。腐食の原因になることがあります。腐食が生じるとカメラが作動不良を起こすことがあります。
- カメラを寒いところから、急に暑いところに移すと、カメラの外部や内部に結露（水滴）が発生することがあります。カメラを寒いところから、急に暑いところに移すときは、結露の発生を防ぐために、カメラをビニール袋に入れて袋の口を閉じ、周囲の温度になじませてから、袋から取り出してください。
- 結露が発生したときは、故障の原因になりますので、カメラを使用したり、レンズ、カード、バッテリーをカメラから取り外さないでください。カメラの電源をOFFにして、水滴が完全に消えるまで待ってから、カメラを使用してください。なお、水滴が完全に消えても、カメラ内部が低温になっているときは、周囲の温度になじむまで、レンズ、カード、バッテリーをカメラから取り外さないでください。
- カメラを長期間使用しないときは、カメラからバッテリーを取り出し、風通しが良く、涼しい乾燥した場所に保管してください。保管期間中でも、ときどきシャッターを切るようにして作動することを確認してください。
- カメラの保管場所として、実験室などのような薬品を扱う場所は、さび・腐食などの原因になるため避けてください。
- 長期間使用しなかったカメラは、各部を点検してから使用してください。長期間使用しなかったあとや、海外旅行など大切な撮影の前には、各部の作動を修理受付窓口、またはご自身でチェックしてからご使用ください。

- 連続撮影を長時間繰り返したり、静止画撮影や動画撮影を長時間行くと、カメラの温度が高くなることがあります。これは故障ではありません。
- 明るい光源が撮影画面の内側や外側近くにあると、ゴーストが写り込むことがあります。
- 逆光での撮影では、太陽を画角から十分にずらしてください。また、強い光源（太陽、レーザー、人工的な強い光源など）が撮影画面の内側や外側近くに絶対に入らないようにしてください。強い光の集光により、撮像素子やカメラ内部の損傷、発煙などの恐れがあります。
- 撮影時以外は、太陽光などがレンズに入らないようにレンズキャップを取り付けてください。

モニターとファインダーについて

下記の現象は、記録されている画像には影響ありません。

- モニターおよびファインダーは、非常に精密度の高い技術で作られており99.99%以上の有効画素がありますが、0.01%以下の画素欠けや、黒や赤などの点が現れたままになることがあります。これは故障ではありません。また、記録されている画像には影響ありません。
- モニターを長時間点灯したままにすると、表示していた内容の像が残ることがあります。この残像は一時的なもので、カメラを数日間使用しないでおくと自然に消えます。
- 液晶の特性で低温下での表示反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されます。

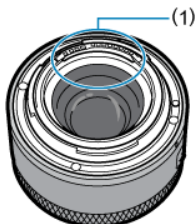
カードについて

カードとその中に記録されているデータを保護するために、次の点に注意してください。

- 「落とさない」、「曲げない」、「強い力や衝撃、振動を加えない」、「濡らさない」。
- カードの端子に、ほこり、異物が付着しないようにしてください。また、指や金属が触れないようにしてください。
- カード表面にシールなどを貼らない。
- テレビやスピーカー、磁石などの磁気を帯びたものや、静電気の発生しやすいところで保管、使用しない。
- 直射日光のあたる場所や、暖房器具の近くに放置しない。
- ケースなどに入れて保管する。
- 温度の高いところ、ほこりや湿気の多いところに保管しない。
- 連続撮影を長時間繰り返したり、静止画撮影や動画撮影を長時間行くと、カードの温度が高くなることがあります。これは故障ではありません。

レンズについて

- レンズを取り外したときは、接点（1）やレンズ面を傷つけないように、取り付け面を上にして置き、ダストキャップを取り付けてください。

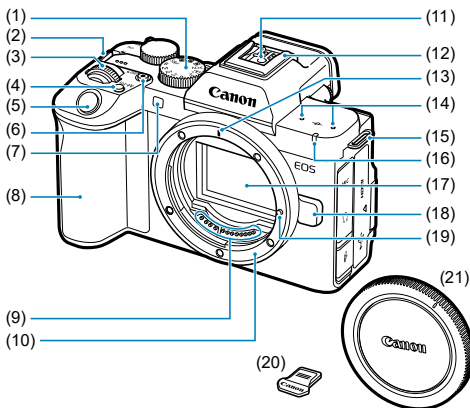


撮像素子の前面に付着する汚れについて

撮像素子の前面には、外部から入り込むゴミのほかに、ごくまれにカメラ内部の潤滑剤などが付着することがあります。汚れが画像に写り込むときは、できるだけ修理受付窓口に撮像素子の清掃をお申し付けください。

各部の名称

☑ ストラップ（吊りひも）の取り付け方



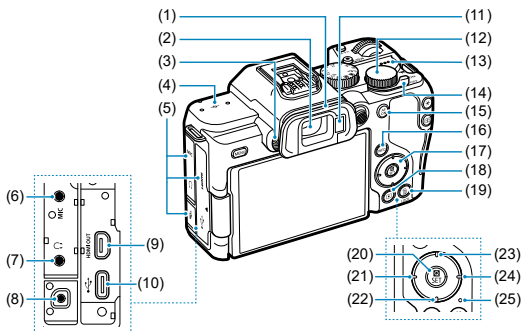
- | | |
|------|--|
| (1) | モードダイヤル |
| (2) | ストラップ取り付け部 |
| (3) | 〈  〉メイン電子ダイヤル |
| (4) | 〈M-Fn〉マルチファンクションボタン |
| (5) | シャッターボタン |
| (6) | 動画撮影／〈  〉動画と静止画再生の切り換えボタン |
| (7) | セルフタイマーランプ／AF補助光 |
| (8) | グリップ（バッテリー室） |
| (9) | 接点 |
| (10) | レンズマウント |
| (11) | シンクロ口接点 |
| (12) | マルチアクセサリシュー |
| (13) | RFレンズ取り付け指標 |
| (14) | マイク |
| (15) | ストラップ取り付け部 |
| (16) | タリーランプ |
| (17) | 撮像素子 |

(18) レンズロック解除ボタン

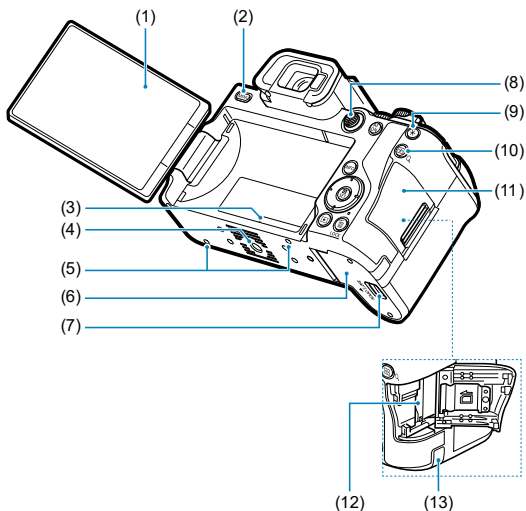
(19) レンズロックピン

(20) シューカバー

(21) ボディキャップ



- (1) アイキャブ
- (2) ファインダー接眼部
- (3) 視度調整つまみ
- (4) 〈〉 撮像面マーク
- (5) 端子カバー
- (6) 〈**MIC**〉 外部マイク入力端子
- (7) 〈〉 ヘッドフォン端子
- (8) 〈〉 リモコン端子
- (9) 〈**HDMI OUT**〉 HDMI出力端子
- (10) 〈〉 デジタル端子
- (11) ファインダーオンセンサー
- (12) 〈〉 サブ電子ダイヤル
- (13) スピーカー
- (14) 〈/ON/OFF〉 電源スイッチ
- (15) 〈〉 AFスタートボタン
- (16) 〈**INFO**〉 インフォボタン
- (17) 〈〉 十字キー
- (18) 〈〉 再生ボタン
- (19) 〈**LOCK**/〈img alt="lock icon"/>〉 マルチ電子ロック/消去ボタン
- (20) 〈〉 クイック設定/設定ボタン
- (21) 〈〉 左ボタン
- (22) 〈〉 下ボタン
- (23) 〈〉 上ボタン
- (24) 〈〉 右ボタン
- (25) アクセスランプ

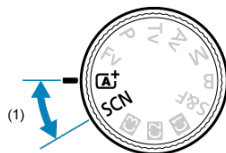


- | | |
|------|-----------------------------------|
| (1) | モニター |
| (2) | 〈MENU〉メニューボタン |
| (3) | シリアル番号（機番） |
| (4) | 三脚ねじ穴 |
| (5) | アクセサリ位置決め穴 |
| (6) | バッテリー収納部ふた |
| (7) | バッテリー収納部ふたロック |
| (8) | 〈※〉マルチコントローラー（中央押しあり） |
| (9) | 〈※〉AEロックボタン |
| (10) | 〈AF-ON/Q〉AFフレーム選択／インデックス／拡大／縮小ボタン |
| (11) | カードスロットカバー |
| (12) | カードスロット |
| (13) | DCコード通し部 |

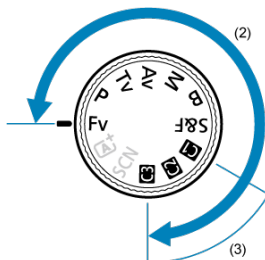
モードダイヤル

モードダイヤルには、「かんたん撮影」と「応用撮影」の機能ゾーンがあります。かんたん撮影ゾーンでは、被写体やシーンに応じたカメラまかせの撮影ができます。応用撮影ゾーンでは、自分で露出などを設定して撮影ができます。

(1) かんたん撮影ゾーン



(2) 応用撮影ゾーン／(3) カスタム撮影モード

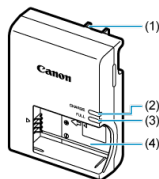


モードダイヤルと撮影モード

モードダイヤル		撮影モード	
		〈📷〉静止画撮影	〈🎥〉動画撮影
かんたん撮影ゾーン	〈A+〉	シーンインテリジェントオート	
	〈SCN〉 スペシャルシーン	ポートレート	流し撮り
		美肌	クローズアップ
		集合写真	料理
		風景	夜景ポートレート
		パノラマショット	手持ち夜景
		スポーツ	HDR逆光補正
		キッズ	サイレントシャッター
応用撮影ゾーン	〈Fv〉	フレキシブルAE	
	〈P〉	プログラムAE	
	〈Tv〉	シャッター優先AE	
	〈Av〉	絞り優先AE	
	〈M〉	マニュアル露出	
	〈B〉	長時間露光 (ハイレブ撮影)	
	〈S&F〉	プログラムAE	
	〈C1〉〈C2〉〈C3〉 カスタム撮影モード	カスタム撮影	

バッテリーチャージャー LC-E17（別売）

バッテリーパック LP-E17用の充電器です (🔌)。



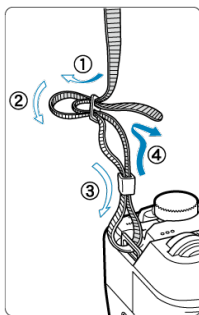
(1) 電源プラグ

(2) 充電ランプ

(3) 充電完了ランプ

(4) バッテリー取り付け部

ストラップ（吊りひも）の取り付け方



ストラップの先端をストラップ取り付け部の下から通し、さらにストラップに付いている留め具の内側を通します。留め具の部分のたるみを取り、引っばっても留め具の部分がゆるまないことを確認してください。

ソフトウェア／アプリケーション

- [☑ ソフトウェア／アプリケーションの概要](#)
- [☑ パソコン用ソフトウェアのインストール](#)
- [☑ スマートフォン用アプリケーションのインストール](#)
- [☑ ソフトウェア使用説明書](#)

ソフトウェア／アプリケーションの概要

パソコン用ソフトウェア

- **EOS Utility**
カメラとパソコンを接続し、撮影画像のパソコンへの取り込み、カメラの各種設定、パソコン操作によるリモート撮影などを行うソフトウェアです。
- **Digital Photo Professional**
RAW画像を撮影される方におすすめのソフトウェアです。画像の閲覧・編集・印刷などができます。
- **Neural network Image Processing Tool**
ディープラーニング画像処理技術により、RAW画像の高画質化処理を行うソフトウェアです。有償プランへの加入が必要です。
- **Neural network Upscaling Tool**
ディープラーニング画像処理技術により、JPEG/TIFF画像の拡大処理を行うソフトウェアです。有償プランへの加入が必要です。
- **Picture Style Editor**
ピクチャースタイルを編集し、オリジナルピクチャースタイルファイルの作成・保存ができます。
- **Canon XF Utility**
動画ファイルをパソコンに取り込み、再生や静止画への切り出しなどを行うソフトウェアです。
- **MP4 Join Tool**
カメラで分割して記録されたMP4クリップを結合するためのソフトウェアです。
- **CV Metadata Plugin for Adobe After Effects**
バーチャルプロダクション対応のキヤノン製レンズを装着したキヤノン製カメラで撮影したクリップや、CV Metadata Extraction Toolで出力したJSON形式のCV Metadata ファイルを使って、映像制作ソフトウェアAdobe After Effectsでレンズ特性の除去／付加を行うプラグインです。

- **CV Metadata Extraction Tool**

バーチャルプロダクション対応のキヤノン製レンズを装着してキヤノン製カメラで撮影したクリップのCV MetadataファイルをJSON形式で出力するソフトウェアです。

- **EOS VR Utility**

EOS VR SYSTEMで撮影した画像を、VR環境で視聴・編集可能な正距円筒図法のVR180°画像に変換するソフトウェアです。

- **EOS VR Plugin for Adobe Premiere Pro**

EOS VR SYSTEMで撮影した画像を、Adobe Premiere Proで扱える正距円筒図法のVR180°画像に変換するプラグインです。

- **Dual Pixel 3D Converter**

デュアルピクセルセンサーの距離情報が付加されたRAW画像から、3Dモデルに変換するソフトウェアです。1回の撮影で、撮影時に写っている範囲のデータをもとに、高画質の3Dモデルを生成することができます。

スマートフォン用アプリケーション

- **Camera Connect**

カメラとスマートフォンを無線または有線で接続して、スマートフォンへの撮影画像の取り込み、リモート撮影、カメラの各種設定などを行うことができます。

- **Digital Photo Professional Express**

スマートフォン／タブレット用のRAW現像・画像編集用アプリケーションです。有償プランへの加入が必要です。

- **Content Transfer Professional**

撮影画像やスマートフォン内画像のFTP転送などができます。有償プランへの加入が必要です。

パソコン用ソフトウェアのインストール

ソフトウェアは必ず最新版をインストールしてください。なお、旧バージョンのソフトウェアは上書きされます。

❗ 注意

- カメラとパソコンを接続した状態でインストールしないでください。ソフトウェアを正しくインストールできません。
- インターネットに接続していない状態では、インストールできません。
- 旧バージョンのソフトウェアでは、このカメラで撮影したRAW画像の処理や、画像の正しい表示などを行うことはできません。

1. ソフトウェアをダウンロードする

- パソコンからインターネットに接続し、キヤノンの下記のWebサイトにアクセスしてください。
<https://cam.start.canon/>

ソフトウェアによっては、シリアル番号の入力が必要です。シリアル番号は、カメラ本体に記載されています。

2. パソコン上で解凍する

Windows

- 表示されたインストーラーファイルをクリックすると、インストーラーが起動します。

macOS

- dmgファイルをダブルクリックすると、インストール画面が表示されます。
- 画面内のアイコンをダブルクリックすると、インストーラーが起動します。

3. 画面の指示に従ってインストールする

スマートフォン用アプリケーションのインストール

- 必ず最新版をインストールしてください。
- Google PlayまたはApp Storeからインストールすることができます。
- キヤノンの下記のWebサイトからもGoogle PlayまたはApp Storeにアクセスすることができます。

<https://cam.start.canon/>



ソフトウェア使用説明書は、下記のサイトでご確認ください。

- <https://cam.start.canon/>



準備と基本操作

この章では、撮影に入る前にあらかじめ準備しておくことと、基本の操作について説明しています。

- [バッテリーを充電する](#)
- [バッテリーを入れる／取り出す](#)
- [カードを入れる／取り出す](#)
- [モニターを使う](#)
- [電源を入れる](#)
- [RFレンズ、RF-Sレンズを取り付ける／取り外す](#)
- [EFレンズ、EF-Sレンズを取り付ける／取り外す](#)
- [マルチアクセサリシュー](#)
- [ファインダーを使う](#)
- [基本操作](#)
- [メニュー機能の操作と設定](#)
- [クイック設定](#)
- [画面にタッチして操作する](#)

バッテリーを充電する

☑ [バッテリーチャージャーを使って充電する](#)

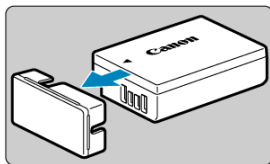
☑ [USB電源アダプターを使って充電／給電する](#)

- **購入時、バッテリーはフル充電されていません**
充電してからお使いください。
- **充電は使用する当日か前日にする**
充電して保管していても、自然放電により少しずつバッテリーの容量が少なくなっています。
- **カメラを使わないときはバッテリーを取り出しておく**
バッテリーを長期間カメラに入れたままにしておくと、微少の電流が流れて過放電状態になり、バッテリー寿命短縮の原因となります。バッテリーの保護カバーを取り付けて保管してください。なお、フル充電して保管すると、性能低下の原因になることがあります。
- **フル充電したのにすぐ使えなくなるときは、バッテリーの寿命です**
バッテリーの劣化度を確認した上で (☑)、新しいバッテリーをお買い求めください。

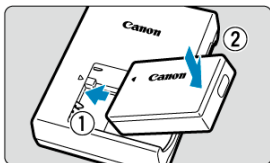
バッテリーチャージャーを使って充電する

別売のバッテリーチャージャー LC-E17シリーズ (LC-E17/LC-E17E/LC-E17C) を使って充電することができます。

1. 付属の保護カバーを外す

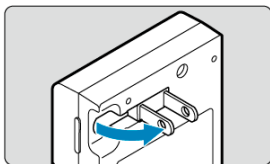


2. バッテリーを充電器にしっかりと取り付ける

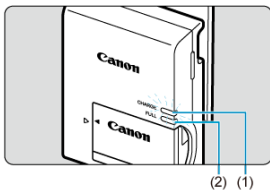


- 取り外しは逆の手順で行います。

3. 充電する



- 充電器のプラグを矢印の方向に起こし、プラグをコンセントに差し込みます。



- 自動的に充電が始まり、充電ランプ（1）がオレンジ色に点灯します。
- 充電が完了すると、充電完了ランプ（2）が緑色に点灯します。
- **使い切ったバッテリーの充電に要する時間は、常温（23℃）で約2時間です。**
なお、充電時間は周囲の温度や残量によって大きく異なります。
- 安全に充電を行うため、低温下（5℃～10℃）では充電時間が長くなります（最長約4時間）。

- 充電が終わったら、バッテリーを取り外し、プラグをコンセントから抜く

- 充電器は海外でも使うことができる

充電器は、家庭用電源のAC100～240V 50/60Hzに対応しています。お使いになる国や地域に対応した、市販の電源プラグ変換アダプターを使用してください。なお、充電器が故障する恐れがありますので、海外旅行用の電子変圧器などに接続しないでください。

⚠ 注意

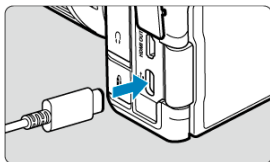
- 充電器をコンセントから取り外したときは、約5秒間、充電器のプラグに触れないようにしてください。

USB電源アダプターを使って充電／給電する

USB電源アダプター PD-E2（別売）を使用して、カメラ内のバッテリーパック LP-E17を充電することができます。また、カメラへの給電を行うことができます。

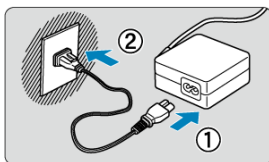
充電

1. USB電源アダプターを接続する

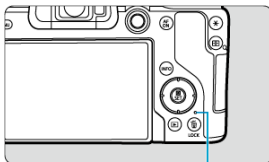


- カメラの電源スイッチを〈OFF〉にした状態で、USB電源アダプターのプラグを、デジタル端子にしっかりと差し込みます。

2. 電源コードを接続する



- 電源コードをUSB電源アダプターに接続し、電源プラグをコンセントに差し込みます。



(3)

- 充電が始まり、アクセスランプ（3）が緑色に点灯します。
- 充電が完了すると、アクセスランプが消灯します。

給電

カメラの電源スイッチを〈ON〉〈〉にすると給電のみを行い、充電はされません。ただし、オートパワーオフ中は充電が行われます。

給電中は、バッテリー残量表示がグレーになります。

カメラの電源スイッチを〈OFF〉にすると給電から充電に切り換わります。

❗ 注意

- カメラ内にバッテリーパックがない状態では、給電は行われません。
- バッテリー残量がないときは、充電が行われます。給電は行われません。
- バッテリーを保護し、性能の劣化を防ぐため、24時間以上連続して充電しないでください。
- 充電して保管していても、自然放電により少しずつバッテリーの容量が少なくなっていくます。
- 充電を開始したときにランプが点灯しないときや、充電中に異常が発生（アクセスランプが緑色に点滅）したときは、電源プラグをコンセントから抜き、バッテリーの取り外し／取り付けを行ってから、2～3分後にもう一度コンセントに差し込んでください。改善しない場合は、修理受付窓口にご相談ください。
- 充電時間や充電される量は周囲の温度や残量によって異なります。
- 安全に充電を行うため、低温下では、充電時間が長くなります。
- 給電中もバッテリー残量が減ることがあります。撮影中にバッテリー残量が不足しないよう、フル充電したバッテリーを使用してください。
- USB電源アダプターの取り外しは、カメラの電源スイッチを〈OFF〉にしてから行ってください。
- 市販の電源アダプターの充電／給電については、動作を確認している製品があります。詳しくはキヤノンのホームページで確認してください（）。

バッテリーを入れる／取り出す

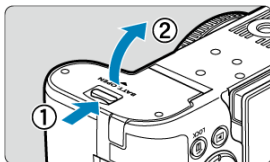
☑ [入れ方](#)

☑ [取り出し方](#)

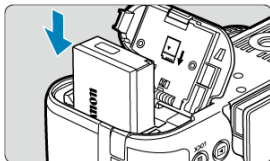
充電したバッテリーパック LP-E17をカメラに入れます。

入れ方

1. バッテリー収納部ふたロックをスライドして、ふたを開ける

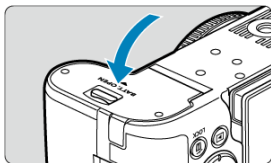


2. バッテリーを入れる



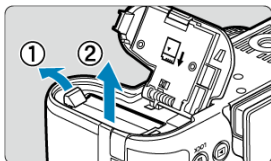
- バッテリー接点の方から入れます。
- ロック位置までしっかりと入れてください。

3. ふたを閉める



- 「カチッ」と音がするまで、ふたを押して閉じます。

1. ふたを開けて、バッテリーを取り出す



- バッテリーロックレバーを矢印の方向に押してロックを外し、バッテリーを取り出します。
- ショート防止のため、必ずバッテリーに付属の保護カバー (🔒) を取り付けてください。

カードを入れる／取り出す

☑ [入れ方](#)

☑ [カードを初期化する](#)

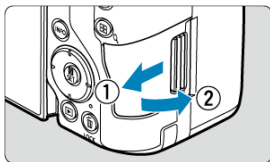
☑ [取り出し方](#)

! 注意

- カードの書き込み禁止スイッチ (1) が上側（書き込み／消去可能位置）にセットされていることを確認してください。

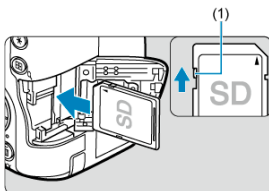
入れ方

1. カバーをスライドして、開ける



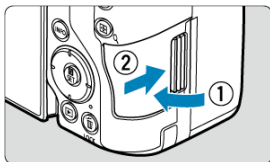
- カードスロットカバーを手前に引き、カバーを開きます。

2. カードを入れる



- カードの表を手前にして、「カチッ」と音がするまで差し込みます。

3. カバーを閉める

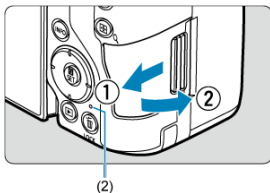


- カバーを閉じてから、矢印の方向に「カチッ」と音がするまでスライドさせます。

カードを初期化する

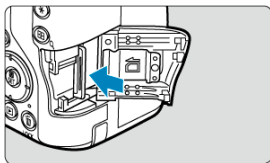
新しく買ったカードや、他のカメラ、パソコンで初期化したカードは、このカメラで初期化（フォーマット）してください（）。

1. カバーを開ける



- 電源スイッチを〈OFF〉にし、アクセスランプ（2）が消えていることを確認します。
- カードスロットカバーを手前に引き、カバーを開きます。
- モニターに「書き込み中...」と表示されたときは、カバーを閉じてください。

2. カードを取り出す



- カードを軽く押し込んで離すと出てきます。
- カードをまっすぐに取り出して、カバーを閉じます。

注意

撮影時に画面に赤い【】が表示されたときは、カードをすぐに取り出さないでください。カメラ内部の発熱により、カードが熱くなっていることがあります。電源スイッチを〈OFF〉にして撮影を休止し、しばらく経ってからカードを取り出してください。撮影直後に熱くなっているカードを取り出すと、カードを落下させてカードが破損する恐れがあります。カードを取り出すときは十分注意してください。

参考

- 撮影可能枚数は、使用するカードの空き容量や、記録画質、ISO感度などにより変わります。
-  **カードなしレリーズ** を **[しない]** に設定すると、カードの入れ忘れを防止することができます (🔗)。

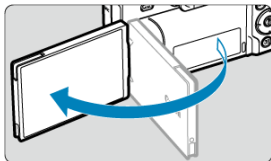
注意

- アクセスランプが点灯／点滅しているときは、カードへの記録／読み出し中や、消去中、データ転送中です。カードスロットカバーを開けないでください。また、アクセスランプが点灯／点滅しているときに次のことを行うと、画像データが壊れたり、カードやカメラ本体が損傷する原因になるため、絶対に行わないでください。
 - カードを取り出す
 - バッテリーを取り出す
 - カメラ本体に振動や衝撃を与える
 - 電源コードの抜き差しを行う
(別売の家庭用電源アクセサリ使用時)
- 画像が記録されているカードを使用すると、撮影した画像の番号が0001から始まらないことがあります (🔗、🔗)。
- モニターにカードのトラブルに関するメッセージが表示されたときは、カードの抜き差しを行ってください。それでも改善しないときは、別のカードに交換してください。
なお、パソコンでカードの内容が読み取れるときは、カード内のデータをすべてパソコンに保存したあと、カメラでカードを初期化してください (🔗)。正常な状態に戻ることがあります。
- カードの端子部分に指や金属が触れないようにしてください。また、ゴミや水などを付着させないでください。端子部分に汚れが付着すると、接触不良の原因になります。
- マルチメディアカード (MMC) は使用できません (カードエラー表示)。
- UHS-II対応のmicroSDHC/SDXCカードと、(microSDカードからSDカードへの)変換アダプターの組み合わせによる使用はおすすめできません。
UHS-II対応カードを使用するときは、UHS-IIに対応したSDHC/SDXCカードの使用をおすすめします。

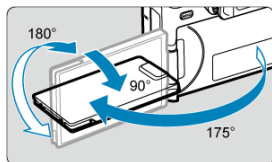
モニターを使う

モニターは、向きと角度を変えて使用することができます。

1. モニターを開く

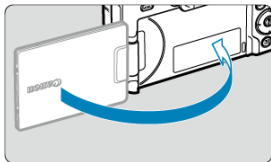


2. モニターを回転させる



- モニターは、開いた状態や上向き、下向き、対面（裏返し）でも使用することができます。
- 角度は「約」です。

3. 画面を表向きにする



- 通常は画面を表向きにして使用します。

注意

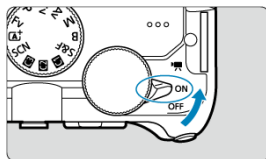
- モニターを無理に回転させて、軸の部分（ヒンジ部）に強い力がかからないようにしてください。
- カメラの端子にケーブルを接続しているときは、モニターを開いた状態での回転範囲が制限されます。

参考

- カメラを使わないときは、モニターを内側にして閉じてください。画面を保護することができます。
- モニターを被写体に向けた対面撮影を行うと、映像が鏡像（左右反転）で表示されます。

電源を入れる

- ☑ [表示言語を設定する](#)
- ☑ [パスワードを設定する](#)
- ☑ [日付／時刻／エリアを設定する](#)
- ☑ [カメラとスマートフォンを接続する](#)
- ☑ [撮像素子の自動清掃](#)
- ☑ [バッテリー残量表示について](#)



- **〈ON〉**
カメラが作動します。動画を撮影することができます。
- **〈ON〉**
カメラが作動します。静止画を撮影することができます。
- **〈OFF〉**
カメラは作動しません。カメラを使用しないときはこの位置にします。

参考

- カードへの画像記録中に電源スイッチを〈OFF〉にすると、[書き込み中...]が表示され、画像記録が終了してから電源が切れます。

表示言語を設定する

電源を入れたときに、[言語^④] の設定画面が表示されたときは、言語を設定してください。

パスワードを設定する

カメラ内の情報に不正にアクセスされることを防ぐため、カメラにパスワードを設定します。

❗ 注意

- パスワードを設定しても、カード内の撮影データ等は保護されません。
- 本製品の盗難やカードの盗難については、弊社は一切の責任を負いかねます。
- [次回から確認しない] にチェックを付ける場合は、第三者にカメラの設定情報などにアクセスされないようご注意ください。

1. パスワードを設定する

ようこそ

最初にパスワードを設定してください

OK

0/6

1 2 3 ← →

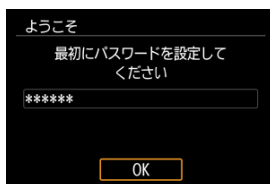
4 5 6 X

7 8 9

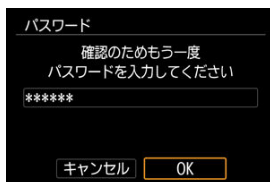
0 OK

- 6桁の数字を入力し、[OK] を選びます。

2. [OK] を選ぶ

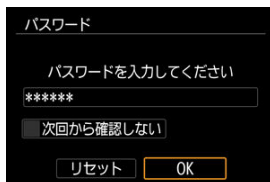


3. もう一度パスワードを入力する



- [OK] を選ぶとパスワードが設定されます。

カメラの電源スイッチを〈ON〉〈〉にしたときや、オートパワーオフから復帰したときに、[パスワード] 画面が表示されます。設定したパスワードを入力します。



- [次回から確認しない] にチェックを付けると、次回よりこの画面は表示されません。
- [リセット] を選ぶと、カメラの設定が初期化され、パスワードが解除されます。

⚠ 注意

- パスワード入力画面の状態のときは、パスワードを入力するまで以下の接続が利用できません。
 - USB接続
 - Wi-Fi接続
 - Bluetooth接続
- 以下の場合、パスワード入力画面で「次回から確認しない」にチェックを付けてください。
 - 電源スイッチを〈OFF〉にしたとき、もしくはオートパワーオフ中に、Bluetooth機能を使用する
 - [🔗: ☁ image.canonに画像送信] で「充電時（高出力）」が設定されている

📖 参考

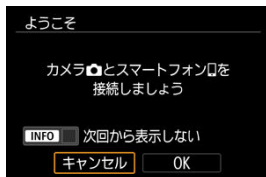
- パスワードの設定後にパスワードの変更などを行う場合は、[パスワードの管理](#)を参照してください。

日付／時刻／エリアを設定する

「日付／時刻／エリア」の設定画面が表示されたときは、[日付／時刻／エリア](#)を設定してください。

カメラとスマートフォンを接続する

設定画面が表示されたときは、「OK」を選択すると、スマートフォンとの接続手順が表示されます (☑)。



撮像素子の自動清掃

- 電源スイッチを〈OFF〉にしたときに、撮像素子の自動清掃が行われます（小さな音が鳴ることがあります）。清掃中は、モニターに「[🧹]」が表示されます。電源スイッチを〈ON〉にしたときにも、撮像素子の自動清掃が行われるようにしたい場合は、「🔧：センサークリーニング」で設定することができます (☑)。
- 電源スイッチの〈ON〉〈OFF〉を短い時間で繰り返すと、「[🧹]」が表示されないことがあります。故障ではありません。

バッテリー残量表示について

バッテリーの残量は、カメラの電源を入れたと表示されます。



	バッテリーの残量は十分です。
	バッテリーの残量が少なくなってきましたが、まだ使用できます。
	まもなくバッテリー切れになります（点滅表示）。
	バッテリーを充電してください。

注意

- 下記の操作を行うとバッテリーが早く消耗します。
 - シャッターボタン半押し状態を長く続ける
 - AF動作だけを行って撮影しない操作を頻繁に行う
 - 手ブレ補正機能を使用する
 - Wi-Fi機能、Bluetooth®機能を使用する
 - モニターを頻繁に使用する
 - マルチアクセサリシュー対応アクセサリを使用する
- 実際の撮影条件により、撮影可能枚数が少なくなることがあります。
- レンズの動作にはカメラ本体の電源を使用します。使用するレンズにより、バッテリーが早く消耗することがあります。
- 低温下ではバッテリーの残量があっても撮影できないことがあります。

参考

- [🔋: バッテリー情報] でバッテリーの状態を確認することができます (🔗)。

RFレンズ、RF-Sレンズを取り付ける／取り外す

[取り付け方](#)

[取り外し方](#)

注意

- レンズで太陽を直接見ないでください。失明の原因になります。
- レンズの取り付け／取り外しを行うときは、カメラの電源スイッチを〈OFF〉にしてください。
- 自動ピント合わせのときに、レンズの先端（フォーカスリング）が動くレンズは、動いている部分に触れないでください。

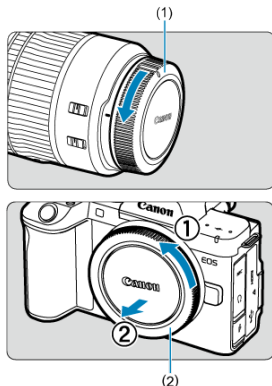
ゴミやほこりについて、普段から以下のことに注意してください

- レンズの交換は、ほこりの少ない場所で素早く行う
- レンズを取り外してカメラを保管するときは、ボディキャップを必ずカメラに取り付ける
- ボディキャップは、ゴミやほこりを落としてからカメラに取り付ける

参考

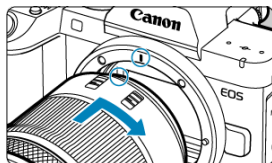
- RF-Sレンズ使用時は、撮影画面の中央部分がクロップ（約1.6倍）した撮影範囲になります。

1. キャップを外す



- レンズのダストキャップ (1) とボディキャップ (2) を矢印の方向に回して外します。

2. レンズを取り付ける



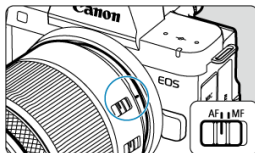
- レンズとカメラの赤いレンズ取り付け指標を合わせ、レンズを矢印の方向に「カチッ」と音がするまで回します。

3. フォーカスモードを「AF」に設定する

- 「AF」はAuto Focus : 自動ピント合わせのことです。
- 「MF」はManual Focus : 手動ピント合わせのことです。自動ピント合わせはできません。
- フォーカスモードスイッチのないRFレンズ装着時
[AF: フォーカスモード] を [AF] に設定します。



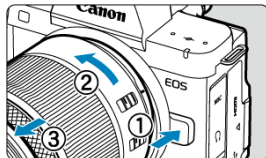
- フォーカスモードスイッチのあるRFレンズ装着時
レンズのフォーカスモードスイッチを「AF」に設定します。



4. レンズキャップを外す

取り外し方

レンズロック解除ボタンを押しながら、レンズを矢印の方向に回す



- 回転が止まるまで回してから、取り外します。
- 取り外したレンズにダストキャップを取り付けます。

EFレンズ、EF-Sレンズを取り付ける／取り外す

☑ [取り付け方](#)

☑ [取り外し方](#)

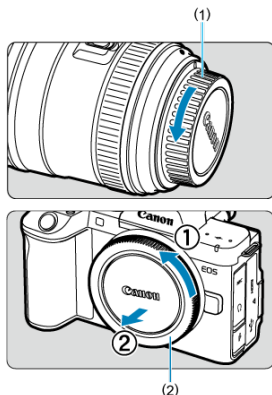
マウントアダプター EF-EOS R（別売）を使用すると、すべてのEFレンズ、EF-Sレンズを使用することができます。なお、EF-Mレンズは使用できません。

参考

- EF-Sレンズ使用時は、撮影画面の中央部分がクロップ（約1.6倍）した撮影範囲になります。

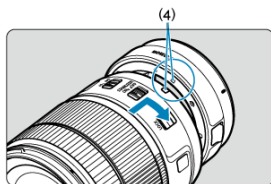
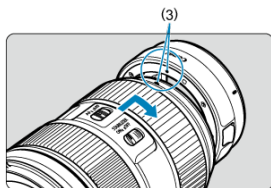
取り付け方

1. キャップを外す



- レンズのダストキャップ（1）とボディキャップ（2）を矢印の方向に回して外します。

2. アダプターにレンズを取り付ける

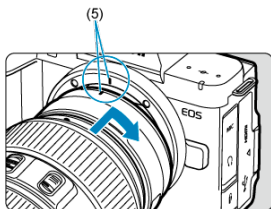


- アダプターの取り付け指標（赤または白）とレンズ側の取り付け指標の色を合わせ、レンズを矢印の方向に「カチッ」と音がするまで回します。

(3) 赤い指標

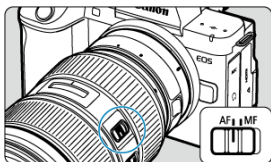
(4) 白い指標

3. カメラにアダプターを取り付ける



- アダプターとカメラの赤いレンズ取り付け指標（5）を合わせ、レンズを矢印の方向に「カチッ」と音がするまで回します。

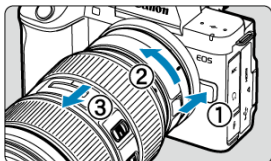
4. レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする



- 〈AF〉はAuto Focus : 自動ピント合わせのことです。
- 〈MF〉はManual Focus : 手動ピント合わせのことです。自動ピント合わせはできません。

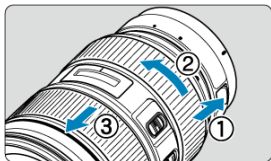
5. レンズキャップを外す

1. レンズロック解除ボタンを押しながら、アダプターを矢印の方向に回す



- 回転が止まるまで回してから、取り外します。

2. レンズをアダプターから取り外す



- アダプターのレンズ取り外しレバーをスライドしながら、レンズを反時計方向に回します。
- 回転が止まるまで回してから、レンズを取り外します。
- 取り外したレンズにダストキャップを取り付けます。

❗ 注意

- レンズに関する注意事項は、[RFレンズ、RF-Sレンズを取り付ける／取り外す](#)をご確認ください。

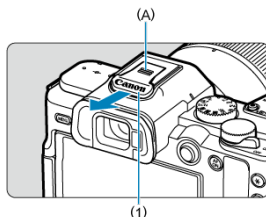
マルチアクセサリースュー

☑ マルチアクセサリースューを使用する

マルチアクセサリースューは、電源供給機能と高度な情報通信機能を備えたアクセサリースューです。

マルチアクセサリースューを使用する

シューカバーの取り外し

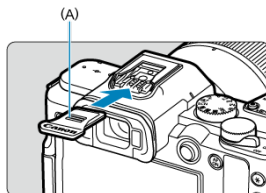


- シューカバー (1) の (A) の部分に指をかけて矢印の方向に引き抜きます。取り外したシューカバーは、紛失しないように保管してください。

アクセサリーの取り付け

- マルチアクセサリースュー用の接点で通信を行うアクセサリーを取り付けるときは、アクセサリーの取り付け脚をカチッと音がするまで差し込んでから、取り付け脚ロックレバーをスライドして固定します。詳しくは、使用するアクセサリーの使用説明書を参照してください。
- 以下のアクセサリーは、マルチアクセサリースューに直接取り付けることができません。
 - スピードライト EL-1(Ver.2)/EL-1/600EXII-RT/600EX-RT/580EX II
 - スピードライトトランスミッター ST-E3-RT(Ver.3)/ST-E3-RT(Ver.2)/ST-E3-RT
 - オフカメラシューコード OC-E3
 - GPSレシーバー GP-E2
- 本カメラで上記のアクセサリーを使用するときは、マルチアクセサリースューアダプター AD-E1 (別売) が必要です。詳しくは、AD-E1の使用説明書を参照してください。
- 上記以外の、従来のアクセサリースューに対応したアクセサリーを取り付けるときは、アクセサリーの取り付け脚を突き当たるまで差し込んでから、取り付け脚ロックレバーをスライドして固定します。詳しくは、使用するアクセサリーの使用説明書を参照してください。

シューカバーの取り付け



- マルチアクセサリースューからアクセサリを取り外したときは、ほこりや水などから接点を保護するため、シューカバーを取り付けてください。
- シューカバーの (A) の部分を矢印の方向に押しながら、突き当たるまで差し込んでください。

⚠ 注意

- アクセサリは、[アクセサリの取り付け](#)の内容に従って、正しく取り付けてください。カメラやアクセサリの動作不良や、アクセサリが落下する恐れがあります。
- マルチアクセサリースューにゴミが入ったときは、市販品のブロアーなどを使用して除去してください。
- マルチアクセサリースューに水分が入ったときは、カメラの電源をOFFにして、乾くまで放置してください。
- シューカバーは、カメラに付属のものをお使いください。

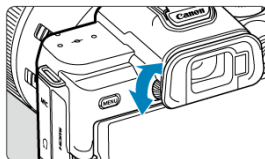
ファインダーを使う

視度調整

ファインダーをのぞくと、ファインダーに画面が表示されます。画面の表示先を固定することもできます (🔍)。

視度調整

ファインダー内の表示が鮮明に見えるように、視度を調整します。



- 視度調整つまみを右または左に回します。

注意

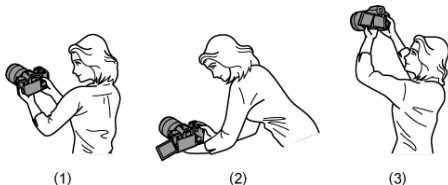
- ファインダーとモニターを同時に表示することはできません。
- アスペクト比の設定によっては、左右または上下に黒帯が表示されます。この部分は撮影されません。

基本操作

- ☑ [カメラの構え方](#)
- ☑ [シャッターボタン](#)
- ☑ [動画撮影／〈!\[\]\(a22ba4e13c745edbf29e51af246c4c12_img.jpg\)▶〉動画と静止画再生の切り換えボタン](#)
- ☑ [〈!\[\]\(33b18af9a4b997eb52666cfeb3c44157_img.jpg\)〉メイン電子ダイヤル](#)
- ☑ [〈!\[\]\(262b158440b847a82f89a14cab8644ec_img.jpg\)〉サブ電子ダイヤル](#)
- ☑ [〈!\[\]\(f51929fecf7b0dc947ac13f4c4835e8f_img.jpg\)〉マルチコントローラー](#)
- ☑ [〈M-Fn〉マルチファンクションボタン](#)
- ☑ [〈!\[\]\(dfbf0e54bcca114319aa65c906feb8d0_img.jpg\)〉AFスタートボタン](#)
- ☑ [〈LOCK〉マルチ電子ロックボタン](#)
- ☑ [〈!\[\]\(64792950f1b7ee883a860b5f0af110c3_img.jpg\)〉コントロールリング](#)
- ☑ [〈INFO〉インフォボタン](#)

● モニターを見ながら撮影

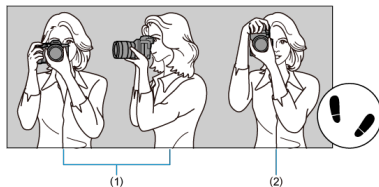
モニターの向きを変えて撮影することができます。詳しくは[モニターを使う](#)を参照してください。



- (1) 通常のアングル
- (2) ローアングル
- (3) ハイアングル

● ファインダーを見ながら撮影

手ブレのない鮮明な画像を撮るため、カメラが動かないようにしっかり構えて撮影します。



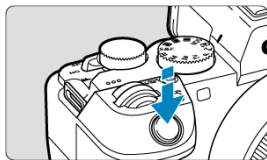
- (1) 横位置
- (2) 縦位置

1. 右手でグリップを包むようにしっかりと握ります。
2. 左手でレンズを下から支えるように持ちます。
3. 右手人差し指の腹をシャッターボタンに軽くのせます。
4. 脇をしっかり締め、両ひじを軽く体の前に付けます。
5. 片足を軽く踏み出して、体を安定させます。
6. カメラを顔に付けるようにして、ファインダーをのぞきます。

シャッターボタン

シャッターボタンは二段階になっています。シャッターボタンを一段目まで浅く押すことを「半押し」といいます。半押しからさらに二段目まで深く押すことを「全押し」といいます。

半押し



自動ピント合わせと、自動露出機構によるシャッタースピードと絞り数値の設定が行われます。

露出値（シャッタースピードと絞り数値）が、モニターまたはファインダー内に8秒間表示されます（測光タイマー/8）。

全押し



シャッターが切れて撮影されます。

● 手ブレしにくい撮影のしかた

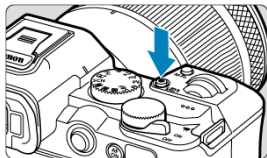
手にしたカメラが撮影の瞬間に動くことを「手ブレ」といい、全体がぼやけたような写真になります。鮮明な写真を撮るため、次の点に注意してください。

- [カメラの構え方](#)のように、カメラが動かないようしっかり構える。
- シャッターボタンを半押ししてピントを合わせたあと、ゆっくりシャッターボタンを全押しする。

参考

- シャッターボタンを一気に全押ししたり、半押し後すぐに全押しすると、一瞬の間を置いてから撮影されます。
- メニュー画面表示中、画像再生中でも、シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

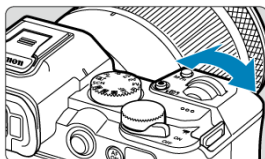
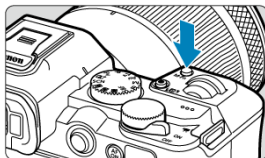
動画撮影／〈〉動画と静止画再生の切り換えボタン



動画撮影ボタンを押すと、動画撮影を開始します。もう一度押すと、終了します。再生時には、動画と静止画を切り換えることができます。

〈〉メイン電子ダイヤル

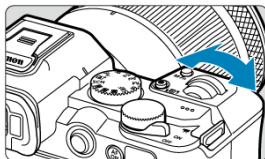
(1) ボタンを押したあと〈〉を回す



〈M-Fn〉ボタンなどを押したあと、〈〉を回します。
シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

- ホワイトバランス、ドライブモード、ストロボ調光補正、カラーモードの設定などに使用します。

(2) 〈〉のみを回す



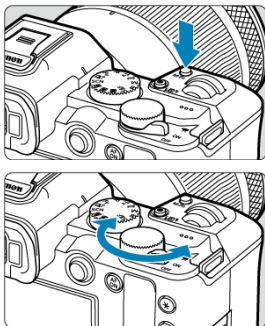
モニターまたはファインダー内を見ながら〈〉を回します。

- シャッタースピードや絞り数値の設定などに使用します。

参考

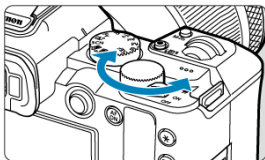
- (1) の操作は、マルチ電子ロック機能でロックした状態 () でも行うことができます。

(1) ボタンを押したあと〈〉を回す



〈M-Fn〉ボタンなどを押したあと、〈〉を回します。
シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。
● 測光モード、AF動作、ISO感度、AFエリアの設定などに使用します。

(2) 〈〉のみを回す



モニターまたはファインダー内を見ながら〈〉を回します。
● 露出補正やマニュアル露出時の絞り数値の設定などに使用します。

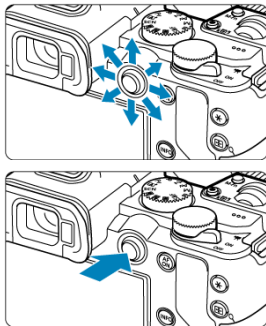
参考

- (1) の操作は、マルチ電子ロック機能でロックした状態 (☑) でも行うことができます。

〈※〉マルチコントローラー

〈※〉は8方向キーと中央押しボタンの構造になっています。

8方向キーはマルチコントローラーの中央に、親指の腹をあてて、倒して操作します。側面から押すと、正しく動作しないことがあります。

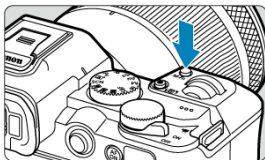


● マルチコントローラーの使用例

- 静止画撮影／動画撮影時におけるAFフレーム／拡大表示枠の移動
- ホワイトバランス補正
- 再生時における拡大表示位置の移動
- クイック設定
- メニューの選択・設定

〈M-Fn〉マルチファンクションボタン

撮影時には、ダイヤルファンクションが表示されます。再生時には、スマートフォンへ画像を送信する設定画面が表示されます (📶)。



ダイヤルファンクションで設定可能な項目

- ホワイトバランス (🔍)
- ドライブモード* (🔍)
- ストロボ調光補正* (🔍)
- カラーモード (🔍)
- 測光モード* (🔍)
- AF動作* (🔍)
- ISO感度* (🔍)
- AFエリア (🔍)

* 静止画撮影時のみ設定できます。ただし、ISO感度は[動画マニュアル露出](#)でも設定可能です。

ダイヤルファンクションの操作

- 〈M-Fn〉ボタンを押すと、ダイヤルファンクションが表示されます (🔍6)。続けて〈M-Fn〉ボタンを何度か押すと、設定したい項目を選ぶことができます。
- 上段の項目は、〈🔍🔍〉を回して設定を変更します。
- 下段の項目は、〈🔍🔍〉を回して設定を変更します。

🔍 注意

- ダイヤルファンクションでは、ホワイトバランスは、色温度の設定など、詳細設定はできません。

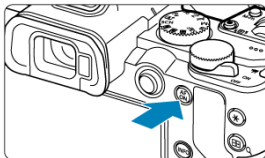
🔍 参考

- ダイヤルファンクションでは、現在設定されているカラーモードのみ変更可能です。
- 〈🔍🔍〉ボタンを押したあとに〈M-Fn〉ボタンを押して、AFエリアを設定することもできます。

〈^{AF} ^{ON}〉 AFスタートボタン

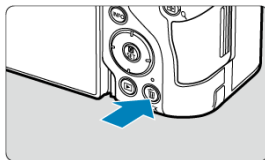
動画撮影時には、オートフォーカスが作動します（応用撮影ゾーン時）。

静止画撮影時には、シャッターボタン半押しと同じ操作を行うことができます（応用撮影ゾーン時）。

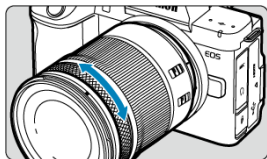


〈LOCK〉マルチ電子ロックボタン

〔 : マルチ電子ロック〕を設定し ()、〈LOCK〉ボタンを押すと、メイン電子ダイヤル、サブ電子ダイヤル、マルチコントローラー、コントロールリングが不用意に動いたり、タッチパネルに意図せずに触れたりして、設定が変わることを防止することができます。再度、〈LOCK〉ボタンを押すと、設定が解除されます。

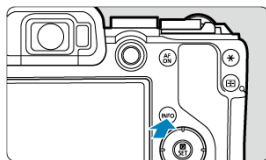


〈0〉コントロールリング



初期状態では、応用撮影ゾーン（〈B〉モードを除く）のときに、シャッターボタンを半押しした状態で、RFレンズ、またはマウントアダプターのコントロールリングを回すと、露出補正を設定することができます。また、[: **ダイヤル/リング カスタマイズ**] の [] で ()、コントロールリングに他の機能を割り当てることができます。

〈INFO〉 インフォボタン



〈INFO〉 ボタンを押すたびに情報表示内容が切り換わります。

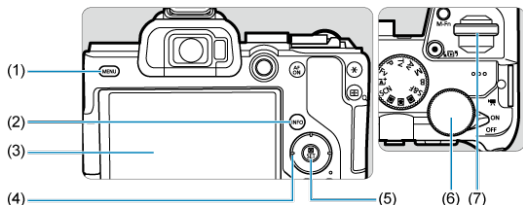
メニュー機能の操作と設定

☒ [かんたん撮影ゾーンのメニュー画面](#)

☒ [応用撮影ゾーンのメニュー画面](#)

☒ [メニュー機能の設定操作](#)

☒ [メニュー項目の灰色表示](#)



(1) 〈MENU〉ボタン

(2) 〈INFO〉ボタン

(3) モニター

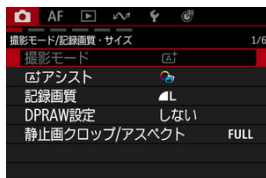
(4) 〈〉十字キー

(5) 〈〉ボタン

(6) 〈〉サブ電子ダイヤル

(7) 〈〉メイン電子ダイヤル

かんたん撮影ゾーンのメニュー画面



* かんたん撮影ゾーンのときは表示されないタブやメニュー項目があります。

応用撮影ゾーンのメニュー画面



(1) メインタブ

(2) サブタブ

(3) サブタブの名称

(4) メニュー項目

(5) 📷: 撮影

(6) **AF**: オートフォーカス

(7) ▶: 再生

(8) 📶: 通信機能

(9) ⚙️: 機能設定

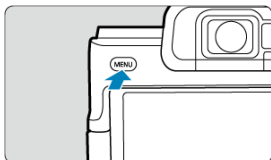
(10) 🛠️: 操作カスタマイズ

(11) ⚙️: カスタム機能

(12) ★: マイメニュー

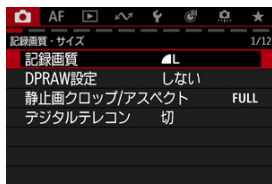
(13) 設定内容

1. 〈MENU〉ボタンを押す



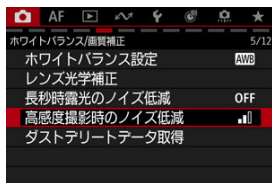
- メニューが表示されます。

2. タブを選ぶ



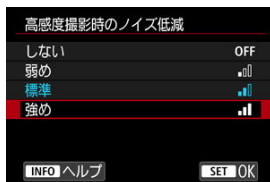
- 〈INFO〉ボタンを押すと、メインタブ（系統）が切り換わります。
- 〈〉を回してサブタブを選びます。

3. 項目を選ぶ



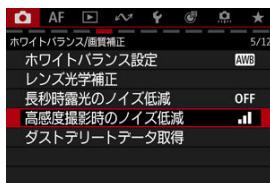
- 〈〉を回して項目を選び、〈〉を押します。

4. 内容を選ぶ



- 〈〉を回して内容を選びます。
- 現在設定されている内容は青色で表示されます。

5. 内容を設定する



- 〈〉を押すと設定されます。

6. 設定を終了する

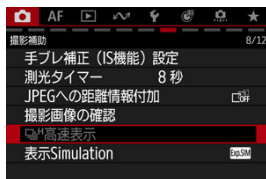
- 〈MENU〉ボタンを押すと、撮影準備状態に戻ります。

参考

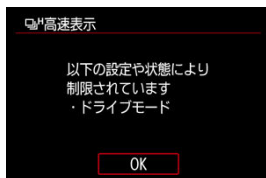
- これ以降のメニュー機能の説明は、〈MENU〉ボタンを押して、メニュー画面が表示されていることを前提に説明しています。
- メニュー画面にタッチしたり〈※〉〈◆〉でメニュー機能の操作を行うこともできます。
- 操作の途中でキャンセルするときは、〈MENU〉ボタンを押します。

メニュー項目の灰色表示

例：ドライブモード：1枚撮影設定時



灰色で表示されている項目は設定できません。すでに設定されている他の機能が優先されるためです。



灰色で表示されている項目を選び〈〉を押すと、優先されている機能を確認することができます。

優先されている機能の設定を解除すると、灰色で表示されていた項目が設定できるようになります。

！ 注意

- 項目によっては、優先されている機能を確認できないことがあります。

📖 参考

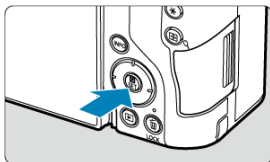
- [：カメラの初期化] で、メニュー機能の設定を初期状態に戻すことができます ()。

クイック設定

クイック設定画面の操作

モニターに表示されている項目を直接選択して、直感的な操作で設定することができます。

1. を押す（撮影時：10）



- クイック設定画面が表示されます。

2. 項目を選び、内容を設定する

静止画撮影時



動画撮影時



再生時



- クイック設定画面の操作方法は、[クイック設定画面の操作](#)を参照してください。

参考

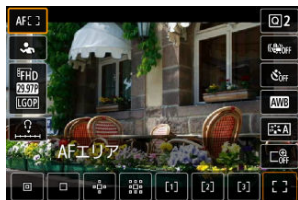
- 下記の画面が表示されているときは、〈※〉〈+〉を上下左右に押して項目を選びます。その後、〈〉または〈〉を回して設定を変更します。さらにボタンを押して設定する項目もあります。



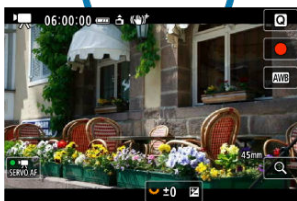
動画撮影時のクイック設定

動画撮影モードでは、[📷: クイック設定画面] でクイック設定画面の表示形式を変更できます (🔍)。[表示1] と [表示2] の両方が選ばれているときは、[[Q]2] をタッチすると表示内容が切り換わります (片方のみのときは [✓] が付いている方の画面が表示されます)。

[表示1]



[表示2]



動画撮影画面

[表示1] の画面

[静止画撮影時、再生時のクイック設定](#)と同じ方法で操作します。クイック設定カスタマイズも可能です (🔍)。

〔表示2〕の画面

1. ページを切り換える



- 〈〉を回すと、ページが切り換わります。
- (A) の部分をタッチするか、モニターに指を触れたまま左または右に素早く動かすことで、ページを切り換えることもできます。

2. 項目を選ぶ



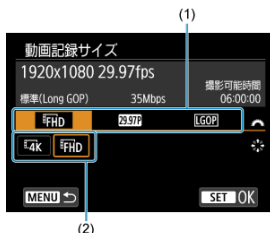
- 〈〉を回して項目を選び、〈〉を押します。
- 〈〉〈〉を押しても、項目を選ぶことができます。

3. 内容を選ぶ



- 〈〉を回して内容を選びます。
- 〈〉を回すか、〈〉〈〉を上下左右に押しても内容を選ぶことができます。

動画記録サイズの設定画面



- 〈〉を回してタブ (1) を選びます。
- 〈〉を操作して設定 (2) を変更します。
- 〈〉を押すと設定されます。

4. 内容を設定する



- 〈〉を押すと設定されます。

5. 設定を終了する

- 画面の左上の [X] をタッチすると、撮影準備状態に戻ります。

画面にタッチして操作する

- ☑ [タッチ](#)
- ☑ [ドラッグ](#)
- ☑ [タッチシャッターで撮影する](#)

タッチ

画面例（クイック設定）



- モニターに指を触れて、指を離します。
- 例えば [Q] をタッチすると、クイック設定の状態になります。[戻る] をタッチすると、元の画面に戻ります。

参考

- [🔊 電子音] を [入] に設定すると、タッチ操作時に電子音を鳴らすことができます (🔊)。

画面例（メニュー画面）



- モニターに指を触れたまま動かします。

タッチシャッターで撮影する

画面にタッチするだけで、ピント合わせから撮影まで自動で行うことができます。

1. タッチシャッター機能を設定する



- 画面の [📷] にタッチします。
- タッチするたびに、[📷] と [📷] が切り換わります。
- [📷] (タッチシャッター：する)
タッチした位置にピントを合わせてから撮影が行われます。
- [📷] (タッチシャッター：しない)
タッチした位置にピントを合わせることができます。シャッターボタンを全押しして撮影します。

2. 画面にタッチして撮影する



- 画面上の顔や被写体にタッチします。
- 設定されているAFエリアで、タッチした位置でピント合わせが行われます（タッチAF）。
- [📷] に設定したときは、ピントが合うとAFフレームが緑色に変わり、自動的に撮影されます。
- ピントが合わないときは、AFフレームがオレンジ色に変わり、撮影できません。もう一度、画面上の顔や被写体にタッチします。

⚠ 注意

- ドライブモードを [📷] [📷H] [📷] に設定していても、1枚撮影になります。
- [AF: AF動作] が [サーボAF] に設定されていても、画面にタッチしたときは [ワンショットAF] でピント合わせが行われます。
- 拡大表示中に画面にタッチしても、ピント合わせや撮影は行われません。
- [📷: 撮影画像の確認] で [撮影画像の確認時間] を [ホールド] に設定して、タッチで撮影を行ったときは、シャッターボタンを半押しするか、[🔍] にタッチすると、次の撮影を行うことができます。

📖 参考

- バルブ撮影時は2回タッチします。1回目のタッチで露光を開始し、2回目のタッチでバルブ撮影が終了します。タッチするときにカメラが動かないように注意してください。

静止画撮影モード

この章では、静止画を撮影する方法を説明しています。
「かんたん撮影ゾーン」では、カメラまかせの撮影ができるように、各種機能が自動設定されます。

- [撮影モードの設定方法](#)

かんたん撮影ゾーン

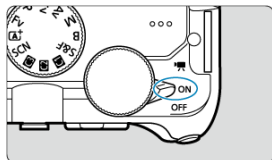
- [A+：全自動撮影（シーンインテリジェントオート）](#)
- [SCN：スペシャルシーン](#)
 - [ポートレート](#)
 - [美肌](#)
 - [集合写真](#)
 - [風景](#)
 - [パノラマショット](#)
 - [スポーツ](#)
 - [キッズ](#)
 - [流し撮り](#)
 - [クローズアップ](#)
 - [料理](#)
 - [夜景ポートレート](#)
 - [手持ち夜景](#)
 - [HDR逆光補正](#)
 - [サイレントシャッター](#)

応用撮影ゾーン

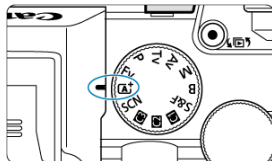
- [Fv：フレキシブルAE](#)
- [P：プログラムAE](#)
- [Tv：シャッター優先AE](#)
- [Av：絞り優先AE](#)
- [M：マニュアル露出](#)
- [B：バルブ撮影](#)
- [カスタム撮影モード](#)

撮影モードの設定方法

1. 電源スイッチを〈ON〉にする



2. モードダイヤルを回して撮影モードを選ぶ



- 〈SCN〉では、画面左上のアイコンをタッチするか、[📷:撮影モード]の[シーン選択]画面で撮影モードを選びます。



参考

- 静止画撮影時の〈S&F〉は、〈P〉モード（プログラムAE）になります。

A+ : 全自動撮影（シーンインテリジェントオート）

☑ [動いているものを撮影する](#)

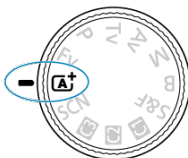
☑ [シーン判別アイコン](#)

☑ [設定の変更](#)

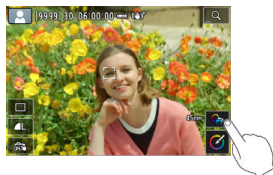
☑ [アシスト機能](#)

〈A+〉はカメラまかせの全自動撮影ができるモードです。カメラが撮影シーンを解析し、シーンに適した設定を自動的に行います。また、被写体の動きを検知して、止まっている被写体や動いている被写体に、自動でピントを合わせることができます。

1. モードダイヤルを〈A+〉にする



2. [A+アシスト] の機能を選ぶ



- [A+] をタッチし、切り換え画面を表示します (☑)。

3. カメラを被写体（写したいもの）に向ける



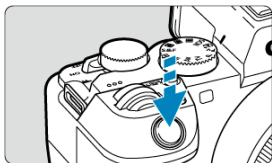
- 撮影条件により、被写体に追尾フレーム（1）が表示されます。

4. ピントを合わせる



- シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせが行われます。
- 画面に表示された人物の顔や被写体にタッチして、ピントを合わせることができます（タッチAF）。
- 暗い場所では、必要に応じてAF補助光（) が自動投光されます。
- ピントが合うと、ピントを合わせたAFフレームが緑色で表示され、同時に「ピピッ」と電子音が鳴ります（＝ワンショットAF）。
- 被写体が動いているときは、ピントが合うと、AFフレームが青色で表示され、AFフレームが被写体の動きに追従して動きます（＝サーボAF）。

5. 撮影する



- シャッターボタンを全押しすると撮影されます。
- 撮影した画像がモニターに約2秒間表示されます。

! 注意

- 撮影する被写体や撮影状況などにより、被写体の動き（止まっている／動いている）を適切に検知できないことがあります。

📖 参考

- AF動作（ワンショットAF／サーボAF）は、シャッターボタンを半押しした際に自動設定されます。ワンショットAFに自動設定されても、シャッターボタン半押し中または連続撮影中に、被写体が動いたと判断したときは、サーボAFに切り換わります。
- 〈A+〉モードで、自然や屋外シーン、または夕景シーンを撮影すると、より印象的な色あいの写真になります。なお、好みの色あいにならなかったときは、モードダイヤルを〈Fv〉〈P〉〈Tv〉〈Av〉〈M〉にして、[P-A] 以外のピクチャースタイルを選んで撮影してください (📷)。

🌟ブレの少ない画像を撮影するには

- 手持ち撮影のときは手ブレに注意してください。手ブレを防ぐため、三脚の使用をおすすめします。撮影機材の重さに耐えられる三脚を使用してください。また、カメラを三脚に確実に固定してください。
- リモートスイッチ（別売/📷）、ワイヤレスリモートコントローラー（別売/📷）の使用をおすすめします。

?こんなときは

- **ピントが合わない（AFフレームがオレンジ色に点灯）**

明暗差（コントラスト）のある部分にAFフレームを合わせてシャッターボタンを半押ししてください（☑）。また、被写体に近づきすぎているときは、離れて撮影してください。

- **ピント合わせ後、複数のAFフレームが同時に表示される**

表示されているすべての位置にピントが合っています。

- **シャッタースピード（数字）が点滅している**

光が不足している（暗い）ため、そのまま撮影すると手ブレによって被写体が鮮明に写らないことがあります。三脚を使用するか、EL/EXスピードライト（別売/☑）を使用して撮影することをおすすめします。

- **外部ストロボを使用したのに、画面の下側が不自然に暗くなった**

レンズにフードが付いていると、ストロボの光がフードで遮られることがあります。写したいものが近くにあるときは、フードを取り外してストロボ撮影を行ってください。

参考

- ストロボを使用しないときは、下記の説明を参考にしてください。

- 手ブレしやすい暗い場所では、カメラが動かないように構えるか、三脚を使用してください。ズームレンズを使用するときは、広角側にすると、手持ち撮影でも手ブレしにくくなります。
- 暗い場所で人物を撮影するときは、撮影が終わるまで動かないように、写される人に声をかけてください。撮影中に動くと、人物がブレた写真になります。

動いているものを撮影する



シャッターボタンを半押しすると、被写体の動きに追従してピント合わせが行われます。シャッターボタンを半押ししたまま、被写体を画面内に捉え続け、シャッターチャンスがきたらシャッターボタンを全押しします。

シーン判別アイコン



カメラがシーンを判別して、シーンに合った全自動撮影が行われます。判別したシーンは、画面の左上に表示されます。アイコンについては、[シーン判別アイコン](#)を参照してください。

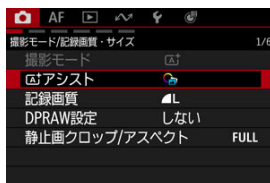
設定の変更



画面のアイコンにタッチして、ドライブモード、記録画質、タッチシャッター、**A+**アシスト、クリエイティブアシストの設定を変更することができます。

【**A+**アシスト】の機能を選ぶ

1. 【**📷**: **A+**アシスト】を選ぶ



2. 項目を選ぶ



参考

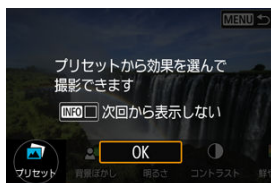
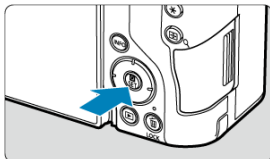
- 撮影画面では、【**📷**】をタッチすると切り換え画面が表示されます。



クリエイティブアシスト

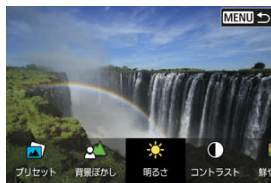
好みの効果を付けて撮影することができます。

1. 〈〉を押す



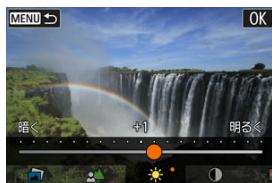
- メッセージを確認して [OK] を選びます。

2. 効果を選ぶ



- 〈〉で効果を選び、〈〉を押します。

3. 効果の度合い・内容を選ぶ



- 〈〉で設定し、〈〉を押します。
- 設定をリセットしたいときは、〈〉ボタンを押して [OK] を選びます。

クリエイティブアシストの効果

- **[] プリセット**

用意された効果の中から選ぶことができます。

[B&W] を設定したときは [鮮やかさ] [色あい1] [色あい2] は選べません。

- **[] 背景ぼかし**

背景のボケ具合を設定することができます。設定値が大きいほど背景がくっきりした画像になります。設定値が小さいほど背景がぼけた画像になります。[オート] に設定したときは、明るさに応じて背景のボケ具合が変わります。レンズの明るさ (F値) によっては、設定できない位置があります。

- **[] 明るさ**

画像の明るさを設定することができます。

- **[] コントラスト**

コントラスト (明暗差) の強さを設定することができます。

- **[] 鮮やかさ**

色の鮮やかさを設定することができます。

- **[] 色あい1**

アンバーとブルーの色あいを設定することができます。

- **[] 色あい2**

グリーンとマゼンタの色あいを設定することができます。

- **[] モノクロ**

モノクロで撮影するときの色調を設定することができます。

参考

- ストロボ撮影時、[背景ぼかし] は設定できません。
- 撮影モードを変更したり電源スイッチを〈OFF〉にすると、設定した内容は初期設定に戻ります。なお、[: クリエイティブアシスト設定記憶] を [する] に設定しておく、設定が保持されます。

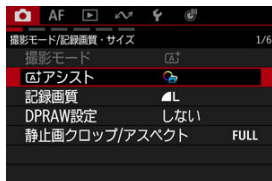
効果の登録

現在の効果をカメラに登録したいときは、[クリエイティブアシスト] の設定画面で [**INFO** 登録] をタッチして [OK] を選びます。最大3つまで [プリセット] の [USER*] に登録することができます。すでに3つ登録されているときは、[USER*] のいずれかを上書きする必要があります。

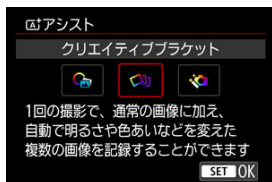
クリエイティブブラケット

1回の撮影で通常の画像に加え、自動で明るさや色あいを変えた複数の画像を記録することができます。

1. [📷: [A+]アシスト] を選ぶ



2. [クリエイティブブラケット] を選ぶ



参考

- 撮影された複数の画像をカメラで確認するときは、インデックス表示を使うと便利です (📷)。

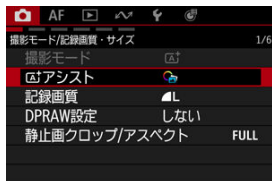
注意

- 連続撮影は設定できません。

アドバンス⁺

カメラがシーンを認識し、結果に応じて画像合成などの高度な処理を行います。

1. [📷: アシスト] を選ぶ



2. [アドバンス⁺] を選ぶ



3. アイコンを確認する

(2)



- 画像合成が行われるときは、シーン判別アイコン (2) の枠が黄色く点滅します。この表示状態のときに撮影すると、画像合成が行われ、合成画像が保存されます。
- シーン判別アイコンの枠が点滅していないときは、〈⁺アドバンス

ⓘ 注意

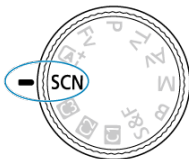
- 連続撮影は設定できません。
- シャッター方式は[電子シャッター]になります。
- 他の撮影モードより、撮影される範囲が狭くなります。
- RAW画質は選択できません。
- ストロボ撮影はできません。
- 手ブレなどにより画像のズレ量が大いときは、画像の位置合わせが正常に行われないことがあります。
- 手ブレを抑えるため、ISO感度が高く設定されることがあります。
- グラデーションが滑らかに再現されなかったり、ムラやノイズが発生することがあります。
- 極端に強い逆光シーンや、明暗差が大いシーンでは、処理効果が十分に得られないことがあります。
- 動いている被写体を撮影すると、被写体の動きが残像のように写ったり、被写体の周辺が暗めに写ることがあります。
- 格子模様、ストライプ模様のような繰り返しパターンや、画面全体が平坦で単調なとき、また手ブレなどにより画像のズレ量が大いときは、画像の位置合わせが正常に行われないことがあります。
- 手持ち撮影のときは手ブレに注意して撮影してください。
- 蛍光灯やLED照明などの光源下で撮影すると、フリッカーの影響により画像に色ムラや露出ムラなどが発生することがあります。
- 画像処理中は、画面に[**BUSY**]が表示され、処理が終わるまで次の撮影はできません。
- 画面に表示される仕上りのイメージは、撮影した画像と完全には同じになりません。
- シーンによっては、AFフレーム表示用の情報が画像に付与されません (📷)。

SCN : スペシャルシーン

被写体やシーンに合わせて撮影モードを選ぶだけで、撮影に適した機能が自動設定され、カメラまかせて撮影することができます。

* 〈SCN〉はSpecial Scene（スペシャルシーン）の略です。

1. モードダイヤルを〈SCN〉にする



2. 撮影モードを選ぶ (📷)



3. ピントを合わせて撮影する

- [A+ : 全自動撮影（シーンインテリジェントオート）](#)の手順3、4、5と同じです。

参考

- 撮影モードは、[📷 : 撮影モード] で設定することもできます。

ポートレート

背景をぼかして人物を浮き立たせた写真を撮りたいときは、**[P]**（ポートレート）を使用します。肌や髪の毛の感じが柔らかな写真になります。



撮影のポイント

● 人物と背景ができるだけ離れている場所を選ぶ

人物と背景が離れているほど、背景のボケ方が大きくなります。また、背景がすっきりしていて暗いほど人物が浮き立ちます。

● 望遠レンズを使用する

ズームレンズのときは、レンズを望遠側にして、人物の上半身が画面いっぱいに入るよう人物に近づきます。

● 顔にピントを合わせる

ピント合わせのときに、顔の位置にあるAFフレームが緑色になったことを確認して撮影します。なお、顔をアップで写すときは、**[AF: 瞳検出]**を**[しない]**以外に設定すると、瞳にピントが合うように撮影することができます。

● 連続撮影する

初期状態では、**[C]**（低速連続撮影）に設定されています。シャッターボタンを押し続けると、連続して撮影が行われ、被写体の表情やポーズの変化を写すことができます。

美肌

肌をより美しく撮りたいときは、[美肌]（美肌）を使用します。画像処理によって肌がなめらかに見えるような効果を加えることができます。



💡 撮影のポイント

- 顔が検出されるようにする

美肌効果をかける主被写体が検出されたときに顔に枠が表示されます。被写体の顔に枠が表示されるよう被写体との距離を調整すると、効果的に美肌効果をかけることができます。

- 顔にピントを合わせる

ピント合わせのときに、顔の位置にあるAFフレームが緑色になったことを確認して撮影します。なお、顔をアップで写すときは、[AF：瞳検出]を[しない]以外に設定すると、瞳にピントが合うように撮影することができます。

⚠ 注意

- 撮影シーンによっては、人の肌以外も補正されることがあります。
- 美肌効果を強くすると、意図しない画像になることがあります。事前にテスト撮影を行ない、撮影画像を確認することをおすすめします。

集合写真

集合写真を撮るときは、**[人]**（集合写真）を使用します。手前から奥の人物までピントが合った写真を撮ることができます。



撮影のポイント

● 広角レンズを使用する

ズームレンズのときは、レンズを広角側にすると、手前から奥の人物までピントが合いやすくなります。また、（人物の全身が写るくらいに）人物から少し離れると、ピントの合う範囲が前後に広がります。

● 同じシーンを何枚か撮影する

目を閉じてしまう人がいることがあるため、何枚か撮影しておくことをおすすめします。

📖 参考

- 室内や暗い場所で撮影するときは、カメラが動かないようにしっかり構えるか、三脚を使用してください。

⚠ 注意

- 歪曲収差補正が行われるため、画角がわずかに変化します。
- 撮影条件により、手前から奥の人物までピントが合わないことがあります。

風景

広がりのある風景など、近くから遠くまでピントの合った写真を撮りたいときは、（風景）を使用します。空や緑が鮮やかな、くっきりした写真になります。



💡撮影のポイント

- **ズームレンズは広角側にする**
ズームレンズのときは、レンズを広角側になると、近くから遠くまでピントの合った写真を撮ることができます。また、風景の広がりも表現することができます。
- **夜景を撮影するときは**
三脚の使用をおすすめします。

⚠ 注意

- ストロボ撮影はできません。

パノラマショット

パノラマ写真を撮影したいときは、[] (パノラマショット) を使用します。シャッターボタンを全押ししたままカメラを一定の方向に動かして撮影すると、連続撮影した画像を合成してパノラマ画像が作成されます。



1. 撮影する方向を選ぶ

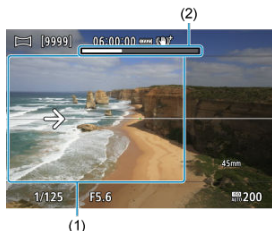


- <[]> ボタンを押すか、画面右下の [] をタッチして撮影する方向を選びます。
- カメラを動かす方向を示す矢印が表示されます。

2. シャッターボタンを半押しする

- ピントを合わせ、シャッターボタンを半押ししたままにします。

3. 撮影する



- シャッターボタンを全押ししたまま、矢印の方向にカメラを一定の速さでまっすぐに動かします。
- 画面で透明に表示されている部分（1）が撮影されていきます。
- 撮影の進み具合を示すバー（2）が表示されます。
- シャッターボタンを離すか、バーがすべて白色になると撮影が終了します。

⚠ 注意

- シーンによっては、思いどおりの画像が保存されなかったり、思いどおりの効果が得られないことがあります。
- カメラの動かし方が速すぎたり遅すぎたりすると、撮影が途中で中断されます。ただし、作成された画像は保存されます。
- [] で撮影した画像は画像サイズが大きいため、キヤノン製プリンターにカードを差し込んでプリントするときは、一度パソコンなどで画像をリサイズしてからプリントしてください。
また、ソフトウェアやWebサービスなどで画像が正しく扱えないときは、画像のリサイズをお試しください。
- 次の被写体やシーンでは、適切に合成されないことがあります。
 - 動いている被写体
 - 近くの被写体
 - 構図の中で明暗差が大きいとき
 - 空や海など単調な色や模様が続くシーン
- スイングブレ補正による振動が伝わるがありますが、撮影に影響はありません。
- 焦点距離の長いレンズを使用する場合や夜景シーンなどの暗いシーンを撮影する場合には、ゆっくりカメラを動かして撮影することをおすすめします。
- レンズの手ブレ補正機能は作動しません。

スポーツ

人の走っている姿や乗り物などを撮りたいときは、[>]（スポーツ）を使用します。



撮影のポイント

● 望遠レンズを使用する

遠くからでも撮影できるように、望遠レンズの使用をおすすめします。

● エリアAFフレームで被写体を捉え続ける

シャッターボタンを半押しすると、エリアAFフレームが表示されます。ピントが合うと、AFフレームが青色で表示されます。

● 連続撮影する

初期状態では、[]（高速連続撮影）に設定されています。シャッターチャンスがきたらシャッターボタンを全押しします。そのままシャッターボタンを押し続けると、ピントを合わせ続けながら連続して撮影が行われ、被写体の動きの変化を写すことができます。

! 注意

- 手ブレしやすい暗い場所では、左下の数値（シャッタースピード）が点滅します。カメラが動かないように構えて撮影してください。
- ストロボ撮影はできません。

キッズ

動き回る子供を撮りたいときは、[キッズ]（キッズ）を使用します。肌色が健康的な写真になります。



撮影のポイント

● エリアAFフレームで被写体を捉え続ける

初期状態では、[AF: AFエリア] は [全域AF] に設定されています。シャッターボタンを半押しすると、エリアAFフレーム（1）が表示されます。ピントが合うと、AFフレームが青色で表示されます。



(1)

● 連続撮影する

初期状態では、[QH]（高速連続撮影）に設定されています。シャッターチャンスがきたらシャッターボタンを全押しします。そのままシャッターボタンを押し続けると、ピントを合わせ続けながら連続して撮影が行われ、被写体の表情や動きの変化を写すことができます。

⚠ 注意

- 外部ストロボを使用したときは、連続撮影速度が低下します。

流し撮り

被写体の背景が流れるようなスピード感のある写真を撮影できます。

〔流し撮り〕の対応レンズを使うと、被写体ブレを軽減することができます。



撮影のポイント

● 被写体に合わせてカメラを動かす

動いている被写体を追いかけるように、カメラを滑らかに動かして撮影します。動いている被写体のピントを合わせたい位置にAFフレームを合わせ、シャッターボタンを半押ししたまま、被写体の速度に合わせてカメラを動かしながら、シャッターボタンを全押しします。その後も被写体の動きに合わせてカメラを動かします。

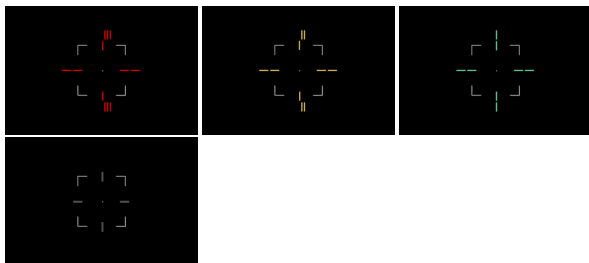
● 背景を流す効果の度合いを設定する

クイック設定の〔流し効果〕で「背景が流れたように写る度合い」を設定することができます。〔流し効果: 大〕にすると、シャッタースピードが遅くなり、被写体の背景がより流れたような写真になります。なお、被写体ブレが目立つときは、〔流し効果〕を〔流し効果: 中〕または〔流し効果: 小〕に変更すると、被写体のブレが軽減されます。

● 被写体ブレガイドを使う

〔被写体ブレガイド〕を〔する〕に設定すると、シャッターボタンを半押ししている間や、連続撮影している間にカメラを動かすと、検出された被写体のブレ量が表示されます。

ブレ量が大きい順に、赤い線、黄色い線、緑の線およびグレーの線で表示されます。また、AFフレームに対する被写体ブレガイドの位置を〔ガイド位置〕で設定できます。



参考

- **「AF：サーボAF中の全域トラッキング」**が**「する」**に設定されているときは、追尾フレームが表示されているときに、ガイドが表示されます。
- シャッターボタンを押していないときは、ガイドがグレーの線で表示されます。

① 注意

- [🔍] に対応したレンズについては、キヤノンのホームページを参照してください(🌐)。
- シャッタースピードが遅くなります。そのため、流し撮り以外の撮影には適していません。
- AFエリアは、[1点AF] [フレキシブルゾーンAF1] [フレキシブルゾーンAF2] [フレキシブルゾーンAF3] のみ設定できます。
- 初期状態では [📷] に設定されます。なお、[📷H] は選択できません。
- ストロボ撮影はできません。
- [🔍] に対応しているレンズで撮影を行ったときに、レンズの手ブレ補正効果は、撮影した画像には反映されますが、撮影時の画面では確認できません（レンズの手ブレ補正機能の設定に関わらず、撮影する瞬間だけ手ブレ補正機能、および被写体のブレに対する補正機能が作動します）。
- [🔍] に対応していないレンズで撮影すると、被写体のブレに対する補正は行われませんが、[流し効果] の設定に応じたシャッタースピードの自動調整のみ行われます。
- (夏の晴天など) 明るい場所で撮影したときや、遅い被写体を撮影したときは、設定した量の流し効果が得られないことがあります。
- [🔍] に対応したレンズを使用して、次のような被写体を撮影したときや、次のような撮影条件のときは、被写体ブレガイドの表示および被写体のブレの補正が適切に行われなかったことがあります。
 - 明暗差（コントラスト）が極端に低い被写体
 - 暗い場所にある被写体
 - 強い逆光状態、または光の反射が強い被写体
 - 繰り返し模様の被写体
 - 模様が少ない被写体や、単調な模様の被写体
 - 写り込みがある被写体（ガラスに反射した像など）
 - ゾーンAFフレームよりも小さい被写体
 - ゾーンAFフレームの中に動いている被写体が2つ以上あるとき
 - 移動方向や速度が不規則な被写体
 - 不規則な動きが含まれている被写体（走っている人の上下運動など）
 - 速度変化が大きい被写体（動き出し直後や、カーブを曲がっているなど）
 - カメラの動かし方が速すぎる／遅すぎるとき
 - 被写体の動きにカメラの動かし方が合っていないとき
 - レンズの焦点距離が長いとき

クローズアップ

花や小物などに近づいて大きく写したいときは、**[🌸]**（クローズアップ）を使用します。別売のマクロレンズを使用すると、小さなものをより大きく写すことができます。



💡撮影のポイント

- **すっきりした背景を選ぶ**
背景がすっきりしているほど、花や小物が浮き立ちます。
- **写したいものにできるだけ近づく**
最も近づくことができる距離（最短撮影距離）は、使用しているレンズで確認してください。なお、最短撮影距離は、カメラの上面の **⊖ ⊕**（撮像面マーク）から被写体までの距離です。近づきすぎるとピントが合いません。
- **ズームレンズは望遠側にする**
ズームレンズのときは、望遠側にとすると大きく写すことができます。

料理

料理を撮りたいときは、[🍴] (料理) を使用します。明るく、おいしそうな色あいの写真になります。また、白熱電球下などで撮影するときは、光源による赤みを抑えた写真になります。



🔦 撮影のポイント

● 色あいを変える

クイック設定の [色あい: 寒色 ⇄ 暖色] で変えることができます。料理の赤みを強めたいときは赤側（暖色）に、赤みが強すぎるときは青側（寒色）に設定を変更して撮影してください。

⚠ 注意

- 赤みのある被写体の色が薄くなることがあります。
- 画面内に複数の光源が含まれるときは、赤みの少ない写真にならないことがあります。
- ストロボを使用したときは、[色あい: 寒色 ⇄ 暖色] が標準設定に切り換わります。
- 人物を入れて撮影すると、人物が適切な色あいにならないことがあります。

夜景ポートレート

人物と、その背景にある夜景を明るくきれいに写したいときは、[]（夜景ポートレート）を使用します。なお、**撮影には外部ストロボが必要です**。三脚の使用をおすすめします。



撮影のポイント

● 広角レンズと三脚を使用する

ズームレンズのときは、レンズを広角側にすると、広い範囲の夜景を写すことができます。また、手持ち撮影では手ブレしますので、三脚の使用をおすすめします。

● 画像の明るさを確認する

撮影した画像はその場で再生し、画像の明るさを確認することをおすすめします。人物が暗いときは、近づいて撮影してください。

● 他の撮影モードでも撮影しておく

ブレた写真になりやすいので、[] モードと [] でも撮影しておくことをおすすめします。

注意

- ストロボが発光してもすぐに動かないように、写される人に声をかけてください。
- 撮影時に人物の顔が暗いときは、ピントが合いにくいことがあります。このようなときは、手動ピント合わせ（マニュアルフォーカス）() に設定して手動でピントを合わせてください。
- 夜景などを撮影したときに、AFフレーム内に点状の光源が含まれているときは、AFでピントが合いにくいことがあります。このようなときは、手動ピント合わせ（マニュアルフォーカス）() に設定して手動でピントを合わせてください。
- 画面に表示される仕上りのイメージは、撮影した画像と完全には同じになりません。

参考

- セルフタイマー併用時は、撮影終了時にセルフタイマーランプが一瞬光ります。

手持ち夜景

夜景効果を付けて撮影する

三脚などを使用しない、手持ちでの夜景撮影に適しています。夜景効果を選ぶことで、好みの雰囲気になります。



撮影のポイント

● カメラが動かないように構える

カメラが動かないように、脇を締めて構えます（）。この撮影モードは、4枚の画像の位置を合わせながら合成して、1枚の画像を作成しますが、手ブレなどにより、画像のズレ量が大きいと、画像の位置合わせが正常に行われなかったことがあります。

注意

- 他の撮影モードより、撮影される範囲が狭くなります。
- RAW画質は選択できません。
- ストロボ撮影はできません。
- 夜景などを撮影したときに、AFフレーム内に点状の光源が含まれているときは、AFでピントが合いにくいことがあります。このようなときは、手動ピント合わせ（マニュアルフォーカス）（）に設定して手動でピントを合わせてください。
- 動いている被写体を撮影すると、被写体の動きが残像のように写ったり、被写体の周辺が暗めに写ることがあります。
- 格子模様、ストライプ模様のような繰り返しパターンや、画面全体が平坦で単調なとき、また手ブレなどにより画像のズレ量が大いときは、画像の位置合わせが正常に行われなかったことがあります。
- 撮影後に画像を合成してからカードに記録するため時間がかかります。画像処理中は、画面に「BUSY」が表示され、処理が終わるまで次の撮影はできません。
- 画面に表示される仕上がりのイメージは、撮影した画像と完全には同じになりません。

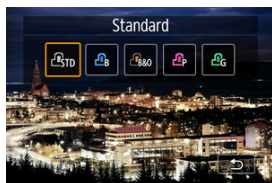
夜景効果を付けて撮影する

夜景の色味を変える効果を付けることができます。

1. 画面の [STD] をタッチする



2. 夜景効果を選ぶ



3. 撮影する

名称	効果	推奨シーン
 Standard	一般的な夜景に合うように、暗部を明るく持ち上げた、標準的な画作りを行う。	夜景全般
 Blue	コントラストを高め、中間調に青色の効果を加える。冷たい雰囲気やクールな印象を演出する。	都市夜景
 Black&Orange	コントラストを大幅に高め、暗部を黒に強く引き締め、ややシアン色の効果を加える。また、オレンジ色の強調を行う。黒の重厚感を与え、引き締まって落ち着いた印象を演出する。	
 Pink	コントラストをやや高め、中間調にピンク色、暗部にシアン色の効果を加える。派手でSFのような印象を演出する。	繁華街、ネオン街
 Green	コントラストを高め、中間調に緑色の効果を加える。無機質で幻想的な印象を演出する。	工場夜景

 注意

- グラデーションが滑らかに再現できないことがあります。
- ノイズや輝点が記録されることがあります。

HDR逆光補正

明るいところと暗いところが混在する逆光シーンなどを写すときは、 (HDR) (HDR逆光補正) を使用します。1回の撮影で明るさの異なる3枚の画像を連続撮影し、特に逆光による黒つぶれを抑えた広い階調の画像が1枚記録されます。

* 「HDR」はHigh Dynamic Range (ハイダイナミックレンジ) の略です。



撮影のポイント

● カメラが動かないように構える

カメラが動かないように、脇を締めて構えます ()。この撮影モードは、3枚の画像の位置を合わせながら合成して、1枚の画像を作成しますが、手ブレなどにより、画像のズレ量が大きいと、画像の位置合わせが正常に行われないことがあります。

⚠ 注意

- 他の撮影モードより、撮影される範囲が狭くなります。
- RAW画質は選択できません。
- ストロボ撮影はできません。
- グラデーションが滑らかに再現されなかったり、ムラやノイズが発生することがあります。
- 極端に強い逆光シーンや、明暗差が大きいシーンでは、補正効果が十分に得られないことがあります。
- 順光シーンなど、被写体がもともと明るいシーンでは、HDR効果で不自然な画像になることがあります。
- 動いている被写体を撮影すると、被写体の動きが残像のように写ったり、被写体の周辺が暗めに写ることがあります。
- 格子模様、ストライプ模様のような繰り返しパターンや、画面全体が平坦で単調なとき、また手ブレなどにより画像のズレ量が大きいときは、画像の位置合わせが正常に行われないことがあります。
- 撮影後に画像を合成してからカードに記録するため時間がかかります。画像処理中は、画面に「BUSY」が表示され、処理が終わるまで次の撮影はできません。

サイレントシャッター

静かな場所で、シャッター音や電子音を鳴らさずに写真を撮ることができます。



撮影のポイント

● 試し撮りをする

撮影条件によっては、レンズの絞りの駆動音や、ピント合わせのためのフォーカス駆動音がすることがありますので、事前にテスト撮影をおすすめします。

⚠ 注意

- サイレントシャッター機能は、被写体の肖像権やプライバシーなどに十分配慮した上で、お客様の責任において使用してください。
- 動きの速い被写体を撮影すると、被写体が歪んで写ることがあります。
- 連続撮影、スロボ撮影はできません。

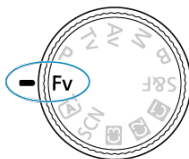
Fv : フレキシブルAE

シャッタースピード、絞り数値、ISO感度を、オートまたは任意に設定できます。撮影モードを切り換えることなく、〈P〉〈Tv〉〈Av〉〈M〉モード相当の撮影が可能です。

* 〈Fv〉はFlexible value（フレキシブルバリュー）の略です。

* AEはAuto Exposure（オートエクスポージャー）の略で自動露出のことです。

1. モードダイヤルを〈Fv〉にする

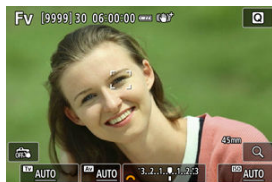


2. シャッタースピード／絞り数値／ISO感度を設定する



- 〈〉を回して、設定する項目を選びます。選択している項目の左側に [] が表示されます。
- 〈〉を回して、内容を設定します。
- 〈〉を押すと、[**AUTO**] に設定（リセット）されます。

3. 露出補正量を設定する



- 〈〉を回して、露出レベル表示を選びます。露出レベル表示の左側に [] が表示されます。
- 〈〉を回して、内容を設定します。
- 〈〉を押すと、[±0] に設定（リセット）されます。

〈Fv〉モードの機能組み合わせ一覧

シャッタースピード	絞り数値	ISO感度	露出補正	撮影モード
[AUTO]	[AUTO]	[AUTO]	可能	〈P〉モード相当
		任意設定		
任意設定	[AUTO]	[AUTO]	可能	〈Tv〉モード相当
		任意設定		
[AUTO]	任意設定	[AUTO]	可能	〈Av〉モード相当
		任意設定		
任意設定	任意設定	[AUTO]	可能	〈M〉モード相当
		任意設定	—	

! 注意

- 数値が点滅するときは、露出アンダー（露出不足）、または露出オーバー（露出過度）です。点滅が止まるまで、露出調整を行ってください。
- 〈Fv〉モード時に〈P〉〈Av〉モード相当の状態、[ : 外部ストロボ制御] の [スローシンクロ] を [1/*-30秒自動] *1に設定しても、（暗い場所で）スローシンクロ撮影は行われません。
1 : 「1/」の値は設定状況によって異なります。

参考

- シャッタースピード、絞り数値、ISO感度が [AUTO] に設定されているときは、各項目の数字の下にアンダーラインが表示されます。
- 手順2または3で〈▼〉を押すと、シャッタースピード、絞り数値、ISO感度をすべて [AUTO]、露出補正量を [±0] に設定することができます。

4. 撮影する

- 構図を決め、シャッターボタンを全押しします。

⚠ 注意

- 遅いシャッタースピードと小さな絞り数値が点滅するときは、被写体が暗すぎます。
ISO感度を上げるか、ストロボを使用してください。
- 速いシャッタースピードと大きな絞り数値が点滅するときは、被写体が明るすぎます。
ISO感度を下げるか、減光用のNDフィルター（別売）を使用してください。

📖 参考

〈P〉モードと〈A+〉モードの違いについて

- 〈A+〉モードのときは失敗を防ぐために、AFエリアや測光モードなど、多くの機能が自動的に設定され、変更できる機能が限定されています。それに対して〈P〉モードのときは、自動的に設定されるのはシャッタースピードと絞り数値だけで、AFエリアや測光モードなどの機能を自由に設定することができます。

プログラムシフトについて

- 〈P〉モードのときは、自動的に設定されたシャッタースピードと絞り数値の組み合わせ（プログラム）を、同じ露出のままで自由に変えることができます。これを「プログラムシフト」といいます。
- プログラムシフトは、シャッターボタンを半押ししてから、希望するシャッタースピード、または絞り数値が表示されるまで（）を回します。
- プログラムシフトは、測光タイマーが終了したとき（露出表示が消えたとき）に自動的に解除されます。
- ストロボを使用したときは、プログラムシフトはできません。

Tv : シャッター優先AE

シャッタースピードを設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが標準露出に必要な絞り数値を自動的に設定します。シャッタースピードを速くすると、動きの速い被写体の瞬間をとらえることができます。逆にシャッタースピードを遅くすると、流動感を表現することができます。

* 〈Tv〉はTime value（タイムバリュー）の略で時間量のことです。

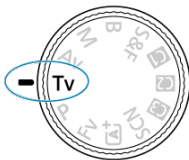


流動感のある写真
(遅いスピード : 1/30秒)



動きを止めた写真
(速いスピード : 1/2000秒)

1. モードダイヤルを〈Tv〉にする

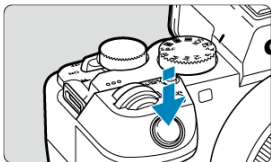


2. シャッタースピードを設定する



- 〈〉を回して設定します。

3. ピントを合わせる



- シャッターボタンを半押しします。
- 絞り数値が自動的に決まります。

4. 表示を確認して撮影する



- 絞り数値が点滅していなければ標準露出です。

⚠ 注意



- 小さな絞り数値が点滅するときは、露出アンダー（露出不足）です。
絞り数値の点滅が止まるまで〈〉を回してシャッタースピードを遅くするか、ISO感度を上げます。



- 大きな絞り数値が点滅するときは、露出オーバー（露出過度）です。
絞り数値の点滅が止まるまで〈〉を回してシャッタースピードを速くするか、ISO感度を下げます。

📖 参考

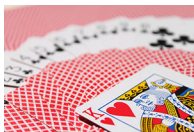
- シャッタースピード表示の[""]は「秒」を表しています（["0"5"]→0.5秒、["15"]→15秒など）。

Av : 絞り優先AE

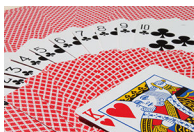
ピントの合う範囲を確認する

絞り数値を設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが標準露出に必要なシャッタースピードを自動的に設定します。絞り数値を大きくする（絞りを閉じる）と、ピントの合う範囲が前後に広がります。逆に絞り数値を小さくする（絞りを開く）と、ピントの合う範囲が狭くなります。

* 〈Av〉はAperture value（アパーチャーバリュー）の略で開口量のことです。

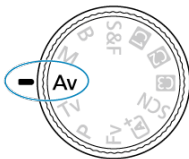


背景をぼかした写真
（小さい絞り数値：F5.6）



背景にもピントが合った写真
（大きい絞り数値：F32）

1. モードダイヤルを〈Av〉にする

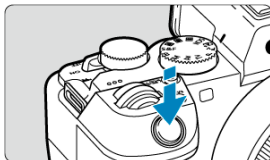


2. 絞り数値を設定する



- 〈〉を回して設定します。

3. ピントを合わせる



- シャッターボタンを半押しします。
- シャッタースピードが自動的に決まります。

4. 表示を確認して撮影する



- シャッタースピードが点滅していなければ標準露出です。

⚠ 注意

- 遅いシャッタースピードが点滅するときは、露出アンダー（露出不足）です。シャッタースピードの点滅が止まるまで〈〉を回して絞り数値を小さくする（絞りを開く）か、ISO感度を上げます。
- 速いシャッタースピードが点滅するときは、露出オーバー（露出過度）です。シャッタースピードの点滅が止まるまで〈〉を回して絞り数値を大きくする（絞りを閉じる）か、ISO感度を下げます。

参考

絞り数値の表示について

- 数値が大きくなるほど、レンズの絞り径は小さくなります。表示される絞り数値はレンズによって異なります。カメラにレンズが付いていないときは、表示が **[F00]** になります。

ピントの合う範囲を確認する

絞りは撮影しないときは開いていて、撮影の瞬間だけ大きさが変わります。このため、モニターで見えるピントの合う範囲は狭く（浅く）なっています。ボタンに  : **撮影時ボタンカスタマイズ** の **[絞り込み]** を割り当てると、そのボタンを押したときにピントの合う範囲が確認できるようになります。

参考

- 絞り数値が大きいほどピントの合う範囲は前後に広がります。
- 画像を見ながら、絞り込み機能を割り当てたボタンを押すと、被写界深度の効果が分かりやすくなります。
- 絞り込み機能を割り当てたボタンを押している間は、露出が固定された（AEロック）状態になります。

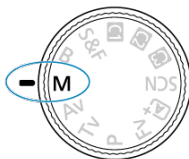
M : マニュアル露出

ISOオート設定時の露出補正

自分でシャッタースピードや絞り数値を決めて撮影するときに設定します。露出は、露出レベル表示を参考にしたり、市販の露出計を利用して自分で任意に決めます。

* 〈M〉はManual（マニュアル）の略です。

1. モードダイヤルを〈M〉にする



2. ISO感度を設定する

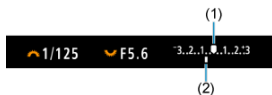
- ISOオート設定時は、露出補正を行うことができます 。

3. シャッタースピードと絞り数値を設定する



- シャッタースピードは〈〉、絞り数値は〈〉を回して設定します。

4. ピントを合わせる



- シャッターボタンを半押しします。
- 露出レベルマーク [■] で、標準露出からどのくらいずれているか、確認することができます。

(1) 標準露出指標

(2) 露出レベルマーク

5. 露出を決めて撮影する



- 露出レベル表示を確認し、任意のシャッタースピード、絞り数値を設定します。

ISOオート設定時の露出補正

マニュアル露出撮影時にISO感度を[AUTO]に設定したときは、以下の方法で露出補正(☑)を行うことができます。

- 露出レベル表示にタッチする
- [📷: 露出補正/AEB設定]
- クイック設定画面
- シャッターボタンを半押しした状態でコントロールリングを回す

⚠ 注意

- ISOオート設定時は、設定したシャッタースピードと絞り数値に対して標準露出になるようにISO感度変動するため、意図した露出で撮影できないことがあります。そのときは露出補正を行ってください。
- ISOオート設定時にストロボを使用したときは、露出補正量を設定しても補正は行われません。

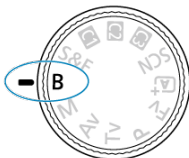
📖 参考

- カメラの設定が〈M〉モード+ISOオート+ [📷] (評価測光) で、[🔍: 合焦後AEロックする測光モード] の設定が初期状態のときは (☑)、シャッターボタンを半押しして、ワンショットAFでピントが合うと、半押ししている間、ISO感度が固定(ロック)されます。
- ISOオート設定時に〈✳〉ボタンを押すと、ISO感度を固定(ロック)することができます。
- 〈✳〉ボタンを押して構図を変えると、〈✳〉ボタンを押したときとの露出差を露出レベル表示で確認することができます。
- 〈P〉〈Tv〉〈Av〉モードで露出補正(☑)を行っていたときは、〈M〉モード+ISOオートに変更したときに、設定していた補正量が引き継がれます。
- ISOオート設定時に [🔍: 露出設定ステップ] を [1/2段] に設定して1/2段の露出補正を行ったときは、ISO感度(1/3段分)とシャッタースピードで露出補正が行われます。ただし、表示上のシャッタースピードは変化しません。

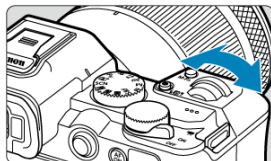
B : バルブ撮影

シャッターボタンを押している間、シャッターが開いたままになり、シャッターボタンから指を離すと閉じます。夜景や打上げ花火、天体撮影など長時間の露光が必要なときに設定します。

1. モードダイヤルを〈B〉にする



2. 絞り数値を設定する



- 〈〉を回して設定します。

3. 撮影する

- シャッターボタンを全押ししている間、露光が行われます。
- モニターに露光経過時間が表示されます。

⚠ 注意

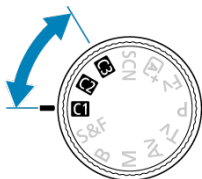
- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けしないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- 長時間のバルブ撮影を行うと、画像に含まれるノイズが多くなります。
- ISOオート設定時はISO400に設定されます。
- セルフタイマーを併用して、バルブタイマーを使用せずにバルブ撮影を行うときは、シャッターボタンを全押しし続けてください（セルフタイマー作動秒時+バルブ撮影時間）。

📖 参考

- バルブ撮影時は、[📷：バルブタイマー] で露光時間をあらかじめ設定することができます (🔗)。
- [📷：長秒時露光のノイズ低減] で長秒露光時に発生するノイズを低減することができます (🔗)。
- バルブ撮影を行うときは、三脚、およびバルブタイマー (🔗) の使用をおすすめします。
- リモートスイッチ RS-80E3/RS-60E3（別売）を使ってバルブ撮影を行うこともできます (🔗)。
- ワイヤレスリモートコントローラー BR-E2/BR-E1（別売）を使ってバルブ撮影を行うこともできます。リモートコントローラーのリリース（送信）ボタンを押すと、（2秒後またはすぐに）バルブ撮影が始まり、再度押すと終了します。

カスタム撮影モード

[ : カスタム撮影モード (C1-C3)] で登録したカメラの設定内容で撮影できます ()。モードダイヤルの〈〉〈〉〈〉は、それぞれ [カスタム撮影モード : C1] [カスタム撮影モード : C2] [カスタム撮影モード : C3] に対応しています。



動画撮影モード

この章では、動画を撮影する方法を説明しています。

「かんたん撮影ゾーン」では、カメラまかせの撮影ができるように、各種機能が自動設定されます。

- [撮影モードの設定方法](#)

かんたん撮影ゾーン

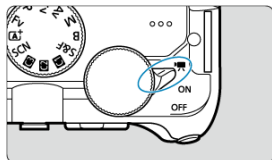
- [A+：全自動撮影（シーンインテリジェントオート動画）](#)
- [SCN：スペシャルシーン動画](#)
 - [美肌動画](#)
 - [レビュー用動画](#)
 - [手ブレ補正動画](#)

応用撮影ゾーン

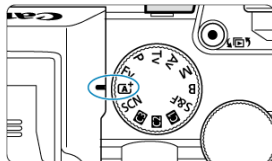
- [動画自動露出](#)
- [動画シャッター優先AE](#)
- [動画絞り優先AE](#)
- [動画マニュアル露出](#)
- [スロー&ファストモーション動画](#)
- [カスタム撮影モード](#)

撮影モードの設定方法

1. 電源スイッチを「」にする



2. モードダイヤルを回して撮影モードを選ぶ



● かんたん撮影ゾーン

モードダイヤル	撮影モード
〈  〉	 : シーンインテリジェントオート動画 (🔒)
〈SCN〉	 : 美肌動画 (🔒)
	 : レビュー用動画 (🔒)
	 : 手ブレ補正動画 (🔒)

● 応用撮影ゾーン

モードダイヤル	撮影モード
〈Fv〉	📹 : 動画自動露出 (🔗)
〈P〉	
〈B〉	
〈Tv〉	📹Tv : 動画シャッター優先AE (🔗)
〈Av〉	📹Av : 動画絞り優先AE (🔗)
〈M〉	📹M : 動画マニュアル露出 (🔗)
〈C1〉 〈C2〉 〈C3〉	[🔗] : カスタム撮影モード (C1-C3) の設定に従います。(初期設定は〈P〉)
〈S&F〉	📹S&F 📹S&F Tv 📹S&F Av 📹S&F M : スロー&ファストモーション動画 (🔗)

- 〈SCN〉または〈S&F〉では、画面左上のアイコンをタッチするか、[📷 : 撮影モード] を選び、[シーン選択] 画面または [撮影モード] 画面で撮影モードを選びます。



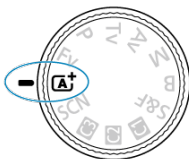
A+ : 全自動撮影（シーンインテリジェントオート動画）

☑ [シーン判別アイコン](#)

☑ [被写界深度の切り換え（背景ぼかし）](#)

カメラがシーンを判別して、シーンにあった全自動撮影が行われます。判別したシーンは、画面の左上に表示されます。アイコンについては、[シーン判別アイコン](#)を参照してください。

1. 撮影モードを「A+」にする

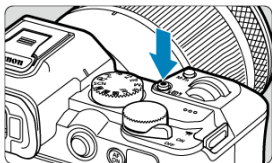


- モードダイヤルを回して「A+」を選びます。

2. ピントを合わせる

- 初期状態では、「AF：動画サーボAF」が「する」に設定されているため、常時ピント合わせが行われます（）。

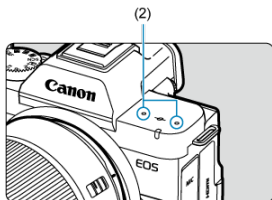
3. 撮影する



- 動画撮影ボタンを押すと、動画撮影が始まります。画面の[●]をタッチしても、動画撮影が始まります。



- 動画撮影中は、[●REC] (1) の表示、画面の周囲に赤枠の表示、タリールランプの点灯が行われます。



- 音声はマイク (2) で記録されます。
- もう一度動画撮影ボタンを押すと、動画撮影が終了します。画面の[■]をタッチしても、動画撮影が終了します。

シーン判別アイコン



カメラがシーンを判別して、シーンにあった全自動撮影が行われます。判別したシーンは、画面の左上に表示されます。アイコンについては、[シーン判別アイコン](#)を参照してください。

被写界深度の切り換え（背景ぼかし）

背景のぼかし具合を設定することができます。

1. クイック設定画面を表示する (🔧)

2. 効果の度合いを選ぶ



- 〈🔧〉を回してぼかし具合を設定します。
- [オート]を選んだときは、明るさに応じて背景のぼかし具合が変わります。

📖 参考

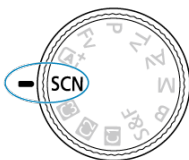
- 使用するレンズによって、設定できる範囲が異なります。
- シーンによってはシャッタースピードが速くなるため、蛍光灯やLED照明などの光源下で、画面のちらつきが記録されることがあります。

SCN : スペシャルシーン動画

被写体やシーンに合わせて撮影モードを選ぶと、撮影に適した機能が自動設定されます。

* 〈SCN〉はSpecial Scene（スペシャルシーン）の略です。

1. モードダイヤルを〈SCN〉にする



2. 撮影モードを選ぶ (🔍)



3. ピントに合わせて撮影する

- [A+: 全自動撮影 \(シーンインテリジェントオート動画\)](#) の手順2、3と同じです。

美肌動画

画像処理によって肌がなめらかに見えるような効果をかけることができます。
クイック設定で、**「美肌効果」**の強弱や、**「レビュー用AF」**などを設定することができます。

🔦 撮影のポイント

- **顔にピントを合わせる**

カメラを顔に向けると、顔に追尾フレーム [] が表示され、ピント合わせが行われます。

⚠ 注意

- 撮影シーンによっては、人の肌以外も補正されることがあります。
- 美肌効果を強くすると、意図しない画像になることがあります。事前にテスト撮影を行ない、撮影画像を確認することをおすすめします。

📖 参考

- **「美肌効果」**の設定は、撮影モードを変更したり電源をオフにしても、記憶されません。

レビュー用動画

カメラの近くにあるものにピントを合わせて撮影することができます。商品などのレビュー撮影に適しています。

クイック設定で、明るさなどを調整することができます。

⚠ 注意

- AFフレームは表示されません。
- 被写体を選択することはできません。

手ブレ補正動画

手ブレを軽減した動画を撮影することができます。
クイック設定で、明るさなどを調整することができます。

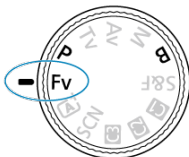
参考

- 人物と風景を交互に撮影するときなど、シーンによる明るさの変化が大きい場合に、露出の追従性を高めた制御を行います。

動画自動露出

明るさに応じて自動露出制御が行われます。

1. 撮影モードを「Fv」にする

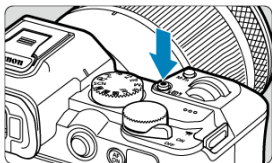


- モードダイヤルを回して〈Fv〉、〈P〉、〈B〉を選びます。

2. ピントを合わせる

- 初期状態では、[AF: 動画サーボAF] が [する] に設定されているため、常時ピント合わせが行われます (🔗)。
- 初期状態では〈AF ON〉ボタンを押すと、設定されているAFエリアでピント合わせが行われます。

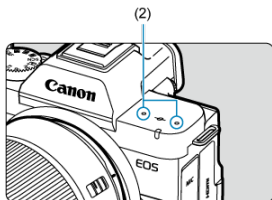
3. 撮影する



- 動画撮影ボタンを押すと、動画撮影が始まります。画面の [●] をタッチしても、動画撮影が始まります。



- 動画撮影中は画面右上に [●REC] (1) が表示され、画面の周囲に赤枠が表示されます。

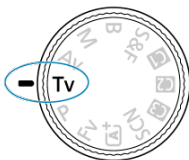


- 音声はマイク (2) で記録されます。
- もう一度動画撮影ボタンを押すと、動画撮影が終了します。画面の [■] をタッチしても、動画撮影が終了します。

動画シャッター優先AE

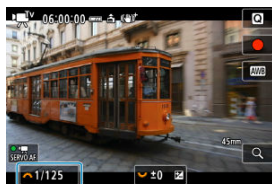
シャッタースピードを設定して、動画撮影を行うことができます。なお、ISO感度、絞り数値は、標準露出になるように、明るさに応じて自動設定されます。

1. 撮影モードを「Tv」にする



- モードダイヤルを回して「Tv」を選びます。

2. シャッタースピード (1) を設定する



(1)

- 画面を見ながら「」を回して設定します。
- 設定できるシャッタースピードは、フレームレートにより異なります。

3. ピントを合わせて撮影する

- [動画自動露出](#)の手順2、3と同じです。

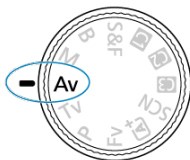
⚠ 注意

- 動画撮影中にシャッタースピードの変更を行うと、露出変化が記録されるため、おすすめできません。
- 動きのある被写体を動画撮影するときは、1/25～1/125秒程度のシャッタースピードをおすすめします。シャッタースピードを速くするほど、被写体の動きが滑らかに再現されなくなります。
- 蛍光灯やLED照明などの光源下で動画撮影を行っているときに、シャッタースピードを変更すると、画面のちらつきが記録されることがあります。

動画絞り優先AE

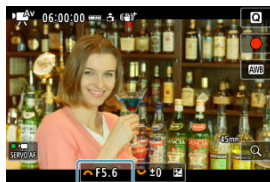
絞り数値を設定して、動画撮影を行うことができます。なお、ISO感度、シャッタースピードは、標準露出になるように、明るさに応じて自動設定されます。

1. 撮影モードを「Av」にする



- モードダイヤルを回して「Av」を選びます。

2. 絞り数値（1）を設定する



(1)

- 画面を見ながら「」を回して設定します。

3. ピントを合わせて撮影する

- [動画自動露出](#)の手順2、3と同じです。

⚠ 注意

- 動画撮影中に絞り数値の変更を行うと、絞りの駆動による露出変化が記録されるため、おすすめできません。

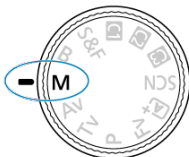
📖 参考

📷 [P] [Tv] [Av] [S&F] [S&F Tv] [S&F Av] モード共通事項

- 〈*〉ボタンを押すと、露出を固定（AEロック）することができます。詳しくは[露出を固定して撮る／AEロック撮影](#)を参照してください。
- [P]モードのときは、動画の画像情報（Exif情報）にISO感度、シャッタースピード、絞り数値は記録されません。
- 暗い場所でLEDライトが自動的に点灯する機能に対応しています。詳しくは、LEDライトを内蔵したEXスピードライトの使用説明書を参照してください。

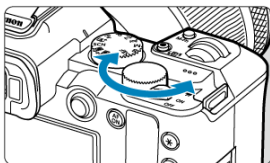
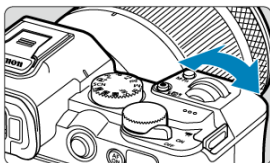
シャッタースピード、絞り数値、ISO感度を設定して、動画撮影を行うことができます。

1. 撮影モードを「M」にする



- モードダイヤルを回して「M」を選びます。

2. シャッタースピードと絞り数値、ISO感度を設定する





- (1)
- (2)
- (3)
- シャッターボタンを半押しして、露出レベル表示を参考に設定します。
- シャッタースピード (1) は 、絞り数値 (2) は  を回して設定します。
- ISO感度 (3) はダイヤルファクションの操作やISO感度の選択画面で設定します ()。
- 設定できるシャッタースピードは、フレームレートにより異なります。

3. ピントを合わせて撮影する

- [動画自動露出](#)の手順2、3と同じです。

⚠ 注意

- 動画撮影中にシャッタースピード、絞り数値やISO感度の変更を行うと、露出変化が記録されたり、高ISO感度でノイズが記録されることがあるため、おすすめできません。
- 動きのある被写体を動画撮影するときは、1/25～1/125秒程度のシャッタースピードをおすすめします。シャッタースピードを速くするほど、被写体の動きが滑らかに再現されなくなります。
- 蛍光灯やLED照明などの光源下で動画撮影を行っているときに、シャッタースピードを変更すると、画面のちらつきが記録されることがあります。

参考

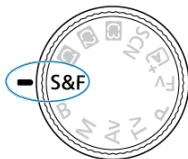
- ISOオート設定時に、以下の方法で±3段までの範囲で露出補正を行うことができます
 - 露出レベル表示にタッチする
 - [📷: 露出補正]
 - シャッターボタンを半押しした状態でコントロールリングを回す
- ISOオート設定時に〈✳〉ボタンを押すと、ISO感度を固定（ロック）することができます。動画撮影中にISO感度を固定したときは、再度〈✳〉ボタンを押すと、ISO感度の固定を解除することができます。
- 〈✳〉ボタンを押して構図を変えると、〈✳〉ボタンを押したときとの露出差を露出レベル表示 (📷) で確認することができます。
- ISO感度を任意に設定したり、[AUTO]（自動設定）を選ぶこともできます。

スロー&ファストモーション動画

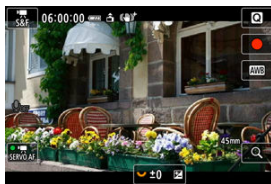
☑ S&F動画の撮影モード

スローモーション、またはファストモーションで再生される動画を撮影することができます。音声は記録されません。スローモーション、またはファストモーションの速度（再生速度）は [📷: 動画記録サイズ] で設定します。

1. モードダイヤルを〈S&F〉にする



2. 撮影モードを選ぶ (☑)



3. [📷: 動画記録サイズ] を選ぶ (☑)

4. 解像度を選ぶ



- 〈〉を回してタブ（1）を選びます。
- 〈〉を操作して設定（2）を選びます。

5. 記録時のフレームレートを選ぶ



- 〈〉を回してタブを選びます。
- 〈〉を操作して設定を選びます。

6. 再生時のフレームレートを選ぶ



- 〈〉を回してタブを選びます。
- 〈〉を操作して設定を選びます。
- 再生速度は、画面の右上に表示されます。

7. <Ⓜ>を押す

⚠ 注意

- 記録時のフレームレートとシャッタースピードの組み合わせによって、カメラの動作や反応が遅くなる場合があります。
- [📷 : 動画クropp] を [する] に変更、またはRF-S/EF-Sレンズを装着したときは、設定した記録時のフレームレートが変更される場合があります。撮影を行う前に設定を確認してください。

S&F動画の撮影モード

-  : S&F 動画自動露出
明るさに応じて自動露出制御が行われます。撮影方法は[動画自動露出](#)と同じです。
-  : S&F 動画シャッター優先AE
シャッタースピードを設定して、S&F動画を撮影することができます。撮影方法は[動画シャッター優先AE](#)と同じです。
-  : S&F 動画絞り優先AE
絞り数値を設定して、S&F動画を撮影することができます。撮影方法は[動画絞り優先AE](#)と同じです。
-  : S&F 動画マニュアル露出
シャッタースピード、絞り数値、ISO感度を設定して、S&F動画を撮影することができます。撮影方法は[動画マニュアル露出](#)と同じです。

この章では、撮影に関する内容や、メニュー機能の「📷：撮影タブ」に含まれる項目などについて説明しています。

動画撮影と静止画撮影は、電源スイッチの「🔋」／「ON」で切り換えます。

❗ 注意

- 動画撮影と静止画撮影を切り換えたときは、撮影を行う前にカメラの設定を再確認してください。
- 動画撮影時の静止画撮影はできません。
- 静止画撮影時に動画撮影ボタンを押すと、動画撮影が行われます。

- [メニュー目次：静止画撮影](#)
- [メニュー目次：動画撮影](#)
- [撮影モード](#)

静止画撮影

- [静止画記録画質](#)
- [DPRAW設定](#)
- [静止画クロップ／アスペクト](#)
- [デジタルテレコン](#) 応用
- [露出補正](#) 応用
- [露出を自動的に変えて撮る／AEB撮影](#) 応用
- [静止画 ISO感度に関する設定](#) 応用
- [フリッカーレス撮影](#) 応用
- [高周波フリッカーレス撮影](#) 応用
- [測光モード](#) 応用
- [AF時の検出被写体優先AE](#) 応用
- [露出を固定して撮る／AEロック撮影](#) 応用
- [カラーモード](#) 応用
- [色空間](#) 応用
- [明瞭度](#) 応用
- [HDR撮影（PQ）](#) 応用
- [HDRモード](#) 応用
- [オートライティングオブティマイザ](#) 応用
- [高輝度側・階調優先](#) 応用
- [ホワイトバランスの設定](#) 応用
- [ホワイトバランスの補正](#) 応用
- [レンズ光学補正](#) 応用

- [長秒時露光のノイズ低減](#) 応用
- [高感度撮影時のノイズ低減](#) 応用
- [ダストデリートデータ取得](#) 応用
- [ブリ連続撮影](#) 応用
- [多重露出撮影](#) 応用
- [フォーカスBKT撮影](#) 応用
- [ドライブモード](#)
- [インターバルタイマー撮影](#)
- [バルブタイマー](#) 応用
- [サイレントシャッター機能](#) 応用
- [シャッター方式](#) 応用
- [カードなしリリース](#)
- [手ブレ補正（IS機能）設定](#)
- [測光タイマー](#) 応用
- [JPEGへの距離情報付加](#) 応用
- [撮影画像の確認](#)
- [高速表示](#) 応用
- [表示Simulation](#) 応用
- [OVFビューアシスト](#) 応用
- [HDR/C.Logビューアシスト](#) 応用
- [撮影情報表示設定](#)
- [クイック設定カスタマイズ](#) 応用
- [表示フレームレート設定](#)
- [ファインダー表示形式](#)
- [鏡像表示](#)
- [自動電源オフ温度](#)
- [クリエイティブアシスト設定記憶](#)
- [静止画撮影全般](#)
- [外部ストロボ撮影](#) 応用
- [ストロボ撮影の設定](#) 応用

動画撮影

- [動画記録サイズ](#)
- [動画記録形式](#)
- [動画クロップ撮影](#) 応用
- [デジタルズーム](#)
- [録音](#)
- [露出補正](#) 応用
- [動画 ISO感度に関する設定](#) 応用

- [動画Av値 1/8段設定](#) 応用
- [動画 オートスローシャッター](#) 応用
- [高周波フリッカーレス撮影](#) 応用
- [AF時の検出被写体優先AE](#) 応用
- [露出を固定して撮る/AEロック撮影](#) 応用
- [カラーモード](#) 応用
- [明瞭度](#) 応用
- [HDR撮影 \(PQ\)](#) 応用
- [オートライティングオブティマイザ](#) 応用
- [高輝度側・階調優先](#) 応用
- [VRクリアモード](#) 応用
- [ホワイトバランスの設定](#) 応用
- [ホワイトバランスの補正](#) 応用
- [レンズ光学補正](#) 応用
- [高感度撮影時のノイズ低減](#) 応用
- [ブレ記録設定](#) 応用
- [タイムラプス動画](#)
- [シネマビュー](#) 応用
- [動画セルフタイマー](#)
- [タリーランプ](#) 応用
- [手ブレ補正 \(IS機能\) 設定](#)
- [動画自動水平補正](#)
- [メタデータ](#) 応用
- [タイムコード](#)
- [測光タイマー](#) 応用
- [HDR/C.Logビューアシスト](#) 応用
- [フォルスカラー設定](#) 応用
- [ゼブラ設定](#) 応用
- [撮影情報表示設定](#)
- [クイック設定画面](#) 応用
- [クイック設定カスタマイズ](#) 応用
- [ファインダー表示形式](#)
- [鏡像表示](#)
- [自動電源オフ温度](#)
- [温度上昇緩和](#)
- [シャットダウン警告ガイダンス](#)
- [HDMI接続時の表示](#)
- [Canon LogのHDMI出力レンジ](#) 応用
- [動画撮影全般](#)

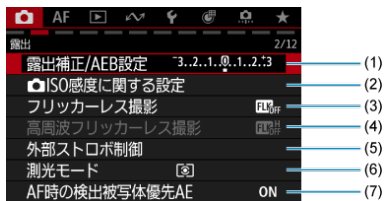
メニュー目次：静止画撮影

● 記録画質・サイズ



- (1) [記録画質](#)
- (2) [DPRAW設定](#)
- (3) [静止画クロップ/アスペクト](#)
- (4) [デジタルテレコン](#) 応用

● 露出



- (1) [露出補正/AEB設定](#) 応用
- (2) [ISO感度に関する設定](#) 応用
- (3) [フリッカーレス撮影](#) 応用
- (4) [高周波フリッカーレス撮影](#) 応用
- (5) [外部ストロボ制御](#) 応用
- (6) [測光モード](#) 応用
- (7) [AF時の検出被写体優先AE](#) 応用

● カラー/トーン/Dレンジ

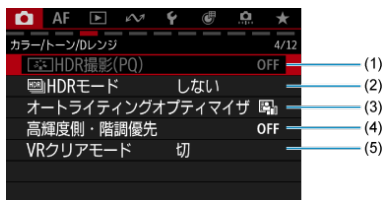


(1) [カラーモード](#) **応用**

(2) [色空間](#) **応用**

(3) [明瞭度](#) **応用**

● カラー/トーン/Dレンジ



(1) [HDR撮影\(PQ\)](#) **応用**

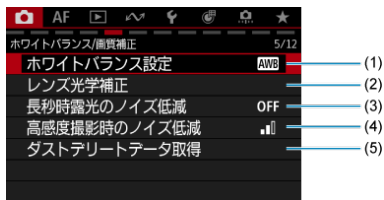
(2) [HDRモード](#) **応用**

(3) [オートライティング最適化](#) **応用**

(4) [高輝度側・階調優先](#) **応用**

(5) [VRクリアモード](#) **応用**

● ホワイトバランス/画質補正



(1) ホワイトバランス設定

- [ホワイトバランスの設定](#) 応用
- [ホワイトバランスの補正](#) 応用

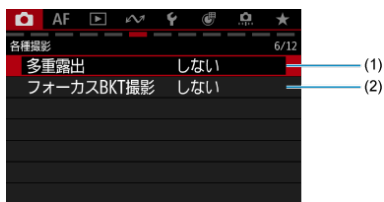
(2) レンズ光学補正 応用

(3) 長秒時露光のノイズ低減 応用

(4) 高感度撮影時のノイズ低減 応用

(5) ダストデリートデータ取得 応用

● 各種撮影



(1) 多重露出 応用

(2) フォーカスBKT撮影 応用

● シャッター制御



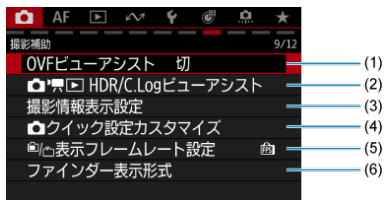
- (1) [ドライブモード](#)
- (2) [プリ連続撮影](#) 応用
- (3) [インターバルタイマー](#)
- (4) [バルブタイマー](#) 応用
- (5) [サイレントシャッター機能](#) 応用
- (6) [シャッター方式](#) 応用
- (7) [カードなしリリース](#)

● 撮影補助



- (1) [手ブレ補正 \(IS機能\) 設定](#)
- (2) [測光タイマー](#) 応用
- (3) [JPEGへの距離情報付加](#) 応用
- (4) [撮影画像の確認](#)
- (5) [Q/H高速表示](#) 応用
- (6) [表示Simulation](#) 応用

● 撮影補助



- (1) [OVFビューアシスト](#) **応用**
- (2) [HDR/C.Logビューアシスト](#) **応用**
- (3) [撮影情報表示設定](#)
- (4) [クイック設定カスタマイズ](#) **応用**
- (5) [表示フレームレート設定](#)
- (6) [ファインダー表示形式](#)

● 撮影補助

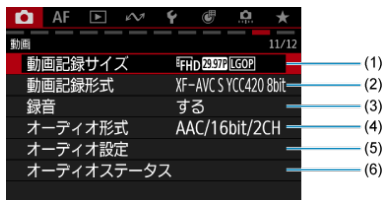


- (1) [鏡像表示](#)
- (2) [自動電源オフ温度](#)

参考

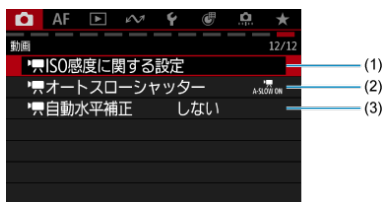
- 〈[AF](#)〉モードのときは、[クリエイティブアシスト設定記憶]が表示されます ([設定](#))。

● 動画



- (1) [動画記録サイズ](#)
- (2) [動画記録形式](#)
- (3) [録音](#)
- (4) [オーディオ形式](#)
- (5) [オーディオ設定](#) **応用**
- (6) [オーディオステータス](#)

● 動画

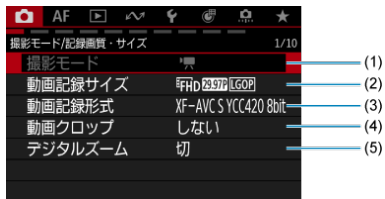


- (1) [ISO感度に関する設定](#) **応用**
- (2) [オートスローシャッター](#) **応用**
- (3) [自動水平補正](#)

メニュー目次：動画撮影

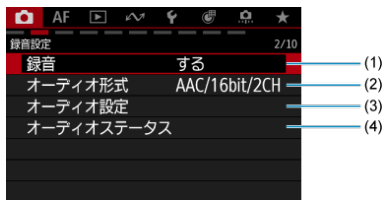
☑ [動画撮影時の情報表示](#)

● 撮影モード/記録画質・サイズ



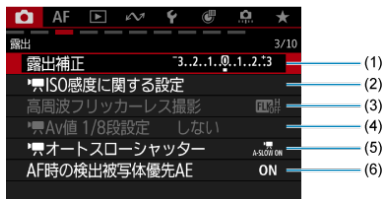
- (1) [撮影モード](#)
- (2) [動画記録サイズ](#)
- (3) [動画記録形式](#)
- (4) [動画クロップ](#) **応用**
- (5) [デジタルズーム](#)

● 録音設定



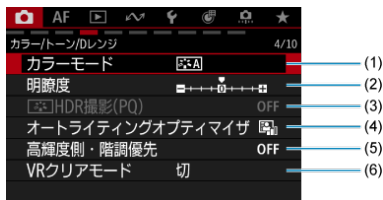
- (1) [録音](#)
- (2) [オーディオ形式](#)
- (3) [オーディオ設定](#) **応用**
- (4) [オーディオステータス](#)

● 露出



- (1) [露出補正](#) 応用
- (2) [ISO感度に関する設定](#) 応用
- (3) [高周波フリッカーレス撮影](#) 応用
- (4) [Av値 1/8段設定](#) 応用
- (5) [オートスローシャッター](#) 応用
- (6) [AF時の検出被写体優先AE](#) 応用

● カラー/トーン/Dレンジ



- (1) [カラーモード](#) 応用
- (2) [明瞭度](#) 応用
- (3) [HDR撮影\(PQ\)](#) 応用
- (4) [オートライティングオブティマイザ](#) 応用
- (5) [高輝度側・階調優先](#) 応用
- (6) [VRクリアモード](#) 応用

● ホワイトバランス/画質補正



(1) ホワイトバランス設定

- [ホワイトバランスの設定](#) 応用
- [ホワイトバランスの補正](#) 応用

(2) レンズ光学補正 応用

(3) 高感度撮影時のノイズ低減 応用

● 各種撮影/シャッター制御



(1) [ブレ記録設定](#) 応用

(2) [タイムラプス動画](#)

(3) [シネマビュー](#) 応用

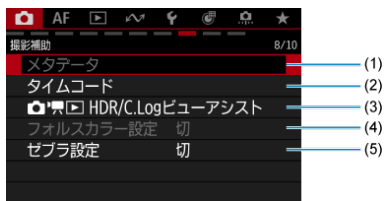
(4) [動画セルフタイマー](#)

● 撮影補助



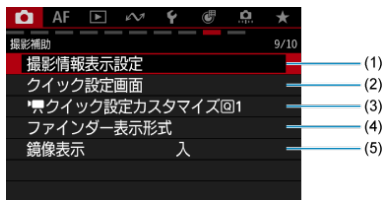
- (1) [タリーランプ](#) **応用**
- (2) [手ブレ補正 \(IS機能\) 設定](#)
- (3) [自動水平補正](#)
- (4) [測光タイマー](#) **応用**

● 撮影補助



- (1) [メタデータ](#) **応用**
- (2) [タイムコード](#)
- (3) [HDR/C.Logビューアシスト](#) **応用**
- (4) [フォルスカラー設定](#) **応用**
- (5) [ゼブラ設定](#) **応用**

● 撮影補助



- (1) [撮影情報表示設定](#)
- (2) [クイック設定画面](#) **応用**
- (3) [クイック設定カスタマイズ①](#) **応用**
- (4) [ファインダー表示形式](#)
- (5) [鏡像表示](#)

● 撮影補助/HDMI



- (1) [自動電源オフ温度](#)
- (2) [温度上昇緩和](#)
- (3) [シャットダウン警告ガイダンス](#)
- (4) [HDMI接続時の表示](#)
- (5) [Canon LogのHDMI出力レンジ](#) **応用**

動画撮影時の情報表示

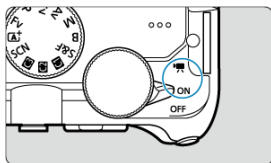
動画撮影画面に表示されるアイコン（マーク）については、[情報表示](#)を参照してください。

⚠ 注意

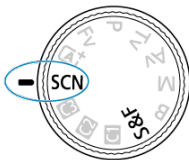
- 動画撮影可能時間の表示は目安です。
- 動画撮影中に、カメラ内部の温度が上昇して、赤い【】が表示されたときは、撮影開始前に表示される動画撮影可能時間より前に撮影が終了することがあります（）。

モードダイヤルが〈SCN〉（静止画・動画）または〈S&F〉（動画）のときに、状況に応じた最適な撮影シーン／モードを選んで撮影することができます。

1. 電源スイッチを〈ON〉（静止画）または〈〉にする



2. モードダイヤルを〈SCN〉または〈S&F〉にする



3. [: 撮影モード] を選ぶ ()

4. 項目を選ぶ

- 〈〉を回して項目を選び、〈〉を押します。

静止画時で、モードダイヤルが〈SCN〉の場合 (🔗)



動画時で、モードダイヤルが〈SCN〉の場合 (🔗)



動画時で、モードダイヤルが〈S&F〉の場合 (🔗)



参考

- モードダイヤルが〈SCN〉または〈S&F〉の場合、画面左上のアイコンをタッチすることでも撮影モードを設定できます。



- ☒ [フレームレート \(fps : frames per second\)](#)
- ☒ [圧縮方式](#)
- ☒ [動画記録形式](#)
- ☒ [4K動画撮影](#)
- ☒ [撮影画角](#)
- ☒ [動画が記録できるカード](#)
- ☒ [ファイルサイズが4GBを超える動画撮影](#)
- ☒ [動画の総記録時間と1分間あたりのファイルサイズの目安](#)
- ☒ [撮影時間の制限](#)

【 : 動画記録サイズ】で、解像度、フレームレート、圧縮方式を設定することができます。

なお、フレームレートは、【 : システム周波数】の設定 () により、自動的に切り換わります。

1. 【 : 動画記録サイズ】を選ぶ (、)

2. 項目を設定する



- を回してタブ (1) を選びます。
- を上下左右に操作して設定 (2) を変更します。
- 変更が終わったら、 を押します。

設定できる解像度の一覧

解像度	画像サイズ	縦横比
4K	3840×2160	16 : 9
FHD	1920×1080	16 : 9

! 注意

- [🔊 : システム周波数] の設定を変更したときは、[📷 : 動画記録サイズ] の再設定を行ってください。
- 4K動画は、再生時のデータ処理の負荷が高いため、他の機器で正常に再生できないことがあります。
- 動画記録サイズの設定や、使用するレンズ、クロップ撮影の設定により、解像感やノイズ感は多少異なります。

📖 参考

- カードの性能を発揮させるため、動画撮影を行う前にカメラでカードを初期化することをおすすめします (🔧)。
- HD画質、VGA画質の動画を撮影することはできません。

フレームレート (fps : frames per second)

- **179.8P : 179.8fps / 119.9P : 119.9fps / 59.94P : 59.94fps / 29.97P : 29.97fps**
テレビの映像方式が「NTSC」地域（北米、日本、韓国、メキシコなど）のときに設定します。
- **150.0P : 150.0fps / 100.0P : 100.0fps / 50.00P : 50.00fps / 25.00P : 25.00fps**
テレビの映像方式が「PAL」地域（ヨーロッパ、ロシア、中国、オーストラリアなど）のときに設定します。
- **23.98P : 23.98fps**
主に映画関連で使用します。[🔊 : システム周波数] を [59.94Hz:NTSC] に設定したときに選択できます。

⚠ 注意

100.0fps以上の高フレームレートで撮影する場合の注意事項

- 撮影を開始したときや終了したときは、映像が一時的に更新されなくなります。外部記録機器でHDMI出力映像を記録するときは注意してください。
- 再生またはHDMI出力映像のフレームレートの上限は、59.94fps ([59.94Hz:NTSC]) / 50.00fps ([50.00Hz:PAL]) となります。

- **LGOP** : 標準(Long GOP)

複数のフレーム単位で効率的に圧縮して記録します。

動画記録形式

- 「動画記録形式」を参照してください (🔗)。

⚠ 注意

- [🔊 : システム周波数] の設定を変更したときは、[📷 : 動画記録サイズ] の再設定を行ってください。
- 4K動画や高フレームレートの動画などでは、再生時のデータ処理の負荷が高いため、他の機器で正常に再生できないことがあります。
- 動画記録サイズの設定や、使用するレンズにより、解像感やノイズ感は多少異なります。

📖 参考

- カードの性能を発揮させるため、動画撮影を行う前にカメラでカードを初期化することをおすすめします (🔗)。
- HD画質、VGA画質の動画を撮影することはできません。

4K動画撮影

- 4K動画を撮影するには安定した高速書き込みが可能なカードが必要です。詳しくは、[動画が記録できるカード](#)を参照してください。
- 4K動画撮影時は、処理負荷が高いため、通常の動画撮影時に比べカメラ内部の温度が早く上昇したり、より温度が高くなることがあります。動画撮影時に白い【】または赤い【】が表示されたときは、カードが熱くなっていることがあるため、動画撮影を休止して、しばらく経ってからカードを取り出してください（すぐにカードを取り出さないでください）。
- 4K画質で撮影した動画から任意のフレームを選んで、JPEG画像（静止画）としてカードに保存することができます（）。

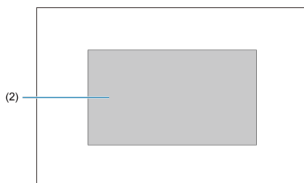
動画記録サイズの設定や、使用するレンズ、クロップ撮影の設定により、動画撮影画角が変わります。ここでは、一例を示します。

- RFLレンズ/EFレンズ使用時：[📷：動画クロップ] を [しない] に設定時



(1) 4K

- RFLレンズ/EFレンズ使用時：[📷：動画クロップ] を [する] に設定時
- RF-S/EF-Sレンズ使用時



(2) 4K

各解像度の撮影画角は、下記の表を参考にしてください。

解像度	撮影画角（約・％）	
	水平	垂直
4K	100	84.4
4K 動画クロップ*1	62.4	52.7
フルHD	100	84.3
フルHD 動画クロップ*1	62.4	52.7

* 静止画画角（JPEG/HEIF）を100%とする

* 1：[動画クロップ：する] 設定時

❗ 注意

- 動画電子IS機能設定時は（）、画面の中央部分がクロップされます。

動画が記録できるカード

動画が記録できるカードの詳細は、[動画が記録できるカードについて](#)を参照してください。
また、SDカードの詳細は、[記録時間、映像ビットレート、ファイルサイズの目安、要求カード性能](#)を参照してください。

なお、**事前にテスト撮影を行い、設定した動画記録サイズ（☑）で正しく記録できることを確認してください。**

⚠ 注意

- 4K動画撮影を行うときは、撮影前に [**🔧：カード初期化**] の [**物理フォーマット**] でカードを初期化してください（☑）。
- 動画撮影時に書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画が正常に記録できないことがあります。また、動画再生時に読み取り速度が遅いカードを使用すると、動画が正常に再生できないことがあります。
- 動画撮影を行うときは、実際の書き込み速度がビットレートを十分に上回る、高性能なカードを使用してください。
- 正常に動画が記録できないときは、カードを初期化してから使用してください。なお、カードを初期化しても問題が改善しないときは、カードメーカーのホームページなどもあわせて確認してください。

📖 参考

- カードの性能を発揮させるため、動画撮影を行う前にカメラでカードを初期化することをおすすめします（☑）。
- カードの書き込み／読み取り速度については、カードメーカーのホームページなどで確認してください。

ファイルサイズが4GBを超える動画撮影

- SDカードでは1回の撮影でファイルサイズが4GBを超える動画撮影はできません。
- SDHCカードでは、1回の撮影でファイルサイズが4GBを超えると、新しい動画ファイルが自動的に作成されます。再生時は自動で連続再生されます。
- SDXCカードでは、1回の撮影でファイルサイズが4GBを超える場合でも、4GBを超えるサイズの1つの動画ファイルとして記録されます。

⚠ 注意

- 4GBを超える動画ファイルをパソコンに取り込むときは、EOS Utilityを使用するか、カードリーダーを使用してください (🔗)。パソコン (OS) の機能を使って画像の取り込みを行うと、4GBを超える動画ファイルが取り込めないことがあります。
- SDHCカードに記録された4GBを超える動画ファイルをパソコンに取り込むと、複数のファイルに分かれた状態で表示されます。先頭のファイルを削除すると、残りの動画ファイルの再生ができなくなります。
- カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続する場合、パソコンを操作してカメラ内の動画ファイルを削除しないでください。動画ファイルが正しく認識されなくなることがあります。

動画の総記録時間と1分間あたりのファイルサイズの 目安

[記録時間、映像ビットレート、ファイルサイズの目安、要求カード性能](#)を参照してください。

撮影時間の制限

1回の撮影時間の制限については、[主な仕様](#)を参照してください。撮影時間の上限に達した時点で撮影は自動的に終了します。

⚠ 注意

- 動画の再生を長時間行ったり、映像表示状態を長時間続けたりすると、カメラ内部の温度が上昇して、撮影可能な時間が短くなることがあります。

[XF-HEVC S動画とXF-AVC S動画](#)

記録される動画ファイルの形式を設定することができます。

1.  : 動画記録形式] を選ぶ ( , )

2. 項目を選ぶ



XF-HEVC S動画とXF-AVC S動画

XF-HEVC S動画／XF-AVC S動画は、それぞれH.265/HEVCとMPEG-4 AVC/H.264を拡張したキヤノン独自のビデオフォーマットによる動画です。画質を維持しながら、高いデータ圧縮率を実現しています。

動画記録形式	コーデック	輝度・色相・彩度 (YCbCr) / 色深度	説明	制限事項
XF-HEVC S YCC422 10bit	H.265/ HEVC	4:2:2/10bit	YCC422 10ビットの信号をXF-HEVC S方式で撮影することができます。パソコンによる編集を前提としています。	ソフトウェアによっては、正しく再生されないことがあります。
XF-HEVC S YCC420 10bit	H.265/ HEVC	4:2:0/10bit	YCC420 10ビットの信号をXF-HEVC S方式で撮影することができます。	-
XF-AVC S YCC422 10bit	MPEG-4 AVC/ H.264	4:2:2/10bit	YCC422 10ビットの信号をXF-AVC S方式で撮影することができます。パソコンによる編集を前提としています。	ソフトウェアによっては、正しく再生されないことがあります。
XF-AVC S YCC420 8bit	MPEG-4 AVC/ H.264	4:2:0/8bit	YCC420 8ビットの信号をXF-AVC S方式で撮影することができます。ソフトウェアによる再生の互換性が高い記録形式です。	 :  HDR撮影(PQ)] で [HDR PQ] を設定したときは選べません。

参考

- カスタムピクチャーファイルの色空間に**[C.Gamut]**または**[BT.2020]**を設定したときは、10bitの記録形式を選ぶことをおすすめします (🔗)。

☒ [RAW画像](#)

☒ [記録画質を選ぶときの目安](#)

☒ [連続撮影可能枚数（バースト枚数）](#)

記録する画素数と画質を選ぶことができます。JPEG画像、HEIF画像の記録画質は、/ / / です。RAW画像の記録画質は、**RAW**/**CRAW**のいずれかを設定することができます。

1. **[: 記録画質]** を選ぶ ()

2. 記録画質を設定する



- RAW画像は〈〉、JPEG/HEIF画像は〈〉でサイズを選びます。
- 〈〉を押すと設定されます。

参考

- HEIF画像は、[📷: HDR撮影(PQ)] を [HDR PQ] に設定しているときに設定することができます。撮影後に、JPEG画像に変換することができます (🔗)。
- RAW画像とJPEG/HEIF画像の設定を両方 [—] にしたときは、📷に設定されます。
- RAWとJPEG/HEIFの両方を選んだときは、1回の撮影で設定した記録画質の画像がカードに記録されます。2つの画像は同じ画像番号（拡張子はJPEG : .JPG、HEIF : .HIF、RAW : .CR3）で記録されます。
- S2は📷（ファイン）の画質です。
- 記録画質の読み方は、**RAW**（ロウ）、**CRRAW**（コンパクトロウ）、JPEG（ジェイペグ）、HEIF（ヒーフ）、**L**（ラージ）、**M**（ミドル）、**S**（スモール）です。

RAW画像

カードに記録されるRAW画像は、撮像素子から出力されたデータをデジタル変換してそのまま記録した「生（ロウ）データ」で、**RAW**、**CRRAW**から選ぶことができます。なお、**CRRAW**は**RAW**に比べてファイルサイズが小さいRAW画像です。

RAW画像は、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalで現像処理を行うことができます。使用目的に応じてさまざまな画像調整を行い、その調整結果を反映したJPEG/HEIF画像などを生成することができます。

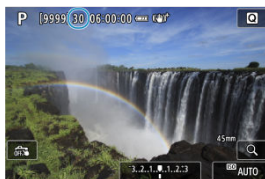
参考

- パソコンでRAW画像を表示するときは、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional（以下DPP）の使用をおすすめします。
- 古いバージョンのDPP Ver.4.xでは、このカメラで撮影したRAW画像の表示や現像、編集などはできません。パソコンに古いバージョンのDPP Ver.4.xがインストールされているときは、キヤノンのホームページから最新のDPPを入手して、アップデート（上書きインストール）してください (🔗)。なお、Ver.3.x以前のDPPでは、このカメラで撮影したRAW画像の表示や現像、編集などはできません。
- 市販のソフトウェアでは、このカメラで撮影したRAW画像を表示できないことがあります。対応状況については、ソフトウェアメーカーにお問い合わせください。

記録画質を選ぶときの目安

ファイルサイズ、撮影可能枚数、連続撮影可能枚数などについては、静止画記録の[ファイルサイズ/撮影可能枚数/連続撮影可能枚数](#)を参照してください。

連続撮影可能枚数（バースト枚数）



撮影画面の左上の数値で、連続撮影できる枚数の目安を確認することができます。

参考

- 連続撮影可能枚数が、「99」と表示されているときは、99枚以上の連続撮影ができます。98枚以下になると、数値が減っていき、内部メモリーがいっぱいになると、モニターに **[BUSY]** が表示され、一時的に撮影ができなくなります。撮影を中断すると数値が増えていきます。撮影した画像がすべてカードに書き込まれると、静止画記録の [ファイルサイズ/撮影可能枚数/連続撮影可能枚数](#) の表に示した枚数の連続撮影ができるようになります。
- **[📷: 記録画質]** や **[📷: ドライブモード]** の設定を変更すると、連続撮影の時間を延長することができます。
 - **[📷: 記録画質]** で、**[RAW]** または **[CRAW]** 以外を選択する
 - **[📷: ドライブモード]** で、**[📷]** または **[📷]** 以外を選択する

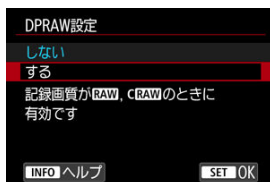
DPRAW機能を設定して**RAW**、**CRAW**画像を撮影すると、撮像素子からのデュアルピクセル情報が付加された「特別なRAW画像（DPRAW画像）」として記録されます。これをDPRAW撮影といいます。

EOS用ソフトウェアのDigital Photo ProfessionalでDPRAW画像の現像処理を行う際に、DPRAW画像に記録されたデュアルピクセル情報を活用して、「被写体の奥行き情報に基づく解像感の微調整」「カメラの撮影視点の微調整」「ゴーストの低減」を行うことができます。また、Dual Pixel 3D Converterを使用すると、DPRAW撮影で同時記録したJPEG画像から3Dモデルを作成することができます。

なお、**撮影条件により効果が異なりますので、DPRAW撮影を行う前に、Digital Photo Professional使用説明書を参照して、DPRAW機能の特徴と現像処理についてご確認ください。**

1. [📷 : DPRAW設定] を選ぶ (🔗)

2. [する] を選ぶ



3. 記録画質を**RAW**または**CRAW**に設定する

- 記録画質を**RAW**、**RAW** + JPEG、**RAW** + HEIF、**CRAW**、**CRAW** + JPEG、**CRAW** + HEIFのいずれかに設定します。

4. 撮影する

- デュアルピクセル情報が付加されたRAW画像（DPRAW画像）が記録されます。

⚠ 注意

- 電源スイッチを〈ON〉にしたときや、オートパワーオフ状態から復帰したときの起動時間が長くなります。
- DPRAW撮影時は、連続撮影速度が遅くなります (Ⓢ)。また、連続撮影可能枚数が少なくなります。
- ドライブモードの [Q] [QH] は選択できません。[Q] [QH] に設定されているときは、[Q] の設定で撮影されます。
- RAW画像、RAW + JPEG画像またはRAW + HEIF画像を撮影したときは、通常撮影時に比べてややノイズが増えることがあります。
- 多重露出、HDR撮影、フォーカスBKT撮影、電子シャッター、ワンタッチ記録画質切り換えはできません。

📖 参考

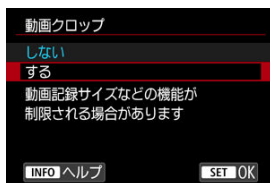
DPRAW機能の調整量・補正効果について

- レンズの絞り数値が開放側のときに、調整量・補正効果が上がります。
- 使用するレンズや撮影シーンなどによっては、十分な調整量・補正効果が得られないことがあります。
- カメラの姿勢（縦／横）によって調整量・補正効果が変わります。
- 撮影条件によっては、十分な調整量・補正効果が得られないことがあります。

RFレンズ/EFレンズ使用時に、撮影画面の中央部分をクロップした動画（望遠レンズで撮影したような動画）を撮影することができます。
 なお、動画撮影時にRF-S/EF-Sレンズを使用したときは、動画クロップ撮影設定時と同等の撮影になります。

1. [📷: 動画クロップ] を選ぶ (🔍)

2. [する] を選ぶ



⚠ 注意

- [📷: 手ブレ補正 (IS機能) 設定] の [動画電子IS] を [切] 以外に設定したときは、撮影画面の中央部分がさらにクロップされます（撮影範囲が狭くなります）。

📖 参考

- 動画クロップ撮影時の撮影範囲は、RF-S/EF-Sレンズ使用時と同等です。
- 撮影範囲については、[撮影画角](#)を参照してください。

RFレンズ／EFレンズ使用時は、撮影画像のアスペクト（縦横）比を変更した撮影を行うことができます。[1.6倍（クロップ）]では、撮影画面中央部（APS-Cサイズ相当）の範囲を使用して望遠レンズのような効果で撮影することができます。

RF-S/EF-Sレンズ使用時は、[1.6倍（クロップ）]に自動設定されます。

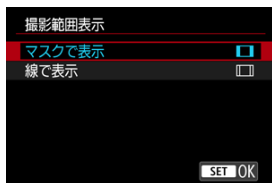
1. [📷：静止画クロップ／アスペクト] を選ぶ (🔍)

2. 項目を選ぶ



- 撮影範囲の表示方法を変更しないときは、〈🔍〉を押して手順4に進みます。

3. 撮影範囲の表示方法を選ぶ



- 手順2の画面が表示された状態で〈INFO〉ボタンを押します。
- 表示方法を選び〈MENU〉を押します。

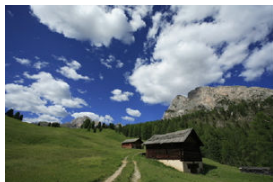
⚠ 注意

- [1.6倍 (クロップ)] 設定時、およびRF-S/EF-Sレンズ使用時は、記録画質 **M** / **M** / **S1** / **S1** は選択できません。
- 記録画質を **M** / **M** / **S1** / **S1** に設定した状態で [1.6倍 (クロップ)] を行ったときは、**M** / **M** は **L** / **L**、**S1** / **S1** は **S2** で記録されます。
- RF-S/EF-Sレンズを装着したときは、[1.6倍 (クロップ)] になります。

4. 撮影する

設定例

FULL設定時



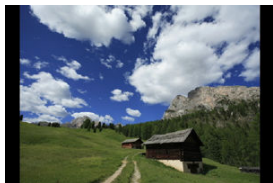
1:1設定時／RF-S/EF-Sレンズ使用時



1:1・☐設定時



4:3・☐設定時



- **[1.6倍 (クロップ)]** 設定時、およびRF-S/EF-Sレンズ使用時は、約1.6倍に拡大された映像が表示されます。
- **[1:1 (アスペクト)]** **[4:3 (アスペクト)]** **[16:9 (アスペクト)]** 設定時は、黒くマスクされた部分の内側、または線の内側の範囲が画像として記録されます。

❗ 注意

- **[1.6倍 (クロップ)]** 設定時、およびRF-S/EF-Sレンズ使用時に、RAW画像を撮影したときは、**撮影範囲のみ記録されます (クロップ領域外は記録されません)**。
- **[1.6倍 (クロップ)]** 設定時、およびRF-S/EF-Sレンズ使用時は **[撮影範囲表示]** の設定を行っても、表示は変化しません。
- **[フルサイズ]** 以外に設定されているときは、**[.点.: トリミング情報の付加]** は設定できません。
- 外部ストロボ使用時に **[📷: 静止画クロップ/アスペクト]** の設定に応じたストロボの自動ズーム (照射角の自動調整) は行われません。

📖 参考

- クロップ/アスペクト撮影時の記録画素数については、静止画記録の[記録画素数](#)を参照してください。
- クロップ撮影時、アスペクト撮影時の視野率は、上下/左右とも約100%です。
- アスペクト設定時に、RAW画像を撮影したときは、フルサイズで記録され、アスペクト情報が画像に付加されます。RAW画像を再生したときは、撮影範囲が線で表示されます。ただし、[スライドショー](#)で再生を行ったときは、撮影範囲だけが表示されます。

記録サイズが「FHD29.97P」 / 「FHD23.98P」(NTSC)、または「FHD25.00P」(PAL) のときに、デジタルズームで約1~10倍の望遠撮影ができます。

1. [📷: デジタルズーム] を選ぶ (🔍)

2. 項目を選ぶ



- 「入」を選び、〈SET〉を押します。
- 〈MENU〉ボタンを押してメニューを終了します。

3. デジタルズームを使う



- 画面右下の「W/T」をタッチします。
- デジタルズームバーが表示されます。
- 「▲T」または「※」を上を押すと望遠側、「▼W」または「※」を下を押すと広角側にズームします。
- 「AF ON」ボタンを押すと、「1点AF」(中央固定)でピント合わせが行われます。
- デジタルズームを解除するときは、手順2で「切」を選びます。

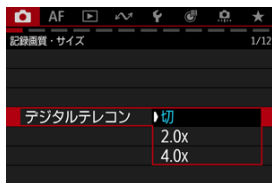
⚠ 注意

- 手持ち撮影では手ブレしますので、三脚の使用をおすすめします。
- 拡大表示はできません。
- 動画デジタルズームでは映像をデジタル処理するため、拡大するほど映像が粗くなります。また、ノイズや輝点などが目立つことがあります。
- [ピントが合いにくい撮影条件](#)も参照してください。
- カメラ内部の温度が上昇して、撮影可能時間が短くなる場合があります。
- [📷 : 温度上昇緩和] が [切] に固定されます (🔒)。

撮影画面の中央部を拡大して、撮影倍率をレンズの倍率以上に変更することができます。

1. [📷: デジタルテレコン] を選ぶ (🔗)

2. 撮影倍率を選ぶ



- [📷: 静止画クロップ/アスペクト] を [1.6倍 (クロップ)] に設定している場合は、選択できる撮影倍率が異なります。
- [切] を選ぶと、撮影倍率は変わりません。

⚠ 注意

- 撮影倍率を高くするほど、画質は低下します。
- RAW画質が選択されているときは、設定できません。

📖 参考

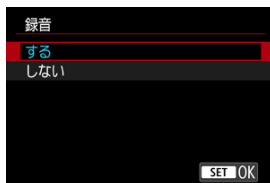
- AFフレームは、中央1点固定になります。追尾フレームは表示されません。

- ☒ [録音](#)
- ☒ [オーディオ形式](#)
- ☒ [オーディオ設定](#) **応用**
- ☒ [録音モード](#)
- ☒ [録音レベル](#)
- ☒ [ウィンドカット](#)
- ☒ [音声ノイズ低減](#)
- ☒ [アッテネーター](#)
- ☒ [マイクの指向性](#)
- ☒ [オーディオステータス](#)

動画撮影時に録音するときは[**する**]を選びます。外部マイクまたはマルチアクセサリシュー対応マイクを使用しない場合は、内蔵マイクで録音されます。

1. [**📷**: 録音] を選ぶ (🔍、🔍)

2. 項目を選ぶ



- 録音レベルの調整などは、[**📷**: オーディオ設定] で行います (🔍)。

⚠ 注意

- Wi-Fi（無線通信）機能を使用すると、ノイズが録音されることがあります。録音中は無線通信機能を使用しないことをおすすめします。
- カメラに外部マイクの出力プラグを接続するときは、プラグが根元までしっかりと差し込まれているか確認してください。
- 動画撮影中にAF動作を行ったり、カメラ／レンズの操作を行うと、カメラに内蔵されたマイクにより、レンズの作動音やカメラ／レンズの操作音が一緒に録音されることがあります。その場合、出力プラグを備えた外部マイクを、カメラやレンズから遠ざけて使用することで、これらの音を低減できることがあります。
- 外部マイク入力端子に、外部マイク以外は接続しないでください。
- 4チャンネル録音で記録した場合、ソフトウェアによっては正しく再生できない場合があります。

📖 参考

- HDMIケーブルでカメラとテレビを接続したときは、音声も出力されます（[**しない**] 設定時を除く）。なお、テレビから音を出したときにハウリングが起こったときは、カメラをテレビから離したり、テレビの音量を下げてください。
- L/R（左／右）の音量バランスを調整することはできません。
- サンプリング周波数は、48kHzで記録されます。

4チャンネル録音

本機は4チャンネルの音声録音に対応しています。
4チャンネル録音は、以下の組み合わせがあります。

- マルチアクセサリシュー対応マイク (2ch)、内蔵マイク (2ch)
- マルチアクセサリシュー対応マイク (2ch)、外部マイク (2ch)
- 外部マイク (2ch)、外部マイク (2ch)
- 内蔵マイク (2ch)、内蔵マイク (2ch)

! 注意

- [LPCM/24bit/4CH] で記録したとき、ソフトウェアによっては、動画ファイルが正しく再生できない場合があります (🔗)。

📖 参考

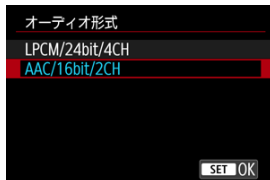
- 現在、どのマイクからの入力が有効になっているかは、[📷 : オーディオステータス] で確認することができます (🔗)。
- マルチアクセサリシュー対応マイクを使用する場合は、CH1とCH2にマルチアクセサリシュー対応マイク、CH3とCH4に内蔵マイクが割り当てられます。
- マルチアクセサリシュー対応マイクと外部マイクを使用する場合は、CH1とCH2にマルチアクセサリシュー対応マイク、CH3とCH4に外部マイクが割り当てられます。

オーディオ形式

動画撮影の録音で使用するオーディオ形式を選ぶことができます。

1. [📷: オーディオ形式] を選ぶ (🔍、🔍)

2. 項目を選ぶ



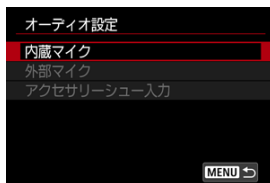
⚠ 注意

- [LPCM/24bit/4CH] を選んだときに4チャンネル録音を行うことができます。
[AAC/16bit/2CH] を選んだときは、2チャンネル録音（単一マイク）になります。
- 4チャンネル録音を行った場合、ソフトウェアによっては正しく再生できないことがあります。

録音に使用するマイクの設定を行います。外部マイクまたはマルチアクセサリーシュー対応マイクを使用する場合は、各マイクの使用説明書もあわせて参照してください。

1. [📷: オーディオ設定] を選ぶ (🔍、🔍)

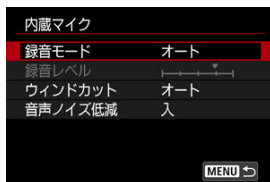
2. 使用する機器を選ぶ



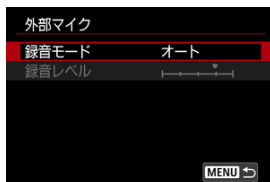
- **内蔵マイク**
内蔵マイクの設定を行います。
- **外部マイク**
外部マイク入力端子を使用する外部マイクの設定を行います。
- **アクセサリーシュー入力**
マルチアクセサリーシュー対応マイクの設定を行います。

3. 項目を設定する

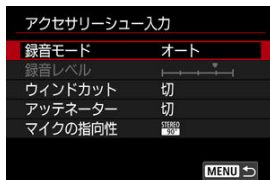
〔内蔵マイク〕選択時



〔外部マイク〕選択時



〔アクセサリシュー入力〕選択時



- 設定項目は、使用するマイクによって異なります。

⚠ 注意

- [録音モード]、[ウィンドカット] または [アッテネーター] の設定を変更すると、ノイズ低減のため、設定値が切り換わる瞬間の音声は記録されません。

録音モード



- **オート**

録音レベルが自動調整されます。音の大きさに応じて、オートレベルコントロール機能が自動的に働きます。

- **マニュアル**

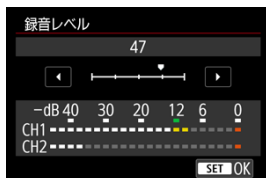
録音レベルを任意に調整することができます。調整は「**録音レベル**」で行います。

⚠ 注意

- ヘッドフォンで音声を聞きながら、「録音モード」の設定を切り換えないでください。突然大きな音が流れて耳を痛める恐れがあります。

📖 参考

- 画面下部のレベルメーターに録音レベルが表示されます。



【録音モード】が【マニュアル】のときに設定することができます。

レベルメーターを見ながら $\left\langle \begin{array}{c} \text{⚙} \\ \text{VOLUME} \end{array} \right\rangle$ を回すと、録音レベルを調整することができます。音量が大きいときに、レベルメーターの「12」(-12dB)の右側が、時々点灯するように、ピークホールド機能を参考にして調整します。「0」を超えると音が割れます。

ウィンドカット



内蔵マイク、またはウインドカットに対応したマルチアクセスリシュー対応マイクを使用するときに設定できます。

【オート】（または【入】）に設定すると、屋外で撮影する際、風の影響により発生する「ポコポコ」という音を低減することができます。なお、ウィンドカット機能が働くと、低い音の一部も低減されます。

音声ノイズ低減

内蔵マイクでの録音時、AF動作時のレンズの作動音や、定常的なホワイトノイズを低減する機能です。

- **切**
音声ノイズ低減が無効になります。
- **入**
音声ノイズ低減が有効になります。
- **強**
[入] 設定時より、音声ノイズ低減の効果が大きくなります。

⚠ 注意

- [入] 設定時は、[切] 設定時に比べ、音質が変わる場合があります。
- [強] 設定時は、[入] 設定時よりも音声ノイズ低減の効果は大きいですが、音質の変化も大きくなる場合があります。
- 音声ノイズ低減の効果はレンズによって異なります。
- ホワイトノイズの低減によって、一部のノイズに気づきやすくなる場合があります。
- 音声ノイズ低減の効果や音質の変化は、撮影条件および撮影環境によって異なるため、試し撮りによる事前確認をおすすめします。
- ヘッドフォンから出力される音声のノイズを低減するには、[音声モニタリング] (🔊) を設定してください。

アッテネーター

マルチアクセサリシュー対応マイクを使用する場合は、アッテネーター（録音時の音割れを抑制する機能）の入／切を設定することができます。詳しくはマルチアクセサリシュー対応マイクの使用説明書を参照してください。

マイクの指向性

指向性切り換え機能を搭載したマルチアクセサリシュー対応マイクで設定することができます。詳しくは指向性切り換え機能を搭載したマルチアクセサリシュー対応マイクの使用説明書を参照してください。

露出補正は、カメラが決めた標準的な露出に対して、明るめ（プラス補正）、または暗め（マイナス補正）に撮影するための操作です。

露出補正は、以下の撮影モードで可能です。

動画撮影時：[P] [Tv] [Av] [M] [S&F] [S&F Tv] [S&F Av] [S&F M]

静止画撮影時：〈Fv〉〈P〉〈Tv〉〈Av〉〈M〉

画面を見ながら露出補正する場合

動画撮影時は、を回して設定します。

静止画撮影時は、シャッターボタンを半押しして露出レベル表示を確認し、を回して設定します。

● 明るく（プラス）補正



● 暗く（マイナス）補正



メニューから設定する場合

[：露出補正/AEB設定]（静止画撮影時）または [：露出補正]（動画撮影時）を選び、以下の画面で補正量を設定します。



参考

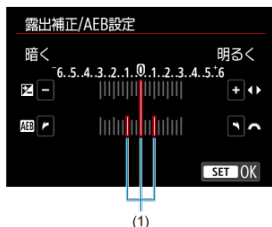
- 静止画撮影時に露出補正を行うと、が表示されます。動画撮影時は常に表示されています。
- 露出補正を解除するときは、露出レベルを標準露出指標 ()、または"0"の位置に戻します。
- 以下の露出補正については、[ISOオート設定時の露出補正](#)を参照してください。
 - モード+ISOオート設定時
 - モード+ISOオート設定時
- **〈Fv〉**モード時の露出補正については、[Fv：フレキシブルAE](#)を参照してください。
- 設定した補正量は、電源スイッチを**〈OFF〉**にしても記憶されています。

自動的にシャッタースピード、絞り数値、ISO感度を変えながら3枚の画像を撮影することができます。

* AEBはAuto Exposure Bracketing（オートエクスポージャーブラケットング）の略です。

1. [📷: 露出補正/AEB設定] を選ぶ (🔍)

2. AEBレベルを設定する

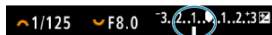


- <🔧> を回してAEBレベル (1) を設定します。<📷> を回すと、露出補正量の調整もできます。
- <🔍> を押すと設定されます。
- メニューを終了すると、画面にAEBレベルが表示されます。

3. 撮影する 標準露出



マイナス補正



プラス補正



- 設定しているドライブモードに従って、標準露出→マイナス補正→プラス補正の順に撮影されます。
- AEB撮影は自動解除されません。解除するときは、手順2の操作でAEBレベルの表示を消します。

注意

- [📷:オートライティングオブティマイザ] (🔘) が [しない] 以外に設定されていると、AEB撮影による露出補正の効果が小さくなることがあります。

参考

- AEB撮影中は、画面左下の [✳] が点滅します。
- ドライブモードが [📷] のときは、3回撮影してください。[📷] [📷H] [📷] のときは、シャッターボタンを全押ししたままにすると、3枚連続撮影して自動的に停止します。[📷i0] [📷c] のときは、10秒数後に3枚連続撮影されます。[📷2] のときは、2秒数後に3枚連続撮影されます。
- 露出補正と組み合わせて、AEB撮影を行うこともできます (🔘)。
- ストロボ使用時、パルプ撮影時、フォーカスBKT撮影設定時は、AEB撮影できません。
- 電源スイッチ (OFF)、ストロボ充電完了で、AEB設定が自動解除されます。

☒ [ISO感度の手動設定範囲](#)

☒ [オートの上限](#)

☒ [ISOオートの上限](#)

[M] [S&FM] モードのときに、ISO感度を任意に設定することができます。ISOオートを選ぶこともできます。

ダイヤル操作で設定

1. ISO感度を設定する



- 画面に映像が表示された状態で、〈M-Fn〉ボタンを押してISO感度の項目を選び、〈〉で設定します。
- [AUTO] を選んだときは、ISO感度が自動設定されます。
- ISO感度の設定が [AUTO] のときにシャッターボタンを半押しすると、実際に設定されるISO感度の数値が撮影画面に表示されます。
- ISOオートの範囲については、[動画撮影のISO感度（推奨露光指数）](#)を参照してください。

ISO感度の選択画面で設定

1. ISO感度の表示をタッチする



2. ISO感度を設定する



- 〈〉を回すか、〈〉を左右に押してISO感度を選びます。また、登録済みの設定値から選ぶこともできます。
- [AUTO] 以外を指定してから[登録]を選ぶと、よく使うISO感度の設定値を登録することができます。

参考

- [カメラアイコン]: **ISO感度に関する設定** の [ISO感度] で設定することもできます。
- [ISO感度] の画面では、〈INFO〉ボタンを押すと、[AUTO] に設定することができます。



ISO感度を選ぶときの目安

- ISO感度の数値が小さい（感度が低い）ほど、ノイズが少ない画像が撮影できますが、撮影シーンによっては、手ブレや被写体ブレが起きやすくなったり、ピントの合う範囲が狭く（被写界深度が浅く）なることがあります。
- ISO感度の数値が大きい（感度が高い）ほど、暗い場所で撮影できるようになったり、ピントの合う範囲を広く（被写界深度を深く）できるようになりますが、ノイズが多くなります。



参考

- [カメラアイコン] : [ISO感度に関する設定] の [ISO感度の範囲] で、ISO感度の手動設定上限をH（ISO102400相当）まで拡張することができます (🔗)。



注意

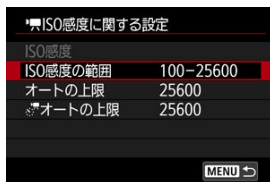
- H（ISO102400相当）は拡張ISO感度のため、通常よりもノイズ（輝点、縞）や色ムラが多くなり、解像感も低下します。
- 高ISO感度、高温、長秒時露光の条件などで撮影すると、画像のノイズ（ザラつき感、輝点、縞など）や色ムラ、色味の変化が目立つことがあります。
- 高ISO感度、高温、長秒時露光の組み合わせなど、ノイズが非常に多くなる条件で撮影したときは、正常な画像が記録できないことがあります。
- 高ISO感度の注意事項については、[動画撮影全般の注意事項](#)も参照してください。

ISO感度の手動設定範囲

手動で設定できるISO感度の範囲（下限値／上限値）を設定することができます。

1. [📷: ⚙️ ISO感度に関する設定] を選ぶ (🔍)

2. [ISO感度の範囲] を選ぶ

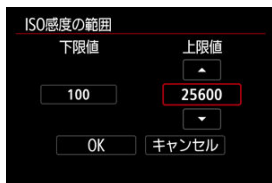


3. [下限値] を設定する



- [下限値] の枠を選び (🔍) を押します。
- ISO感度を選び (🔍) を押します。

4. [上限値] を設定する



- [上限値] の枠を選び〈〉を押します。
- ISO感度を選び〈〉を押します。

5. [OK] を選ぶ

オートの上限

[P] [Tv] [Av] [S&F] [S&F Tv] [S&F Av] モード、または [M] [S&F M] モード+ISOオートの設定で動画撮影を行ったときに、自動設定されるISO感度の上限を設定することができます。

1. [カメラアイコン] : [ISO感度に関する設定] を選ぶ (Ⓜ、Ⓜ)

2. [オートの上限] を選ぶ



3. ISO感度を選ぶ

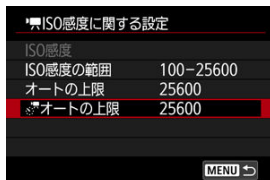


オートの上限

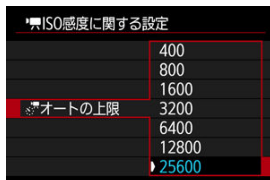
[P] [Tv] [Av] モード、または [M] モード + ISO オートの設定で4Kタイムラプス／フルHDタイムラプス動画撮影を行ったときに、自動設定されるISO感度の上限を設定することができます。

1. [📷: ISO感度に関する設定] を選ぶ (🔍、🔍)

2. [ISOオートの上限] を選ぶ



3. ISO感度を選ぶ



☒ [ISO感度の手動設定範囲](#)

☒ [ISOオート時の自動設定範囲](#)

☒ [ISOオート時のシャッタースピードの低速限界](#)

ISO感度（撮像素子の感度）は、撮影場所の明るさに応じて設定します。かんたん撮影ゾーンのときは、ISO感度が自動設定されます。

ダイヤル操作で設定

1. ISO感度を設定する



- 画面に映像が表示された状態で、〈M-Fn〉ボタンを押してISO感度の項目を選び、〈〉で設定します。
- [AUTO] を選んだときは、ISO感度が自動設定されます。
- ISO感度の設定が [AUTO] のときにシャッターボタンを半押しすると、実際に設定されるISO感度の数値が撮影画面に表示されます。
- ISOオートの範囲については、[静止画撮影のISO感度（推奨露光指数）](#)を参照してください。

ISO感度の選択画面で設定

1. ISO感度の表示をタッチする



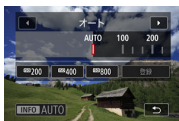
2. ISO感度を設定する



- 〈〉を回すか、〈〉を左右に押してISO感度を選びます。また、登録済みの設定値から選ぶこともできます。
- [AUTO] 以外を指定してから[登録]を選ぶと、よく使うISO感度の設定値を登録することができます。

参考

- [ :  ISO感度に関する設定] の [ISO感度] で設定することもできます。
- [ISO感度] の画面では、〈INFO〉ボタンを押すと、[AUTO] に設定することができます。



ISO感度を選ぶときの目安

- ISO感度の数値が小さい（感度が低い）ほど、ノイズが少ない画像が撮影できますが、撮影シーンによっては、手ブレや被写体ブレが起きやすくなったり、ピントの合う範囲が狭く（被写界深度が浅く）なることがあります。
- ISO感度の数値が大きい（感度が高い）ほど、暗い場所で撮影できるようになったり、ピントの合う範囲を広く（被写界深度を深く）したり、ストロボ撮影時に遠くの被写体が撮影できるようになりますが、ノイズが多くなります。



参考

- [📷:📷ISO感度に関する設定] の [ISO感度の範囲] で、ISO感度の手動設定範囲をL (ISO50相当) からH (ISO204800相当) まで拡張することができます (🔗)。



注意

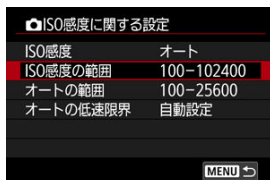
- H (ISO204800相当) は拡張ISO感度のため、通常よりもノイズ（輝点、縞）や色ムラが多くなり、解像感も低下します。
- L (ISO50相当) は拡張ISO感度のため、通常よりもダイナミックレンジがやや狭くなります。
- 高ISO感度、高温、長秒時露光、多重露出撮影の条件などで撮影すると、画像のノイズ（ザラつき感、輝点、縞など）や色ムラ、色味の変化が目立つことがあります。
- 高ISO感度、高温、長秒時露光の組み合わせなど、ノイズが非常に多くなる条件で撮影したときは、正常な画像が記録できないことがあります。
- 高ISO感度で近距離の被写体をストロボ撮影すると、露出オーバーになることがあります。

ISO感度の手動設定範囲

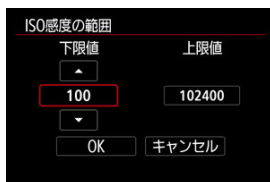
手動で設定できるISO感度の範囲（下限値／上限値）を設定することができます。

1. [📷: 📷ISO感度に関する設定] を選ぶ (🔗)

2. [ISO感度の範囲] を選ぶ

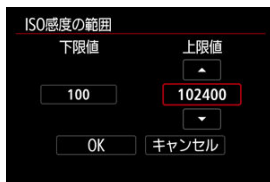


3. [下限値] を設定する



- [下限値] の枠を選び (🔗) を押します。
- ISO感度を選び (🔗) を押します。

4. [上限値] を設定する



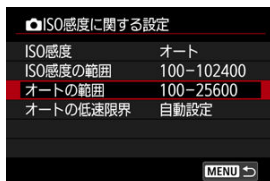
- [上限値] の枠を選び〈〉を押します。
- ISO感度を選び〈〉を押します。

5. [OK] を選ぶ

ISOオート時の自動設定範囲

ISOオート設定時に自動設定される感度を設定することができます。

1. [オートの範囲] を選ぶ

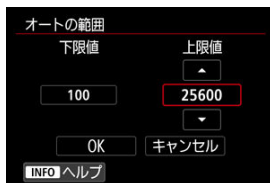


2. [下限値] を設定する



- [下限値] の枠を選び〈〉を押します。
- ISO感度を選び〈〉を押します。

3. [上限値] を設定する



- [上限値] の枠を選び〈〉を押します。
- ISO感度を選び〈〉を押します。

4. [OK] を選ぶ

参考

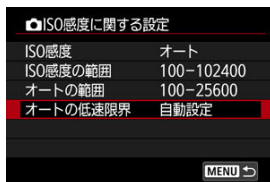
- [下限値] [上限値] は、ISO感度でセーフティシフト (🔒) が行われたときの下限感度、上限感度も兼ねています。

ISOオート時のシャッタースピードの低速限界

ISOオート設定時に、シャッタースピードが自動的に遅くならないように、低速限界（下限速度）を設定することができます。

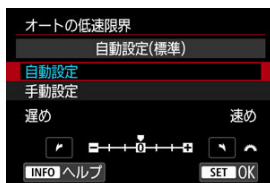
この機能は〈P〉〈Av〉モードで、広角レンズを使用して動いている被写体を撮影するときや、望遠レンズを使用するときに効果的です。手ブレや被写体ブレを軽減することができます。

1. 「オートの低速限界」を選ぶ



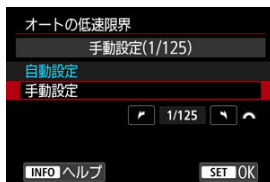
2. 低速限界を設定する

自動設定



- [自動設定] を選んだときは、〈〉を回して標準設定からの度合い(遅め/速め)を設定し、〈〉を押します。

手動設定



- [手動設定] を選んだときは、〈〉を回してシャッタースピードを選び、〈〉を押します。

! 注意

- [オートの範囲] で設定した上限感度で適切な露出が得られないときは、標準露出で撮影できるように、[オートの低速限界] で設定した速度よりも遅いシャッタースピードが設定されます。
- ストロボ撮影時は機能しません。

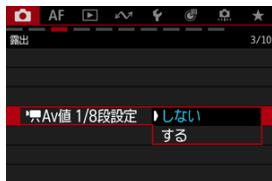
📖 参考

- [自動設定(標準)] 設定時は、下限速度がおよそレンズ焦点距離分の1秒となります。なお、[遅め] から [速め] の1ステップは、シャッタースピード1段分です。

RFレンズを使用した動画撮影時に、絞り数値を1/8段刻みに設定することができます。この機能は、撮影モードが [M] [Av] [S&F M] [S&F Av] のときに設定できます（機能します）。

1. [カメラ] : [Av値 1/8段設定] を選ぶ (🔗)

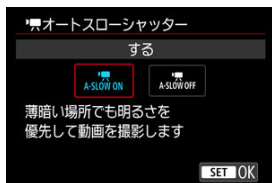
2. 項目を選ぶ



暗い場所で動画撮影を行ったときに、シャッタースピードを自動的に遅くして、[しない] 設定時よりも明るくノイズを抑えた映像を記録するかどうかを選択することができます。この機能は、撮影モードが [P] [Av] のときに設定できます（機能します）。また、動画記録サイズのフレームレートが、59.94P、50.00P のときに機能します。

1. [カメラ]: [オートスローシャッター] を選ぶ (🔍、🔍)

2. 項目を選ぶ



● しない

[する] 設定時よりも被写体のブレが少なく、自然でなめらかな動きが撮影できます。ただし、暗い場所では、[する] 設定時よりも映像が暗くなることがあります。

● する

暗い場所で動画撮影を行ったときに、シャッタースピードを自動的に 1/30秒 (NTSC)、または 1/25秒 (PAL) まで遅くして、[しない] 設定時よりも明るい映像を撮影することができます。

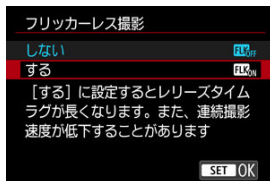
 参考

- 暗い場所で動きのある被写体を撮影するときや、尾を引いたような残像が出るときは、[しない] に設定することをおすすめします。

蛍光灯などの光源下で、速いシャッタースピードで撮影を行うと、光源の点滅（明滅）によるちらつき（フリッカー）により、画面の上下で露出差が生じたり、連続撮影を行ったときに写真に露出差や色あいの差が生じることがあります。フリッカーレス撮影機能を使用すると、フリッカーによる露出や色あいの影響が少ないタイミングで撮影することができます。

1. [📷: フリッカーレス撮影] を選ぶ (🔗)

2. [する] を選ぶ



3. 撮影する

ⓘ 注意

- [する] 設定時にフリッカー光源下で撮影を行うと、リリースタイムラグが長くなることがあります。
- 100Hz、120Hzの点滅周期以外は検出できません。また、連続撮影中に光源の点滅周期が変化したときは、フリッカーの影響は低減できません。
- 〈Fv〉〈P〉〈Av〉モードで連続撮影中にシャッタースピードが変化したときや、同一シーンでシャッタースピードを変えて複数枚の撮影を行ったときは、撮影画像の色あいが異なることがあります。色あいの変化が気になるときは、〈Fv〉〈Tv〉〈M〉モードでシャッタースピードを一定にして撮影してください。
- [する] に設定したときと、[しない] に設定したときで、撮影画像の色あいが異なることがあります。
- AEロック撮影時を含む撮影開始時に、シャッタースピード、絞り数値、ISO感度が変化することがあります。
- 被写体の背景が暗いときや、画面内に輝度が高い光源などが含まれているときは、フリッカーを適切に検知できないことがあります。
- イルミネーションなどの特殊な光源下では、フリッカーの影響が低減できないことがあります。
- 光源によってはフリッカーを適切に検知できないことがあります。
- 光源や撮影条件などにより、この機能を使用しても効果が得られないことがあります。
- ストロボ撮影時は、露出にばらつきが生じることがあります。

📖 参考

- 事前にテスト撮影することをおすすめします。
- 光源の変化などにより、画面にちらつきが発生したときは、〈〉を押して[フリッカーレス撮影]を選び、〈INFO〉ボタンを押してフリッカー検知動作を行ってください。

 [推奨Tv値設定](#)

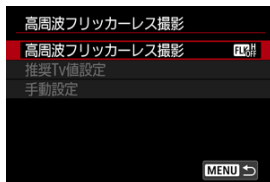
 [手動設定](#)

速い周期で明滅する光源下では、撮影画像に縞模様が発生することがあります。高周波フリッカーレス撮影機能を使用すると、明滅の周期（高周波フリッカー）に合わせたシャッタースピードを設定して、高周波フリッカーの影響を抑えた撮影を行うことができます。

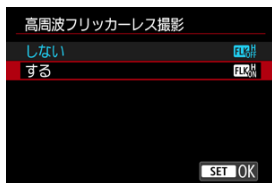
 注意

- 静止画撮影時は、露出にばらつきが生じることがあります。
- 高周波フリッカーレス撮影を行うときは、：絞り数値変化時の露出維持を「ISO感度」にしておくことをおすすめします。

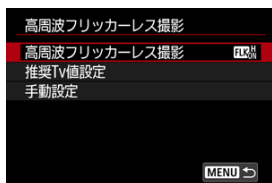
1. モードダイヤルを〈Tv〉または〈M〉にする
2. ：高周波フリッカーレス撮影 を選ぶ 、
3. [高周波フリッカーレス撮影] を選ぶ



4. [する]を選ぶ



5. 項目を選ぶ



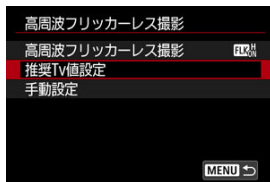
推奨Tv値設定

光源の周波数を50.0Hz～2011.2Hzの範囲で検知して、高周波フリッカーレス撮影に対応可能なシャッタースピードを表示します。また、シャッタースピードを表示された値に変更することができます。

1. シャッタースピードを設定する

- 撮影に使用したいシャッタースピードを設定します。設定したシャッタースピードに近い領域から、高周波フリッカーレス撮影に対応可能なシャッタースピードが自動検出されます。

2. [推奨Tv値設定] を選ぶ



3. [OK] を選ぶ



- 縞模様が発生している場所をできるだけ大きく表示させると、高周波フリッカー検出の精度が向上することがあります。

4. 表示されたシャッタースピードに変更する



- [はい] を選ぶと、表示されたシャッタースピードに変更されます。
- [はい (Tv値設定に移動)] を選ぶと、[手動設定] の画面が表示されます。[手動設定](#)の手順2に進んでください。

5. 撮影する

！ 注意

- 表示されるシャッタースピードは1/50.0秒～1/8192.0秒の範囲となります。
- [フリッカーを検知できませんでした] と表示されたときや、表示されたシャッタースピードに変更しても縞模様が消えないときは、以下の操作を行ってください。
 - 推奨Tv値設定を再度行う
 - カメラの向きを90°程度変えるなどして推奨Tv値設定を行う
 - 手動設定を行う
- 以下の条件では、高周波フリッカー検出の精度が低下することがあります。
 - 繰り返し模様がある場合（例：格子模様、ストライプ模様など）
 - 被写体が動いて、静止しない場合
 - 明るさや暗さが極端な場合
 - 画面内に複数の光源がある場合
 - 明滅する光源が小さい場合
 - 光源の明滅周期が遅い場合

📖 参考

- 4K動画をHDMI出力中に高周波フリッカーの推奨Tv値設定を行うと、検出中の映像は更新されなくなります。

高周波フリッカーレス撮影
高周波フリッカーレス撮影 **FLU**TM
推奨TV値設定
手動設定

MENU

- 推奨TV値設定で設定したシャッタースピードで画面の縞模様が消えないときは、以下の操作を行います。
 -  を回します。 では、推奨TV値設定で設定した周波数の2倍、3倍、4倍…または1/2倍、1/3倍、1/4倍…のシャッタースピードに変更することができます。
 -  を回して微調整します。
- 上記の操作を行っても、画面の縞模様が消えないときは、カメラの向きを90°程度変えるなどして、再度推奨TV値設定を行います。

273

 注意

- 手動設定が可能なシャッタースピードは、1/50.0秒～1/8192.0秒の範囲となります。
- ストロボの同調シャッタースピードは1/161.6秒以下に制限されます。
- 暗いレンズを使用する場合、表示Simulationが正しく機能しないことがあります。
- モニターやファインダーの表示と撮影結果が異なる場合があります。事前にテスト撮影を行うことをおすすめします。

被写体の明るさの測り方（測光モード）を、4種類の中から選ぶことができます。通常は、評価測光をおすすめします。かんたん撮影ゾーンでは、評価測光に自動設定されます。

1. [📷: 測光モード] を選ぶ (🔍)

2. 項目を選ぶ



● [📷]: 評価測光

逆光撮影を含む一般的な撮影に適しています。撮影シーンに応じてカメラが露出を自動補正します。

● [📷]: 部分測光

逆光などで被写体の周辺に強い光があるときに有効です。画面に部分測光範囲が表示されます。

● [📷]: スポット測光

被写体の特定の部分を測光するときに有効です。画面にスポット測光範囲が表示されます。

● [📷]: 中央部重点平均測光

画面中央部に重点を置いて、画面全体を平均的に測光します。

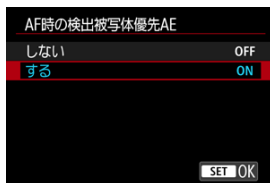
📖 参考

- カメラが初期状態のときは、以下のタイミングで露出が決まります。
[[📷]] は、シャッターボタン半押しでピントが合うと、半押ししている間、露出値が固定（AEロック）されます（ワンショットAF時）。[[📷]/[📷]/[📷]] は、撮影する瞬間に露出が決まります（半押しによる露出値の固定なし）。
- [[📷]: 合焦後AEロックする測光モード] (🔍) で、ワンショットAFでピントが合ったときに露出を固定（AEロック）するかどうかを、設定することができます。

【AF：検出する被写体】の設定で検出した被写体に合わせた測光を行います。

1. [📷：AF時の検出被写体優先AE] を選ぶ (🔍、🔍)

2. 項目を選ぶ



- 【する】を選ぶと、被写体を検出したAFフレームまたはAFエリアに合わせた測光を行います。
- 【しない】を選ぶと、画面全体に合わせた測光を行います。

⚠ 注意

- 静止画撮影時では、[📷：測光モード] が【評価測光】のときのみ【する】に設定できます。
- 手動ピント合わせ (MF) 時には機能しません。

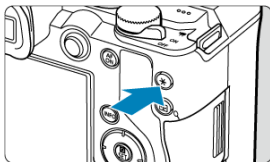
☑ AEロックの効果

ピントと露出を別々に決めたいときなどに、〈✳〉ボタンを押して露出を固定する「AEロック撮影」を行うことができます。逆光下の撮影などで有効です。

1. ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- 露出値が表示されます。

2. 〈✳〉ボタンを押す (8)



- 画面左下に「✳」が表示され、露出が固定（AEロック）されます。
- 〈✳〉ボタンを押すたびに、そのときの露出がAEロックされます。

3. 構図を決めて撮影する



- 続けてAEロック撮影を行うときは、〈✳〉ボタンを押しながら、シャッターボタンを押します。

参考

- バルブ撮影時はAEロックできません。

AEロックの効果

測光モード	AFフレーム選択	
	自動選択	任意選択
	ピントを合わせたAFフレームを中心に した露出値でAEロック	選択されているAFフレームを中心にし た露出値でAEロック
	画面中央を中心にした露出値でAEロック	

*  設定時に、レンズのフォーカスモードスイッチが〈MF〉のときは、画面中央を中心にした露出値でAEロックされます。

☒ [ピクチャースタイル](#)

☒ [カラーフィルター](#)

☒ [カスタムピクチャー](#)

動画または静止画の画像特性を、被写体や目的に合わせて、ピクチャースタイル、カラーフィルター、カスタムピクチャーのメニューから設定できます。

1. [📷: カラーモード] を選ぶ (🔍、🔍)

2. 項目を選ぶ



- 〈INFO〉ボタンを押すと、各項目の設定メニューが表示されます。

ピクチャースタイルは、用意された項目を選ぶと効果的な画像特性が得られる機能です。



各スタイルの画像特性

● **オート**

撮影シーンに応じて、色あいが自動調整されます。特に自然や屋外シーン、夕景シーンでは、青空、緑、夕景が色鮮やかな写真になります。

参考

- [オート] で好みの色あいにならなかったときは、他のスタイルに変更して撮影してください。

● **スタンダード**

鮮やかで、くっきりした写真になります。通常はこの設定でほとんどのシーンに対応できます。

● **ポートレート**

肌色がきれいで、ややくっきりした写真になります。人物をアップで写すときに効果的です。

[設定内容と効果](#)の【色あい】を変えると、肌色を調整することができます。

● **風景**

青空や緑の色が鮮やかで、とてもくっきりした写真になります。印象的な風景を写すときに効果的です。

● **ディテール重視**

被写体の細部の輪郭や繊細な質感の描写に適しています。やや鮮やかな写真になります。

- **ニュートラル**

パソコンでの画像処理に適した設定です。自然な色あいで、メリハリの少ない控えめな写真になります。

- **忠実設定**

パソコンでの画像処理に適した設定です。5200K（色温度）程度の太陽光下で撮影した写真が、測色的に被写体の色とほぼ同じになるように色調整されます。メリハリの少ない控えめな写真になります。

- **モノクロ**

白黒写真になります。

 注意

- **「モノクロ」** の設定で撮影したJPEG/HEIF画像を、カラー写真に戻すことはできません。

- **ユーザー設定1～3**

「ポートレート」や「風景」、ピクチャースタイルファイルなどの基本スタイルを登録し、好みにあわせて調整することができます (🔗)。登録されていないときは、「オート」の初期設定と同じ特性で撮影されます。

記号の意味

スタイル選択画面の記号は、[シャープネス]の[強さ][細かさ][しきい値]や、[コントラスト]などを表しています。数値は、各スタイルに設定されている各項目の設定値を示しています。

ピクチャースタイル	③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩	ピクチャースタイル	③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪
③A オート	4,**,0,0,0	③B ティテール重視	4,**,0,0,0
④S スタンダード	4,**,0,0,0	④N ニュートラル	0,**,0,0,0
⑤P ポートレート	3,**,0,0,0	⑤F 忠実設定	0,**,0,0,0
⑥L 風景	5,**,0,0,0	⑥M モノクロ	4,**,0,N,N
⑦T ティテール重視	4,**,0,0,0	⑦1 ユーザー設定1	オート
⑧N ニュートラル	0,**,0,0,0	⑦2 ユーザー設定2	オート
INFO 詳細設定	SET OK	INFO 詳細設定	SET OK

①	シャープネス	
	③	強さ
	④	細かさ
	⑤	しきい値
②	コントラスト	
③	色の濃さ	
④	色あい	
⑤	フィルター効果（モノクロ）	
⑥	調色（モノクロ）	

⚠ 注意

- 動画撮影時、[シャープネス]の[細かさ][しきい値]は、「*」と表示されます。また、動画撮影時は[細かさ][しきい値]は設定できません。

ピクチャースタイルの調整

各ピクチャースタイルを初期設定から変更（調整）することができます。[モノクロ] の調整については、[ピクチャースタイル モノクロの調整](#)を参照してください。

1. [📷: カラーモード] を選ぶ (🔍, 🔍)
2. [ピクチャースタイル] を選ぶ



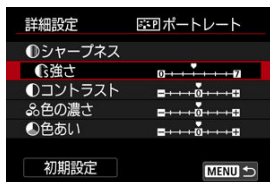
- [🔍] を選び、〈INFO〉ボタンを押します。

3. スタイルを選ぶ



- 調整するスタイルを選び、〈INFO〉ボタンを押します。

4. 項目を選ぶ



- 項目を選び、〈MENU〉を押します。
- 設定内容と効果については、[設定内容と効果](#)を参照してください。

5. 効果の度合いを設定する



- 効果の度合いを設定し、〈MENU〉を押します。



- 〈MENU〉ボタンを押すと、調整した内容が保存され、スタイル選択画面に戻ります。
- 初期設定から変更した数値が青色で表示されます。

参考

- 動画撮影時は「シャープネス」の「細かさ」「しきい値」の設定はできません（項目が表示されません）。
- 手順4で「初期設定」を選ぶと、スタイルごとに設定した内容を初期状態に戻すことができます。
- 調整したスタイルで撮影するときは、調整したスタイルを選択してから撮影します。

設定内容と効果

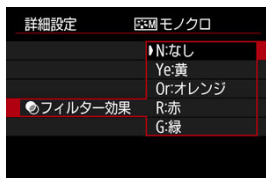
	シャープネス		
		強さ	0：輪郭強調・控えめ 7：輪郭強調・強め
		細かさ ^{*1}	1：細かい 5：粗い
		しきい値 ^{*2}	1：小さい 5：大きい
	コントラスト		-4：明暗差・弱 +4：明暗差・強
	色の濃さ		-4：薄い +4：濃い
	色あい		-4：肌色が赤め +4：肌色が黄色め

* 1：強調する輪郭線の細かさを示しています。値が小さいほど、より細部が強調されやすくなります。

* 2：「周囲に比べ、どの程度のコントラスト差があれば輪郭線を強調するか」の設定です。値が小さいほど、コントラスト差が少ない輪郭線が強調されやすくなります。なお、値を小さくするとノイズも強調されやすくなります。

📷 モノクロの調整

🔵 フィルター効果



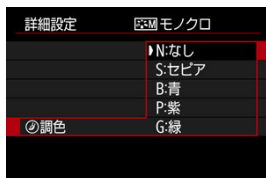
フィルター効果を使うと、同じモノクロ画像でも、白い雲や木々の緑を強調した画像にすることができます。

フィルター	効果例
N:なし	フィルター効果なしの通常の白黒画像になります。
Ye:黄	青空がより自然に再現され、白い雲がはっきりと浮かび上がります。
Or:オレンジ	青空が少し暗くなります。夕日の輝きがいっそう増します。
R:赤	青空がかなり暗くなります。紅葉の葉がはっきりと明るくなります。
G:緑	人物の肌色や唇が落ち着いた感じになります。木々の緑の葉がはっきりと明るくなります。

📖 参考

- [コントラスト] をプラス側に設定して撮影すると、フィルター効果がより強調されます。

🔵 調色



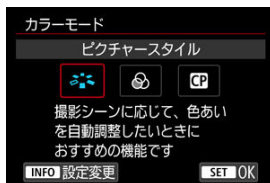
調色を設定して撮影すると、色のついたモノクロ画像にすることができます。より印象的な画像を撮影したいときに有効です。

ピクチャースタイルの登録

〔ポートレート〕や〔風景〕などの基本スタイルを選択し、好みにあわせて調整して、〔ユーザー設定1〕から〔ユーザー設定3〕に登録することができます。設定が異なる複数のスタイルを用意しておきたいときに使用します。

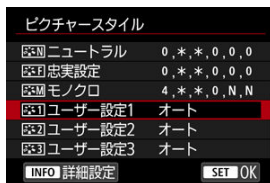
1. 〔📷: カラーモード〕を選ぶ (🔍、🔍)

2. 〔ピクチャースタイル〕を選ぶ



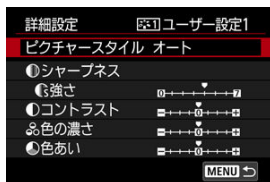
- 〔🔍〕を選び、〈INFO〉ボタンを押します。

3. 〔ユーザー設定*〕を選ぶ



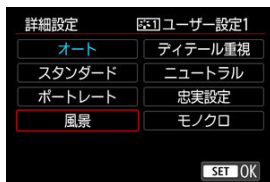
- 〔ユーザー設定*〕を選び、〈INFO〉ボタンを押します。

4. 〈〉を押す



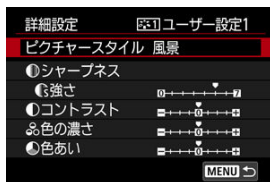
- 「ピクチャースタイル」が選ばれた状態で〈〉を押します。

5. 基本にするスタイルを選ぶ



- 基本にするスタイルを選び、〈〉を押します。

6. 項目を選ぶ

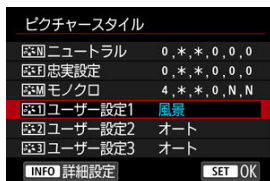


- 項目を選び、〈〉を押します。

7. 効果の度合いを設定する



- 効果の度合いを設定し、〈MENU〉を押します。
- 詳しくは、[ピクチャースタイルの調整](#)を参照してください。



- 〈MENU〉ボタンを押すと内容が登録され、スタイル選択画面に戻ります。
- [ユーザー設定*] の右に、基本にしたスタイルが表示されます。
- [ユーザー設定*] に登録したスタイルの設定内容が、初期設定から変更されているときは、スタイル名が青色で表示されます。

⚠ 注意

- [ユーザー設定*] にスタイルがすでに登録されているときは、基本にするスタイルを変更すると、登録されているスタイルの設定内容が無効になります。
- [Y: カメラの初期化] で [基本設定] を選ぶと、[ユーザー設定*] に設定したスタイルと内容が初期化されます。

📖 参考

- 登録したスタイルで撮影するときは、登録した [ユーザー設定*] を選択してから撮影します。

用意されたフィルターを選んで、画像に効果を付けることができます。

1. [📷: カラーモード] を選ぶ (🔍, 🔍)

2. [カラーフィルター] を選ぶ



- [🔍] を選び、〈INFO〉ボタンを押します。

3. カラーフィルターを選ぶ



- 〈INFO〉ボタンを押すと、カラーフィルターの強さを0～100%（10%刻み）で変更できます。強さを下げるほど、カラーフィルターの効果が弱まります。

フィルター名	フィルターの効果	推奨シーン
 NegativeFilmTone	明暗差を抑え、暗部を持ち上げて淡くくすんだ色調の効果をかける	明暗差があり、自然でやわらかな表現をしたいシーン
 PositiveFilmTone	明暗差を強調し、暗部を引き締めた鮮やかでコントラストの高い色調の効果をかける	明暗差があり、メリハリのある印象的な表現をしたいシーン
 StoryTeal&Orange	マットなトーンを基調として、暗部は青緑色、明部は橙色の効果をかける	日中でコントラストの強いシーン、ライティングされた部屋など明暗差のあるシーン
 StoryMagenta	マットなトーンを基調として、全体的に赤紫色の効果をかける	
 StoryBlue	マットなトーンを基調として、全体的に青色の効果をかける	明暗差があり、橙色や黄色系統の色を含むシーン
 PaleTeal&Orange	暗部は青緑色、明部は橙色の効果をかける	
 RetroGreen	彩度を低くし、全体的に緑色の効果をかける	古い建物、街並み
 Sepiatone	彩度を低くし、全体的にセピア調の効果をかける	
 AccentRed	赤系統以外の彩度を低くする	赤系統の色を含むシーン
 TastyWarm	彩度を高く、中間調を明るくして、全体的に暖色の効果をかける	暖色系の飲食物を含むシーン
 TastyCool	彩度を高く、中間調を明るくして、全体的に寒色の効果をかける	寒色系の飲食物を含むシーン
 BrightAmber	コントラストを低く、暗い雰囲気を保ちながら暗部を明るくして、暖色の効果をかける	暖色の光源で照らされた薄暗いシーン
 BrightWhite	コントラストを低く、寒色の効果をかける	
 ClearLightBlue	コントラストを低く、暗部を明るくして、全体的に薄い青色の効果をかける	明るい夜の街並みや室内
 ClearPurple	コントラストを低く、暗部を明るくして、全体的に薄い紫色の効果をかける	
 ClearAmber	コントラストを低く、暗部を明るくして、全体的に薄い橙色の効果をかける	

注意

- カラーフィルターによっては、グラデーションが滑らかに再現できなかったり、ノイズが発生することがあります。
- カメラの設定や被写体によっては、意図した色味にならないことがあります。

参考

- 、 のときは、カラーフィルターを設定することができます。

本カメラは、動画撮影時に色調を調整する設定項目（ガンマ／色空間、カラーマトリクス、Lookファイル）を組み合わせた、映像制作向けの画作りが可能な、「カスタムピクチャーファイル」が搭載されています。

- カスタムピクチャーファイルを選ぶことで、目的に合わせた画像特性で動画撮影することができます。
- カスタムピクチャーファイルを編集して、新規のカスタムピクチャーファイルを作成することができます。
- Lookファイルを登録することで、映像の色調を調整することができます。

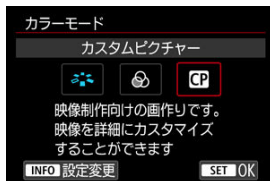
注意

- カスタムピクチャーを適用すると、適用前と測光値が異なる場合があります。

カスタムピクチャーファイルの選択

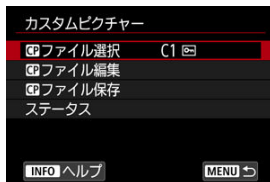
1. [📷: カラーモード] を選ぶ (🔗)

2. [カスタムピクチャー] を選ぶ



- [CP] を選び、〈INFO〉ボタンを押します。

3. [CPファイル選択] を選ぶ



4. カスタムピクチャーファイルを選ぶ



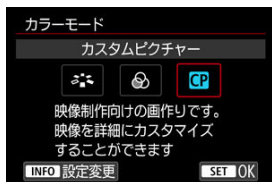
カスタムピクチャーファイル	ガンマ/色空間	Lookファイル	カラーマトリクス	概要
C1 : Canon 709	Canon 709 / BT.709	切	Neutral	BT.709 Standardより広いダイナミックレンジを実現 BT.709準拠モニターでの表示に適した設定 ポストプロダクション処理なしの場合にも適した設定
C2 : Canon Log 3	Canon Log 3 / C.Gamut	切	Neutral	ポストプロダクション処理を前提としたCanon Log 3ガンマを使用 Canon Logの特徴を残したままダイナミックレンジを拡大
C3 : PQ	PQ / BT.2020	切	Neutral	ITU-R BT.2100 (PQ)規格に準拠 (記録信号形式が8 bitのときは、ITU-R BT.2100 (PQ)規格相当) したHDR映像用ガンマを使用
C4 : HLG	HLG / BT.2020	切	Neutral	ITU-R BT.2100 (HLG)規格に準拠 (記録信号形式が8 bitのときは、ITU-R BT.2100 (HLG)規格相当) したHDR映像用ガンマを使用
C5 : BT.709 Standard	BT.709 Standard / BT.709	切	Video	BT.709準拠モニターでの表示に適した設定 ITU-R BT.709規格に準拠したガンマを使用
C6 : User06~ C20 : User20	Canon 709 / BT.709	切	Neutral	BT.709 Standardより広いダイナミックレンジを実現 BT.709準拠モニターでの表示に適した設定 ポストプロダクション処理なしの場合にも適した設定

カスタムピクチャーの編集

選択したカスタムピクチャーファイルの設定を編集することができます。

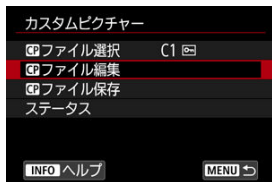
1. [📷: カラーモード] を選ぶ (🔗)

2. [カスタムピクチャー] を選ぶ

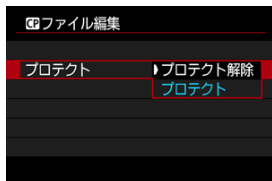


- [CP] を選び、〈INFO〉ボタンを押します。

3. [CPファイル編集] を選ぶ



- [🔗] が表示されているカスタムピクチャーファイルを編集する場合は、[プロテクト] で [プロテクト解除] を選び、編集可能な状態にしておきます。

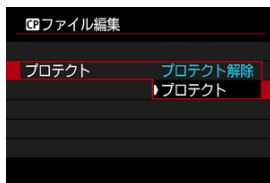


4. 設定を編集する



- 編集したい設定を選び、表示された画面で設定を変更します (ⓧ)。
- 編集したカスタムピクチャーファイルを新規名称で登録するときは、**[名称変更]**を選んで名称を入力します。
- 編集をリセットするときは、**[リセット]**を選んで対象のカスタムピクチャーファイルを選択します。
- Lookファイルについては、[Lookファイルの使用](#)を参照してください。

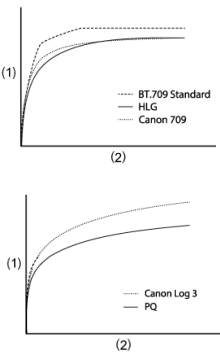
5. 編集したカスタムピクチャーファイルをプロテクトする



- 編集が終わったら、**[プロテクト]**を選びます。

カスタムピクチャーの設定項目

【CPファイル編集】で設定できる項目について説明します。

設定項目		内容
Gamma/Color Space ガンマと色空間の組み合わせを設定		
ガンマ	(1) 出力 (2) 入力	
	Canon Log 3	Canon Logの特徴を残したまま、ダイナミックレンジを広くしたガンマ ポストプロダクション処理が前提
	PQ	ITU-R BT.2100(PQ)規格に準拠（記録信号形式が8 bitのときは、ITU-R BT.2100 (PQ)規格相当）したHDR映像用ガンマ
	HLG	ITU-R BT.2100(HLG)規格に準拠（記録信号形式が8 bitのときは、ITU-R BT.2100 (HLG)規格相当）したHDR映像用ガンマ
	BT.709 Standard	ITU-R BT.709規格に準拠したガンマ BT.709準拠モニターでの表示に適した設定
	Canon 709	広いダイナミックレンジを確保しつつ、ポストプロダクション処理なしでの使用にも適したガンマ BT.709準拠モニターで見るときに適した設定
色空間	C.Gamut	撮像素子の特性に基づいてキヤノンが開発した色空間で、BT.2020より広い色域をカバー ACES2065-1色空間に変換して使用する場合には、C.Gamutの適用を推奨
	BT.2020	UHDTV (4K/8K) 用に規定された、ITU-R BT.2020規格に準拠した色空間
	BT.709	sRGB規格に準拠した標準的な色空間

Color Matrix 色再現の設定		
Neutral		忠実な色再現
Production Camera		映画制作用の色再現
Video		TV放送に適した、コントラストのある色再現
Look File Lookファイルの使用		
入		Lookファイルによる色調調整を有効にする
切		Lookファイルによる色調調整を無効にする
Look File設定 Lookファイルの登録と消去		
登録		Lookファイル（.cube形式）をカスタムピクチャーに登録する
強度		カスタムピクチャーに登録したLookファイルの強度を調整する
消去		カスタムピクチャーに登録したLookファイルを消去する
HLG Color HLG (Hybrid Log-Gamma) の色味を設定 [Gamma/Color Space] のガンマが [HLG]、色空間が [BT.2020] のときに設定可能		
BT.2100		ITU-R BT.2100 相当の色味
Vivid		ITU-R BT.2390 記載のTraditional Colour 相当の色味
Black 黒のレベルを調整 [Gamma/Color Space] のガンマが [Canon Log 3] のときは設定できない		
Master Pedestal	-50~+50	黒のレベルを調整する。値を高くするほど暗部が明るくなり、コントラストが弱くなる。マイナスの値にすると、黒が沈む
Master Black Red Master Black Master Green Master Black Blue	-50~+50	黒の色かぶりを、Red/Green/Blue個別で補正する

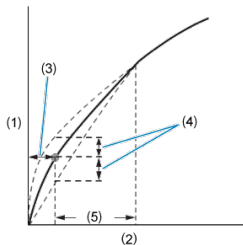
Black Gamma

低輝度部のガンマを補正

下図の範囲内で、Black（黒）側のガンマカーブを調整する

[Gamma/Color Space] のガンマが [BT.709 Standard] のときに調整可能

- (1) 出力
- (2) 入力
- (3) Point
- (4) Level
- (5) Range



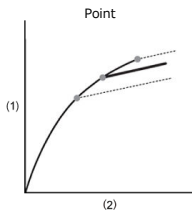
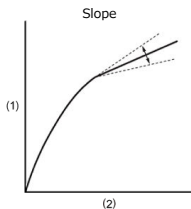
Level	-50～+50	基準ガンマからの高さを設定する
Range	-20～+50	Pointからの幅を設定する
Point		頂点の位置を設定する
Low Key Saturation 低輝度領域の色の濃さ、薄さを調整		
Activate	On, Off	[On] にすると調整が可能になる
Level	-50～+50	調整値を設定する

Knee

高輝度部分に圧縮をかけて、ハイライト部分の白とびを抑制

【Gamma/Color Space】のガンマが【BT.709 Standard】のときに設定可能

- (1) 出力
(2) 入力



Activate	On, Off	【On】にすると、各項目の調整が可能になる
White Level 100%	On, Off	【On】にすると、【Point】を変更しても出力を100%に抑えるように自動調整される
Slope	-35～+50	Kneeの傾きを調整する。【White Level 100%】が【On】のときは設定不可
Point	50～109	Kneeポイントを調整する
Saturation	-10～+10	高輝度部分の色の濃さ、薄さを調整する

Sharpness シャープネスの調整		
Level	-10～+50	輪郭強調のレベルを調整する
Detail Frequency	-8～+8	輪郭強調の中心周波数を設定する 設定値を大きくするほど周波数が高くなり、輪郭強調は細くなる
Coring Level	-30～+50	周囲に比べ、どの程度のコントラスト差があれば輪郭線を強調するかのレベルを設定 設定値を大きくすると、微かな輪郭が強調されなくなり、ノイズが低減される
Limit	-50～+50	輪郭強調の大きさを制限するレベルを調整する
Noise Reduction ノイズの抑制		
Automatic	On, Off	[On] にすると、自動調整が行われる
Spatial Filter	Off, 1～12	画像全体がソフトフォーカスをかけたようになりノイズを除去する [Off] 以外に設定すると、残像は発生しないが、画面全体がソフトに表現される
Frame Correlation	Off, 1～3	数値を設定すると、前の画像（フィールド）と現在の画像を比較してノイズを除去する処理が行われる 解像感の低下は抑制されるが、動いている被写体では残像が発生することがある
Skin Detail 肌を美しく撮影するための設定 設定内容に従って肌色部分を検出し、ノイズを低減する処理を行う 検出した肌色部分は、画像上にゼブラパターンとして表示される		
Effect Level	Off, Low, Middle, High	肌を美しく演出するフィルターのレベルを設定（最高は [High]）する
Hue	-16～+16	検出する肌色の色相を設定する
Chroma	0～31	検出する肌色の彩度を設定する
Area		検出する肌色の色相の幅を設定する
Y Level		検出する肌色の輝度レベルを設定する
Color Matrix Tuning 映像の色調の微調整		
Gain	-50～+50	色の濃さを調整する
Phase	-18～+18	色相を調整する
R-G	-50～+50	シアンからグリーン、レッドからマゼンタの色調を調整する
R-B		シアンからブルー、レッドからイエローの色調を調整する
G-R		マゼンタからレッド、グリーンからシアンの色調を調整する
G-B		マゼンタからブルー、グリーンからイエローの色調を調整する
B-R		イエローからレッド、ブルーからシアンの色調を調整する
B-G		イエローからグリーン、ブルーからマゼンタの色調を調整する

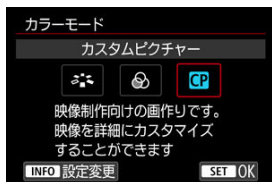
Color Correction		
特定の範囲の色調を補正する設定 設定内容に従って補正する範囲を検出する 補正範囲の設定中、検出された範囲以外は、画像上に無彩色で表示される（[Area A Revision Level]、[Area B Revision Level]、[Area A Revision Phase]、[Area B Revision Phase]の調整中は除く）		
Select Area	Off, Area A, Area B, Area A&B	色を補正する範囲を、Aエリア、またはBエリアとして指定する [Area A] では、Aエリアで補正が行われる [Area B] では、Bエリアで補正が行われる [Area A&B] では、AエリアとBエリアで補正が行われる
Area A Setting Phase	0~31	Aエリアの色相を設定する
Area A Setting Chroma		Aエリアの彩度を設定する
Area A Setting Area		Aエリアの色相の幅を設定する
Area A Setting Y Level		Aエリアの輝度レベルを設定する
Area A Revision Level	-50~+50	Aエリアの色の濃さの補正量を設定する
Area A Revision Phase	-18~+18	Aエリアの色相の補正量を設定する
Area B Setting Phase	0~31	Bエリアの色相を設定する
Area B Setting Chroma		Bエリアの彩度を設定する
Area B Setting Area		Bエリアの色相の幅を設定する
Area B Setting Y Level		Bエリアの輝度レベルを設定する
Area B Revision Level	-50~+50	Bエリアの色の濃さの補正量を設定する
Area B Revision Phase	-18~+18	Bエリアの色相の補正量を設定する
Other Functions		
[Over 100%] では、100%を超える信号の出力方法を設定する [Gamma/Color Space] のガンマが [BT.709 Standard]、[White Level 100%] が [Off] のときに設定可能		
Over 100%	Through	信号をそのまま出力する
	Press	108%までの信号全体を100%に圧縮する
	Clip	100%を超える信号は使用しない

カスタムピクチャーの内容確認

カスタムピクチャーファイルの設定内容は、[カスタムピクチャー] 画面から確認できます。

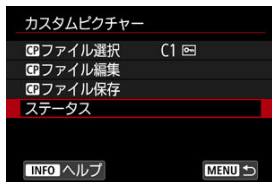
1. [📷: カラーモード] を選ぶ (🔍)

2. [カスタムピクチャー] を選ぶ



- [CP] を選び、〈INFO〉ボタンを押します。

3. [ステータス] を選ぶ



4. 設定内容を確認する

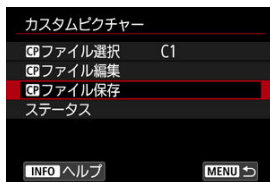


カスタムピクチャーファイルの保存と読込

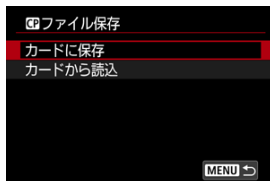
編集したカスタムピクチャーファイルは、カードに保存して、同じ機種での他のカメラで使用するすることができます。

1. 保存するカスタムピクチャーファイルを選ぶ (🔗)

2. [CPファイル保存] を選ぶ



3. 項目を選ぶ



● カードに保存

編集したカスタムピクチャーファイルを保存します。保存先を選び、[OK] を選びます。

20ファイルまで保存することができます。保存されているファイルが20ファイル未満のときは、保存するときに「新規ファイル」が表示されます。20ファイルが保存済のときは、新たに保存するファイルで上書きが行われます。

● カードから読込

カードに保存されたカスタムピクチャーファイルを読み込みます。読み込むファイルを選び、[OK] を選びます。

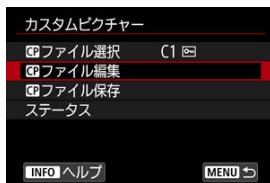
Lookファイルの使用

Blackmagic Design社のDaVinci Resolveで作成した、Lookファイル（.cube形式、17または33グリッドの3D LUTファイル）をカスタムピクチャーファイルに登録して、記録する映像の色調を調整することができます。

Lookファイルの登録

登録するLookファイルは、あらかじめカードにコピーしておきます。

1. カードをカメラに入れる
2. カスタムピクチャーファイルを選ぶ (🔍)
3. [CPファイル編集] を選ぶ



- [🔍] が表示されているカスタムピクチャーファイルを編集する場合は、[プロテクト] で [プロテクト解除] を選び、編集可能な状態にしておきます。
- カスタムピクチャーファイルの編集とLookファイルの登録を同時に行うときは、先にLookファイルの登録以外の作業を行います。

4. [Look File設定] を選ぶ



5. [登録] を選ぶ



- カード内のLookファイルが表示されます。

6. Lookファイルを選ぶ

7. Lookファイルを適用した後のガンマ/色空間を選ぶ

8. [OK] を選ぶ

⚠ 注意

- 以下のLookファイルは使用できません。
 - ヘッダー部の「LUT_3D_INPUT_RANGE」に、0～1以外の入力レンジが定義されている
 - ファイルサイズが2MB以上、またはファイル名が65文字（拡張子を含む）以上
 - ファイル名に使用可能な文字以外が使用されている
使用可能な文字：0～9、a～z、A～Z、「_」（アンダーバー）、「-」（ハイフン）、「.」（ドット）、「」（半角スペース）
 - データ部に0～1以外の値が含まれている
- 入力/出力のガンマ/色空間が適切でない場合は、映像の色調が正しく変換されません。
- Lookファイルを登録後に、[Gamma/Color Space]、[HLG Color]、[White Level 100%]、[Over 100%] の設定を変更すると、登録したLookファイルの使用はできません。
- [Gamma/Color Space] のガンマが [BT.709 Standard] のときは、100%を超える信号、または0%未満の信号は使用されなくなります。100%を超える信号を使用するときは、[Over 100%] で [Press] を選んでから、Lookファイルを登録してください。

Lookファイルによる色調調整

登録したLookファイルを使用して色調調整を行うことができます。

1. [CPファイル編集] 画面で [Look File] を選ぶ

2. [入] を選ぶ

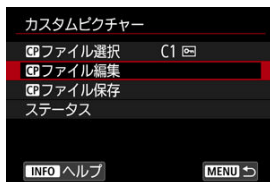
- Lookファイルによる色調調整を無効にするときは、[切] を選びます。

Lookファイルの強度調整

登録したLookファイルによる効果の度合いを調整することができます。

1. カスタムピクチャーファイルを選ぶ (🔗)

2. [CPファイル編集] を選ぶ



- [🔗] が表示されているカスタムピクチャーファイルを編集する場合は、[プロテクト] で [プロテクト解除] を選び、編集可能な状態にしておきます

3. [Look File設定] を選ぶ



4. [強度] を選ぶ

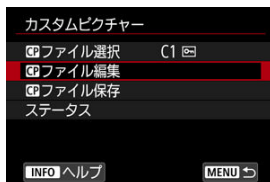
5. 強度を調整する

- 10～100%の範囲で10%刻みに設定できます。
- 画像の変化を見ながら調整できますが、処理負荷により画像表示が遅延することがあります。

Lookファイルの消去

1. カスタムピクチャーファイルを選ぶ (🔍)

2. [CPファイル編集] を選ぶ



3. [Look File設定] を選ぶ



4. [消去] を選ぶ

5. [OK] を選ぶ

Canon Logの画質

- Canon Log設定時は、空や白壁などのグラデーションが滑らかに再現されなかったり、被写体条件や撮影条件によって露出ムラや色ムラ、ノイズが発生することがあります。また、被写体の暗い部分で縞やノイズが目立つことがあります。
- コントラストなどを強くすると、ノイズが目立ちやすくなります。
- 事前にテスト撮影を行い、映像の状態を確認しておくことをおすすめします。
- ISO感度の変更や、撮影後のグレーディング処理などで画質が改善する場合があります。

⚠ 注意

- Canon Log設定時は、[📷: レンズ光学補正] の [周辺光量補正] を [する] に設定していると、映像の周辺部分にノイズが発生することがあります。
- [📷: 📷🔊🎞️ HDR/C.Logビューアシスト] で「入」の項目を選んでいるときのヒストグラムはビューアシスト表示によって変化するものではありません。ヒストグラムでグレー表示されている領域は、使用されない信号値の目安になります。

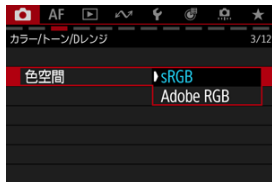
[☑ Adobe RGB](#)

再現できる色の範囲（色域特性）のことを「色空間」といいます。一般的な撮影のときはsRGBをおすすめします。

〈〉モードのときは、[sRGB] に自動設定されます。

1. [: 色空間] を選ぶ ()

2. 色空間を設定する



- [sRGB] または [Adobe RGB] を選び、〈〉を押します。

主に商用印刷などの業務用途で使⽤します。Adobe RGB対応モニターや、DCF 2.0 (Exif 2.21以上) 対応プリンターなどの使⽤をおすすめします。



参考

- 色空間をAdobe RGBに設定して撮影した静止画は、ファイル名の先頭文字が「_」(アンダーバー) になります。
- ICCプロファイルは付加されません。ICCプロファイルについては、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional使用説明書を参照してください。

画像エッジ部のコントラスト（明瞭度）を調整することができます。
マイナス側に設定するとソフトな印象になり、プラス側に設定するとくっきりした印象の画像になります。

1. [📷: 明瞭度] を選ぶ (🔍、🔍)

2. 効果の度合いを設定する



⚠ 注意

- 明瞭度を設定すると、明暗差が大きい場合に境界部の周辺が暗くなったり、または明るくなったりすることがあります。
- 設定内容は、静止画撮影時のモニター映像には反映されません。

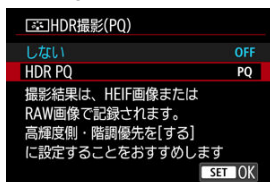
【HDR撮影(PQ)】では、ITU-R BT.2100およびSMPTE ST.2084で定義されたPQ (HDR画像を表示するための入力信号のガンマカーブ) 規格に準拠したHDR画像 (白とびや黒つぶれが緩和された階調の広い画像) を撮影することができます。

参考

- HEIF画像またはRAW画像で記録されます。
- HDR対応ディスプレイの使用をおすすめします。
- 表示される画像は、モニター性能に依存します。

1. 【 : HDR撮影(PQ)】を選ぶ ()、()

2. 【HDR PQ】を選ぶ



注意

- 【 : 動画記録形式】が【XF-AVC S YCC420 8bit】のときは、【HDR PQ】の設定はできません。
- HDR非対応ディスプレイでの表示では、HDR対応ディスプレイ表示時と印象が異なることがあります。
- ヒストグラムでグレー表示されている領域は、使用されない信号値の目安になります。
- 【 : 表示フレームレート設定】は【なめらかさ優先】に設定されます。

 [動体優先](#)

 [Dレンジ優先](#)

明暗差の大きいシーンで、白とびや黒つぶれが緩和された、階調の広い（ハイダイナミックレンジな）写真を撮影することができます。動いている被写体がある撮影では「動体優先」、風景などの静物撮影では「Dレンジ優先」を選びます。

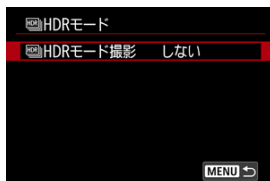
HDR撮影では、暗部の階調の再現性を高めるため、1回の撮影でレンジの広い合成画像（暗部の領域を明るく補正したHDR画像）を生成します。

HDR画像はHEIFまたはJPEG画質で記録されます。

* HDRはHigh Dynamic Range（ハイダイナミックレンジ）の略です。

1. :  HDRモード] を選ぶ ()

2.  HDRモード撮影] を選ぶ



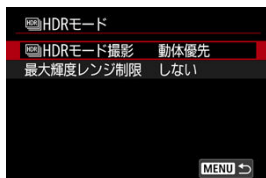
3. 項目を選ぶ



- HDR撮影をしないときは「**しない**」を選びます。

4. 撮影する

- シャッターボタンを全押しします。1回の撮影で複数枚の画像が合成され、HDR画像としてカードに記録されます。



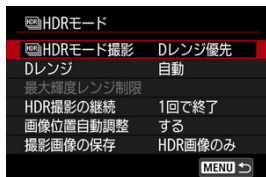
動いている被写体がある撮影に適しています。1回の撮影でレンジの広い合成画像が撮影できます。

● 最大輝度レンジ制限

「 : HDR撮影(PQ)」が「HDR PQ」のときのみ設定できます。

「**しない**」を選んだときは、最大輝度レンジは制限されません。撮影画像を、1000nit以上の輝度表示が可能なモニターで確認するときにおすすめします。

「**1000nit**」を選んだときは、最大輝度レンジが約1000nitに制限されます。



風景などの静物撮影に適しています。1回の撮影で露出の異なる3枚の画像（標準露出／露出アンダー／露出オーバー）を撮影して、自動的に画像合成を行います。

● Dレンジ

〔自動〕を選ぶと、撮影画面全体の明暗差に応じて調整幅が自動設定されます。数値が大きいほどダイナミックレンジが広い写真を撮影することができます。

● 最大輝度レンジ制限

〔 : HDR撮影(PQ)〕が〔HDR PQ〕のときのみ設定できます。

〔しない〕を選んだときは、最大輝度レンジは制限されません。撮影画像を、1000nit以上の輝度表示が可能なモニターで確認するときにおすすめします。

〔1000nit〕を選んだときは、最大輝度レンジが約1000nitに制限されます。

● HDR撮影の継続

〔1回で終了〕を選んだときは、撮影が終了すると、HDR撮影が自動的に解除されます。

〔繰り返し〕を選んだときは、〔 HDRモード撮影〕で〔しない〕を選ぶまでHDR撮影が続きます。

● 画像位置自動調整

手持ち撮影を行うときは〔する〕、三脚などを使用するときは〔しない〕を選びます。

● 撮影画像の保存

撮影した3枚の画像と、合成したHDR画像を保存するときは、〔全画像〕を選びます。

HDR画像だけを保存するときは、〔HDR画像のみ〕を選びます。

① 注意

- HDR撮影時はストロボは発光しません。
- AEB撮影はできません。
- 空や白壁のようなシーンのグラデーションが滑らかに再現されなかったり、露出ムラや色ムラ、ノイズが発生することがあります。
- 蛍光灯やLED照明などの光源下でHDR撮影を行うと、フリッカーの影響によりHDR画像に色ムラや露出ムラなどが発生することがあります。[📷: フリッカーレス撮影] を [する] または [📷: 高周波フリッカーレス撮影] を [する] にして撮影すると、フリッカーによる影響が軽減できる場合があります。ただし、[📷: 高周波フリッカーレス撮影] は [Dレンジ優先] の場合は設定できません。
- 電子シャッターでのHDR撮影時は、シャッタースピードの上限が1/8000に設定されます。

[Dレンジ優先] 設定時の注意事項

- [画像位置自動調整] を [する] に設定して撮影したときは、AFフレーム表示用の情報 (📷)、およびダストデリートデータ (📷) は画像に付加されません。
- [画像位置自動調整] を [する] に設定して手持ち撮影を行うと、画像の周辺部分がわずかにトリミングされ、解像感が若干低下します。また、手ブレなどにより画像のズレ量が大きいと、自動位置合わせが行われないことがあります。なお、極端に明るい (または暗い) 露出設定で撮影すると、自動位置合わせが適切に行われないことがあります。
- [画像位置自動調整] を [しない] に設定して手持ち撮影を行うと、3枚の画像がズレてHDRの効果が十分に得られないことがあります。そのときは、三脚の使用をおすすめします。
- 複数枚の画像を撮影する際に、シャッタースピードやISO感度が自動的に変化します。そのため (Fv) (Tv) (M) モードでも、設定したシャッタースピードを基準に、シャッタースピードやISO感度が変化します。
- 手ブレを抑えるため、ISO感度が高く設定されることがあります。
- 格子模様、ストライプ模様のような繰り返しパターンや、画面全体が平坦で単調なときは、自動位置合わせが正常に行われないことがあります。
- HDR撮影は撮影後に画像を合成してからカードに記録するため、時間がかかります。画像処理中はモニターに [BUSY] が表示され、処理が終わるまで次の撮影はできません。

[動体優先] 設定時の注意事項

- [📷: シャッター方式] を [電子シャッター📷] に設定して動きの速い被写体を撮影すると、被写体が歪んで写ることがあります。

参考

- [Dレンジ優先] に設定すると、RAW画質で撮影したときのHDR画像は次のようになります。
 - [📷 : 📷 HDR撮影(PQ)] [しない] : JPEG画質
 - [📷 : 📷 HDR撮影(PQ)] [HDR PQ] : HEIF画質なお、RAW+JPEG画質またはRAW+HEIF画質で撮影したときは、HDR画像は設定したJPEG画質またはHEIF画質で記録されます。
- [動体優先] または [Dレンジ優先] に設定すると、[📷 : 表示Simulation] を [しない] 以外に設定しても露出のシミュレートは行われません。

撮影結果が暗いときや、コントラストが低いときまたは高いときに、明るさ・コントラストを自動的に補正することができます。

1. 📷 : オートライティングオプティマイザ を選ぶ (🔍、📱)

2. 補正内容を設定する



⚠ 注意

- 撮影条件により、ノイズが増えたり、解像感が変化することがあります。
- オートライティングオプティマイザの効果が強すぎて、好みの明るさにならないときは、**【弱め】** または **【しない】** に設定して撮影してください。
- **【しない】** 以外に設定したときは、露出補正、ストロボ調光補正で露出を暗めに設定しても、明るく撮影されることがあります。設定したとおりの明るさで撮影したいときは、**【しない】** に設定してください。

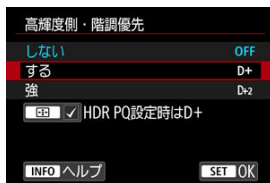
📖 参考

- 手順2で〈INFO〉ボタンを押して **【M, Bulb時はOFF】** の **【✓】** を外すと、〈M〉〈B〉モードでも 📷 : オートライティングオプティマイザ が設定できるようになります。

画像のハイライト部分の白とびを緩和することができます。

1. [📷: 高輝度側・階調優先] を選ぶ (🔍、🔍)

2. 内容を設定して撮影する



- [する] を選んだときは、高輝度（ハイライト）側の階調表現性が向上します。グレーからハイライトまでの階調がより滑らかになります。
- [強] 設定時は、撮影シーンによって [する] 設定時よりもさらに白とびを緩和することができます。

⚠ 注意

- ノイズが若干増えることがあります。
- ISO感度の設定範囲がISO200～になります。また、拡張ISO感度は設定できません。
- [強] に設定しても、撮影シーンによっては、思い通りの効果が得られないことがあります。

📖 参考

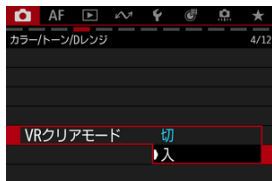
- [📷: HDR] HDRモード 設定時は、[📷: 📷 HDR撮影(PQ)] を [HDR PQ] に設定しても [📷: 高輝度側・階調優先] は [しない] に設定されます。

VRレンズを装着して撮影するときに、VR視聴に適した画質調整を行うことができます。

- 輪郭線を細くし、自然な見え方になるようにシャープネスを調整
- 暗部の視認性を高める階調補正
- 白飛びを抑えたダイナミックレンジ調整

1. [📷: VRクリアモード] を選ぶ (🔍、🔍)

2. [入] を選ぶ



⚠ 注意

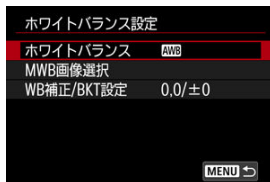
- VRクリアモード設定時は、RAW形式での記録ができません。

- ☒ [\[AWB\] オートホワイトバランス](#)
- ☒ [\[\] マニュアルホワイトバランス](#)
- ☒ [\[K\] 色温度](#)
- ☒ [ショックレスWB](#)
- ☒ [AWBレスポンス](#)

ホワイトバランス（WB）は、白いものを白く写すための機能です。通常はオート **[AWB]**（雰囲気優先）、または **[AWBW]**（ホワイト優先）で適切なホワイトバランスが得られます。オートで自然な色あいにならないときは、光源別にホワイトバランスを選択したり、白い被写体を撮影して手動で設定します。

かんたん撮影ゾーンのときは、**[AWB]** に自動設定されます（**[P]** のときは **[AWBW]**）。

1. **[] : ホワイトバランス設定]** を選ぶ (,)
2. **[ホワイトバランス]** を選ぶ



3. 項目を選ぶ



- 〈〉を回してホワイトバランスの項目を選びます。

参考

- 「**AWB**」**AWB-W**」の設定方法については、「**AWB** オートホワイトバランス」を参照してください (🔗)。
- 色温度を「**K1**」**K2**」**K3**」**K4**」に登録しておくことができます。**K1**」～**K4**」を選び、〈〉を回して設定します。

(約)

表示	モード	色温度 (K : ケルビン)
AWB	オート (雰囲気優先)	3000～7000
AWB-W	オート (ホワイト優先)	
	太陽光	5200
	日陰	7000
	くもり、薄暮、夕やけ空	6000
	白熱電球	3200
	白色蛍光灯	4000
	ストロボ使用	自動設定*
	マニュアル	2000～10000
K	色温度	2500～10000

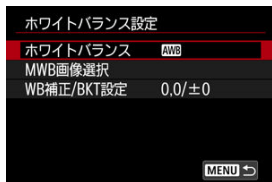
* 色温度情報通信機能を備えたストロボ使用時。それ以外は約6000K固定

【AWB】（雰囲気優先）では、白熱電球（タングステン光）下などで撮影したときに、その場の雰囲気を重視してやや赤みがかった写真になります。

【AWBW】（ホワイト優先）を選ぶと、赤みの少ない写真にすることができます。

1. **【📷: ホワイトバランス設定】**を選ぶ (🔍、🔍)

2. **【ホワイトバランス】**を選ぶ



3. **【AWB】**を選ぶ



- **【AWB】**を選んだ状態で**〈INFO〉**ボタンを押します。

4. 項目を選ぶ



! 注意

【AWBW】（ホワイト優先）設定時の注意事項

- 赤みのある被写体の色が薄くなることがあります。
- 画面内に複数の光源が含まれるときは、赤みの少ない写真にならないことがあります。
- ストロボ使用時は【AWB】（雰囲気優先）と同じ色あいになります。

マニュアルホワイトバランス（MWB）は、撮影場所の光源にあわせてホワイトバランスを設定するときに使用します。必ず撮影する場所の光源下で一連の操作を行ってください。

カード内の画像から登録する場合

1. 白い被写体を撮影する



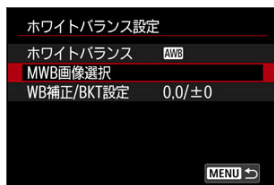
- 画面全体に白い無地の被写体がくるようにします。
- 手動ピント合わせ（マニュアルフォーカス）（🔍）に設定して、白い被写体が標準露出になるように撮影します。
- ホワイトバランスはどの設定でも構いません。

⚠ 注意

- 撮影した画像の露出が、標準露出から大きく外れていると、正確なホワイトバランスが設定されないことがあります。
- ピクチャースタイルを【モノクロ】に設定して撮影した画像、トリミングした画像、他のカメラで撮影した画像、クリエイティブフィルター画像は、選択できません。

2. [📷: ホワイトバランス設定] を選ぶ (🔍、🔍)

3. [MWB画像選択] を選ぶ

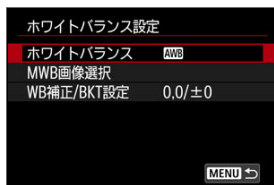


4. ホワイトバランスデータを取り込む



- 手順1で撮影した画像を〈〉で選び、〈〉を押します。
- [OK] を選ぶとデータが取り込まれます。

5. [📷: ホワイトバランス設定] で [ホワイトバランス] を選ぶ



6. [] を選ぶ



画像を撮影して登録する場合

1.  を押す
2. ホワイトバランスを選ぶ



-  を回すか、 を上下に押して選びます。

3. [画像を撮影して登録] を選ぶ



-  を回して  を選び、**〈MENU〉** ボタンを押します。

4. 白い被写体を撮影する



- 画面全体に白い無地の被写体ができるようにします。
- 手動ピント合わせ（マニュアルフォーカス）（) に設定して、白い被写体が標準露出になるように撮影します。
- カメラにMWBデータが登録されます。

注意

- 撮影した画像の露出が、標準露出から大きく外れていると、正確なホワイトバランスが設定されないことがあります。

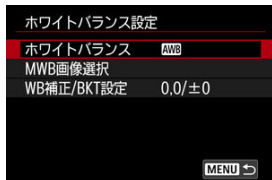
参考

- 白い被写体の代わりに、市販のグレーチャートや18%標準反射板を撮影する方法もあります。

ホワイトバランスの色温度を数値で設定することができます。

1. **[📷: ホワイトバランス設定]** を選ぶ (🔍、🔍)

2. **[ホワイトバランス]** を選ぶ



3. **色温度** を選ぶ



4. **色温度** を設定する



- 〈🔧〉を回して色温度を設定し、〈🔍〉を押します。
- 設定できる色温度範囲は、約2500～10000K（100Kステップ）です。

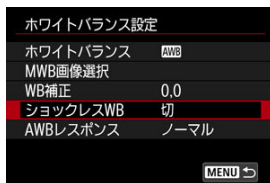
参考

- 人工光源の色温度を設定するときは、必要に応じてWB補正（マゼンタ／グリーン寄りの補正）を行ってください。
- 市販のカラーメーターで測定した色温度を【**K**】に設定するときは、事前にテスト撮影を行い、カメラとカラーメーター間の誤差を補正した数値を設定してください。

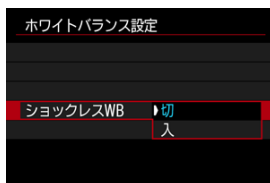
ホワイトバランスの設定を変更したときに、ホワイトバランスの変更が滑らかに反映されるようになります。

1. [📷: ホワイトバランス設定] を選ぶ (🔗)

2. [ショックレスWB] を選ぶ



3. 項目を選ぶ

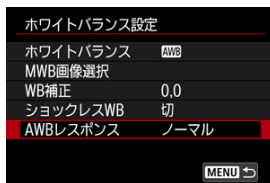


- [切] を選ぶと、ホワイトバランスの変更が即時反映されます。

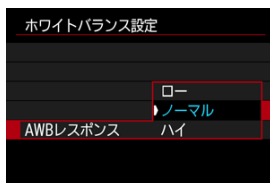
オートホワイトバランスの反応速度を設定することができます。反応速度は、撮影シーンに応じて3段階から選びます。

1. : ホワイトバランス設定] を選ぶ (🔍)

2. [AWBレスポンス] を選ぶ



3. 項目を選ぶ



- [ロー] (遅い)、[ノーマル] (通常) または [ハイ] (速い) から選びます。

☑ [ホワイトバランス補正](#)

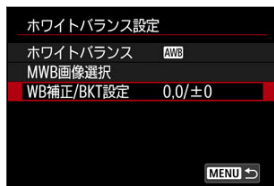
☑ [ホワイトバランスを自動的に変えて撮る](#)

設定しているホワイトバランスを補正することができます。この機能を使うと、市販の色温度変換フィルターや、色補正用フィルターと同じような効果を得ることができます。

ホワイトバランス補正

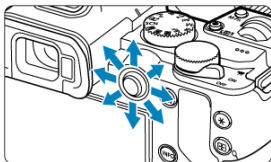


1. [📷: ホワイトバランス設定] を選ぶ (🔍, 🔍)
2. [WB補正/BKT設定] を選ぶ

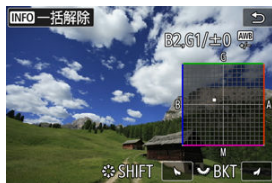


- 動画撮影モードのときは、[WB補正] を選びます。

3. ホワイトバランスを補正する



設定例：A2, G1



- 〈※〉を操作して、画面上の「■」を希望する位置に移動します。
- Bはブルー、Aはアンバー、Mはマゼンタ、Gはグリーンの意味です。移動方向寄りの色に補正されます。
- 画面右上に、補正方向と補正量が表示されます。
- 〈INFO〉ボタンを押すと、[WB補正/BKT設定] の設定を一括解除することができます。
- 〈〉を押すと設定が終了します。

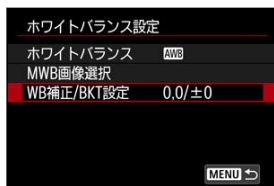
参考

- ブルー／アンバー方向の1段は、色温度変換フィルターの約5ミレッドに相当します（ミレッド：色温度変換フィルターの濃度を表すときなどに使用される色温度の単位）。

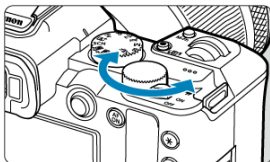
ホワイトバランスブラケティング（WBブラケティング）機能で、1回の撮影で色あいの異なる3枚の画像を記録することができます。

1.  : ホワイトバランス設定] を選ぶ (🔍)

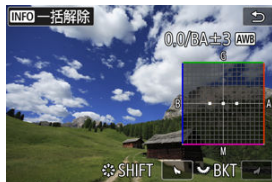
2. [WB補正/BKT設定] を選ぶ



3. 補正幅を設定する



設定例：B/A方向±3段のとき



- 〈〉を回すと、画面上的「■」が「■ ■ ■」（3点）に変わります。右に回すとB/A方向、左に回すとM/G方向のブラケットिंगになります。
- 画面右上に、ブラケットिंग方向と補正幅が表示されます。
- 〈INFO〉ボタンを押すと〔WB補正/BKT設定〕の設定を一括解除することができます。
- 〈〉を押すと設定が終了します。

❗ 注意

- WBブラケットिंग撮影時は、連続撮影可能枚数が少なくなります。
- 通常の撮影よりもカードに画像を記録する時間が長くなります。

参考

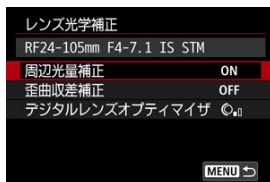
- (1) 基準ホワイトバランス (2) ブルー (B) 寄り (3) アンバー (A) 寄り、または (1) 基準ホワイトバランス (2) マゼンタ (M) 寄り (3) グリーン (G) 寄りの順に画像が記録されます。
- WB補正やAEB撮影と組み合わせることができます。
- WBブラケットング設定時は、ホワイトバランスのマークが点滅します。
- WBブラケットング時の記録順序 (🔄) と撮影枚数 (🔄) を変更することができます。
- 「BKT」はBracketing (ブラケットング) の略です。

- ☒ [周辺光量補正](#)
- ☒ [歪曲収差補正](#)
- ☒ [フォーカスブリージング補正](#)
- ☒ [デジタルレンズオブティマイザ](#)
- ☒ [色収差補正](#)
- ☒ [回折補正](#)
- ☒ [レンズ光学補正共通の注意事項](#)

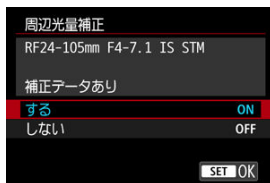
レンズの光学特性によって、画像の四隅が暗くなったり、画像にゆがみが生じたりするなどの現象が発生します。[レンズ光学補正]の機能を使用することで、これらの現象を補正することができます。

1. [📷: レンズ光学補正] を選ぶ (🔍、🔍)

2. 項目を選ぶ



3. 設定を選ぶ



- 装着しているレンズの名称と、[補正データあり]が表示されていることを確認します。
- [補正データなし]や[無]が表示されたときは、[デジタルレンズオブティマイズ](#)を参照してください。

周辺光量補正

画像の四隅が暗くなる「周辺光量の低下」を補正することができます。

⚠ 注意

- 撮影条件により、画像の周辺部分にノイズが発生することがあります。
- ISO感度が高くなるほど、補正量が少なくなります。

📖 参考

- EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalで最大補正を行ったときよりも、控えめに補正されます。

歪曲収差補正

画像にゆがみが生じる「歪曲収差」を補正することができます。

⚠ 注意

- 歪曲収差補正の設定により、画角がわずかに変化することがあります（画像の周辺部分が少しトリミングされ、解像感が若干低下します）。
- 画像の周辺部分がトリミングされる量は、静止画と動画で異なることがあります。

📖 参考

- RFレンズ使用時は、動画撮影時に歪曲収差補正を行うことができます。

フォーカスブリージング補正

動画撮影中にピント位置が変わることにより起こる画角の変動を軽減することができます。
[歪曲収差補正] が [する] のときに設定できるようになります。

⚠ 注意

- 静止画撮影時は、[フォーカスブリージング補正] は表示されません。
- フォーカスブリージング補正により画角が狭くなります。その量は撮影条件によって異なります。
- フォーカスブリージング補正をすると、画像処理により解像感・ノイズ感が劣化する場合があるので、確認の上ご使用ください。
- レンズ側にある撮影距離範囲切り換えスイッチの位置に応じて最適な補正がかかります（この機能はMF時にも適用されます）。撮影距離範囲切り換えスイッチの設定範囲外の撮影距離の場合は、その分の像倍率補正は適用されません。
- 動画記録中に撮影距離範囲切り換えスイッチを動かすと、画角が急に変わった動画が記録されます。
- 装着レンズや撮影条件によっては、補正残りが発生する場合があります。
- この機能に対応したレンズについては、キヤノンのホームページを参照してください (🔗)。

デジタルレンズオブティマイザ

レンズの光学特性により生じる諸収差や、回折現象、ローパスフィルターに起因した解像劣化を補正することができます。

なお、[デジタルレンズオブティマイザ]で[補正データなし]や[無]が表示されたときは、EOS Utilityを使用して、レンズの補正用データをカメラに登録することができます。詳しくは、EOS Utility使用説明書を参照してください。

⚠ 注意

- [強め] 設定時は、画像処理に時間がかかります（アクセスランプが長く点灯します）。
- [強め] 設定時は、連続撮影可能枚数が少なくなります。また、カードに画像を記録する時間が長くなります。
- 撮影条件により、補正効果とともにノイズが強調されることがあります。また、画像に輪郭強調が強くなる場合があります。必要に応じてピクチャースタイルのシャープネスの調整を行ったり、[デジタルレンズオブティマイザ]を[しない]に設定して撮影してください。
- ISO感度が高くなるほど、補正量が少なくなります。
- 動画撮影時は、[デジタルレンズオブティマイザ]は表示されません（補正できません）。
- デジタルレンズオブティマイザの効果は、撮影時の画面では確認できません。

📖 参考

- [デジタルレンズオブティマイザ]を[標準]または[強め]に設定したときは、[色収差補正][回折補正]は表示されませんが、ともに[する]の設定で撮影されます。

色収差補正

被写体の輪郭部分に色のにじみが生じる「色収差」を補正することができます。

参考

- 「デジタルレンズオブティマイザ」を「標準」または「強め」に設定したときは、「色収差補正」は表示されません。

回折補正

絞りの影響により画像の鮮鋭さが低下する「回折現象」を補正することができます。

! 注意

- 撮影条件により、補正効果とともにノイズが強調されることがあります。
- ISO感度が高くなるほど、補正量が少なくなります。
- 動画撮影時は、**[回折補正]**は表示されません（補正できません）。
- 回折補正の効果は、撮影時の画面では確認できません。

📖 参考

- 「回折補正」では回折現象だけでなく、ローパスフィルターなどの影響による解像劣化も補正されます。そのため、開放絞り付近でも補正効果があります。
- **[デジタルレンズオブティマイザ]**を**[標準]**または**[強め]**に設定したときは、**[回折補正]**は表示されません。

レンズ光学補正共通の注意事項

⚠ 注意

- 撮影したJPEG/HEIF画像に、後からレンズ光学補正することはできません。
- 他社製レンズ使用時は、**「補正データあり」**と表示されていても、**「しない」**に設定することをおすすめします。
- 画面の端のほうを拡大表示したときは、記録されない範囲が表示されることがあります。
- 距離情報を持たないレンズを使用したときは、補正量が少なくなります（回折補正を除く）。

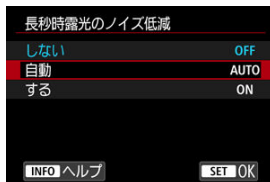
📖 参考

- レンズ光学補正の効果は、使用レンズや撮影条件などにより異なります。また、使用レンズや撮影条件などにより、効果が分かりにくい場合があります。
- 補正の効果が分かりにくいときは、撮影後に画像を拡大して確認することをおすすめします。
- エクステンダーやライフサイズコンバーター装着時にも補正が行われます。
- 補正データがカメラに登録されていないレンズで撮影したときは、補正**「しない」**と同じ撮影結果になります（回折補正を除く）。
- 必要に応じて、EOS Utility使用説明書をあわせて参照してください。

露光時間1秒以上で撮影した画像に対して、長秒時露光特有のノイズ（輝点、縞）を低減することができます。

1. [📷: 長秒時露光のノイズ低減] を選ぶ (🔗)

2. 低減内容を設定する



● 自動

露光時間1秒以上で撮影した画像に対し、長秒時露光特有のノイズが検出された場合に自動低減処理が行われます。通常はこの設定で十分な効果が得られます。

● する

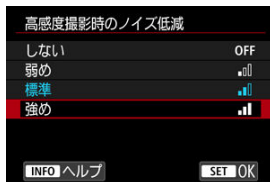
露光時間1秒以上で撮影した画像に対し、常に低減処理が行われます。[自動] で検出できないノイズがあったときに[する] で撮影すると、ノイズを低減できることがあります。

❗ 注意

- [自動] [する] 設定時は、撮影後、ノイズ低減処理のために露光時間と同じ時間が必要となることがあります。
- [しない] [自動] 設定時よりも[する] 設定時の方が、画像のザラつきが多くなることがあります。
- ノイズ低減処理中は、[BUSY] が表示され、処理が終了するまで撮影画面は表示されません（次の撮影はできません）。

画像に発生するノイズを低減することができます。特に高ISO感度撮影時に有効です。低ISO感度撮影時は、低輝度部（暗部）のノイズをさらに低減することができます。

1. [📷: 高感度撮影時のノイズ低減] を選ぶ (🔍、🔍)
2. レベルを設定する



- 弱め、標準、強め

設定の強さに応じて、ノイズ低減処理が行われます。

☑ 事前準備

☑ ダストデリートデータの付加

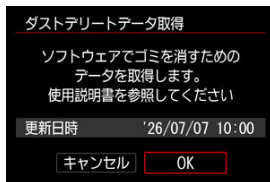
ゴミを消すための情報（ダストデリートデータ）を画像に付加することができます。付加された情報は、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalで、自動ゴミ消し処理を行うときに使われます。

事前準備

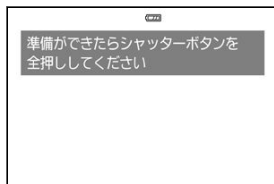
- RFレンズ/EFレンズを使用する。
- 白い無地の被写体（白紙など）を用意する。
- レンズの焦点距離を50mm以上にする。
- 手動ピント合わせ（マニュアルフォーカス）（) に設定して、無限遠（∞）に設定する。距離目盛のないレンズは、正面から見てフォーカシングを時計方向に突き当たるまで回す。

1. [: ダストデリートデータ取得] を選ぶ ()

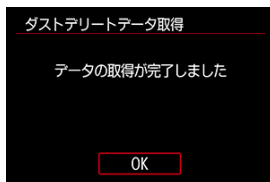
2. [OK] を選ぶ



3. 真っ白な無地の被写体を撮影する



- 20～30cmの距離で、真っ白な無地の被写体（未使用のコピー用紙など）を画面いっぱいに入れて撮影します。
- 画像は保存されませんので、カードが入ってなくてもデータを取得することができます。



- 撮影を行うと、データの取得が始まります。取得が終わると、完了画面が表示されます。
- データが取得できなかったときは、その内容の画面が表示されます。[事前準備](#)の内容を確認し、**[OK]**を選んだあと、もう一度撮影します。

ダストデリートデータの付加

取得したダストデリートデータは、その後に撮影されるすべての静止画に付加されます。撮影の直前にデータを取得することをおすすめします。

なお、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalによる自動ゴミ消し処理については、Digital Photo Professional使用説明書を参照してください。

画像に付加されるダストデリートデータの容量は、画像のファイルサイズにはほとんど影響しません。

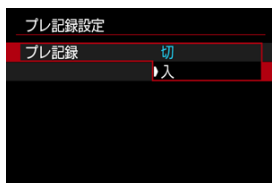
❗ 注意

- 被写体に模様などがあると、その模様がゴミ情報として記録され、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional使用時に、正常なゴミ消し処理が行われないことがあります。
- 以下の条件で撮影された画像には、ダストデリートデータは付加されません。
 - [📷 : HDR] **HDRモード** を [D**レンジ優先**] に設定しているとき
 - [📷 : **レンズ光学補正**] の [歪曲収差補正] を [する] に設定しているとき

プレ記録は、動画撮影を開始する直前から指定した時間だけさかのぼって記録できる機能です。
さかのぼって記録される動画部分を「プレ記録」といいます。プレ記録は動画撮影待機中に自動で行われます。

1. [📷: プレ記録設定] を選ぶ (🔗)

2. [プレ記録] を選ぶ



- [入] を選びます。

3. [記録時間] を選ぶ



- 動画撮影を開始する直前から、さかのぼって記録したい時間を選びます。

4. 動画を撮影する

- 通常の動画撮影と同じ方法で撮影します。
- プレ記録部分の動画が付加されて記録されます。

⚠ 注意

プレ記録中の制限事項

- 以下の項目は動画撮影画面に表示されません。
 - ヒストグラム
 - クイック設定の一部（プレ記録中は機能が制限されます）
- タッチ音が鳴りません。
- 以下の状態または操作をするとプレ記録が一時停止します。停止中は動画撮影画面右上の【PRE  / PRE 】が点滅します。
 - レンズの取り付け／取り外し
 - HDMI接続*
 - カメラ電源のOFF/ON*
 - カードスロットカバーの開閉*
 - カメラのバッテリー残量が低下
 - カメラが高温状態

* この場合の停止中はアイコンは点滅しません。

-  **温度上昇緩和** が **[切]** に固定されます ()。
- **[プレ記録：入]** 設定時の動画撮影待機中に設定変更できる項目は、一部の項目を除き、動画記録中に設定変更できる項目のみです。

参考

- 動画の画像情報（Exif情報）には、動画撮影を開始した時点の情報が記録されます。

ドライブモードが [連] のとき、シャッターボタンの半押し状態を保持してから全押しすると、全押し時からさかのぼった状態から撮影を開始することができます。プリ連続撮影中は撮影画面に [PRE] が表示されます。

1. [カメラ] : プリ連続撮影] を選ぶ (P)

2. [する] を選ぶ



注意

- 4GB以上の空き容量のあるカードを使用してください。
- プリ連続撮影中は、表示される映像の更新が遅くなることがあります。
- レリースタイムラグや連続撮影間隔にばらつきが生じることがあります。
- 撮影可能枚数は、表示されている枚数と異なる場合があります。
- シャッター半押し時に、被写体との距離が急に変わった場合は、ピントが合わないことがあります。
- バッテリー残量が少ない状態でプリ連続撮影を行うと、撮影した画像が正常に記録されないことがあります。
- 1/30より遅いシャッタースピードは設定できません。
- 〈M〉モードでは、ISOオートで撮影することをおすすめします。
- 開放絞り数値が変化するズームレンズでは、シャッターボタン半押しおよび全押し中のズーム操作で露出が変化することがあります。
- カードへの画像記録中は、撮影画面に [PRE] が表示され、一時的にプリ連続撮影ができなくなります。
- 開放絞り数値が変化しないズームレンズでも、半押しおよび全押し中にズーム操作で露出が変化することがあります。詳しくは、キヤノンのホームページを参照してください (P)。
- プリ連続撮影が設定されていると、ストロボ撮影はできません。
- [カメラ] : レンズ光学補正] の [デジタルレンズオプティマイザ] が [強め] に設定されている場合は、[標準] に変わります。

参考

- 電子シャッターで撮影されます。
- さかのぼり可能な時間は、連続撮影速度によって変わります（連続撮影速度が約40コマ/秒のときは、全押しより約0.5秒前）。

一定間隔で撮影した静止画を自動でつなぎ合わせて、動画にすることができます。この機能を使うと、撮影開始から終了までの被写体の変化を、コマ送りのようにして短時間にまとめることができます。景色の変化、植物の成長、星の動きなどの定点観測に効果的です。

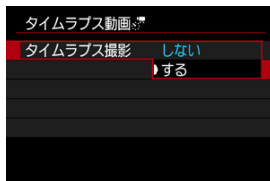
なお、フレームレートは、[: システム周波数] の設定 () により自動的に切り換わります。

1. [: タイムラプス動画] を選ぶ ()

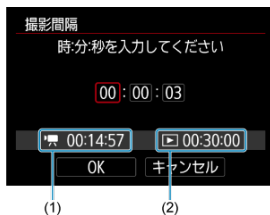
2. [タイムラプス撮影] を選ぶ



3. 項目を選ぶ



4. 撮影間隔を設定する



- [📷] 撮影所要時間 (1)、[▶] 再生時間 (2) を参考にして設定します。
- <ⓘ> を押して <☰> の状態にします。
- <⚙️> <✳️> で数値を設定し <ⓘ> を押します (<□> の状態に戻ります)。
- [OK] を選ぶと設定されます。

5. 撮影回数を設定する



- [] (撮影所要時間) と [] (再生時間) を参考にして設定します。
- 項目 (桁) を選びます。
- < [] > を押して < [] > の状態にします。
- < [] > < [] > で数値を設定し < [] > を押します (< [] > の状態に戻ります)。
- [] (再生時間) が赤く表示されていないことを確認します。
- [OK] を選ぶと設定されます。

参考

- 撮影回数を3600回に設定したときは、NTSC設定時：約2分、PAL設定時：約2分24秒のタイムラプス動画になります。

6. 動画記録サイズを選ぶ

- 設定できる動画記録サイズ（解像度・フレームレート・圧縮方式の組み合わせ）が表示されます。

- [59.94Hz:NTSC] 設定時：

4K 29.97P Intra、FHD 29.97P Intra

- [50.00Hz:PAL] 設定時：

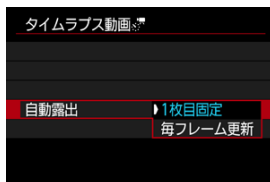
4K 25.00P Intra、FHD 25.00P Intra

7. 動画記録形式を選ぶ



- 設定できる動画記録形式が表示されます。

8. [自動露出] を設定する

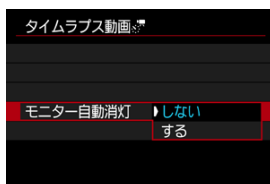


- **1枚目固定**
1枚目を撮影するときに測光が行われ、明るさに応じて露出が自動的に決まります。2枚目以降は1枚目と同じ露出で撮影されます。また、撮影に関する設定も、1枚目と同じ設定で撮影されます。
- **毎フレーム更新**
2枚目以降も毎回測光が行われ、そのときの明るさに応じて露出が自動的に決まります。なお、ピクチャースタイル、ホワイトバランスなどの機能が、[オート] に設定されているときは、2枚目以降も1枚毎に自動更新されます。

⚠ 注意

- [撮影間隔] が3秒以下で、[自動露出] が [毎フレーム更新] に設定されているときに、1フレーム前と明るさが大きく異なるときは、設定した間隔で撮影が行われないことがあります。

9. [モニター自動消灯] を設定する



- **しない**
タイムラプス動画撮影中も、映像が表示されます（撮影のときだけ画面が消灯します）。撮影開始から約30分経過すると、画面が消灯します。
- **する**
撮影開始から約10秒経過すると、画面が消灯します。

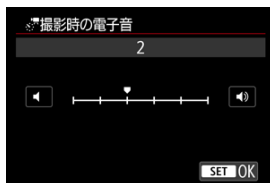
⚠ 注意

- [モニター自動消灯] を [しない] に設定しても、露光中はモニターが消灯します。また、次の撮影までの間隔が短いときは、映像が表示されないことがあります。

📖 参考

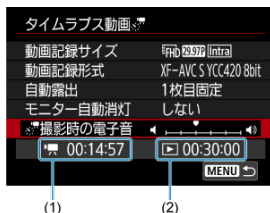
- タイムラプス動画撮影中に〈INFO〉ボタンを押すと、画面を点灯／消灯することができます。

10. [撮影時の電子音] を設定する



- [0] に設定すると、撮影が行われるときに電子音が鳴らなくなります。

11. 設定内容を確認する



- **撮影所要時間 (1)**

撮影間隔、撮影回数をもとに撮影に必要な時間が表示されます。なお、24時間を超えると、「***日」で表示されます。

- **再生時間 (2)**

動画として記録される時間です (= 動画再生に必要な時間)。

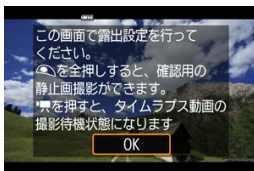
12. メニューを終了する

- 〈MENU〉ボタンを押してメニュー画面を消します。

13. テスト撮影する



- 〈INFO〉ボタンを押して、画面に表示される撮影所要時間（1）と撮影間隔（2）を再確認します。
- 静止画撮影と同じように、露出や撮影機能の設定を行い、〈AF ON〉ボタンを押してピントを合わせます。
- シャッターボタンを全押しすると、テスト撮影が行われ、カードに画像（静止画）が記録されます。
- 以下の画面が表示されたら、撮影結果を確認して〔OK〕を選びます。

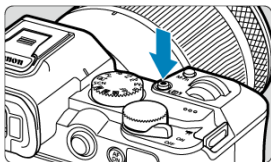


- もう一度テスト撮影するときは、この手順を繰り返します。

参考

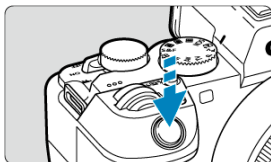
- テスト撮影画像は、JPEG  の画質で記録されます。
- [P] [Tv] [Av] モード、および [M] モード+ISOオートの設定時に、自動設定されるISO感度の上限を、[ISO感度に関する設定] の [ISOオートの上限] で設定することができます ()。
- [動画撮影時シャッターボタンの機能] の [半押し] が、[測光・動画サーボ] に設定されている状態で、タイムラプス動画撮影の設定を行うと、自動的に [測光・ワンショット] に切り換わります。

14. 動画撮影ボタンを押す



- タイムラプス動画の撮影準備状態になります。
- 手順13に戻る時は、もう一度動画撮影ボタンを押します。

15. タイムラプス動画を撮影する



- シャッターボタンを全押しすると、タイムラプス動画撮影が始まります。
- タイムラプス動画撮影中は、AFは行われません。
- タイムラプス動画撮影中は、「●」が表示されます。
- 設定した回数の撮影が終わると、タイムラプス動画撮影が終了します。
- タイムラプス動画撮影を解除するときは、[タイムラプス撮影]を[しない]に設定します。

参考

- 三脚の使用をおすすめします。
- 事前に手順13のテスト撮影や、タイムラプス動画自体のテスト撮影をおすすめします。
- タイムラプス動画撮影を開始したあと、途中で中止するときは、動画撮影ボタンを押します。そのときは、中止したときまでのタイムラプス動画がカードに記録されます。
- 撮影所要時間が24時間超～48時間以下のときは2日と表示されます。3日以上のおきも同じように、24時間単位の基準で表示されます。
- タイムラプス動画の「再生時間」が1秒未満でも、動画ファイルが生成されます。そのときの再生時間は「00'00"」と表示されます。
- 撮影時間が長くなるときは、家庭用電源アクセサリ（別売）の使用をおすすめします。
- カラーサンプリングは、フルHDタイムラプス動画：YCbCr 4:2:0 (8bit)、色空間は、フルHDタイムラプス動画：Rec. ITU-R BT.709で記録されます。

① 注意

- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けしないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- インターフェースケーブルでパソコンと接続しているときや、HDMIケーブルを接続しているときは、タイムラプス動画撮影はできません。
- 動画サーボAFは機能しません。
- シャッタースピードが1/30秒以下のときは、映像の露出が適切に表示されない（実際の撮影結果と異なる）ことがあります。
- タイムラプス動画撮影中は、レンズのズーム操作を行わないでください。ピントがぼけたり、露出が変化したり、レンズ光学補正が適切に行われないことがあります。
- フリッカー光源下でタイムラプス動画撮影を行うと、画面に強いちらつきが発生したり、横縞（ノイズ）や露出ムラが記録されることがあります。
- タイムラプス動画撮影時に表示される映像と、実際の撮影結果は異なることがあります（フリッカーによるちらつきや、高ISO感度撮影時のノイズなど）。
- 暗い撮影条件下でタイムラプス動画撮影を行ったときは、撮影中に表示される映像と、実際の撮影結果が異なることがあります。そのときは「Exp.SIM」マークが点滅します。
- タイムラプス動画撮影中にカメラを左右に動かし（パンニング）、動きのある被写体を撮影すると、像が強くゆがんで写ることがあります。
- タイムラプス動画撮影中は、オートパワーオフは機能しません。また、撮影機能やメニュー機能の設定、画像再生などの操作はできません。
- タイムラプス動画に音声は記録されません。
- タイムラプス動画撮影時は、「：動画撮影時シャッターボタンの機能」の設定に関わらず、シャッターボタンを全押しすると、動画撮影を開始／終了することができます。
- 「撮影間隔」が3秒以下で、「自動露出」が「毎フレーム更新」に設定されているときに、1フレーム前と明るさが大きく異なるときは、設定した間隔で撮影が行われないことがあります。
- 長秒時露光など、シャッタースピードが撮影間隔より長く設定されているときや、遅いシャッタースピードが自動設定されたときは、設定した間隔で撮影できないことがあります。また、シャッタースピードが撮影間隔と近いときも、撮影が行われないことがあります。
- 次の撮影が行われるタイミングで撮影できないときは、その回の撮影がキャンセルされます。そのため、生成される動画の記録時間が短くなることがあります。
- 撮影機能の設定やカードの性能などにより、カードに記録する時間が撮影間隔よりも長いときは、設定した間隔で撮影できないことがあります。
- 撮影画像は静止画としては記録されません。1枚だけ撮影したあと、撮影を中止しても動画ファイルとして記録されます。
- カメラをEOS Utilityなどのソフトウェアと接続して使用するときは、「：タイムラプス動画」を「しない」に設定してください。「しない」以外を選択しているときは、ソフトウェアと接続できません。
- タイムラプス動画撮影中は、手ブレ補正機能は作動しません。
- 電源スイッチ〈OFF〉などを行ったときは、タイムラプス動画撮影が終了し、設定が「しない」になります。
- ストロボを使用しても発光しません。

- 次の操作を行うと、タイムラプス動画の撮影準備状態が解除され、設定が[しない]になります。
 - [カメラの初期化]の[基本設定]を選んだとき
 - モードダイヤルをくSCNくS&Fに変更したとき
- 白い[100] (100%)が表示されている状態で、タイムラプス動画撮影を開始すると、タイムラプス動画の画質が低下することがあります。白い[100]が消えてから(カメラ内部の温度が下がってから)撮影開始することをおすすめします。
- [自動露出]を[毎フレーム更新]に設定して撮影したときは、撮影モードにより、タイムラプス動画の画像情報(Exif情報)に、ISO感度、シャッタースピード、絞り数値が記録されないことがあります。

参考

ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1使用時

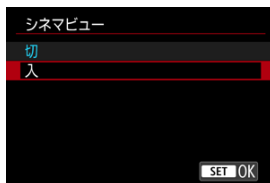
- あらかじめ、ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1とペアリングを行ってください (100%)。
- テスト撮影を行い、カメラを撮影準備状態 (100% 手順14の状態) にしたあと、BR-E1の撮影タイミング/動画撮影切り換えスイッチを、く●く即リリース(すぐに撮影)、またはく2く2秒後リリース(2秒後撮影)に設定してください。
- リモコンのスイッチがく100%くに設定されているときは、タイムラプス動画撮影を開始することはできません。

カメラの状態/リモコン設定	く●くすぐに撮影 く2く2秒後撮影	く100%く動画撮影
テスト撮影画面	テスト撮影	撮影待機状態へ
撮影待機状態	撮影開始	テスト撮影画面へ
タイムラプス動画撮影中	撮影終了	撮影終了

映画のような画角とフレームレートでの動画撮影ができます。

1. [📷: シネマビュー] を選ぶ (🔗)

2. [入] を選ぶ



- 2.35 : 1のシネマスコープ画角で撮影されます。
- 16 : 9の画面の上下に黒い帯が表示された状態で記録されます。
- フレームレートは、23.98fps (NTSC) /25.00fps (PAL) に固定されます。

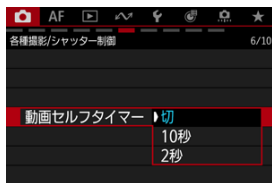
参考

- カラーフィルターを使用して、より映画のような雰囲気にすることができます (🔗)。

セルフタイマーを使って動画撮影を開始することができます。

1. [📷: 動画セルフタイマー] を選ぶ (🔍)

2. 項目を選ぶ



3. 撮影する

- 動画撮影ボタンを押すか、[●] にタッチすると、画面に撮影開始までの秒数が表示され、電子音が鳴ります。

参考

- セルフタイマー撮影を途中で中止するときは、モニターにタッチするか、<📺>を押します。

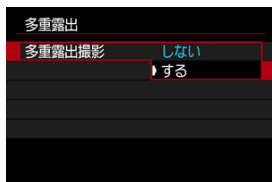
☑ [カードに記録されているJPEG画像に重ね合わせる](#)

☑ [撮影途中の画像確認と画像消去](#)

複数の画像（2～9枚）を重ね合わせた写真を、画像の重なり具合を確認しながら撮影することができます。連続撮影時は連続撮影速度が遅くなります。

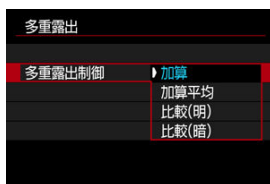
1. ：多重露出］を選ぶ（）

2. 〔多重露出撮影］を設定する



- 〔する〕を選び、〈〉を押します。
- 多重露出撮影をやめるときは、〔しない〕を選びます。

3. [多重露出制御] を設定する



- 露出の重ね合わせ方を選び、 を押します。

- **加算**

撮影した画像の露出を加算して重ね合わせます。[重ねる枚数] に応じて、マイナス補正を行ってください。露出補正量の目安は以下のとおりです。

重ねる枚数と露出補正量の目安

「2枚：-1段」「3枚：-1.5段」「4枚：-2段」

- **加算平均**

[重ねる枚数] に応じて自動的にマイナス補正を行いながら、画像を重ね合わせます。同じ構図で撮影したときは、被写体の背景が標準露出になるように自動露出制御が行われます。

- **比較(明)／比較(暗)**

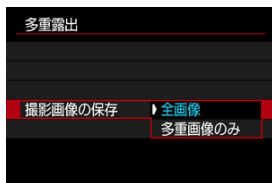
ベースになる画像と重ね合わせる画像を同じ位置で明るさ(暗さ)比較して、明るい(暗い)部分を残します。重なる色によっては、明るさ(暗さ)の割合に応じて、色が混ざり合うことがあります。

4. [重ねる枚数] を設定する



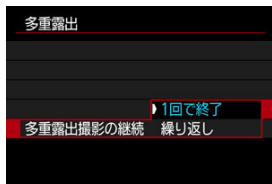
- 枚数を選び を押します。

5. 保存する画像を設定する



- 重ね合わせる画像と、多重露出画像の両方を保存するときは、[全画像]を選び、〈〉を押します。
- 多重露出画像だけを保存するときは、[多重画像のみ]を選び、〈〉を押します。

6. [多重露出撮影の継続]を設定する



- 内容を選び、〈〉を押します。
- [1回で終了]を選んだときは、撮影が終了すると、多重露出撮影が自動的に解除されます。
- [繰り返し]を選んだときは、手順2で[しない]を選ぶまで多重露出撮影が続きます。

7. 1枚目を撮影する



- 撮影した画像が表示されます。
- [] が点滅します。
- 多重露出撮影の残り枚数は、画面に表示される (1) で確認することができます。
- < [] > ボタンを押すと、撮影した画像を確認することができます ()。

8. 2枚目以降を撮影する

- 撮影済の画像が重なって表示されます。< INFO > ボタンを (何回か) 押すと、映像だけを表示することができます。
- 設定した枚数を撮影すると、多重露出撮影が終了します。

注意

- 多重露出撮影は、被写体や撮影条件により、ノイズ、色味の変化、縞などが目立つようになる場合があります。
- 多重露出撮影は、重なる枚数が多いほど、ノイズ、色ムラ、縞が目立つようになります。
- 電源スイッチ < OFF >、バッテリー交換、カード交換を行うと、多重露出撮影が解除されます。
- 撮影モードを < [A+] > < C1 > < C2 > < C3 > にする、または動画撮影に切り換えると、多重露出撮影が終了します。
- カメラとパソコンを接続しているときは、多重露出撮影はできません。なお、撮影中に接続すると多重露出撮影が終了します。
- [多重露出撮影] を [しない] 以外に設定すると、[カメラアイコン] : [表示フレームレート設定] が [なめらかさ優先] に固定されます。

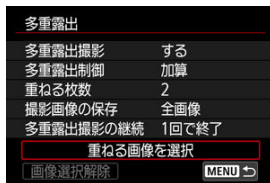
参考

- 撮影途中で  ボタンを押すと、撮影済の多重露出画像を確認したり、直前に撮影した画像を消去することができます 。
- 最後に撮影したときの撮影情報が多重露出画像に記録されます。

カードに記録されているJPEG画像に重ね合わせる

カードに記録されているJPEG画像を1枚目に指定して、多重露出撮影を行うことができます。選択したJPEG画像はそのまま残ります。

1. 「重ねる画像を選択」を選ぶ



2. 1枚目の画像を選ぶ

- 〈〉を回して1枚目に指定する画像を選び、〈〉を押します。
- [OK] を選びます。
- 選択中の画像番号が、画面の下側に表示されます。

3. 撮影する

- 画像を選択すると、残り撮影枚数は「**重ねる枚数**」で設定した枚数よりも1枚少なくなります。

選択できる画像

1枚目に選択したJPEG画像と同じ画角で撮影されたJPEG画像を選択することができます。

● フルサイズの画角で撮影された画像

RFLレンズ/EFレンズを使用し、[📷: 静止画クロップ/アスペクト] を [フルサイズ] に設定して撮影した画像

● APS-Cサイズの画角で撮影された画像

- RFLレンズ/EFレンズを使用し、[📷: 静止画クロップ/アスペクト] を [1.6倍 (クロップ)] に設定して撮影した画像
- RF-S/EF-Sレンズで撮影した画像

⚠ 注意

- 以下の画像は選択できません。
 - RAWおよびHEIF画像
 - 画像サイズがM/S1/S2のJPEG画像
 - [📷: 静止画クロップ/アスペクト] を [フルサイズ] [1.6倍 (クロップ)] 以外に設定した画像
 - 他のカメラで撮影した画像
- 重ね合わせに使用できない画像が表示されることがあります。

📖 参考

- 多重露出撮影を行ったJPEG画像を選ぶこともできます。
- [画像選択解除] を選ぶと、指定が解除されます。
- 色空間は、1枚目に指定した画像と同じ設定で撮影されます。

撮影途中の画像確認と画像消去



設定した枚数の撮影が完了する前に〈〉ボタンを押すと、撮影途中の（多重）画像が表示され、重なり具合や、露出などを確認することができます。

この状態で〈〉ボタンを押すと、撮影途中に操作できる項目が表示されます。

項目	内容
 前の画面に戻る	〈  〉ボタンを押す前の画面に戻ります。
 1枚戻る	直前に撮影した画像を消去します（撮影のやり直し）。残り撮影枚数が1枚増えます。
 保存して終了	〔撮影画像の保存：全画像〕 設定時は、途中まで撮影した全画像と、多重露出画像を保存して終了します。 〔撮影画像の保存：多重画像のみ〕 設定時は、途中まで撮影した多重露出画像だけを保存して終了します。
 保存しないで終了	撮影した画像を保存しないで終了します。

⚠ 注意

- 多重露出撮影中は、多重露出画像以外の再生はできません。

? こんなときは

- 記録画質に制限はありますか？

多重露出画像は[]のJPEG画像で記録されます。[: 記録画質]がRAWのみの場合も、[]のJPEG画像で記録されます。

- カードに記録されている画像に重ね合わせたい

[重ねる画像を選択]で、多重露出1枚目の画像を選択することができます ()。カードに記録されている画像どうしを重ね合わせることができません。

- 多重露出画像の画像番号はどうなりますか？

全画像を保存する設定のときは、多重露出画像を生成するために撮影した最終画像の続き番号で、多重露出画像が保存されます。

- 多重露出撮影中にオートパワーオフ機能は作動しますか？

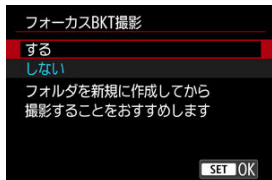
多重露出撮影中にオートパワーオフは機能しません。なお、多重露出撮影を開始する前は[: 節電]の[オートパワーオフ]の設定時間で自動的に電源が切れ、多重露出の設定は解除されます。

フォーカスBKT*1撮影は、1回のリリースで自動的にピント位置を変えながら連続撮影を行う機能です。撮影した画像から広い範囲でピントの合った画像を生成することができます。また、深度合成機能のあるEOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalなどを使用して画像を合成することもできます。

*1 「BKT」はBracketing（ブラケットング）の略です。

1. ：フォーカスBKT撮影）を選ぶ（）

2. 「フォーカスBKT撮影」を設定する



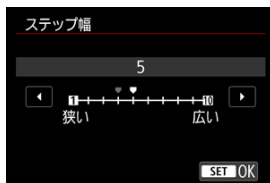
- 「する」を選びます。

3. 「撮影回数」を設定する



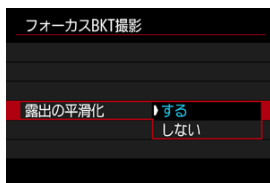
- 1度に撮影する回数（枚数）を設定します。
- 「2」～「999」回の範囲で設定することができます。

4. [ステップ幅] を設定する



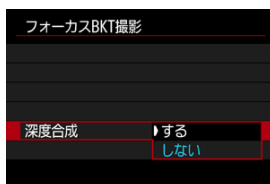
- ピントを移動する幅を設定します。ピントの移動幅は撮影時の絞り数値に応じて自動で調整されます。
なお、絞り数値を大きくすると、ピントの移動幅が大きくなるため、同じステップ幅と撮影回数の設定で、より広い範囲のフォーカスブラケット撮影が行われます。
- 設定が終わったら、〈〉を押します。

5. [露出の平滑化] を設定する



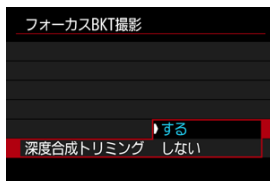
- [する] を選んだときは、カメラに表示される絞り数値と、ピント位置により変化する実際の絞り数値（実効FNo.）との差を調整して、フォーカスブラケット撮影中の画像の明るさの変化を抑えることができます。
- [しない] を選んだときは、フォーカスブラケット撮影中の画像の明るさの変化を補正しません。撮影した画像をDigital Photo Professional () での深度合成以外に利用するなど、用途に合わせて選択してください。

6. [深度合成] を設定する



- [する] を選択すると、カメラで深度合成を行います。深度合成された画像と、撮影した画像が保存されます。
- [しない] を選択すると、深度合成を行いません。撮影した画像だけ保存されます。

7. [深度合成トリミング] を設定する



- [する] を選択すると、合成処理の画像位置合わせ時に画角が不足していたときに、不足した画角をカットするように画像をクロップし、合成します。
- [しない] を選択すると、画像をクロップせずに合成します。

8. 撮影する

- 撮影した画像を新規フォルダに保存するときは、画面の  をタッチし、[OK] を選びます。
- ピントを合わせたい範囲の近距離側にピントを合わせ、シャッターボタンを全押しします。
- 撮影が開始されたら、シャッターボタンから指を離します。
- 無限遠側にピント位置を移動しながら連続撮影が行われます。
- 設定した枚数になったとき、またはピント位置が無限遠に達すると、撮影は終了します。
- 撮影を中止するときは、シャッターボタンを再度全押しします。

❗ 注意

- フォーカスブラケット撮影は、三脚を使用して、静止した被写体を撮影する機能です。
- 目的とする画角より広めに撮影することをおすすめします。深度合成後は必要に応じてトリミングしてください。
- この機能に対応したレンズについては、キヤノンのホームページを参照してください (🌐)。
- 適切な【ステップ幅】は被写体により異なります。【ステップ幅】が適切でないときは、合成した画像ムラが生じたり、撮影枚数が多くなり撮影の終了までに時間がかかることがあります。事前にテスト撮影を行って【ステップ幅】の目安を確認しておくことをおすすめします。
- ストロボ撮影はできません。
- フリッカー光源下では、画像にムラが発生することがあります。そのときは、シャッタースピードを遅くすることで緩和されることがあります。
- 手動ピント合わせ (マニュアルフォーカス) (🔍) に設定しているときは、フォーカスブラケット機能は使用できません。
- 撮影を中止したときは、最後の画像の露出が不完全になります。Digital Photo Professionalで画像を合成するときは、最後に撮影された画像を使用しないでください。
- フォーカスブラケット撮影時は、シャッタースピードの上限が1/8000に設定されます。
- 深度合成処理中にバッテリー収納部ふたやカードスロットカバーを開けたり、電池残量がなくなったりすると、合成処理がキャンセルされます。キャンセル時は合成画像は保存されません。
- 格子模様、ストライプ模様のような繰り返しパターンや、画面全体が平坦で単調な画像は、深度合成に失敗することがあります。
- 複数枚の画像を撮影する際、ピント合わせは手前から奥へ向かって順に行ってください。
- 複数枚の画像を撮影する際に、ピントの移動幅を大きくしすぎると、深度合成した画像にムラが発生したり、合成が失敗したりすることがあります。
- 深度合成は、静止した被写体の画像の合成を前提としています。そのため、動いている被写体を撮影した画像では、上手く合成できないことがあります。
- 画像内に複数の被写体がある場合、被写体間の距離が離れているなど、被写体の配置状態によっては深度合成が失敗することがあります。
- 深度合成処理中に〈INFO〉ボタンを押すと、合成をキャンセルすることができます。キャンセル時は、撮影した画像は全て保存されますが、合成画像は保存されません。
- 深度合成は、撮影した画像の中から最適な画像を選択して合成を行います。撮影した画像がすべて合成されるわけではありません。

📖 参考

- 三脚、リモートスイッチ (別売/🔍)、ワイヤレスリモートコントローラー (別売/🔍) などの使用をおすすめします。
- 絞り数値を、F5.6〜F11の範囲で設定して撮影することをおすすめします。
- シャッタースピード、絞り数値、ISO感度などは1枚目の条件で固定されます。
- 電源スイッチを〈OFF〉にすると、[📷: フォーカスBKT撮影] が [しない] になります。

深度合成時の記録画質の設定と保存される画像

- 合成画像は、JPEGまたはHEIF、記録画質はLで保存されます。RAWの合成画像は作成されません。

メニューからドライブモードの項目が選べます。項目については「ドライブモードの選択」を参照してください (🔗)。

1. [📷: ドライブモード] を選ぶ (🔗)
2. 項目を選ぶ



- ☒ [撮影間隔](#)
- ☒ [撮影回数](#)
- ☒ [撮影開始タイマー](#)
- ☒ [撮影間隔優先](#)
- ☒ [露出の平滑化](#)

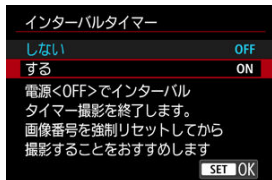
インターバルタイマー機能を使用すると、撮影間隔、撮影回数、撮影開始タイマーを任意に設定して、一定間隔で1枚撮影を繰り返すことができます。
撮影モードが〈Fv〉〈P〉〈Tv〉〈Av〉〈M〉のいずれかのときには、撮影間隔優先と露出の平滑化の有無を設定できます。タイムラプス動画用の静止画素材を撮影するときに便利です。

1. [📷: インターバルタイマー] を選ぶ (🔍)

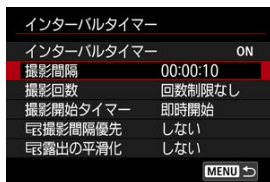
2. [インターバルタイマー] を選ぶ



3. [する] を選ぶ



4. 項目を設定する



- [撮影間隔](#)
- [撮影回数](#)
- [撮影開始タイマー](#)
- [撮影間隔優先](#)
- [露出の平滑化](#)

5. 撮影する

- 1枚目が撮影され、以降は設定した内容でインターバルタイマー撮影が行われます。
- インターバルタイマー撮影中は、[**TIMER**] が点滅します。
- 設定した回数の撮影が終わると、インターバルタイマー撮影が終了し、自動的に解除されます。

参考

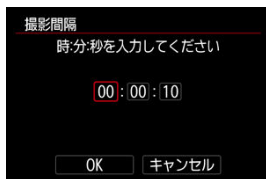
- 三脚の使用をおすすめします。
- 事前にテスト撮影することをおすすめします。
- 撮影前に必要に応じて、[ :  画像番号] で強制リセットしておくことをおすすめします。撮影後の編集作業がしやすくなります。
- インターバルタイマー撮影を開始したあとも、シャッターボタンを全押しすると、通常の撮影を行うことができます。ただし、次のインターバルタイマー撮影の約5秒前になると、撮影機能の設定、メニュー操作、画像の再生などの操作や表示が中断され、撮影準備状態になります。
- 次のインターバルタイマー撮影が行われるタイミングで撮影しているときや、画像処理中のときは、その回のインターバルタイマー撮影がキャンセルされます。そのため、設定した撮影回数より少ない枚数の静止画が記録されます。
- インターバルタイマー中は、[ : 節電] の [オートパワーオフ] が [しない] 以外に設定されているときは、約8秒間何も操作しないと、オートパワーオフが機能します。
- AEBやWBブラケットング、多重露出と合わせて撮影することもできます。
- インターバルタイマー撮影を途中で終了するときは、[しない] に設定するか、電源スイッチを〈OFF〉にします。

❗ 注意

- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- フォーカスモードがAFに設定されているときは、AFでピントが合わないと撮影が行われません。マニュアルフォーカスに設定し、手動でピントを合わせてから撮影することをおすすめします。
- 撮影時間が長くなるときは、家庭用電源アクセサリ（別売）の使用をおすすめします。
- 長秒時露光など、シャッタースピードが撮影間隔より長く設定されているときは、設定した間隔で撮影できません。そのため、設定した撮影回数より少ない枚数の静止画が記録されます。また、シャッタースピードが撮影間隔とほぼ同じ（近い）ときも、撮影枚数が少なくなることがあります。
- 撮影機能の設定やカードの性能などにより、カードに記録する時間が撮影間隔よりも長いときは、設定した間隔で撮影できないことがあります。
- ストロボを使用してインターバルタイマー撮影を行うときは、ストロボの充電に必要な時間よりも長い撮影間隔を設定してください。撮影間隔が短いと、ストロボなしで撮影が行われることがあります。
- 撮影間隔が短いときは、撮影が行われなかったり、AFが行われずに撮影されることがあります。なお、**[撮影間隔優先]**を**[する]**に設定すると、撮影間隔が維持されやすくなります。
- 以下のいずれかの操作をすると、インターバルタイマーが解除され、設定が**[しない]**になります。
 - 電源スイッチを**〈OFF〉**にした
 - モードダイヤルを**〈B〉〈C1〉〈C2〉〈C3〉**に変更した
 - 動画撮影へ切り換えた
 - EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使用した
- インターバルタイマー撮影開始後は、リモコン撮影やEOS用外部ストロボによるリモートレリーズ撮影はできません。
- RFレンズの使用をおすすめします（RF75-300mm F4-5.6を除く）。
- **〈Av〉〈M〉**モードの使用をおすすめします。

撮影間隔

撮影間隔を [00 : 00 : 01] ~ [99 : 59 : 59] の範囲で設定することができます。



- 項目（時：分：秒）を選びます。
- 〈〉を押して [] の状態にします。
- 数値を設定し、〈〉を押します（[] の状態に戻ります）。
- [OK] を選んで設定を変更します。

撮影回数

撮影回数を〔0001〕～〔9999〕の範囲で設定することができます。〔回数制限なし〕にチェックを入れたときは、撮影回数制限なしで、インターバルタイマー撮影を終了するまで撮影が継続します。



- 項目（桁）を選びます。
- 〈〉を押して〔〕の状態にします。
- 数値を設定し、〈〉を押します（〔〕の状態に戻ります）。
- [OK] を選んで設定を変更します。

撮影開始タイマー

撮影開始までの待ち時間を [00 : 00 : 01] ~ [99 : 59 : 59] の範囲で設定することができます。

シャッターボタンを全押ししてから設定した時間が経過したあとに、撮影が開始されます。
[即時開始] にチェックを入れたときは、タイマーなしで即時撮影が開始されます。



- 項目（時：分：秒）を選びます。
- 〈〉を押して [↑] の状態にします。
- 数値を設定し、〈〉を押します（[□] の状態に戻ります）。
- [OK] を選んで設定を変更します。

[する] を選ぶと、設定した撮影間隔を維持できるようにシャッター速度が自動的に制限されます。暗いシーンでシャッター速度が長くなることによるコマ落ち（撮影間隔に間に合わず撮影できない状態）を防止できます。

! 注意

- EFレンズ使用時や以下の設定や機能などでの撮影時は、[する] を選んでいても、設定した間隔で撮影できないことがあります。
 - [AF: サーボAF1コマ目リリース] の [バランス重視] [ピント優先]
 - [AF: ワンショットAF時のリリース] の [ピント優先]
 - [📷: HDR] HDRモード
 - [📷: DPRAW設定]
 - [📷: レンズ光学補正] の [デジタルレンズオプティマイザ] が [強め]
 - 多重露出撮影などの合成時
 - インターバルタイマー撮影中にカメラ操作をした場合
- 撮影間隔が1秒の場合は、撮影直後の画像を表示することができません。
- [📷: シャッター方式] が [電子シャッター $\frac{1}{8000}$] に固定されます。
- [📷: 表示Simulation] の設定が [露出+絞り] に固定されます。
- [📷: OVFBビューアシスト] の設定が [切] に固定されます。

[する] を選ぶと、撮影した画像間での露出変化が抑制されます。撮影後の編集作業で静止画からタイムラプス動画を作成する際に、露出変化によるちらつきを軽減することができます。

! 注意

- カラーフィルター設定時は、正しく機能しないことがあります。
- オートパワーオフは機能しません。撮影開始タイマー使用時、インターバルタイマー撮影を開始するまでは、オートパワーオフが作動します（8秒）。
- [📷: シャッター方式] が [電子シャッター $\frac{1}{25}$] に固定されます。
- [📷: 表示Simulation] の設定が [露出+絞り] に固定されます。
- [📷: OVFビューアシスト] の設定が [切] に固定されます。
- HDR撮影など、一部の機能では露出の変化によるちらつきが抑制できないことがあります。
- シャッターボタン全押しで撮影された画像でも、露出変化が抑制されます。

バルブ撮影時の露光時間をあらかじめ設定することができます。この機能を使うと、バルブ撮影中にシャッターボタンを指で押している必要がなくなるため、カメラブレを低減することができます。

なお、バルブタイマーは、〈B〉（バルブ撮影）以外の撮影モードでは設定できません（機能しません）。

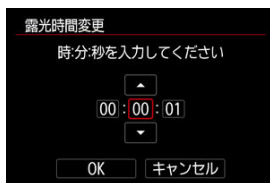
1. [📷: バルブタイマー] を選ぶ (🔍)

2. [する] を選ぶ



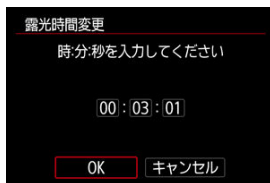
- [する] を選び、〈INFO〉ボタンを押します。

3. 露光時間を設定する



- 項目（時：分：秒）を選びます。
- 〈🔍〉を押して [📷] の状態にします。
- 数値を設定し、〈🔍〉を押します（[📷] の状態に戻ります）。

4. [OK] を選ぶ



5. 撮影する

- シャッターボタンを全押しすると、設定した時間、バルブ撮影が行われます。
- バルブタイマー撮影中は、画面に [**TIMER**] と露光時間が表示されます。
- 設定を解除するときは、手順2で [**しない**] を選びます。

⚠ 注意

- バルブタイマー作動中にシャッターボタンを全押しして指を離すと、バルブタイマー撮影が終了します。
- 露光開始からシャッターボタンを全押しし続けたときは、設定した露光時間が経過してもバルブ撮影が継続します（設定した露光時間で自動的にバルブ撮影は終了しません）。
- 撮影モードを変更したときは、バルブタイマーが解除されます（設定が [**しない**] になります）。

カメラのシャッター音や操作音とストロボなどの発光を禁止します。
以下の設定に固定されます。

- シャッター方式：[電子シャッター $\frac{1}{8000}$]
- シャッター音、合焦音：ヘッドフォンにのみ出力
- タッチ音、セルフタイマー音：鳴らない
- 長秒時露光のノイズ低減：[しない]
- ストロボの発光：[しない]
- AF補助光の投光：[しない]
- セルフタイマー／リモコンランプ：点灯しない

フォーカスプリセット機能を備えたレンズを使用するときは、フォーカスプリセットの電子音をオフに設定することをおすすめします。

1. [📷：サイレントシャッター機能] を選ぶ (🔍)

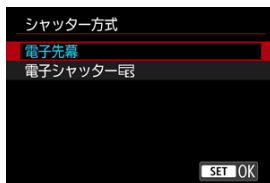
2. [入] を選ぶ



シャッター方式を選ぶことができます。

1. [📷: シャッター方式] を選ぶ (🔗)

2. 項目を選ぶ



● 電子先幕

先幕シャッターが電子シャッター、後幕シャッターがメカシャッターで動作します。

● 電子シャッター

シャッター作動時の音や振動を、電子先幕よりも抑えることができます。

明るいレンズの絞りを開いて撮影するときを選ぶことをおすすめします。

最高シャッタースピードを電子先幕よりも速く設定できます。

- [📷] [📷H] では、シャッターボタン全押し時に、画面内に白枠が点滅表示されます。
- シャッター作動時は電子音が鳴ります。なお、[🔊: 電子音] で電子音を切ることができます。

ⓘ 注意

- [電子先幕] 設定時に、高速シャッタースピード、絞り開放付近で撮影したときは、撮影条件によりボケ像が欠けて写ることがあります。なお、ボケ像の写り方が気になるときは、以下のいずれかの方法で撮影すると改善することがあります。
 - [電子先幕] 以外で撮影する
 - シャッタースピードを遅くする
 - 絞り数値を大きくする
- [📷: サイレントシャッター機能] を [入] に設定しているとき、シャッター方式は [電子シャッター] になります。
- 連続撮影中にズーム操作を行うと、レンズによっては、F値が一定でも露出が変化することがあります。詳しくは、キヤノンのホームページを参照してください (🌐)。

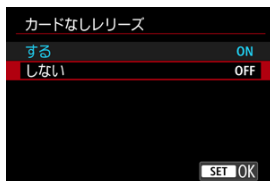
[電子シャッター] 設定時の注意事項

- 撮影条件により、連続撮影速度が低下することがあります。
- 〈P〉モード (プログラムAE)、〈Tv〉モード (シャッター優先AE)、〈Fv〉モード (フレキシブルAE) で絞り数値が変化する場合は、適正露出で撮影されないことがあります。
- 使用するレンズや撮影条件により、レンズのフォーカス駆動音や、絞りの駆動音がすることがあります。
- 電子シャッター撮影中に他のカメラのストロボが発光したときや、蛍光灯などのフリッカー光源下で電子シャッター撮影を行ったときは、画面に光の帯や、明暗差による縞が記録されることがあります。
- フリッカー光源下では、ファインダーやモニターに縞が見えることがあります。

「しない」に設定すると、カードを入れ忘れた状態での撮影を防ぐことができます。

1. 「 : カードなしリリース」を選ぶ (🔗)

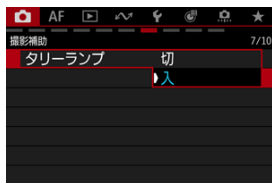
2. 「しない」を選ぶ



タリーランプの点灯または点滅により、カメラの状態を確認することができます。

1. [📷: タリーランプ] を選ぶ (🔗)

2. 項目を選ぶ



- [入] のときは、タリーランプが以下のように点灯または点滅します。

点灯時	動画撮影中
点滅時（高速）	- バッテリー残量の低下やカードの容量不足などにより、動画撮影ができない - 高温下や長時間の動画撮影などにより、カメラ内部の温度が上昇した
点滅時（低速）	動画撮影可能な時間が6分未満になった

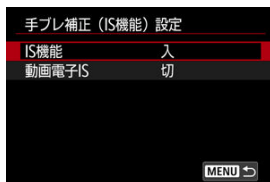
[焦点距離設定](#)

手ブレ補正機能（IS機能）を使用して、動画撮影時または静止画撮影時の手ブレを低減することができます。動画撮影時と静止画撮影時で、使用できる機能が異なります。

1. ：手ブレ補正（IS機能）設定］を選ぶ（、）

2. 項目を選んで設定する

動画撮影時



静止画撮影時



IS機能（動画／静止画）（)

カメラの手ブレ補正機能（IS機能）を使用して、撮影時の手ブレを低減することができます。IS機能が搭載されていないレンズを使用するときは、[IS機能]を[入]に設定してください。IS機能が搭載されたレンズでは、カメラとレンズのIS機能で手ブレ補正が行われます。手ブレ補正スイッチのないIS機能搭載レンズを使用するときは、[IS機能]を[入]にします。なお、手ブレ補正スイッチのあるIS機能搭載レンズでは、[IS機能]の項目は灰色で表示されます。レンズの手ブレ補正スイッチを〈ON〉にすると、カメラとレンズのIS機能による手ブレ補正が行われます。

動画電子IS（動画／静止画）

動画撮影時に、電子式手ブレ補正機能を使用した手ブレ補正を行います。

- **手ブレ補正：切**

動画電子ISによる手ブレ補正は行われません。

- **手ブレ補正：入**（)

手ブレ補正が行われます。映像がやや拡大されます。

- **手ブレ補正：強**（)

[入]設定時より、大きな手ブレを補正することができます。映像がさらに拡大されます。

- **手ブレ補正：強+**（)

[強]設定時より、大きな手ブレ（早歩きするときなど）を補正することができます。映像がさらに拡大されます。4K動画撮影時のみ設定できます。

なお、大きな手ブレを伴う撮影では広角レンズを装着しておく、より補正の効果が向上します。

- **被写体追尾**（)

画面内の被写体の位置を安定させながら、手ブレ補正を行います。

動画電子ISに対応したレンズを装着し、[IS機能]を[入]に、[動画電子IS]を[被写体追尾]に設定します。

追尾する被写体にタッチすると、追尾フレーム（ロック状態）[]が表示され、被写体追尾ISが開始されます。

〈INFO〉ボタンを押して、被写体の位置設定を選びます。

- [画面中央]では、追尾中の被写体を、画面の中央付近に保持するような補正を行います。
- [選択位置]では、撮影時に被写体をタッチしたときの位置に保持するような補正を行います。

静止画IS（静止画）

[常時]を選ぶと、常に手ブレ補正が機能します。[撮影時のみ]を選ぶと、撮影される瞬間のみ手ブレ補正が機能します。

❗ 注意

- 画角が広い（広角な）ほど手ブレ補正効果は大きくなり、画角が狭い（望遠な）ほど、手ブレ補正効果は小さくなります。
- 三脚使用時は〔切〕に設定することをおすすめします。
- TS-Eレンズや魚眼レンズ使用時、〔切〕に設定することをおすすめします。
- レンズの種類によっては、十分な手ブレ補正効果が得られないことがあります。
- 手ブレ補正スイッチのあるレンズを装着時、スイッチを〈OFF〉にすると、画面は手ブレ補正前の状態に戻ります。このとき、補正の状況によっては画面の揺れが大きく見える場合があります。
- ライブビューの状態、揺れない場所にしばらく置いてから使用すると、安定した効果が得られます。

動画電子IS

- レンズの（光学式）手ブレ補正スイッチが〈OFF〉のときは、動画電子ISは機能しません。
- 手ブレ補正機能を搭載していないレンズを装着しているときは、〔動画電子IS〕を〔切〕以外に設定すると、〔IS機能〕も〔入〕になります。
- RF-S/EF-Sレンズ使用時、および動画クロップ撮影時も、動画電子IS機能を使用した動画撮影ができますが、撮影範囲がさらに狭くなります。
- 100.0fps以上のフレームレートに設定して、マクロレンズの最短撮影距離付近で撮影する場合、動画電子ISによる手ブレ補正効果が十分に得られないことがあります。
- 動画記録サイズの設定により、動画電子ISの手ブレ補正効果が小さくなることがあります。
- 被写体や撮影条件によっては、動画電子ISの効果により、被写体のブレが目立つ（被写体が一瞬ボケたように見える）ことがあります。
- 映像が拡大されるため、映像が粗くなります。また、ノイズや輝点などが目立つことがあります。

被写体追尾IS

- 追尾する被写体の選択方法については、「ボタンでトラッキング」と「検出する被写体」を参照してください (🔍、👤)。
- 追尾対象のロックが解除されたときは、再度被写体を追尾対象としてロックしてください。
- 次のような被写体や撮影条件のときは、被写体の追尾が適切に行われないことがあります。
 - 明暗差（コントラスト）が極端に低い被写体
 - 暗い場所にある被写体
 - 強い逆光状態、または光の反射が強い被写体
 - 追尾対象となりうる被写体が画面内に2つ以上あるとき
 - 追尾対象の被写体またはその一部が隠れているとき
 - 被写体の大きさに変動があるとき
 - 被写体の色や明るさに変化があるとき
 - 姿勢が変わる頻度が多い被写体
 - カメラの動かし方が速すぎる／遅すぎるとき
 - 被写体の動きにカメラの動かし方があっていないとき
 - レンズの焦点距離が長いとき
- 被写体の位置を安定させる効果は、画角が広くなる（広角側）ほど高くなり、画角が狭くなる（望遠側）ほど低くなります。
- 映像が拡大されるため映像が粗くなります。また、ノイズや輝点などが目立つことがあります。
- RF-S/EF-Sレンズ使用時、および動画クローズアップ撮影時も、被写体追尾ISを使用した動画撮影ができますが、撮影範囲がさらに狭くなります。

参考

- 移動しながら人物と風景を交互に撮影するときなどは、[手ブレ補正動画] (📹) を使用することをおすすめします。
- 被写体追尾IS機能を使用するときは、追尾中の被写体が以下の場所に保持されるように、カメラをなめらかに動かして撮影することをおすすめします。
[画面中央] 設定時：画面の中央部付近
[選択位置] 設定時：タッチしたときの位置
- レンズによっては、レンズの手ブレ補正機能と、カメラの「IS機能」および「動画電子IS機能」が協調して作動することで、より高い手ブレ補正効果を得ることができます（手ブレ補正のアイコンに「+」が付加された状態で表示されます）。この機能に対応したレンズについては、キヤノンのホームページを参照してください (🌐)。

被写体追尾IS

- 被写体追尾ISが機能しているとき、被写体追尾ISのアイコンが白色で表示されます。機能していないときは灰色で表示されます。

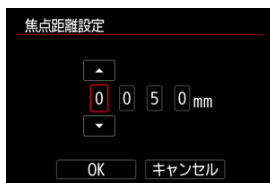
焦点距離設定

レンズ通信非対応のレンズ装着時にレンズの焦点距離情報を設定することで、設定した焦点距離に合わせた手ブレ補正を行うことができます。

1. 「焦点距離設定」を選ぶ



2. 焦点距離を設定する



- 〈〉を回して、焦点距離の桁を選びます。
- 〈〉を押して  の状態にします。
- 数値を設定し 〈〉を押します ( の状態に戻ります)。

3. [OK] を選ぶ

❗ 注意

- [ : レンズなしリリース] を [する] に設定してください。[しない] 設定時は手ブレ補正は機能しません。
- レンズ通信に対応したレンズを装着したときは、[焦点距離設定] は表示されません。

 参考

- 焦点距離は1～1000mm（1mm単位）の範囲で設定することができます。

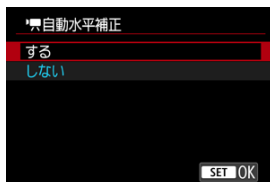
動画を撮影するときに、画面を水平に保つように補正します。

⚠ 注意

- [📷: 手ブレ補正 (IS機能) 設定] の [動画電子IS] を [切] に設定してください。

1. [📷: 自動水平補正] を選ぶ (🔍、🔍)

2. 項目を選ぶ

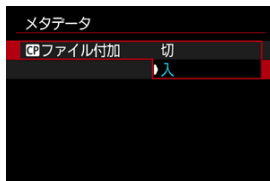


[カスタムピクチャーファイル付加](#)

【 : カラーモード】の【カスタムピクチャー】が選ばれているときは、【ファイル付加】を【入】にすることで、動画ファイルにカスタムピクチャーファイルを付加することができます。

カスタムピクチャーファイル付加

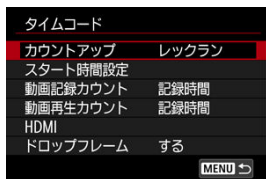
1. 【 : メタデータ】を選ぶ ()
2. 【ファイル付加】を選ぶ
3. 項目を選ぶ



- ☒ [カウントアップ](#)
- ☒ [スタート時間設定](#)
- ☒ [動画記録カウント](#)
- ☒ [動画再生カウント](#)
- ☒ [HDMI](#)
- ☒ [ドロップフレーム](#)
- ☒ [User Bitタイプ](#)

タイムコードとは、動画撮影時に映像に同期して自動的に記録される時間軸のことです。「時／分／秒／フレーム」の単位で常時記録されます。主に撮影した動画を編集するときに利用します。

[ : タイムコード] でタイムコードを設定することができます。



注意

- 撮影した動画をこのカメラ以外で再生したときは、タイムコードが適切に表示されないことがあります。

カウントアップ

- レックラン

動画撮影しているときだけ、タイムコードのカウントが進みます。撮影した動画ファイルの順でタイムコードが連続します。

- フリーラン

動画撮影をしていないときも、タイムコードのカウントが進みます。

⚠ 注意

- [フリーラン] 設定時に時刻／エリア／サマータイムの設定を変更すると (⚙)、タイムコードに影響が生じます。

スタート時間設定

タイムコードの起点（スタート時間）を設定することができます。

- **手動入力設定**

「時：分：秒：フレーム」を任意に設定することができます。

- **リセット**

〔手動入力設定〕〔カメラ時間に設定〕で設定した時間がリセットされ、「00:00:00.」または「00:00:00:」になります (🔍)。

- **カメラ時間に設定**

カメラに設定されている「時：分：秒」に設定されます。「フレーム」は「00」に設定されます。

動画記録カウント

動画撮影画面に表示する内容を選ぶことができます。

- **記録時間**

撮影待機状態では、撮影可能時間が表示されます。また、撮影状態では撮影開始からの経過時間が表示されます (1)。

- **タイムコード**

動画撮影時にタイムコードが表示されます (2)。



動画再生カウント

動画再生画面に表示する内容を選ぶことができます。

- **記録時間**

動画再生時に撮影時間または再生時間が表示されます。

- **タイムコード**

動画再生時にタイムコードが表示されます。



参考

- タイムコードは、[動画記録カウント] の設定に関わらず、動画ファイルに常時記録されます。
- [📷: タイムコード] の [動画再生カウント] と [▶️: 動画再生カウント] は、設定が連動して切り換わります。
- 動画撮影時、および動画再生中は、「フレーム」は表示されません。

● タイムコード

HDMI出力時の映像にタイムコードを付加することができます。

● 切

HDMI出力映像にタイムコードは付加されません。

● 入

HDMI出力映像にタイムコードが付加されます。[入] に設定すると、[記録コマンド] が表示されます。

● 記録コマンド

HDMI出力した映像を外部記録機器に記録する際に、カメラの動画撮影開始/停止と、外部記録機器の記録を同期させることができます。

● 切

外部記録機器側で記録開始/停止を行います。

● 入

動画撮影開始/停止と外部記録機器の記録が同期します。

! 注意

- 使用する外部記録機器が[タイムコード][記録コマンド]に対応しているかどうかについては、外部記録機器メーカーに確認してください。
- [タイムコード]を[切]に設定していても、外部記録機器側の仕様により、映像にタイムコードが付加されることがあります。HDMI入力時のタイムコードの仕様については、外部記録機器メーカーに確認してください。

ドロップフレーム

フレームレートの設定が、**119.9P** (119.9fps)、**59.94P** (59.94fps)、**29.97P** (29.97fps) のときに、タイムコードでフレームをカウントすると、実際の時間とタイムコードで差が生じます。[する] 設定時はこの差が自動的に補正されます。

- **する**

タイムコードを間引く補正が自動的に行われます (DF: ドロップフレーム)。

- **しない**

補正は行われません (NDF: ノンドロップフレーム)。

なお、タイムコードは次のように表示されます。

- **する (DF)**

00:00:00. (再生時 : 00:00:00.00)

- **しない (NDF)**

00:00:00: (再生時 : 00:00:00:00)



参考

- フレームレートが**23.98P** (23.98fps) 設定時、および [**🔊: システム周波数**] が [**50.00Hz: PAL**] に設定されているときは、[**ドロップフレーム**] の項目は表示されません。

User Bitタイプ

タイムコードのUser Bitに、任意の情報（8桁の16進数、時刻、日付のいずれか）を付加することができます。



● 手動設定

「手動設定」を選び、〈INFO〉ボタンを押して設定します。



- 〈〉を回して設定したい桁を選び、〈〉を押します。〈〉を回してデータを選び、〈〉を押して確定します。
- 0～9の数字とA～Fのアルファベットが入力できます。
- 〈INFO〉ボタンを押すと、すべての桁を0に設定します。
- [OK] を選ぶと設定が適用されます。

● 時刻

カメラに設定されている「時：分：秒」を記録します。23時59分59秒の場合、「00 23 59 59」が記録されます。

● 日付

カメラに設定されている日付を記録します。2024年5月19日の場合、「20 24 05 19」が記録されます。

シャッターボタンを半押ししたときなどに自動的に作動する「測光タイマー」の作動時間（露出値の表示時間／AEロック時の保持時間）を設定することができます。

1. [📷: 測光タイマー] を選ぶ (🔍、🔍)

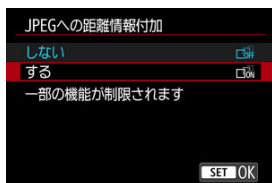
2. 時間を設定する



DPRAW撮影で同時記録したJPEG画像に距離情報を付加することができます。Dual Pixel 3D ConverterでJPEG画像から3Dモデルを作成するときに活用できます。
対応レンズ、推奨撮影条件などの情報は、Dual Pixel 3D Converterの使用説明書を参照してください。

1.  : JPEGへの距離情報付加 を選ぶ (🔗)

2. [する] を選ぶ



3. 撮影する

⚠ 注意

- 撮影した画像をリサイズやトリミングなどを行った場合、加工後の画像には距離情報は引き継がれません。
- 撮影後に距離情報を付加し、カードに画像を記録するまでは時間がかかります。画像処理中は、画面に「BUSY」が表示され、処理が終わるまで次の撮影はできません。
- **[低速連続撮影]** 設定時の連続撮影速度は通常よりも遅くなります。
- 〈Fv〉〈Av〉〈M〉モードを使用することをおすすめします。

参考

- [する] を選ぶと、以下の機能が制限されます。
 - [📷: 記録画質] はRAW画像+JPEG画像のみ設定可能
 - [📷: 静止画クロップ/アスペクト] は[フルサイズ] または [1.6倍(クロップ)] のみ設定可能

距離情報を付加する画像の撮影条件

- Dual Pixel 3D Converterに最適なJPEG画像を撮影するには、以下の条件をおすすめします。
 - 焦点距離 : 24mm以上
 - 絞り数値 : F5.6以下
 - ISO感度 : ISO 1600以下
 - 撮影距離 : 焦点距離の5倍以上10倍以下
 - 構図 : 被写体を中央に配置、被写体が反射・透明体・微細形状ではないこと、前ボケ・手ブレ・被写体ブレがないこと
- [JPEGへの距離情報付加] に対応したレンズについては、キヤノンのホームページで確認してください (🔗)。

☑ [撮影画像の確認時間](#)

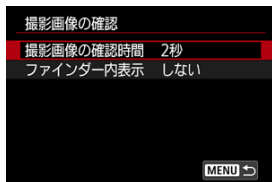
☑ [ファインダー内表示](#)

撮影画像の確認時間

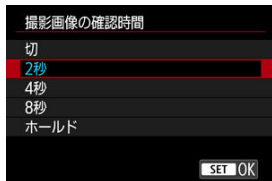
撮影直後に、撮影画像を表示したままにするときは【ホールド】、撮影画像を表示しないようにするときは【切】に設定します。

1. : 撮影画像の確認】を選ぶ (Ⓢ)

2. 【撮影画像の確認時間】を選ぶ



3. 時間を設定する



参考

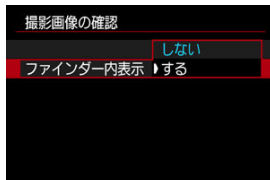
- [ホールド] に設定すると、[🔌 : 節電] の [モニターオフ] で設定した時間まで画像が表示されます。

ファインダー内表示

撮影直後に、ファインダー内に撮影画像を表示する場合は「**する**」に設定します。

1. **📷: 撮影画像の確認** を選ぶ (🔍)

2. **「ファインダー内表示」** を選ぶ



- 項目を選びます。

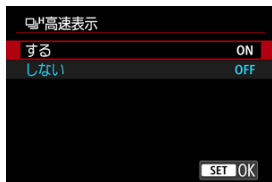
参考

- 「**ファインダー内表示**」の設定は、「**撮影画像の確認時間**」が「**切**」以外のときに機能します。

電子シャッター以外のシャッター方式で、ドライブモードを[H]（高速連続撮影）で撮影するときに、撮影結果と映像を交互に表示する「高速表示」を選ぶことができます。

1. [ : H高速表示] を選ぶ ()

2. 項目を選ぶ



- [する] を選ぶと、撮影中に撮影結果と映像を交互に表示します。

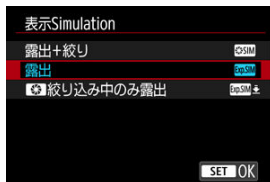
⚠ 注意

- 高速表示中は、像のゆれやちらつきが発生します。特に速いシャッタースピードでの撮影で発生しやすくなります。ただし、撮影結果への影響はありません。
- シャッタースピードが1/30秒より遅いとき、絞り数値がF11よりも大きいとき、AFでピントが合いにくいとき、ストロボ撮影時、ISO感度拡張時は高速表示は行われません。また、撮影中に高速表示が行われなくなることがあります。
- 以下の場合、高速表示は設定できません。
 - [ : OVFBビューアシスト] が [入] のとき
 - [ : 表示Simulation] が [しない] または [ 絞り込み中のみ露出] のとき

表示Simulation（シミュレーション）は、実際の撮影結果（露出）に近い明るさや、被写界深度をシミュレートして映像を表示する機能です。

1. [📷: 表示Simulation] を選ぶ (🔗)

2. 項目を選ぶ



● 露出+絞り (SIM)

実際の撮影結果（露出）に近い明るさと被写界深度で表示されます。露出補正を行うと、補正量に応じて映像の明るさが変わります。また、絞り数値を変えると被写界深度が変わります。

● 露出 (Exp SIM)

実際の撮影結果（露出）に近い明るさで表示されます。露出補正を行うと、補正量に応じて映像の明るさが変わります。

● 📷 絞込み中のみ露出 (Exp SIM)

通常は、映像が見やすいように、標準的な明るさで表示されます。絞り込みボタンを押している間は、実際の撮影結果（露出）に近い明るさで表示され、被写界深度を確認することができます。

● しない (OFF)

映像が見やすいように、標準的な明るさで表示されます。露出補正を行っても、標準的な明るさで表示されます。

ⓘ 注意

- ストロボ使用時は、[ 絞込み中のみ露出] の設定のみ有効となります。

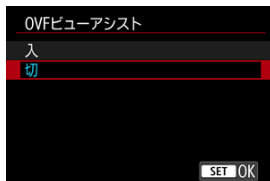
【露出+絞り】について

- シャッタースピードの状態によっては、フリッカーが発生することがあります。
- EFレンズを使用しているときは、リリースタイムラグが長くなることがあります。
- 表示される被写界深度は目安です。被写界深度をより正確に確認したいときは、絞り込みボタンを押してください。
- レンズによっては、【露出+絞り】の設定ができません。
- 露出、絞り込みの両方、またはいずれかのシミュレーションが行われていないときは、[ SIM] が点滅します。
- 露出、絞り込みの両方、またはいずれかのシミュレーションが停止しているときは、[ SIM] がグレーで表示されます。
- 一部のレンズでは、ズーム操作により露出が変化することがあります。詳しくは、キヤノンのホームページを参照してください (🌐)。
- シャッターボタンを半押しすると、絞り込みは解除されます。

静止画撮影時のファインダーまたはモニターの表示を、光学ファインダーのように自然な見え方の画像にすることができます。[入] のときは、表示される画像と撮影結果が異なる場合があります。

1.  : OVFビューアシスト を選ぶ ()

2. 項目を選ぶ



注意

- [入] に設定すると、 : 表示Simulation は [しない] になります。
- [入] に設定してHDR撮影を行うときは、OVFビューアシストの表示になります。
- 外部モニターに表示する場合、カメラのモニターや外部モニターの表示はOVFビューアシストの表示になりません。
- 設定画面によっては、OVFビューアシストで表示されない場合があります。
- 光学ファインダーでの見え方と異なる場合があります。
- ドライブモードとシャッター方式の組み合わせによっては、連写中に見え方が変わることがあります。

参考

- 多重露出撮影時は設定できません。

[☑ ビューアシスト表示の条件](#)[☑ ビューアシスト表示の設定](#)

[ :  **HDR撮影(PQ)**] でのHDR撮影 () や、カスタムピクチャー () を適用した撮影を行うときに、カメラのファインダーやモニター、またはHDMI接続したHDR非対応ディスプレイでの表示を、HDR対応ディスプレイに表示された時の印象に近づけることができます。

! 注意

- 動画撮影時は、表示された映像と記録された映像の状態が異なります。

ビューアシスト表示の条件

- [ :  **HDR撮影(PQ)**] で [**HDR PQ**] を設定したとき
- [**カスタムピクチャー**] で [**Gamma/Color Space**] を以下の設定にしたとき
 - Canon Log 3 / C.Gamut
 - PQ / BT.2020
 - HLG / BT.2020

* HLGはHybrid Log-Gammaの略です。
- [Lookファイルの登録](#)で、以下のガンマ/色空間を選んでから [**Look File**] を [**入**] にしたとき
 - HDR PQ(BT.2100)
 - HDR HLG(BT.2100)

1. [📷:📺▶ HDR/C.Logビューアシスト] を選ぶ (🔍、🔍)

2. 表示先を選ぶ



● 📷/📺

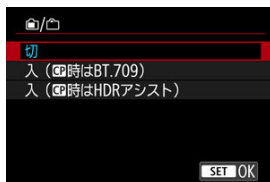
モニター [📺] とファインダー [📷] で、ビューアシスト表示を行います。

● HDMI

HDMI接続されたHDR非対応ディスプレイで、ビューアシスト表示を行います。

3. 項目を選ぶ

モニター／ファインダーの場合



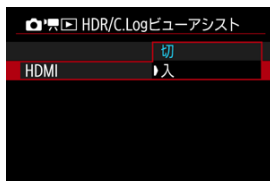
- **入 (CP時はBT.709)**

[HDR PQ] の設定時は、HDR対応ディスプレイに表示された時と印象が近づくように変換された画像が表示されます。
カスタムピクチャーの適用時は、標準的なガンマ／色空間への簡易的な変換が行われた画像が表示されます。

- **入 (CP時はHDRアシスト)**

[HDR PQ] の設定時は、HDR対応ディスプレイに表示された時と印象が近づくように変換された画像が表示されます。
カスタムピクチャーの適用時は、中間輝度の被写体がHDR対応ディスプレイに表示された時と印象が近づくような変換が行われた画像が表示されます。

[HDMI] の場合



- **[入] を選びます。**

❗ 注意

- [📷: OVFビューアシスト] が [入] のときは、OVFビューアシストの表示になります。

参考

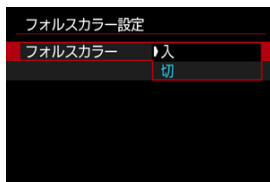
- ビューアシスト表示のときは、情報表示画面に **[[V Assist]]** が表示されます。
- 拡大時もビューアシスト表示が行われます。
- ビューアシスト表示の設定は、記録される画像には影響しません。

[フォルスカラーの表示](#)

動画撮影モード時に、輝度レベルに応じて6つの色を割り当てた映像をモニターに表示します。露出を調整するときに役立ちます。

1.  「フォルスカラー設定」を選ぶ (🔗)

2. 「フォルスカラー」を選ぶ



- 「入」を選びます。

3. 露出を補正する (🔗)

- [フォルスカラーの表示](#)を参考にして調整します。

フォルスカラーの表示

カメラのモニターの映像に対し、フォルスカラーの表示をすることができます。フォルスカラーの表示内容については、**「フォルスカラーインデックス」**でも確認することができます。

色	意味
赤	White clipping（白クリップ）
黄	Just below white clipping（白クリップの直ぐ下）
ピンク	One stop over 18% gray（18%グレイより1段高いグレイ）
緑	18% gray（18%グレイ）
青	Just above black clipping（黒クリップの直ぐ上）
紫	Black clipping（黒クリップ）
無彩色	上記以外の明るさ

❗ 注意

- 撮影待機状態と動画撮影中で画面が切り換わる時や、撮影機能の設定によって、輝度レベルの色が変化することがあります。
- フォルスカラー設定時は、以下の機能は使用できません。
 - カラーフィルター
 - オートライティング最適化
 - ゼブラ表示
 - HDR/C.Logビューアシスト
 - MFピーキング

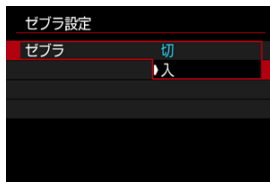
📖 参考

- **「📷: HDMI接続時の表示」**が **「🖥️」** のときは、HDMI接続された外部モニターに実際の映像が表示されます（カメラのモニターには映像は表示されません）。
- **「📷: HDMI接続時の表示」**が **「🖥️」** 以外のときは、カメラのモニターにフォルスカラーの表示が行われ、HDMI接続された外部モニターには実際の映像が表示されます。

動画記録中や動画モード待機中、設定輝度の箇所・周辺に、露出調整の目安となる縞模様を表示させることができます。

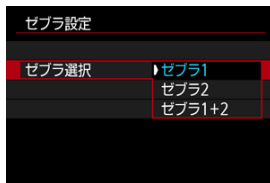
1. [📷: ゼブラ設定] を選ぶ (🔗)

2. [ゼブラ] を選ぶ



- [入] を選びます。

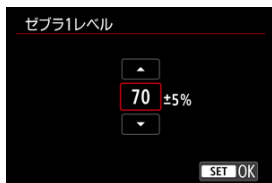
3. [ゼブラ選択] を選ぶ



- [ゼブラ1] を選ぶと、設定輝度値の周辺範囲を左上から右下への斜線で表示します。
- [ゼブラ2] を選ぶと、設定輝度値以上の範囲を左下から右上への斜線で表示します。
- [ゼブラ1+2] を選ぶと、[ゼブラ1]、[ゼブラ2] の両方を表示します。
[ゼブラ1] と [ゼブラ2] の表示領域が重なる場合は、[ゼブラ1] を優先して表示します。

4. レベルを設定する

ゼブラ1レベル



ゼブラ2レベル



- 〈〉を回すか、〈〉を上下に押してレベルを変更します。
- 変更が終わったら、〈〉を押します。



参考

- HDR-PQ設定時、最大輝度値は100%にはなりません。なお、[：高輝度側・階調優先] や [ピクチャースタイル] の設定により最大輝度値は異なります。
- [ゼブラ選択] を設定するとき、ゼブラ表示されるレベルを事前に確認することをおすすめします。
- [カスタムピクチャー] のガンマ設定が [Canon Log 3] のときは、最大輝度値が100%にはなりません。

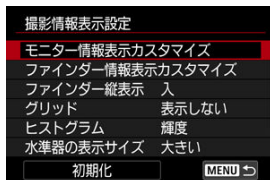
撮影情報表示設定

- ☒ [モニター情報表示カスタマイズ](#)
- ☒ [ファインダー情報表示カスタマイズ](#)
- ☒ [ファインダー縦表示](#)
- ☒ [グリッド](#)
- ☒ [ヒストグラム](#)
- ☒ [水準器の表示サイズ](#)
- ☒ [カードの空き容量 \(%\) 表示](#)
- ☒ [レンズ情報表示設定](#)
- ☒ [3Dトリミング枠](#)
- ☒ [記録中の強調表示](#)
- ☒ [アスペクトマーカ設定](#)
- ☒ [設定の初期化](#)

撮影時にモニターまたはファインダーに表示する画面や情報などをカスタマイズすることができます。

1. [📷: 撮影情報表示設定] を選ぶ (🔍、🔍)

2. [モニター情報表示カスタマイズ] を選ぶ



3. 画面を選ぶ



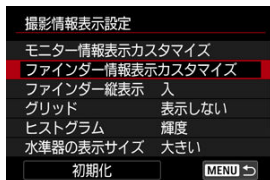
- <🔍> を回すか、<⌘> を上下に押してモニターに表示する画面を選びます。
- 非表示にする画面は、<🔍> を押して [✓] を外します。
- <INFO> ボタンを押すと画面の編集ができます。

4. 画面を編集する



- 〈〉を回すか、〈〉を上下に押してモニターに表示する項目を選びます。
- 非表示にする項目は、〈〉を押して〔✓〕を外します。
- [OK] を選ぶと設定されます。

1. [📷: 撮影情報表示設定] を選ぶ (🔍、🔍)
2. [ファインダー情報表示カスタマイズ] を選ぶ



3. 画面を選ぶ



- 〈🔍〉を回すか、〈※〉を上下に押してファインダーに表示する画面を選びます。
- 非表示にする画面は、〈🔍〉を押して [✓] を外します。
- 〈INFO〉ボタンを押すと画面の編集ができます。

4. 画面を編集する

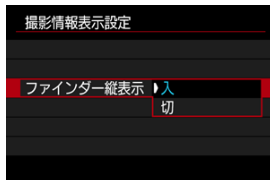


- 〈〉を回すか、〈〉を上下に押してファインダーに表示する項目を選びます。
- 非表示にする項目は、〈〉を押して〔✓〕を外します。
- [OK] を選ぶと設定されます。

静止画を縦位置で撮影するときの、ファインダーの情報表示の状態を選ぶことができます。

1. [📷: 撮影情報表示設定] を選ぶ (🔗)

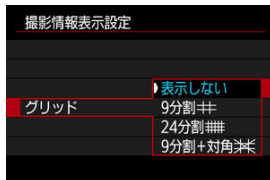
2. [ファインダー縦表示] を選ぶ



- 入
情報表示を自動回転して見やすく表示することができます。
- 切
情報表示の自動回転は行われません。

モニターにグリッドを表示することができます。

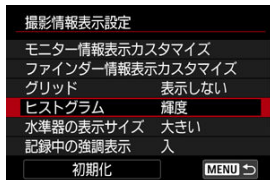
1. [📷: 撮影情報表示設定] を選ぶ (🔍、🔍)
2. [グリッド] を選ぶ



ヒストグラムの表示内容と表示サイズを選ぶことができます。

1. [📷: 撮影情報表示設定] を選ぶ (🔍、🔍)

2. [ヒストグラム] を選ぶ



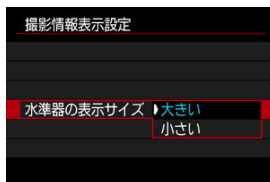
3. 項目を選ぶ



- 表示内容 ([輝度] または [RGB]) と表示サイズ ([大きい] または [小さい]) を選びます。

水準器の表示サイズを選ぶことができます。

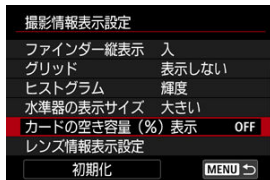
1. [📷: 撮影情報表示設定] を選ぶ (🔍、🔍)
2. [水準器の表示サイズ] を選ぶ



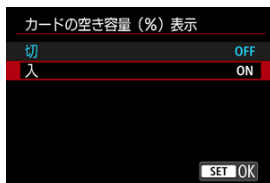
カードの空き容量を画面上に表示することができます。

1. [📷: 撮影情報表示設定] を選ぶ (🔗)

2. [カードの空き容量（％）表示] を選ぶ



3. [入] を選ぶ

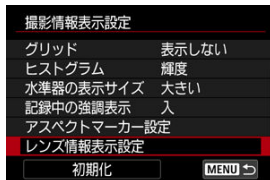


参考

- 静止画撮影時およびカードへの書き込み時は、空き容量ではなく撮影可能枚数が表示されます。

使用しているレンズの情報を表示することができます。

1. [📷: 撮影情報表示設定] を選ぶ (🔍、🔍)
2. [レンズ情報表示設定] を選ぶ



3. 項目を選ぶ



- **撮影距離表示設定**

RFレンズ／RF-Sレンズを使用しているときに、撮影距離を表示することができます。撮影距離の表示は、タイミングと単位を選ぶことができます。

- **焦点距離表示**

使用しているレンズの焦点距離を表示することができます。

- **SA可変量表示**

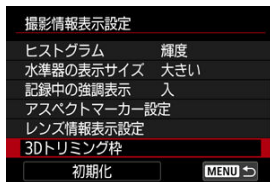
球面収差（SA）の可変機能を搭載したレンズを使用しているときに、設定した収差量を表示することができます。

* SAはSpherical Aberration（球面収差）の略です。

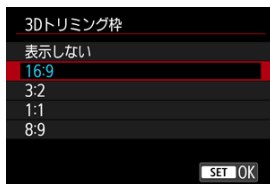
RF-S7.8mm F4 STM DUALで動画撮影後の編集で画像のトリミングをする場合に、撮影時から編集後の画角を意識できるよう、動画撮影画面（撮影待機状態および動画撮影中）に3Dトリミング枠を表示させることができます。

1. [📷: 撮影情報表示設定] を選ぶ (🔍、🔍)

2. [3Dトリミング枠] を選ぶ

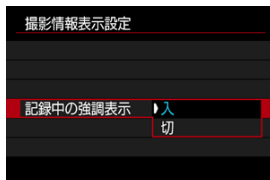


3. 項目を選ぶ



1. [📷: 撮影情報表示設定] を選ぶ (🔗)

2. [記録中の強調表示] を選ぶ

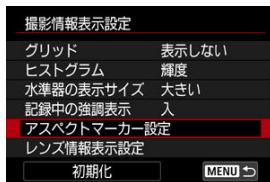


- 入
動画撮影中は、画面外周に赤色の強調枠が点灯します。
- 切
強調枠の表示は行われません。

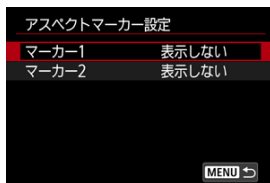
動画撮影後の編集で画像のアスペクト比を変更する場合に、撮影時から編集後の画角を意識できるよう、動画撮影画面（撮影待機状態および動画撮影中）にアスペクトマーカ―（最大2つ）を表示させることができます。

1. [📷: 撮影情報表示設定] を選ぶ (🔗)

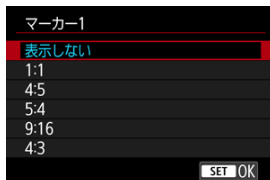
2. [アスペクトマーカ―設定] を選ぶ



3. アスペクトマーカ―を選ぶ



4. 項目を選ぶ



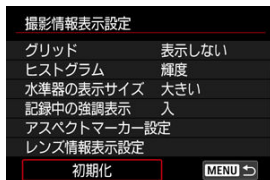
- 表示内容を選びます。

参考

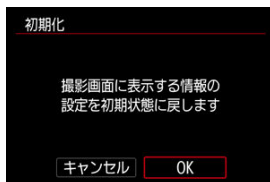
- 動画再生時には表示されません（撮影した動画にアスペクトマーカ情報は付加されません）。
- マーカー2は、マーカー1と異なる色で表示されます。

1. [📷: 撮影情報表示設定] を選ぶ (🔍、🔍)

2. [初期化] を選ぶ



3. [OK] を選ぶ



動画撮影時にクイック設定画面 (📷) に表示する画面を変更することができます。

1. [📷: クイック設定画面] を選ぶ (📷)

2. 表示する画面を選ぶ



- 〈⚙️〉を回すか、〈※〉を上下に押してクイック設定画面に表示する項目を選びます。
- 非表示にする項目は、〈📷〉を押して [✓] を外します。すべての項目の [✓] を外すことはできません。
- [OK] を選べると設定されます。

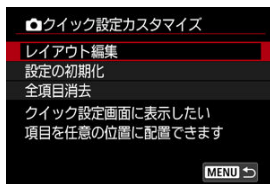
クイック設定画面の初期化／全項目消去

クイック設定で表示する項目や並び順のカスタマイズができます。

1. クイック設定カスタマイズ を選ぶ ()

- 動画撮影モードのときは、 クイック設定カスタマイズ [Q1] を選びます ()。

2. [レイアウト編集] を選ぶ



3. 削除する項目を選ぶ



-   を回すか、 を上下左右に押して削除する項目を選び、 を押します。
- クイック設定に表示されている項目にはチェックが付いています。チェックが付いていない項目が削除対象です。

4. 追加する項目を選ぶ



- 〈〉〈〉を回すか、〈〉を上下左右に押して追加する項目を選び、〈〉を押します。
- 〈INFO〉ボタンを押すと並び順を変更することができます。

5. 並び順を変更する

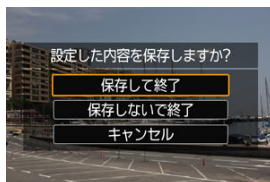


- 〈〉を回すか、〈〉を上下に押して並び順を変更する項目を選び、〈〉を押します。



- 〈〉を回すか、〈〉を上下に押して並び順を変更し、〈〉を押します。
- 〈MENU〉ボタンを押すと設定が終了します。

6. 「保存して終了」を選ぶ

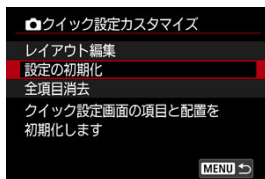


7. 確認する



- 〈〉を押して設定した内容を確認します。

クイック設定画面の初期化／全項目消去

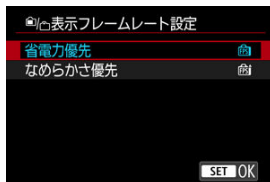


- 「設定の初期化」を選ぶと、クイック設定画面の項目と配置が初期状態に戻ります。
- 「全項目消去」を選ぶと、配置されている項目がすべて削除され、〈〉を押してもクイック設定画面が表示されなくなります。

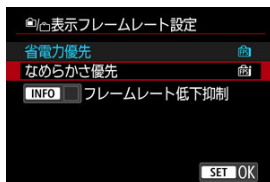
静止画撮影時の撮影画面について、表示フレームレートを設定することができます。省電力を優先するか、高フレームレートを優先するかを選びます。

1. [📷: 📺表示フレームレート設定] を選ぶ (🔍)

2. 項目を選ぶ



[なめらかさ優先] 設定時



- 〈INFO〉ボタンを押してチェックを付けると、暗い場所でもフレームレートの低下を抑えた撮影画面を表示することができます。

 注意

- [フレームレート低下抑制] で撮影画面表示を行う場合、暗い場所で以下の現象が発生することがあります。
 - バッテリーが早く消耗する
 - 撮影可能枚数が少なくなる
 - 表示される画像の輝度が低くなる
 - AFが合いにくくなる
 - 測光の精度が低下する
 - フリッカー検知の精度が低下する
 - 被写体検出の精度が低下する

ファインダー内の表示のしかたを選ぶことができます。

1. [📷: ファインダー表示形式] を選ぶ (🔍、🔍)

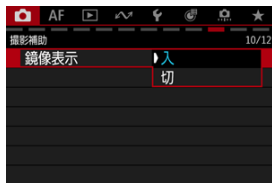
2. 項目を選ぶ



モニターを被写体側（レンズ側）に向けて撮影を行う際に、映像を鏡像表示（左右反転）させることができます。

1. [📷: 鏡像表示] を選ぶ (🔗、🔗)

2. [入] を選ぶ

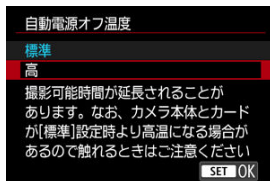


- [切] を選ぶと、モニターを被写体側に向けても鏡像表示は行われません。

カメラ本体が高温になったときに自動でカメラの電源オフを行う温度上限を設定することができます。標準より高く設定すると、動作制限を一部解除して撮影可能時間を延長できます。

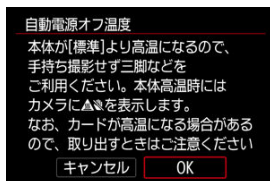
1. [📷: 自動電源オフ温度] を選ぶ (🔍、🔍)

2. [高] を選ぶ



- [高] にすると、温度上限が標準よりも高く設定されます。

3. [OK] を選ぶ



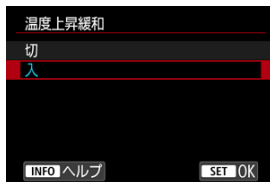
注意

-  **自動電源オフ温度** を **〔高〕** に設定すると、カメラ本体、およびカードがより高温になることがあります。
 - カメラ本体が高温になると、画面に  が表示されます。
 - 低温やけどなどの原因になる可能性がありますので、手持ちで撮影することは避けて、三脚などのご使用をおすすめします。
 - 撮影直後はカードに触れないでください。カードが高温になり、やけどの原因となる場合があります。温度が下がってからカードを取り出してください。

[入] にすると消費電力を抑え、撮影待機状態のカメラ内部の温度上昇を抑えます。
これにより動画の撮影時間が長くなることがあります。

1. [📷: 温度上昇緩和] を選ぶ (🔗)

2. 項目を選ぶ



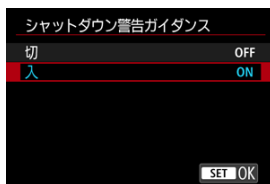
! 注意

- 撮影待機状態と動画撮影中の画面で、画質の差がでることがあります。
- 動画撮影を開始したときに、映像が一瞬更新されない（フレームストップ）ことがあります。
- デジタルズームを [入] に設定すると、温度上昇緩和は [切] に固定されます (🔗)。

動画撮影の設定によっては、カメラ内部の温度上昇による動画撮影の自動終了を警告するガイダンス（シャットダウン警告ガイダンス）が、電源入時に表示されます。[📷：シャットダウン警告ガイダンス]を[切]にすると、シャットダウン警告ガイダンスは表示されません。

1. [📷：シャットダウン警告ガイダンス]を選ぶ (🔍)

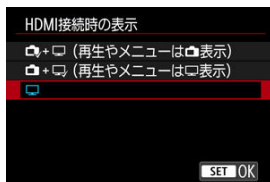
2. 項目を選ぶ



外部記録機器でHDMI出力映像を記録するための機能です。[: 動画記録サイズ] の設定に応じて出力されます。

1. [: HDMI接続時の表示] を選ぶ ()

2. 項目を選ぶ



- (再生やメニューはカメラ表示)
映像はカメラとHDMI出力先に表示されます。再生画像やメニューはカメラに表示されます。
- (再生やメニューはモニター表示)
映像はカメラとHDMI出力先に表示されます。再生画像やメニューはHDMI出力先に表示されます。
- 映像、再生画像、メニューはHDMI出力先に表示されます。カメラのモニターは消灯します。HDMI出力先に表示された状態が記録されますので、映像のみを記録する場合は、〈INFO〉ボタンを押して映像のみの表示にしてください。

注意

- HDMI出力時の解像度、フレームレートは動画記録サイズに連動して変わります。
- 情報表示なしのHDMI出力を行ったときは、カード残量やバッテリー残量、内部温度上昇 () などの警告は、HDMI出力先の画面に表示されません。
- HDMI出力中に、動画記録サイズやフレームレートを切り換えると、次の画像が表示されるまでに時間がかかることがあります。
- HDMI出力映像に情報が表示されることがあるため、外部記録機器で映像を記録しているときは、操作を行わないことをおすすめします。
- カメラで撮影した動画と、HDMI出力を外部記録機器で記録した映像の明るさと色味は、閲覧する環境により異なって見えることがあります。

参考

- 30分以上連続してHDMI出力を行うときは、**[ +  (再生やメニューは表示)]** または **[ +  (再生やメニューは表示)]** を選び、**[ : 節電]** の **[オートパワーオフ]** を **[しない]** に設定してください ()。
- 〈INFO〉ボタンを押すと、表示される情報を切り換えることができます。
- HDMI出力映像にタイムコードを付加することができます ()。
- HDMI出力時に音声も出力されます (**[録音：しない]** 設定時を除く)。

HDMI接続で外部出力する映像信号の出力レンジを設定することができます。

1. [📷 : Canon LogのHDMI出力レンジ] を選ぶ (🔗)

2. 項目を選ぶ



● **Full Range優先**

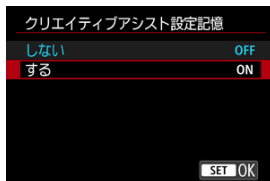
フルレンジでの出力を優先させます。なお、ディスプレイの仕様によっては、出力レンジが自動的に変更されます。

● **Narrow Range**

ナローレンジ（ビデオレンジ）で出力されます。

〈A+〉モード時に使用したクリエイティブアシストの設定を記憶させておき、次回の撮影でプリセットから効果を選ぶ手順を省略できます。

1. : クリエイティブアシスト設定記憶】を選ぶ (🔍)
2. 【する】を選ぶ



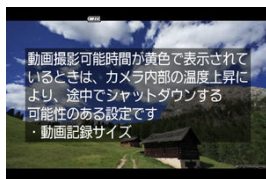
[☑ 動画撮影前のガイダンス表示](#)

[☑ 撮影中のインジケータ表示](#)

[☑ 動画撮影全般の注意事項](#)

動画撮影前のガイダンス表示

カメラの起動時や設定を変更したときなどに、シャットダウン警告ガイダンスが表示されることがあります (☑)。



このガイダンスは、現在の設定で動画を撮影すると、撮影中にカメラ内部の温度が上昇し、さらに撮影を続けると自動的にカメラの電源が切れる可能性があることを示しています。動画を長時間撮影するときは、ガイダンスに表示された設定（動画記録サイズ）を変更し、ガイダンスが表示されない状態で撮影することをおすすめします。設定を変更せずに撮影するときは、動画撮影中のインジケータ表示に注意してください。

撮影中のインジケータ表示

動画および静止画の撮影中にカメラ内部の温度が上昇し始めると、10段階のインジケータ(1)が表示されます。



さらにカメラ内部の温度が上昇すると、目盛が右に増えていきます。目盛が増える時間は撮影状況によって異なります。1~7番目の目盛は白色で表示されますが、8番目から色が変わります。



9番目のオレンジ色の目盛まで達した状態で撮影を続けると、[Q]が赤色で点滅します。アイコンの点滅表示は、まもなくカメラの電源が自動的に切れることを意味しています。



アイコンが点滅している状態で撮影を続けると、メッセージが表示され、カメラの電源が自動的に切れます。

● 撮影を続けるときは

設定を変更せずに撮影を続けるときは、いったんカメラの電源を切り、カメラ内部の温度が下がるまでお待ちください。ただし、このときは撮影を再開するとカメラの温度は再度上昇します。

❗ 注意

動画撮影時共通注意事項

- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- 細かいパターンの被写体を撮影すると、モアレや偽色が発生することがあります。
- **[AWB]** **[AWBW]** の設定で動画撮影中に、ISO感度や絞り数値が変わると、ホワイトバランスが変化することがあります。
- 蛍光灯やLED照明などの光源下で動画を撮影すると、画面にちらつきが発生することがあります。
- USMレンズを使用して暗い場所で動画撮影中にAFを行うと、動画に横縞状のノイズが記録されることがあります。なお、電子式フォーカスリングを備えた一部のレンズでは、手動ピント合わせ（MF）でも同様のノイズが記録されることがあります。
- 動画撮影中にズーム操作を行うときは、テスト撮影をおすすめします。ズーム操作を行うと、露出変化やレンズの作動音が記録されたり、録音される音量が不安定になったり、レンズ光学補正が正しく適用されなかったり、ピントがズレることがあります。
- 絞り数値が大きいときは、ピントが合うまでに時間がかかったり、適切なピント合わせができないことがあります。
- 動画撮影中にAFを行うと、「一時的にピントが大きくぼける」「動画の明るさが変化して記録される」「動画が一瞬停止して記録される」「レンズの作動音が記録される」などの現象が起こることがあります。
- カメラに内蔵されたマイクを指などでふさがないようにしてください。
- 動画撮影中にHDMIケーブルの接続や取り外しを行うと、動画撮影が終了します。
- 必要に応じて [静止画撮影全般の注意事項](#) もお読みください。
- Wi-Fi接続した状態で動画撮影すると、カメラの温度が上昇することがあります。手持ち撮影せず、三脚を使用するなどしてください。
- 高ISO感度、高温下、遅いシャッタースピード、暗い場所などの条件が重なった状態で動画撮影を行うと、画質が低下することがあります。
- 動画撮影を長時間行くと、カメラ内部の温度が上昇して、画質が低下することがあります。動画撮影をしないときは、こまめに電源を切ってください。

記録と画質について

- 手ブレ補正機能を搭載したレンズ使用時は、手ブレ補正スイッチを〈ON〉にすると、シャッターボタンを半押ししなくても、常時手ブレ補正機能が作動します。そのため、バッテリーが消耗し、撮影条件により動画撮影時間が短くなることがあります。三脚使用時など、補正の必要がないときは、手ブレ補正スイッチを〈OFF〉にすることをおすすめします。
- 自動露出で動画撮影中に明るさが変化すると、その場面の映像が一瞬止まって見えることがあります。このようなときは、マニュアル露出で撮影してください。
- 極端に明るい光源が画面内にあると、明るい部分が黒っぽくつぶれたように表示されることがあります。
- 高ISO感度、高温、遅いシャッタースピード、暗い場所などの条件で撮影すると、映像にノイズや色ムラが発生することがあります。
- 撮影した動画を他の機器などで再生すると、画質や音質が悪くなったり、(XF-HEVC/XF-AVC形式に対応していても)再生できないことがあります。
- 書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画撮影中に画面の右側にインジケータが表示されることがあります。インジケータは、カードにまだ書き込まれていないデータ量(内蔵メモリーの空き容量)を表し、遅いカードほど、段階が早く上がっていきます。インジケータ(2)がフルになると、動画撮影が自動的に停止します。



(2)

- 書き込み速度が速いカードは、インジケータが表示されないか、表示されても段階はほとんど上がりません。そのため、事前にテスト撮影を行うことで、動画撮影に適したカードかどうかを判断することができます。
- インジケータがフルになって動画撮影が自動的に終了したときは、映像の終端付近の音声は正常に記録されないことがあります。
- カードの(記憶領域の断片化により)書き込み速度が低下してインジケータが表示されるようになったときは、カードの初期化を行うと、書き込み速度が改善することがあります。
- [カスタムピクチャー] [📷:HDR撮影(PQ)] [📷:高輝度側・階調優先]の設定によっては、ダイナミックレンジやガンマ設定などの影響で、被写体の暗い部分で縞やノイズが目立つことがあります。事前にテスト撮影を行い、映像を確認してから撮影することをおすすめします。
- ISO感度、[📷:高感度撮影時のノイズ低減]、[シャドウ補正]の設定変更や、撮影後のグレーディング処理などで画質が改善する場合があります。

音声の制約について

- [🔊A] モード時は、以下の制約事項があります。ご了承ください。
 - 最後の約2フレームには、音声は記録されません。
 - Windowsで動画を再生すると、映像と音声若干ズレることがあります。

動画撮影時共通事項

- 1回撮影するたびに、カードに新たな動画ファイルが作成されます。
- 映像の視野率は約100%です。
- 〈〉ボタンでピントを合わせることもできます。
- [: 動画撮影時シャッターボタンの機能] の[全押し]を[動画撮影の開始/終了]に設定すると、シャッターボタンの全押しで、動画撮影を開始/終了することができます ()。
- 2011年下期以降に発売された、フォーカスプリセット機能を備えた(超)望遠レンズ使用時は、動画撮影時にフォーカスプリセットを行うことができます。
- 音声または外部マイクの使用については「録音」を参照してください ()。

 [静止画撮影時の情報表示](#)

 [静止画撮影全般の注意事項](#)

静止画撮影時の情報表示

静止画撮影画面に表示されるアイコン（マーク）については、[情報表示](#)を参照してください。



参考

- **[Exp.SIM]** が白く表示されているときは、実際の撮影結果に近い明るさで映像が表示されています。
- **[Exp.SIM]** が点滅しているときは、低輝度、または高輝度条件下で映像が撮影結果と異なる明るさで表示されていることを示しています。ただし、撮影を行うと露出設定どおりに記録されます。また、実際に撮影される画像よりもノイズが多く見えることがあります。
- 撮影機能の設定条件によっては、表示シミュレーションが行われないことがあります。そのときは **[Exp.SIM]** とヒストグラムが灰色で表示されます。このとき画面に表示される映像は、標準的な明るさで表示されます。また、低輝度、高輝度条件下ではヒストグラムが適切に表示されないことがあります。
- ヒストグラムは **[📷: 表示Simulation]** () が **[しない]** または **[🌀 絞り込み中のみ露出]** 設定時には表示されません。

❗ 注意

- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。

画質について

- 高ISO感度で撮影すると、ノイズ（輝点、縞など）が目立つことがあります。
- 高温下で撮影すると、ノイズや色ムラが発生することがあります。
- 撮影を長時間継続すると、カメラ内部の温度が上昇して、画質が低下することがあります。撮影しないときは、こまめに電源を切ってください。
- カメラ内部の温度が上昇した状態で長秒時露光を行うと、画質が低下することがあります。撮影を一旦終了し、数分間経ってから撮影してください。

カメラ内部の温度上昇に伴う、白い【】表示について

- 撮影を長時間行ったり、高温下で撮影を行うと、カメラ内部の温度が上昇し、白い【】が表示されます。
- 白い【】は、静止画の画質が低下することを示しています。このため、カメラ内部の温度が下がるまで、撮影を一時休止することをおすすめします。
- 白い【】が表示されたときは、高ISO感度を使用せず、低ISO感度での撮影をおすすめします。
- 高温下で撮影を長時間行くと、白い【】が表示されるタイミングが早くなります。撮影しないときは、こまめに電源を切ってください。
- 白い【】が表示されていなくても、カメラ内部の温度が上昇している状態で、高ISO感度撮影、長秒時露光を行うと、画質が低下することがあります。

カメラの温度上昇に伴う、インジケータ表示について

- カメラの温度が上昇し始めると、【】が表示されます。インジケータの動作については、[撮影中のインジケータ表示](#)を参照してください。

撮影結果について

- 拡大表示中は、シャッタースピードと絞り数値がオレンジ色で表示されます。拡大表示の状態で撮影すると、意図した露出で撮影されないことがあります。通常表示に戻して撮影してください。
- 拡大表示の状態で撮影しても、通常表示の範囲が撮影されます。

映像について

- 低輝度、高輝度条件下では、映像が撮影結果に近い明るさで表示されないことがあります。
- ISO感度を低く設定しても、暗い場所では映像にノイズが多く表示されることがありますが、撮影を行うとノイズの少ない画質で撮影されます（映像と撮影した画像の画質は異なります）。
- 表示中に光源（照明光）が変化すると、画面がちらつくことがあります。そのときは、撮影を一旦終了し、撮影する光源下で撮影を再開してください。
- カメラの向きを変えると、映像が一瞬適切な明るさで表示されないことがあります。適切な明るさに安定するのを待ってから撮影してください。
- 極端に明るい光源が画面内にあると、明るい部分が黒っぽくつぶれたように表示されることがあります。
- 暗い場所で【：モニターの明るさ】を明るい設定にすると、映像にノイズや色ムラが発生することがあります。ただし、このノイズや色ムラは撮影画像には記録されません。
- 映像を拡大表示すると、シャープネスが実際の設定よりも強くかかって見えることがあります。

レンズについて

- 手ブレ補正機能を搭載したレンズ使用時は、手ブレ補正スイッチを（ON）にすると、シャッターボタンを半押ししなくても、常時手ブレ補正機能が作動します。そのため、バッテリーが消耗して撮影条件により撮影可能枚数が少なくなることがあります。三脚使用時など補正の必要がないときは、手ブレ補正スイッチを（OFF）にすることをおすすめします。
- EFレンズ使用時は、2011年下期以降に発売された、フォーカスプリセット機能を備えた（超）望遠レンズ使用時のみ、撮影時にフォーカスプリセットを行うことができます。



参考

- 映像の視野率は約100%（記録画質JPEG  設定時）です。
- カメラを操作しない状態が続くと、【：節電】の【モニターオフ】または【ファインダーオフ】の設定時間で自動的に画面が消えます。その後、【オートパワーオフ】の設定時間で自動的に電源が切れます（）。
- 市販のHDMIケーブルを使用すると、映像をテレビに表示することができます（）。ただし、音声は出力されません。

- ☒ [EOS用EL/EXスピードライト](#)
- ☒ [EL/EX以外のキャノン製スピードライト](#)
- ☒ [汎用ストロボ](#)
- ☒ [クイックストロボグループ制御](#)
- ☒ [FEメモリー機能](#)

EOS用EL/EXスピードライト

このカメラは、EL/EXシリーズスピードライト（別売）の機能を使用したストロボ撮影を行うことができます。
操作方法については、EL/EXスピードライトの使用説明書を参照してください。

同調シャッタースピード

カメラの設定の組み合わせにより、ストロボの同調シャッタースピードが以下のように変わります。

カメラの設定		ストロボの同調シャッタースピード
シャッター方式	静止画クロップ/アスペクト	
電子先幕	FULL	1/200秒
	1.6*	1/250秒

* APS-Cサイズ相当

参考

- [電子先幕] 設定時は、[ : 同調速度優先] で [する] を選ぶと、ストロボの同調シャッタースピードを速くすることができます (🔗)。

ストロボ調光補正

ストロボの発光量を調整する（調光補正を行う）ことができます。画面に映像が表示された状態で〈M-Fn〉ボタンを押して、ダイヤルファクションの操作で調光補正量を設定します（）。補正できる範囲は1/3段ステップ±3段です。

FEロック

被写体の任意の部分に適正調光させるストロボ撮影方法です。被写体をファインダーの中央に置いて、カメラの〈〉ボタンを押してから、構図を決めて撮影します。

！ 注意

- ストロボによっては、本カメラに直接取り付けることができません。詳しくは[マルチアクセサリシュー](#)を参照してください。
- [ : オートライティングオブティマイザ] () が、[しない] 以外に設定されているときは、暗めにする調光補正（マイナス補正）を行っても、明るく撮影されることがあります。
- ハイスピードシンクロを行うと、画像に縞模様が発生することがあります。なお、下記の対応で縞模様の発生が軽減されることがあります。
 - カメラからストロボを離す
 - シャッタースピードを遅くする

参考

- ストロボ調光補正は、クイック設定 ()、または [ : 外部ストロボ制御] の [ストロボ機能設定] () で行うこともできます。
- このカメラは、カメラの電源スイッチと、ストロボの電源を連動させる機能に対応しています。詳しくは、この機能に対応したストロボの使用説明書を参照してください。

EL/EX以外のキヤノン製スピードライト

- EZ/E/EG/ML/TLスピードライトをA-TTLまたはTTL自動調光モードに設定して撮影すると、常時フル発光します。
カメラの撮影モードを〈M〉、または〈Av〉に設定して、絞り数値を変えて撮影してください。
- マニュアル発光機能を搭載したスピードライト使用時は、マニュアル発光モードで撮影してください。

同調シャッタースピード

小型の汎用ストロボの同調シャッタースピードは、シャッター方式により異なります。あらかじめストロボが正しく同調するかどうか、確認してから撮影してください。

[📷 : シャッター方式] の設定	同調シャッタースピード
電子先幕	1/250秒以下

スタジオ用の大型ストロボは、小型の汎用ストロボに比べ閃光時間が長く、機種により閃光時間が異なります。1/60～1/30秒程度を目安に、あらかじめストロボが正しく同調するかどうか、確認してから撮影してください。

クイックストロボグループ制御

〔: 撮影時ボタン カスタマイズ〕で〔クイックストロボグループ制御〕を割り当てたボタンを押すことで、ワイヤレス多灯撮影時に撮影画面を見ながら発光グループごとの設定をすることができます。ここでは〈M-Fn〉ボタンに割り当てた場合を例に説明します (49)。

1. ストロボの発光モードを〈Gr〉(個別グループ制御)に設定し、ワイヤレス多灯撮影の状態にする

- 詳しくは、ワイヤレス多灯撮影に対応したストロボの使用説明書を参照してください。

2. 撮影待機中に〈M-Fn〉ボタンを押す



- 発光グループごとの設定（発光モード、調光補正量）が表示されます。
- 〈〉を回して設定する発光グループ（A、B、C、D、E）を選びます。
- 〈INFO〉ボタンを押して発光モードを設定します。
- 〈〉を回して発光量または調光補正量を設定します。

参考

- 〈Fv〉〈P〉〈Tv〉〈Av〉〈M〉〈B〉モードのときに〔クイックストロボグループ制御〕の設定画面を表示することができます。
- ストロボが〈Gr〉(個別グループ制御)以外の発光モードに設定されているとき、〈M-Fn〉ボタンを押すと〔ストロボ機能設定〕の画面が表示されます。

〔〕：撮影時ボタン カスタマイズ〕で〔ETTL ⇄ M (FEM時有効)〕を割り当てたボタンを押すことで、ストロボの発光モード〔ETTL〕で撮影した発光量を、発光モード〔M〕の発光量として設定できます。ここでは〈M-Fn〉ボタンに割り当てた場合を例に説明します().

1. カメラのFEメモリー機能を設定する



- 〔ストロボカスタム機能設定〕の〔FEメモリー〕を〔2:入 (MODE ETTL ⇄ M)〕に変更します().
- ストロボでの設定手順は、FEメモリーに対応したストロボ(EL-1(Ver.2)/EL-1を除く)の使用説明書を参照してください。

2. ストロボの発光モードを〔ETTL〕にして撮影する

- シャッターボタンを全押しして撮影を行います。

3. 撮影待機中に〈M-Fn〉ボタンを押す

- 発光モードが〔M〕に切り換わり、手順2で撮影した発光量が表示されます。
- 発光モード〔M〕で撮影後、再度〈M-Fn〉ボタンを押すと、発光モードが〔ETTL〕に切り換わり調光補正量が表示されます。
- 発光量または調光補正量を変更するときは、ストロボで操作を行うか、または〔ストロボ機能設定〕()で設定します。

参考

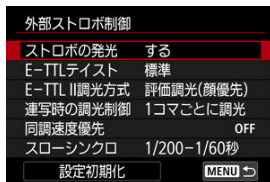
- 〈P〉〈Tv〉〈Av〉〈M〉〈B〉モードのときにFEメモリー機能を使用することができません。
- ストロボが【ETTL】と【M】以外の発光モードに設定されているとき、〈M-Fn〉ボタンを押しても発光モードは変わりません。

- ☒ [ストロボの発光](#)
- ☒ [E-TTLテスト](#)
- ☒ [E-TTL II 調光方式](#)
- ☒ [連写時の調光制御](#)
- ☒ [同調速度優先](#)
- ☒ [スローシンクロ](#)
- ☒ [ストロボ機能設定](#)
- ☒ [ストロボカスタム機能設定](#)
- ☒ [ストロボ機能設定初期化／ストロボカスタム機能一括解除](#)

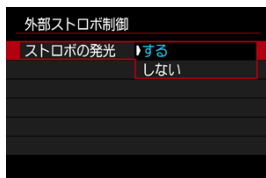
ストロボ機能設定に対応したEL／EXスピードライトを使用すると、カメラのメニュー画面からストロボの機能を設定することができます。設定を行う前にストロボをカメラに取り付け、ストロボの電源を入れておきます。
 なお、ストロボの機能については、スピードライトの使用説明書を参照してください。

1. ：外部ストロボ制御】を選ぶ ()

2. 項目を選ぶ

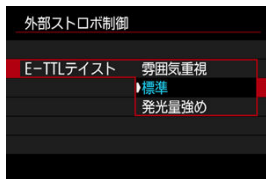


ストロボの発光



ストロボ撮影を行うときは、**【する】** に設定します。ストロボのAF補助光だけを利用したいときは、**【しない】** に設定します。

E-TTLテスト



好みに応じてストロボ写真の仕上がり（テスト）を設定することができます。設定によって、環境光とストロボ光の光量比を変更することができます。

- **「雰囲気重視」** は、ストロボ光の比率を下げ、環境光を活かした、より自然な雰囲気を重視したライティングを想定したテストです。とくに、室内などの暗いシーンでの撮影に効果的です。〈P〉または〈Av〉モードに設定の上、[📷: 外部ストロボ制御] の [スローシンクロ] を [1/*-30秒自動] ^{*1} に設定し、スローシンクロ撮影することをおすすめします。
- **「発光量強め」** は、ストロボ光主体のテストです。環境光による被写体や背景の影などを軽減したいときに有効です。

* 1 : 「1/*」の値は設定状況によって異なります。

⚠ 注意

- **「雰囲気重視」** 設定時、シーンによっては**「標準」** 設定時との撮影結果に効果の差が得られないことがあります。

E-TTL II 調光方式



- **〔評価調光(顔優先)〕** に設定すると、人物の撮影に適した調光を行います。
- **〔評価調光〕** に設定すると、連続撮影時の発光を優先した調光を行います。
- **〔平均調光〕** に設定すると、測光領域全体を平均的に測光します。

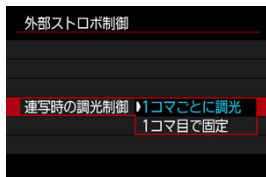
参考

- 状況に応じてストロボ調光補正が必要です。

注意

- **〔評価調光(顔優先)〕** に設定しても、撮影条件や被写体によっては効果が得られないことがあります。

連写時の調光制御



- [1コマごとに調光] に設定すると、撮影するごとに調光を行います。
- [1コマ目で固定] に設定すると、連続撮影する前に1度だけ調光を行います。1枚目の発光量で2枚目以降も撮影されます。構図を変えずに、連続撮影速度を優先して撮影したいときに有効です。

⚠ 注意

- 連続撮影中に被写体が動くと、露出が合わない場合があります。
- [📷: シャッター方式] が [電子先幕] で、ドライブモードが [🔄] のときは、[1コマ目で固定] に設定されます。

同調速度優先



ストロボの同調シャッタースピードを通常よりも高速にしたストロボ撮影を行うことができます。

- [発光モード] が [E-TTL II] 設定時に機能します。
- [する] を選ぶと、他の設定との組み合わせにより、ストロボの同調シャッタースピードが以下のように変わります。

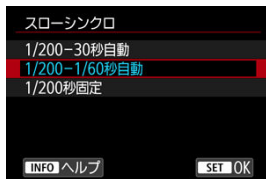
カメラの設定		ストロボの同調シャッタースピード（最高速）
シャッター方式	静止画クロップ/アスペクト	
電子先幕	FULL	1/250秒
	1.6*	1/320秒

* APS-Cサイズ相当

参考

- スピードライト 580EX II以降のストロボを使用する場合は、[発光モード] が [マニュアル発光] 設定時にも機能します。
- [発光モード] が [マニュアル発光] 設定時に、ストロボの同調シャッタースピードが最高速になった場合、設定した発光量で発光されないことがあります。
- [同調速度優先] に対応しているストロボは以下のとおりです。
 - スピードライト 430EX III/470EX-AI/600 EX II-RT
 - スピードライト ELシリーズ
 - マクロリングライト MR-14EX II/マクロツインライト MT-26EX-RT
- [同調速度優先] を [する] に設定すると、撮影条件によっては露出アンダーになる場合があります。
- 電波通信ワイヤレス撮影時に [同調速度優先] を [する] に設定して、レシーバーストロボをプラス側に調光補正すると、適正な露出にならないことがあります。

スローシンクロ



〈P〉または〈Av〉モードでストロボ撮影を行うときのストロボ同調速度を設定することができます。なお、ストロボ同調速度の上限値は、[：シャッター方式] [：静止画クロップ/アスペクト] の設定の組み合わせにより変わります。

● 1/*-30秒自動

明るさに応じて、シャッタースピードが以下の範囲で自動設定されます。ハイスピードシンクロを行うこともできます。

シャッター方式	静止画クロップ/アスペクト	シャッタースピード
電子先幕	FULL	1/200～30秒
	*	1/250～30秒

* APS-Cサイズ相当

● 1/*-1/60秒自動

暗い場所でシャッタースピードが自動的に遅くならないようになります。被写体ブレや手ブレを防止したいときに有効です。ただし、被写体はストロボ光により標準露出になりますが、被写体の背景が暗くなることがあります。

● **1/*秒固定**

以下のシャッタースピードに固定されるため、**[1/*-1/60秒自動]** よりも被写体ブレや手ブレを抑えることができます。ただし、暗い場所では**[1/*-1/60秒自動]** よりも被写体の背景が暗くなります。

シャッター方式	静止画クロップ/アスペクト	シャッタースピード
電子先幕	FULL	1/200秒
	 *	1/250秒

* APS-Cサイズ相当

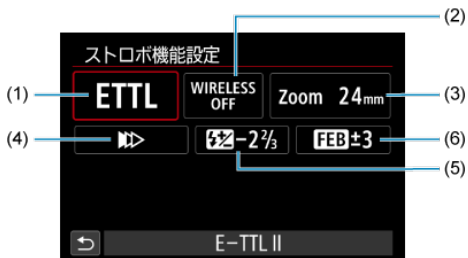
⚠ 注意

- **[1/*秒固定]** 設定時は、〈P〉または〈Av〉モードでハイスピードシンクロを行うことはできません。

ストロボ機能設定

画面に表示される内容や設定できる項目、項目の表示位置は、ストロボの機種や設定されている発光モード、ストロボカスタム機能の設定状態などにより異なります。使用するストロボの機能については、スピードライトの使用説明書を参照してください。

表示例



- (1) 発光モード
- (2) ワイヤレス機能／光量比制御機能 (RATIO)
- (3) ズーム (照射角)
- (4) シンクロ設定
- (5) 調光補正
- (6) FEB

⚠ 注意

- ストロボ機能設定に対応していないEXスピードライト使用時は、設定できる機能が制限されます。

発光モード

撮影目的に応じて発光モードを選択します。



- **[E-TTL II]** は、ストロボの自動露出撮影ができる、EL/EXスピードライトの標準的なモードです。
- **[マニュアル発光]** は、ストロボの**[発光量]** を自分で決めて撮影するモードです。
- その他の発光モードについては、各発光モードに対応したストロボの使用説明書を参照してください。

ワイヤレス機能



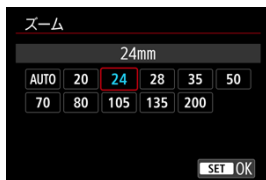
電波通信、または光通信によるワイヤレス多灯ライティング撮影を行うことができます。詳しくは、ワイヤレスストロボ撮影に対応したストロボの使用説明書を参照してください。

光量比制御機能（RATIO）



マクロストロボ使用時に、発光部の光量比を設定することができます。
詳しくは、光量比制御に対応したマクロストロボの使用説明書を参照してください。

ズーム（照射角）



ズーム機能を内蔵したストロボ使用時に、発光照射角を設定することができます。

シンクロ設定



通常は、撮影開始直後にストロボが発光する【**先幕シンクロ**】に設定します。

【**後幕シンクロ**】に設定すると、低速シャッター時に車のライトなどの軌跡を自然な感じで撮影できます。

【**ハイスピード**】に設定すると、ストロボ同調最高シャッタースピードよりも速いシャッタースピードで撮影することができます。日中の屋外などで、〈Av〉モードで絞りを開き、被写体の背景をぼかして撮影したいときに有効です。

注意

- 後幕シンクロで撮影するときは、シャッタースピードを1/30秒以下の遅い速度に設定してください。1/40秒以上の速い速度のときは、【**後幕シンクロ**】に設定していても、自動的に先幕シンクロ撮影になります。

調光補正

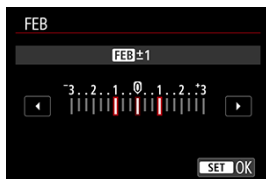


露出補正と同じ感覚で、ストロボの発光量を調整することができます。

参考

- ストロボ側で調光補正を設定したときは、カメラ側から調光補正を行うことはできません。なお、同時に設定されているときは、ストロボ側の設定が優先されます。

FEB

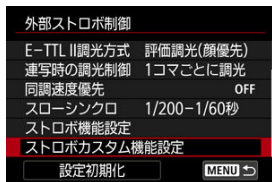


FEB（Flash Exposure Bracketting）機能を搭載した外部ストロボを使用すると、外部ストロボの発光量を自動的に変えながら3枚の撮影を行うことができます。

ストロボカスタム機能設定

ストロボのカスタム機能については、ストロボの使用説明書を参照してください。

1. 「ストロボカスタム機能設定」を選ぶ



2. 機能を設定する



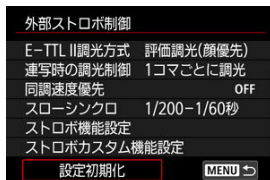
- 〈〉を回すか、〈〉を左右に押して番号を選び、〈〉を押します。
- 〈〉を回すか、〈〉を上下に押して項目を選び、〈〉を押します。

⚠ 注意

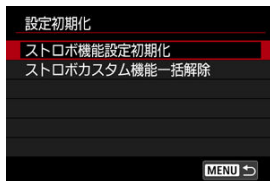
- EXスピードライト使用時に、ストロボカスタム機能の「調光方式」を「1:TTL」（自動調光）に設定したときは、常時フル発光します。
- [: 外部ストロボ制御] の画面から、外部ストロボのパーソナル機能（P.Fn）の設定・解除はできません。外部ストロボを直接操作して設定してください。

ストロボ機能設定初期化／ストロボカスタム機能一括解除

1. 「設定初期化」を選ぶ



2. 初期化する内容を選ぶ



- 「ストロボ機能設定初期化」「ストロボカスタム機能一括解除」のいずれかを選びます。
- 確認画面で「OK」を選ぶと、ストロボの設定が初期化、またはカスタム機能がすべて解除されます。

この章では、AF、ドライブモードに関する内容や、メニュー機能の「**AF**：AFタブ」に含まれる項目などについて説明しています。

参考

- **〈AF〉**はAuto Focus（オートフォーカス）の略で自動ピント合わせのことです。
〈MF〉はManual Focus（マニュアルフォーカス）の略で手動ピント合わせのことです。
- [メニュー目次：AFタブ（静止画撮影）](#)
- [メニュー目次：AFタブ（動画撮影）](#)
- [AF動作](#) **応用**
- [動画サーボAF](#)
- [レビュー用AF](#) **応用**
- [AFエリアの選択](#)
- [手動ピント合わせ（マニュアルフォーカス）](#)
- [登録人物優先](#)
- [サーボAF特性](#) **応用**
- [AF機能のカスタマイズ](#)
- [ドライブモードの選択](#)
- [セルフタイマー撮影](#)
- [リモコン撮影](#)
- [操作をカスタマイズする](#) **応用**

メニュー目次：AFタブ（静止画撮影）

● AF動作・AFエリア



- (1) [AF動作](#) **応用**
- (2) [AFエリア](#) **応用**
- (3) [サーボAF中の全域トラッキング](#) **応用**
- (4) [フォーカスモード](#)
- (5) [動画サーボAF設定](#)

参考

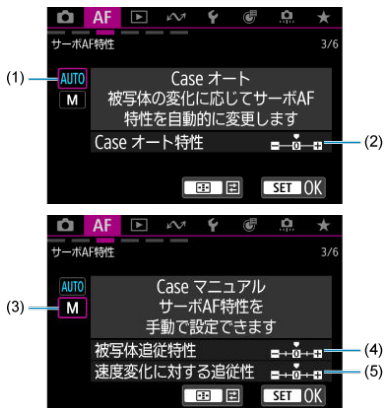
- フォーカスモードスイッチがないレンズを使用したときに[フォーカスモード]が表示されます。

● 被写体検出



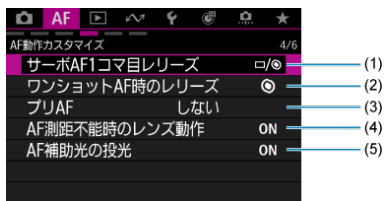
- (1) [検出する被写体](#) **応用**
- (2) [瞳検出](#)
- (3) [登録人物優先](#)

● サーボAF特性



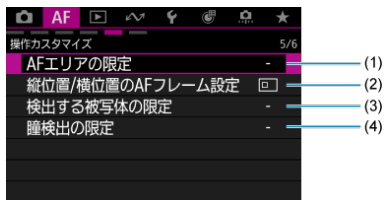
- (1) [Case オート](#) 応用
- (2) [Case オート特性](#) 応用
- (3) [Case マニュアル](#) 応用
- (4) [被写体追従特性](#) 応用
- (5) [速度変化に対する追従性](#) 応用

● AF動作カスタマイズ



- (1) [サーボAF1コマ目リリース](#) 応用
- (2) [ワンショットAF時のリリース](#) 応用
- (3) [プリAF](#)
- (4) [AF測距不能時のレンズ動作](#) 応用
- (5) [AF補助光の投光](#)

● 操作カスタマイズ



- (1) [AFエリアの限定](#) 応用
- (2) [縦位置/横位置のAFフレーム設定](#) 応用
- (3) [検出する被写体の限定](#) 応用
- (4) [瞳検出の限定](#) 応用

● MF関連



- (1) [MFピーキング設定](#) 応用
- (2) [フォーカスガイド](#)
- (3) [レンズの電子式手動フォーカス](#) 応用
- (4) [ボタンでMF拡大解除](#) 応用

メニュー目次：AFタブ（動画撮影）

● AF動作・AFエリア



(1) [動画サーボAF設定](#)

(2) [AFエリア](#) **応用**

(3) [フォーカスモード](#)

(4) [レビュー用AF](#) **応用**

参考

- フォーカスモードスイッチがないレンズを使用したときに[フォーカスモード]が表示されます。

● 被写体検出



(1) [検出する被写体](#) **応用**

(2) [瞳検出](#)

(3) [登録人物優先](#)

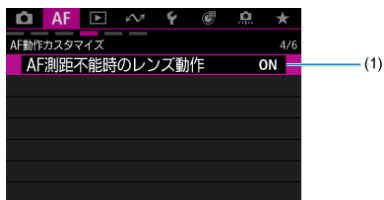
(4) [被写体の切り換え感度](#) **応用**

● サーボAF特性



(1) [動画サーボAF時のAF速度](#) **応用**

● AF動作カスタマイズ



(1) [AF測距不能時のレンズ動作](#) **応用**

● 操作カスタマイズ



(1) [AFエリアの限定](#) **応用**

(2) [検出する被写体の限定](#) **応用**

(3) [瞳検出の限定](#) **応用**

● MF関連



- (1) [MFピーキング設定](#) 応用
- (2) [フォーカスガイド](#)
- (3) [レンズの電子式手動フォーカス](#) 応用
- (4) [フォーカス操作後の被写体追尾](#) 応用

- ☑ [止まっている被写体を撮る：ワンショットAF](#)
- ☑ [動いている被写体を撮る：サーボAF](#)
- ☑ [AFモードを自動的に切り換える：AIフォーカスAF](#)

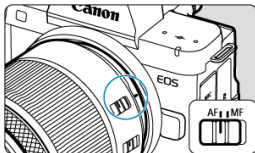
撮影状況や被写体にあわせて、AFの作動特性を選ぶことができます。

1. フォーカスモードをAFに設定する

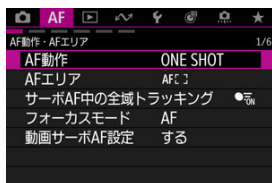
- フォーカスモードスイッチのないRFレンズ装着時
[AF：フォーカスモード] を [AF] に設定します。



- フォーカスモードスイッチのあるRFレンズ装着時
レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉に設定します。



2. [AF: AF動作] を選ぶ



3. 項目を選ぶ



参考

- ピントが合わないとAFフレームがオレンジ色になります。ワンショットAF時は、構図を変えて再度ピント合わせを行うか、[ピントが合いにくい撮影条件](#)を参照してください。
- サーボAF時はピントが合わない場合も撮影されます。

止まっている被写体を撮る：ワンショットAF

止まっている被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しすると、1回だけピント合わせを行います。

- 被写体にピントが合うと、AFフレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
- シャッターボタンを半押ししている間、ピントが固定され、構図を変えて撮影することができます。

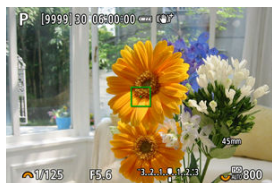
参考

- [Y: 電子音] を [切] に設定すると、ピントが合ったときに電子音が鳴らないようになります。
- 電子式手動フォーカス機能を備えたレンズ使用時は、[レンズの電子式手動フォーカス](#)を参照してください。

フォーカスロック撮影

ワンショットAFでピント合わせを行い、ピント位置を保持した状態で構図を変えて行う撮影を「フォーカスロック撮影」といいます。

1. ピントを合わせたい被写体にAFフレームを向けて、シャッターボタンを半押しする



2. 合焦したら、シャッターボタンの半押しを保持した状態で構図を調整する



3. シャッターボタンを全押しして撮影する

動いている被写体を撮る：サーボAF

動いている被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押ししている間、被写体にピントを合わせ続けます。

- サーボAFの動作をしていると、AFフレームが青色に変わります。ピントが合っても電子音は鳴りません。
- 露出は撮影の瞬間に決まります。

⚠ 注意

- 絞り数値が大きい場合や使用するレンズ、被写体との距離、被写体の動く速さによっては、適切なピント合わせができないことがあります。
- 連続撮影中にズーム操作を行うと、ピントがズレることがあります。ズーム操作を行い構図を決めてから撮影してください。
- 止まっている被写体に対して、サーボAFの動作が不安定な場合は、ワンショットAFで撮影することをおすすめします。

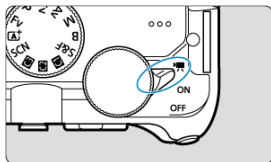
AFモードを自動的に切り換える：AIフォーカスAF

シャッターボタンを半押ししている間や、連続撮影している間、被写体の状態に応じて、カメラがAFモードを自動的に【ワンショットAF】から【サーボAF】へと切り換えます。

被写体検出AF

動画撮影時に被写体に対して常にピントを合わせ続ける機能です。

1. 電源スイッチを「」にする



2. 「AF: 動画サーボAF設定」を選ぶ (,)

3. 「動画サーボAF」を選ぶ



4. 項目を選ぶ



● する

- 被写体に対して常にピントを合わせ続けます。
- 狙った位置でピントを止めたいときや、レンズの作動音などが記録されるのが気になるときは、画面左下の[動画サーボAF:一時停止] (1) をタッチすると、動画サーボAFを一時的に停止することができます。



(1)

- 動画サーボAFが停止しているときに、〈MENU〉ボタンや〈▶〉ボタンを押したり、AFエリアを変更するなどの操作を行ったあと、動画撮影に戻ると、動画サーボAFが再開します。

● しない

- 初期状態では〈AF ON〉ボタンを押すと、設定されているAFエリアでピント合わせが行われます。
- 初期状態では、シャッターボタンを半押しすると、測光・動画サーボが行われます。

⚠ 注意

【動画サーボAF：する】設定時の注意事項

- **ピントが合いにくい撮影条件**
 - 速い速度で近づく、または遠ざかる被写体
 - 近距離で動いている被写体
 - 絞り数値が大きいとき
 - [ピントが合いにくい撮影条件](#)も参照してください。
- 常にレンズが作動してバッテリーを消耗するため、動画撮影できる時間が短くなります。
- 動画撮影中にAF動作を行ったり、カメラ／レンズの操作を行うと、カメラに内蔵されたマイクにより、レンズの作動音やカメラ／レンズの操作音が一緒に録音されることがあります。その場合、出力プラグを備えた外部マイクを、カメラやレンズから遠ざけて使用することで、これらの音を低減できることがあります。
- 拡大表示を行っているときは、動画サーボAF が一時停止します。
- 動画撮影中に被写体が近づいたり／遠ざかったり、カメラを上下／左右に動かすと（パンニング）、映像が一瞬伸縮（像倍率変化）して記録されることがあります。

📖 参考

- シャッターボタンの動作を変更したい場合は、[動画撮影時シャッターボタンの機能](#)を参照してください。

被写体検出AF

[**AF: 検出する被写体**] (🔍) で設定した被写体が発出されないときに、動画サーボAFを行うかどうかを設定することができます。



- 検出優先

[**AF: AFエリア**] (🔍) で設定した範囲内で、カメラが自動選択した被写体に対して動画サーボAFを行います。

自動選択する被写体は、[**AF: 検出する被写体**] で設定した被写体を優先します。

- 検出限定

[**AF: 検出する被写体**] で設定した被写体に対してのみ動画サーボAFを行います。被写体が発出されないときは、動画サーボAFを停止します。

〔AF: レビュー用AF〕を〔入〕にすると、カメラの近くにあるものにピントを合わせて撮影することができます。商品などのレビュー撮影に適しています。

1. 〔AF: レビュー用AF〕を選ぶ (🔍)

2. 項目を選ぶ



⚠ 注意

- 追尾フレームは表示されません。
- シャッターボタン半押しや (AF ON) ボタンを押しても、ピント合わせは行われません。
- 被写体を選択することはできません。

AFエリアの選択

- ☑ [AFエリア](#)
- ☑ [AFエリアの選択](#) **応用**
- ☑ [サーボAF中の全域トラッキング](#) **応用**
- ☑ [検出する被写体](#) **応用**
- ☑ [瞳検出](#)
- ☑ [ボタンでトラッキング](#)
- ☑ [フォーカスモード](#)
- ☑ [AFフレームやゾーンAFフレームを任意設定する](#)
- ☑ [拡大表示](#)
- ☑ [AF撮影のヒント](#)
- ☑ [ヒントが合いにくい撮影条件](#)
- ☑ [AF範囲](#)

ここでは〔**AF**：サーボAF中の全域トラッキング〕を〔**しない**〕に設定したときのAFエリアの動作について説明します。

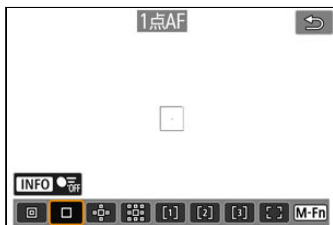
- AFエリアは〈〉ボタンを押したあと、〈M-Fn〉ボタンを押して選びます。
- 〈INFO〉ボタンを押すと、〔**AF**：サーボAF中の全域トラッキング〕の〔**する**〕〔**しない**〕を切り換えることができます。

回：スポット1点AF



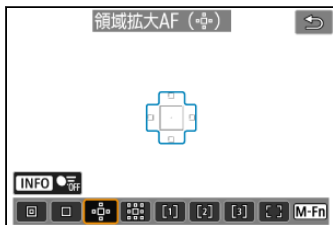
1点AFよりも狭い範囲でピント合わせを行います。

□：1点AF



1つのAFフレーム〔〕でピント合わせを行います。

: 領域拡大AF ()

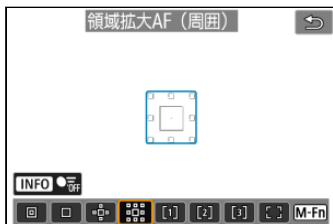


1つのAFフレーム [

] を含む、青枠で囲んだAFエリアでピント合わせを行います。1点AFでは被写体の追従が難しい、動きのある被写体を撮影するときに有効です。フレキシブルゾーンAFよりも狙った被写体にピントを合わせやすい特性を持っています。サーボAFのときは、初めにAFフレーム [

] で被写体を捉えます。

: 領域拡大AF (周囲)



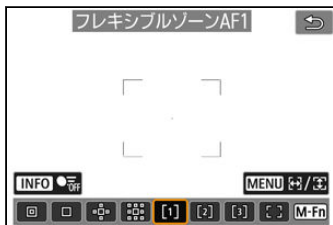
1つのAFフレーム [

] を含む、青枠で囲んだAFエリアでピント合わせを行うため、領域拡大AF (

) より、動きのある被写体を捉えやすくなります。サーボAFのときは、初めにAFフレーム [

] で被写体を捉えます。

[1]: フレキシブルゾーンAF1



フレキシブルゾーンAF1では、ゾーンAFフレーム[]のサイズを自由に設定できます(Ⓢ)。領域拡大AFよりもAF範囲が広い「ゾーンAFフレーム」で自動選択AFを行うため、1点AFや領域拡大AFよりも被写体を捉えやすく、動きのある被写体を撮影するときに有効です。初期状態では、正方形のゾーンAFフレームが設定されています。最も近距離の被写体に限らず、動いている被写体や人の顔、動物の顔、乗り物、被写体距離などのさまざまな条件によってピント合わせの領域を決定します。シャッターボタンを半押しすると、ピントが合ったAFフレームは[]で表示されます。

[2]: フレキシブルゾーンAF2



フレキシブルゾーンAF2では、ゾーンAFフレーム[]のサイズを自由に設定できます(Ⓢ)。領域拡大AFよりもAF範囲が広い「ゾーンAFフレーム」で自動選択AFを行うため、1点AFや領域拡大AFよりも被写体を捉えやすく、動きのある被写体を撮影するときに有効です。初期状態では、縦長のゾーンAFフレームが設定されています。最も近距離の被写体に限らず、動いている被写体や人の顔、動物の顔、乗り物、被写体距離などのさまざまな条件によってピント合わせの領域を決定します。シャッターボタンを半押しすると、ピントが合ったAFフレームは[]で表示されます。

[3] : フレキシブルゾーンAF3



フレキシブルゾーンAF3では、ゾーンAFフレーム[]のサイズを自由に設定できます(Ⓢ)。領域拡大AFよりもAF範囲が広い「ゾーンAFフレーム」で自動選択AFを行うため、1点AFや領域拡大AFよりも被写体を捉えやすく、動きのある被写体を撮影するときに有効です。初期状態では、横長のゾーンAFフレームが設定されています。最も近距離の被写体に限らず、動いている被写体や人の顔、動物の顔、乗り物、被写体距離などのさまざまな条件によってピント合わせの領域を決定します。シャッターボタンを半押しすると、ピントが合ったAFフレームは[]で表示されます。

[] : 全域AF (初期設定)



フレキシブルゾーンAFよりもさらにAF範囲が広い「全域AFフレーム」で自動選択AFを行うため、1点AF、領域拡大AF、フレキシブルゾーンAFよりも被写体を捉えやすく、動きのある被写体を撮影するときに有効です。最も近距離の被写体に限らず、動いている被写体や人の顔、動物の顔、乗り物、被写体距離などのさまざまな条件によってピント合わせの領域を決定します。シャッターボタンを半押しすると、ピントが合ったAFフレームは[]で表示されます。

撮影状況や被写体にあわせて、AFエリアを選ぶことができます。

なお、手動でピント合わせを行いたいときは、「手動ピント合わせ（マニュアルフォーカス）」を参照してください（）。

1. [AF: AFエリア] を選ぶ（、）

2. AFエリアを選ぶ



- [AF: 縦位置/横位置のAFフレーム設定]（）が [別々に設定: エリア+フレーム] に設定されているときは、上記の画面が表示されます。縦位置・横位置を選び、それぞれにAFエリアを設定してください。

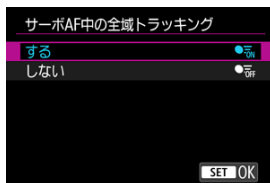
参考

- 〈〉ボタンを押したあとに〈M-Fn〉ボタンを押して、AFエリアを設定することもできます。

サーボAFを行ったとき（[AF: AF動作] が [サーボAF] 設定時にシャッターボタンを半押ししたとき）に、画面全域で被写体を追尾する動作に切り換わるかどうかを設定することができます。

1. [AF: サーボAF中の全域トラッキング] を選ぶ (🔍)

2. 項目を選ぶ



● する

シャッターボタンを半押しすると、AFエリアが全域AFとなり、画面全域で被写体を追尾する動作に切り換わります。

● しない

シャッターボタンを半押し／全押ししたときに、AFフレーム内でのみ被写体を追尾します。

追尾による主被写体の自動選択条件を設定することができます。

〔なし〕以外に設定すると、検出した被写体の中で、主被写体に追尾フレーム〔 〕が表示されます。被写体が動くと追尾フレームも動いて被写体を追尾します。

〔AF: 瞳検出〕を〔しない〕以外に設定すると、目にピントが合うように撮影することができます (🔍)。



● 自動

カメラが人物、動物、乗り物から追尾する主被写体を自動で選択します。

● 人物

人物を検出し、追尾する主被写体として人物の検出結果を優先します。

人物は顔、頭部、体が検出され、顔、頭部が検出されれば顔、頭部に追尾フレームが表示されます。

人物は顔、頭部、体を検出できないときは、人物の一部で追尾する場合があります。

● 動物優先

動物（犬、猫、鳥、馬）および人物を検出し、追尾する主被写体として動物の検出結果を優先します。

動物は顔または全身が検出され、顔が検出されれば顔に追尾フレームが表示されます。

動物の顔または全身を検出できない場合は、動物の体の一部で追尾する場合があります。

● 乗り物優先

乗り物（モータースポーツカー・バイク、飛行機、鉄道）および人物を検出し、追尾する主被写体として乗り物の検出結果を優先します。

乗り物は重要部位または全体（鉄道では先頭）が検出され、重要部位が検出されれば重要部位に追尾フレームが表示されます。

乗り物の重要部位または全体が検出できない場合は、乗り物の車体の一部で追尾する場合があります。

〈INFO〉ボタンを押すと、乗り物の重要部位を検出するかどうかを設定できます（スポット検出）。

● なし

被写体検出を行わず、構図からカメラが主被写体を自動選択します。

追尾フレームは表示されません。

❗ 注意

- 次のような場合は、被写体を検出できないことがあります。
 - 被写体が極端に小さい／大きい
 - 被写体が明るすぎる／暗すぎる
 - 被写体の一部が隠れている
 - 被写体と背景の見分けがつきにくい
 - 雨や雪、土埃などにより被写体が不鮮明
- 人物の姿勢やウェアの色や形状によっては検出できないことがあります。また、人物以外の被写体に追尾フレームが表示される場合があります。
- 犬、猫、鳥、馬の種類や色、形状や姿勢によっては検出できないことがあります。また、類似した動物や、動物以外に追尾フレームが表示される場合があります。
- 四輪車、二輪車、飛行機、鉄道の種類や色、形状や姿勢によっては検出できないことがあります。また、類似した乗り物や、乗り物以外に追尾フレームが表示される場合があります。

📖 参考

- シャッターボタンを半押しして被写体を選択するときは、下記の被写体を選択できます。該当する被写体がない場合は、**[検出する被写体]**の設定に関わらず、物体を追尾します。
 - **自動**
人物、動物、乗り物
 - **人物**
人物、動物、乗り物
(動物、乗り物が検出されるのはトラッキング中のみです。)
 - **動物優先**
動物、人物
 - **乗り物優先**
乗り物、人物
- **[AF: 検出する被写体の限定]**で検出項目を使用するものだけに限定することができます。
- **[自動]**で人物/動物/乗り物を撮影する際に、狙った被写体が検出されにくいと感じた場合には、それぞれに適した設定に変更すると改善する場合があります。
- 設定したAFエリアのみでAFを行いたい場合は、**[AF: サーボAF中の全域トラッキング]**を**[しない]**かつ**[AF: 検出する被写体]**を**[なし]**に設定してください。

ピントを合わせる被写体を任意で選択する

1. 追尾フレームを確認する



- カメラを被写体に向けます。[AF: AFエリア] で [全域AF] 以外を選んでいるときは画面にAFフレーム（またはゾーンAFフレーム）が表示されます。その場合は、AFフレームを被写体に合わせます。
- 被写体を検知すると、追尾フレーム [] が表示されます。
- 追尾フレーム [] は、AFフレームと離れているときは、灰色で表示されます（状況によっては、離れていても灰色表示にならない場合もあります）。
- 現在追尾している被写体がAFフレームに近づくと、AFフレームの外でも追尾フレームが白色（アクティブフレーム）に変わり、被写体として選ぶことができます。
- 動画撮影時は、追尾フレーム [] の灰色表示はされません。

2. ピントを合わせて撮影する

- **静止画撮影時**
かんたん撮影ゾーンでは、[シーンインテリジェントオート](#)の手順3、4と同じです。
応用撮影ゾーンでは、[プログラムAE](#)の手順2、3、4と同じです。
- **動画撮影時**
かんたん撮影ゾーンでは、[シーンインテリジェントオート動画](#)の手順2、3と同じです。
応用撮影ゾーンでは、[動画自動露出](#)の手順2、3と同じです。

参考

- [AF: AFエリア] を [全域AF] に設定時、画面をタッチして被写体を任意選択したときは、追尾フレームが [] に変わり、その被写体を追尾対象としてロックし、画面全域で被写体を追尾します。
- 追尾のロックを解除したいときは、[Off] をタッチします。
- AFフレームが追尾フレーム [] に重なっていない状態で、シャッターボタンを半押しすると、AFフレームでピント合わせが行われます。
- ピント合わせを行う [] が、被写体の全体ではなく一部分に表示されることがあります。
- 追尾フレームは被写体により大きさが変化します。
- [撮影時ボタン カスタマイズ] で [検出した被写体でAF] を割り当てたボタンを押すことで、任意のAFエリアを選択している状態でも、[全域AF] に変わり被写体を検出しAFを行うことができます。

注意

- 画面にタッチしてピント合わせを行うときは、AF動作の設定にかかわらず、[ワンショットAF] でピント合わせが行われます。
- ピントが大きく外れていると顔を検知できません。顔が検知できる位置まで手動でピントを動かしてから (Ⓢ)、AFを行ってください。
- 画面の端のほうにある顔や被写体に対してはAFできないことがあります。被写体が中央または中央寄りになるように構図を変えて撮影してください。

人の目、動物の目にピントが合うように撮影することができます。

1. 「AF：瞳検出」を選ぶ (🔍、🔍)

2. 項目を選ぶ



- **しない**
瞳検出を行いません。
- **自動**
瞳検出し、カメラが自動的にAFを行う瞳を選択します。
- **右目優先／左目優先**
瞳検出し、被写体の右目／左目を優先してAFを行います。優先した側の瞳が検出されていない場合、もう一方の瞳にAFを行います。

3. 被写体にカメラを向ける



- 目の周囲に追尾フレームが表示されます。
- **[AF: AFエリア]** が **[全域AF]** のときに画面をタッチするか、**<※>** を操作してピントを合わせたい目を選ぶことができます。**<※>** を操作すると、さらに追尾フレームが **[]** に変わります。
- **[AF: AFエリア]** で **[全域AF]** を設定したとき、またはトラッキング中のとき、画面をタッチして目を選ぶこともできます。
- 選んだ目が検出できなくなった場合は、ピントを合わせる目はカメラが自動的に選びます。

4. 撮影する

⚠ 注意

- 撮影シーンや被写体によっては、被写体の目が正しく検出されないことや、右目/左目の優先が正しく行われなかったことがあります。
- **[AF: 検出する被写体]** を **[なし]** にしたときは、目は検出されません。

📖 参考

- **[AF: 瞳検出の限定]** で検出項目を使用するものだけに限定することができます。

〔〕：撮影時ボタン カスタマイズ〕で〔全域トラッキングの開始/停止〕を割り当てたボタンを押すことで、被写体を追尾フレーム〔〕で追尾することができます。ここでは〈〉ボタンに割り当てた場合を例に説明します（）。

1. 追尾フレームを確認する



- カメラを被写体に向けてると、追尾フレームが表示されます。
- 〔**AF**：AFエリア〕で〔**全域AF**〕以外を選んでいるときは、AFフレームを被写体に合わせます。
- 領域拡大AF（）、領域拡大AF（周囲）のときは、隣接するAFフレームも表示されます。
- フレキシブルゾーンAFのときは、設定されているゾーンAFフレームが表示されます。

2. 〈〉ボタンを押す



- 追尾フレームが〔〕に変わり、その被写体を追尾対象としてロックし、画面内で被写体が動いても追尾します。もう一度〈〉ボタンを押すと、追尾を解除できます。
- 検出可能な対象が複数あるときは、追尾フレームが〔〕に変わり、〈〉でピントを合わせたい被写体を選ぶことができます。
- トラッキングを開始すると、設定しているAFエリアによらず画面全域で追尾が行われます。

3. 撮影する

参考

- 撮影待機中にトラッキングを停止すると、AFエリアとAFフレームの位置はトラッキングする前の状態に戻ります。
- シャッターボタンを半押し／全押ししているときにトラッキングを停止すると、AFエリアはトラッキングする前の状態に戻りますが、AFフレームの位置は停止時の追尾フレームの中心になります（[サーボAF] 時）。

ピント合わせの方法を設定することができます。

1. [AF: フォーカスモード] を選ぶ (📷、📷)

2. 項目を選ぶ



- **AF**
オートフォーカスで動作します。
- **MF**
マニュアルフォーカスで動作します。

⚠ 注意

- 下記の状態のときは、[**AF: フォーカスモード**] は表示されません。
 - フォーカスモードスイッチがあるレンズを装着している
 - マニュアルフォーカス専用レンズを装着している
 - レンズを装着していない
- [**MF**] に設定した場合は、基本情報表示でAFフレームが非表示になり、MFアイコンが表示されます。

AFフレームやゾーンAFフレームを任意設定する

AFフレームを任意設定することができます。ここでは、フレキシブルゾーンAF1設定時の画面を例に説明します。

1. AFフレームを確認する



(1)

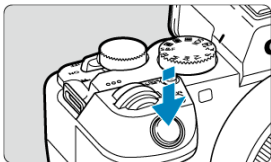
- AFフレーム (1) が表示されます。

2. AFフレームを移動する



- 〈※〉を操作して、ピントを合わせたい位置にAFフレームを移動します（使用するレンズによっては、画面の一番端まで動かないことがあります）。
- 〈※〉をまっすぐに押すか [戻る] にタッチすると、AFフレームが画面中央に戻ります。
- ピントを合わせたい位置にタッチして、ピントを合わせることできます。
- フレキシブルゾーンAFの場合は、ゾーンAFフレームのサイズを変更できます (設定)。

3. ピントを合わせて撮影する



- AFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。



- ピントが合うとAFフレームの色が変わり（ワンショットAF時：緑色、サーボAF時：青色）、「ピピッ」と電子音が鳴ります（ワンショットAF時のみ）。
- ピントが合わないときは、AFフレームがオレンジ色に変わります。

注意

- フレキシブルゾーンAFで、サーボAFに設定したときは、ピント合わせを行うAFフレーム [□] が被写体に追従して移動しますが、被写体が小さいときなど、撮影条件によっては追従しないことがあります。
- 外側寄りのAFフレームを選択しているときは、ピントが合いにくいことがあります。そのときは、中央のAFフレームを選択してください。
- 画面にタッチしてピント合わせを行うときは、AF動作の設定にかかわらず、[ワンショットAF] でピント合わせが行われます。

参考

- [AF：縦位置/横位置のAFフレーム設定] を [別々に設定：エリア+フレーム] に設定すると、AFエリアとAFフレームを縦位置と横位置で別々に設定することができます (🔗)。

拡大表示

画面の[Q]をタッチすると、映像を約5倍、約10倍に拡大してピントを確認することができます。

- 被写体を検出時で追尾フレームが白色（アクティブフレーム）のときは、追尾フレームを中心に拡大表示されます。
被写体を検出時で追尾フレームが灰色のとき、または被写体を検出できないときは、AFフレーム（画面中央）を中心に拡大表示されます。
- シャッターボタンを半押しすると、拡大表示のままAFが行われます。
- サーボAFまたはAIフォーカスAF設定時に、拡大表示を行った状態でシャッターボタンを半押しすると、通常表示に戻ってピント合わせが行われます。

❗ 注意

- 拡大表示の状態でピントが合いにくいときは、通常表示に戻してAFを行ってください。
- 通常表示の状態でAFを行ったあと拡大表示を行うと、正確にピントが合っていないことがあります。
- AFの速度は通常表示と拡大表示の状態で異なります。
- 拡大表示中、プリAF、動画サーボAFは行われません。
- 拡大表示のときは、手ブレによりピントが合いにくくなります。三脚の使用をおすすめします。

- ピントが合った状態でも、シャッターボタンを半押しすると、もう一度ピント合わせが行われます。
- AFの前後で、映像の明るさが変わることがあります。
- 被写体や撮影条件により、ピント合わせに時間がかかったり、連続撮影速度が低下することがあります。
- 撮影中に光源（照明光）が変化すると、画面がちらついてピントが合いにくいことがあります。そのときは、電源を入れ直し、撮影する光源下でAFを行ってください。
- AFでピントが合わないときは、手動でピント合わせを行ってください（）。
- 画面の端のほうにある被写体を撮影したときに、わずかにピントがズレているときは、被写体（またはAFフレーム／ゾーンAFフレーム）を画面の中央寄りにして、再度ピント合わせを行ってから撮影してください。
- 使用するレンズによっては、AFでピントが合うまでに時間がかかったり、適切なピント合わせができないことがあります。

ピントが合いにくい撮影条件

- 青空、単色の平面、画面上で被写体が白とびや黒つぶれしているときなど、明暗差（コントラスト）のない被写体
- 暗い場所にある被写体
- 縞模様など、水平方向のコントラストしかない被写体
- 繰り返し模様の被写体（例：ビルの窓やパソコンのキーボードなど）
- 細い線、被写体の輪郭部分
- 明るさや色、パターンが変化する光源
- 夜景など、点状の光源
- 蛍光灯やLED照明などの光源下で、映像がちらついている場合（フリッカー）
- 被写体が極端に小さい場合
- 画面の端のほうにある被写体
- 強い逆光状態、または光の反射が強い被写体（例：反射光の強い車のボディなど）
- 近くと遠くにある被写体が、AFフレームの中に入っている場合（例：おりの中の動物など）
- 手ブレや被写体ブレで、AFフレーム内の被写体が揺れ動いて、静止しない場合
- 大きくピントがぼけた状態からAFを行った場合
- ソフトフォーカスレンズで、ソフトフォーカス撮影する場合
- 特殊効果フィルターを使用している場合
- AF中に画面にノイズ（輝点、縞など）が表示されている場合

AF範囲

使用するレンズやアスペクト比、動画記録サイズ、動画電子ISなどの設定によって、AF可能な範囲は変わります。

☒ MFピーキング設定（輪郭強調） ☐ 応用

☒ フォーカスガイド

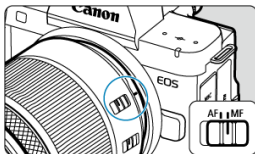
AFでピント合わせができないときは、映像を拡大表示して、手動でピントを合わせることができます。

1. フォーカスモードをMFに設定する

- フォーカスモードスイッチのないRFレンズ装着時
[AF: フォーカスモード] を [MF] に設定します。



- フォーカスモードスイッチのあるRFレンズ装着時
レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉に設定します。



2. 映像を拡大する



- [Q] をタッチするたびに、次のように画面が切り換わります。

→ x5 → x10 → x1 →

3. 拡大位置を移動する



- 〈※〉を操作して、ピントを合わせたい位置に移動します。
- 〈※〉をまっすぐに押すと、拡大位置が画面中央に戻ります。

4. 手動でピントを合わせる

- 拡大された映像を見ながら、レンズのフォーカスリングを回してピントを合わせます。
- ピント合わせが終わったら、[Q] をタッチして通常表示にします。

参考

- 拡大表示中は露出が固定されます。
- 手動ピント合わせのときも、タッチシャッターで撮影することができます。

ピントが合った被写体の輪郭を色つきの強調表示にすることでピント合わせをやすくすることができます。また、輪郭の検出感度（レベル）や輪郭の色を変えることもできます。

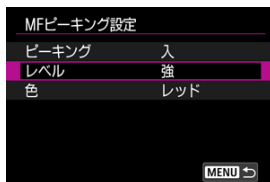
1. [AF: MFピーキング設定] を選ぶ (📷、📷)

2. [ピーキング] を選ぶ



- [入] を選びます。

3. [レベル]、[色] を設定する



- 必要に応じて設定します。

! 注意

- 拡大表示中、ピーキング表示は行われません。
- HDMI出力時、HDMI出力先にピーキング表示は行われません。なお、[📷: HDMI接続時の表示] で [📺] 以外を設定しているときは、カメラの画面にはピーキングが表示されます。
- 高ISO感度設定時（特に拡張ISO感度設定時など）は、MFピーキングが分かりにくい場合があります。必要に応じてISO感度を下げるか、[ピーキング] を [切] に設定してください。

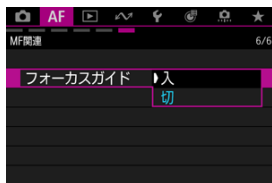
参考

- モニターに表示される輪郭は、撮影画像には記録されません。
- 以下の設定のときは、MFピーキングが分かりにくい場合があります。必要に応じて
[ :   HDR/C.Logビューアシスト] を設定してください。
 - [カスタムピクチャー] のガンマが「Canon Log 2」「Canon Log 3」「PQ」のとき
 - [ :  HDR撮影(PQ)] が [HDR PQ] に設定されているとき

【AF: フォーカスガイド】を【入】にすると、現在のフォーカス位置から合焦位置への調整方向と調整量が、ガイド枠で視覚的に表示されます。

1. 【AF: フォーカスガイド】を選ぶ (🔍、🔍)

2. 【入】を選ぶ



- 【AF: 検出する被写体】を【なし】以外に設定しているときに、人物の顔を検出したときは、主被写体と判断した人物の顔にガイド枠が表示されます。さらに、【AF: 瞳検出】を【しない】以外に設定しているときに、人物の目を検出したときは、主被写体と判断した顔の目の付近にガイド枠が表示されます。
- <🔍> ボタンを押して、<※> を操作すると、押した方向にガイド枠を移動することができます。
- <※> を操作してガイド枠を移動した場合は、<🔍> を押すと、ガイド枠が設定されます。
- 画面にタッチして、ガイド枠を移動、設定することもできます。
- [🔍] にタッチするか、<※> をまっすぐに押すと、ガイド枠が画面中央に戻ります。

ガイド枠の意味（現在のフォーカス位置、調整量）は以下のとおりです。



調整情報検出不可

! 注意

- AFでピントが合いにくい撮影条件（☒）では、ガイド枠が正しく表示されないことがあります。
- 絞り数値が大きいほど、ガイド枠が正しく表示されないことがあります。
- ガイド枠の表示中は、AFフレームは表示されません。
- 以下のときは、ガイド枠は表示されません。
 - カメラまたはレンズのフォーカスモードがAFに設定されているとき
 - 拡大表示時
 - デジタルズーム設定時
- TS-Eレンズを使用してシフトやティルトを行っているときは、ガイド枠が正しく表示されません。

📖 参考

- 電子式フォーカスリングを備えたレンズで、ピント合わせを行っているときは、オートパワーオフまでの時間が延長されます。

登録人物優先

- ☑ [人物を撮影して登録](#) **応用**
- ☑ [カード内の画像から人物を登録](#)
- ☑ [顔検出時の表示について](#)
- ☑ [登録人物の優先度変更・削除](#)
- ☑ [登録人物の顔を検出する](#)
- ☑ [すべての登録人物を削除](#)
- ☑ [登録データをカードに保存・読込](#)

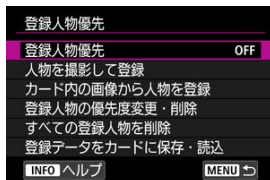
カメラに登録した人物の顔を検出して、ほかの人よりも優先的なピント合わせ、明るさ、色あいで撮影できます。顔の登録は、その場で撮影した画像、またはカード内の画像を使用しています。

❗ 注意

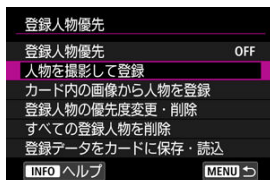
- 本機能で登録した顔の画像や情報は、カメラに記録されます。カメラを譲渡や廃棄するときは、すべての登録情報を削除してください。
- 本機能を使用する際には、個人情報保護の観点で十分に配慮し、登録前に本人の同意を得ておくなど適用法令を遵守のうえご使用ください。本機能の使用に伴う個人情報に関する問題に関しては、キヤノンはいかなる責任も負いません。

1. 「AF：登録人物優先」を選ぶ (🔍、🔍)

2. 項目を選ぶ



1. 「人物を撮影して登録」を選ぶ

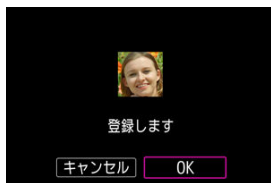


2. 登録する人物の顔を枠内に入れて撮影する



- 明るい場所で、正面を向いた状態で撮影します。
- 自然な表情になっている状態で撮影することをおすすめします。
- 帽子、マスク、サングラスなどは外した状態で撮影することをおすすめします。
- 撮影する直前に顔の登録を行うと、検出精度が向上する場合があります。
- 以下のような条件での撮影では、検出精度が低下したり、登録ができないことがあります。
 - 枠に対して顔が小さい
 - 顔の一部に影がある
 - 顔の一部が隠れている
 - パソコンやスマートフォンに表示された顔

3. [OK] を選ぶ



- 手順2で設定した範囲と、表示される画像が異なる場合がありますが、検出精度への影響はありません。

JPEG画像、HEIF画像が使用できます。RAW画像はJPEG画像に現像してカードに記録しておきます。

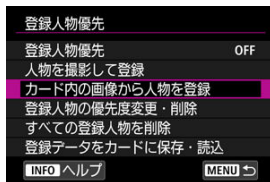
❗ 注意

- 以下のような状態の画像では、検出精度が低下したり、登録ができないことがあります。
 - 顔の一部が隠れている
 - 顔の一部に影がある
 - パソコンやスマートフォンに表示された顔

📖 参考

- 顔が以下のような状態になっている画像の使用をおすすめします。
 - 明るい場所で、正面を向いている
 - 帽子、マスク、サングラスなどを外している
 - 自然な表情になっている
 - 顔が画面に対して小さすぎたり、大きすぎたりしない

1. [カード内の画像から人物を登録] を選ぶ

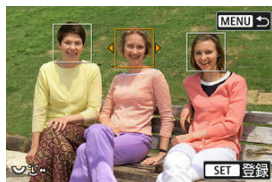


2. 画像を再生する



- 〈〉を押します。

3. 顔を選ぶ



- 複数の人物が写っているときは、〈〉〈〉〈〉で登録する人物の顔にオレンジ色の枠が表示されるようにします。
- 〈〉を押します。

4. [OK] を選ぶ



- 以下の画面が表示されるときは、続けて別の人物の顔を登録することができます。



顔検出時の表示について

撮影画面内で登録した顔を検出すると、顔の部分に白枠と【】が表示されます。なお、ワンショットAF時およびサーボAF時は【】は表示されません。

❗ 注意

- 以下の場合、検出精度が低下することがあります。
 - 顔が正面を向いていないとき
 - 顔が明るすぎるか、暗すぎる時
 - 顔が画面に対して小さすぎるか、大きすぎる時
 - 表情の変化が大きいとき
 - 人物の動きが大きいとき
 - 帽子、マスク、サングラスなどで顔が隠れているとき
 - 登録時の顔の画像と、撮影時の顔の状態が大きく異なる時
- 顔の特徴が似ている別の人物を検出することがあります。
- 登録した人物の顔が検出されないときや、検出の精度が低いときは、登録情報を削除してから、再度登録を行ってください。

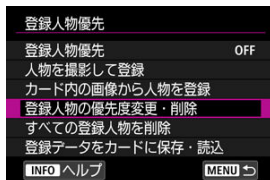
📖 参考

- **【AF: 検出する被写体】**が**【人物】**以外に設定されているときは、設定された被写体を優先して検出します。

登録順序を並べ変えて、検出の優先度を変更することができます。また、登録人物を削除することもできます。

優先度の変更

1. 「登録人物の優先度変更・削除」を選ぶ



2. 登録人物の顔を選ぶ



- 〈〉〈〉で選び、〈〉を押します。

3. 優先度を変更する



- 〈〉〈〉で移動して、〈〉を押します。
- 変更を終了するときは、〈MENU〉ボタンを押します。

登録人物の削除

1. 登録人物の顔を選ぶ

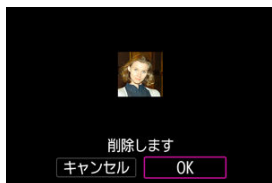


- 〈〉〈〉で選び、〈〉を押します。

2. 〈〉ボタンを押す

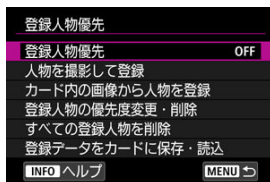


3. [OK] を選ぶ



- 〈MENU〉 ボタンを押して終了します。

1. 「登録人物優先」を選ぶ



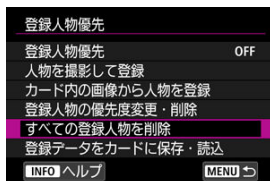
2. 「する」を選ぶ



すべての登録人物を削除

カメラを譲渡や廃棄するときは、すべての登録情報を削除してください。

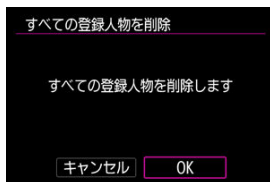
1. 「すべての登録人物を削除」を選ぶ



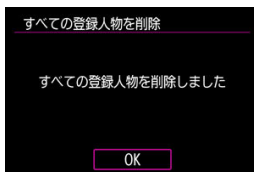
2. 〈SET〉を押す



3. [OK] を選ぶ



- 〈〉を押します。

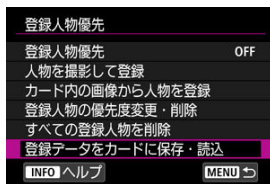


参考

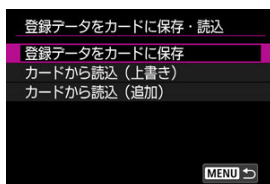
- [📷: カメラの初期化] で [工場出荷時初期化] を実行した場合も、すべての登録人物の情報は削除されます。

人物の顔の登録データは、カードへ書き出して保存することができます。また、EOS R8 Mark IIで保存した登録データをカードから読み込むことができます。

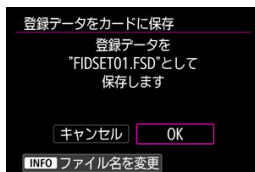
1. 「登録データをカードに保存・読込」を選ぶ



2. 「登録データをカードに保存」を選ぶ



- 「登録データをカードに保存」を選ぶと、カメラ内の登録データがカードに保存されます。
- 以下の画面で〈INFO〉ボタンを押すと、登録データのファイル名を変更してカードに保存することができます。



- 「カードから読込（上書き）」を選ぶと、カード内の登録データがカメラ内に上書き保存されます。カメラ内の既存登録データは削除されます。
- 「カードから読込（追加）」を選ぶと、カード内の登録データがカメラ内に追加保存されます。カメラ内の既存登録データは削除されません。
 - 登録データの読み込みは、優先度が高い人物から順に行われます。
 - カメラ内の登録データがいっぱいになるとそれ以降のデータは読み込まれません。

☒ [Case オート](#)

☒ [Case マニュアル](#)

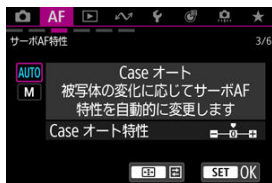
撮影する被写体や撮影シーンに適したサーボAF撮影を簡単に行うことができます。

Case オート



撮影する被写体や撮影シーンに適したサーボAFの特性（被写体追従特性、速度変化に対する追従性）を設定できます。

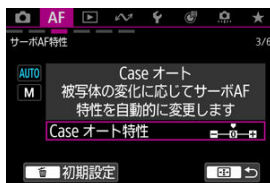
1. [AF: Case オート] を選ぶ



- 〈〉を回して [AUTO] を選び、〈〉を押します。
- Case オートに設定され、[AUTO] が青色で表示されます。

2. [Case オート特性] を調整する

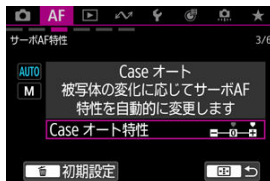
- 〈〉 ボタンを押します。項目に紫色の枠が付きます。



- 〈〉 を押して [Case オート特性] を選びます。



- 〈〉 で調整値を選びます。
- 初期設定は [>] の薄い灰色で表示されます。
- 設定が終了したら 〈〉 を押します。



- 〈〉 ボタンを押すと、手順1の状態に戻ります。

Case オート特性



Caseオートの設定を変更することで、初期設定よりピントが合いやすくなる場合があります。

- **0**

標準的な設定です。幅広いシーンに対応できるため、通常はこちらの設定をおすすめします。

- **粘る：-1**

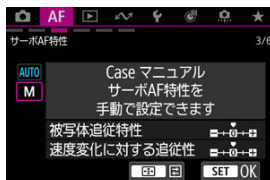
被写体の手前に一瞬障害物が入り込むときや、被写体の動きが激しくAFフレームから外れやすいときでも、狙っている被写体にできるだけピントを合わせ続けます。

- **俊敏：+1**

多数の被写体を次々に撮影したいときなどに、ピント合わせの対象の乗り換えがしやすくなります。

撮影条件に応じて、サーボAFの特性を任意に調整することができます。

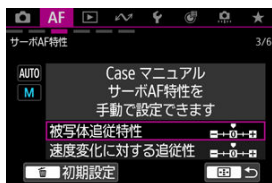
1. [AF : Case マニュアル] を選ぶ



- 〈〉を回して [M] を選び、〈〉を押します。
- Case マニュアルに設定され、[M] が青色で表示されます。

2. [Case マニュアル] の特性を調整する

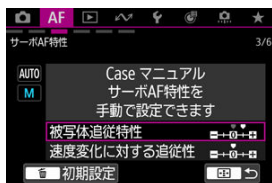
- 〈〉 ボタンを押します。項目に紫色の枠が付きます。



- 〈〉 または 〈〉 で調整したい項目を選び、〈〉 を押します。



- 〈〉 で調整値を選びます。
- 初期設定は [] の薄い灰色で表示されます。
- 設定が終了したら 〈〉 を押します。



- 〈〉 ボタンを押すと、手順1の状態に戻ります。

被写体追従特性



サーボAFで測距中に、障害物がAFフレームを横切ったときや、AFフレームが被写体から外れたときの、被写体に対する追従性の設定です。

- 0

標準的な設定です。動いている一般的な被写体に適しています。

- 粘る：-2/-1

障害物がAFフレームを横切ったときや、AFフレームが被写体から外れたときでも、できるだけ狙っている被写体にピントを合わせ続けようとします。-1よりも-2のほうが、狙っている被写体を長く捉え続けようとします。

その反面、意図しない被写体にピントが合ったときは、狙っている被写体に対するピント合わせに、やや時間がかかることがあります。

- 俊敏：+2/+1

AFフレームで捉えた、距離の異なる被写体に、次々にピントを合わせることができません。最も近い被写体にピントを合わせたいときにも有効です。+1よりも+2のほうが、異なる被写体にレスポンス良く反応します。

その反面、意図しない被写体にピントが合いやすくなります。

速度変化に対する追従性

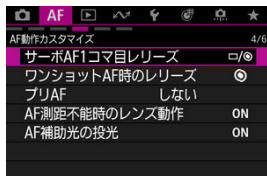


被写体が急に動き出したときや、急に止まったときなど、速さが瞬時に大きく変化したときの、被写体に対する追従性の設定です。

- **0**
移動速度がほぼ一定の（速度変化が少ない）被写体に適しています。
- **-2/-1**
移動速度がほぼ一定の（速度変化が少ない）被写体に適しています。0の設定でも被写体のわずかな動きや手前の障害物に影響されてピントが不安定なときに効果的です。
- **+2/+1**
急な動き出し、急加速、急減速、急停止する被写体に適しています。被写体の速さが瞬時に大きく変化しても、狙っている被写体にピントを合わせ続けれます。例として、向かってくる被写体の急な動き出しに対しては「後ピン」、急な停止に対しては「前ピン」になりにくくなります。+1よりも+2のほうが、大きい速度変化に追従することができます。
その反面、被写体のわずかな動きに影響されやすくなり、ピントが一時的に不安定になることがあります。

AF機能のカスタマイズ

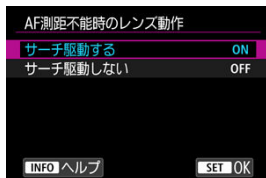
- ☒ [\[AF動作カスタマイズ\]](#)
- ☒ [\[AF動作カスタマイズ\]（静止画撮影時）](#)
- ☒ [\[操作カスタマイズ\]](#)
- ☒ [\[操作カスタマイズ\]（静止画撮影時）](#)
- ☒ [\[MF関連\]](#)
- ☒ [\[MF関連\]（静止画撮影時）](#)
- ☒ [\[MF関連\]（動画撮影時）](#)
- ☒ [\[被写体検出\]（動画撮影時）](#)
- ☒ [\[サーボAF特性\]（動画撮影時）](#)



撮影スタイルや被写体に応じて、AFに関連する機能を細かく設定することができます。

AF測距不能時のレンズ動作 応用

AFでピントが合わせられなかったときのレンズの動作を設定することができます。



- **ON : サーチ駆動する**

AFでピントが合わせられないときは、レンズを駆動させて、ピントの合う位置を探します。

- **OFF : サーチ駆動しない**

AFを開始するときにピントが大きくボケているときや、AFでピントが合わせられないときは、レンズの駆動を行いません。サーチ駆動により、ピントが大きくボケることを防止します。

⚠ 注意

- 超望遠レンズなど、ピント駆動範囲が大きいレンズを使用したときにサーチ駆動を行うと、ピントが大きくボケて次のピント合わせに時間がかかることがあるため、**[サーチ駆動しない]** に設定することをおすすめします。

サーボAF1コマ目リリース **応用**

サーボAFで1コマ目を撮影するときの、AFの作動特性とリリースタイミングを設定することができます。



- **□/○：バランス重視**
ピントとリリースタイミングのバランスをとった設定です。
- **□：リリース優先**
シャッターボタンを押すと、ピントが合っていないとすぐ撮影されます。ピントよりも一瞬の撮影チャンスを優先したいときに有効です。
- **○：ピント優先**
シャッターボタンを押しても、ピントが合うまで撮影されません。被写体にピントを合わせてから撮影したいときに有効です。

参考

- 連続撮影時の2コマ目以降は、リリース優先で撮影されます。

ワンショットAF時のリリース **応用**

ワンショットAFで撮影するときの、AFの作動特性とリリースタイミングを設定することができます（タッチシャッター撮影時除く）。



- **⦿ : ピント優先**

ピントが合うまで撮影されません。被写体にピントを合わせてから撮影したいときに有効です。

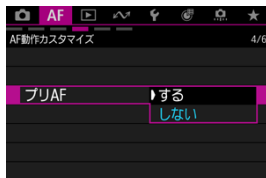
- **□ : リリース優先**

ピントよりも撮影タイミングを優先します。一瞬の撮影チャンスを優先したいときに有効です。

ピントが合っていないくても撮影されますので、注意してください。

プリAF

被写体に対しておおまかにピントを合わせ続ける機能です。[する]を選ぶと、シャッターボタンを半押ししたときに素早くピントが合います。



⚠ 注意

- [する] 設定時は、レンズが動作し続けてバッテリーを消耗するため、撮影可能枚数が少なくなります。

AF補助光の投光

カメラ、またはEOS用の外部ストロボから、AF補助光の投光を行うかどうかを設定することができます。



- **ON : する**

必要に応じてAF補助光が投光されます。

- **OFF : しない**

AF補助光は投光されません。AF補助光を投光したくないときに設定します。

❗ 注意

- 外部ストロボのカスタム機能の [**AF** : **AF補助光の投光**] が [**しない**] に設定されているときは、外部ストロボからAF補助光は投光されません。

AFエリアの限定 応用

AFエリアの選択項目を、使用するAFエリアだけに限定することができます。AFエリアを選び、を押して[✓]を付けます。[OK]を選ぶと設定されます。なお、AFエリアについては、[AFエリア](#)を参照してください。



! 注意

- すべての項目の[✓]を外すことはできません。

📖 参考

- 設定内容が、初期状態から変更されているときは、**[AF : AFエリアの限定]**の右端に「*」が表示されます。

検出する被写体の限定 **応用**

[**AF**: 検出する被写体] の選択項目を、使用する項目だけに限定することができます。使用しない項目を選び、を押して[✓]を外します。[OK]を選ぶと設定されます。



注意

- すべての項目の[✓]を外すことはできません。

参考

- 設定内容が、初期状態から変更されているときは、[**AF**: 検出する被写体の限定]の右端に「*」が表示されます。

瞳検出の限定 **応用**

【**AF**: 瞳検出】の選択項目を、使用する項目だけに限定することができます。使用しない項目を選び、を押して【✓】を外します。【OK】を選ぶと設定されます。



! 注意

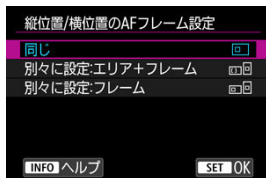
- すべての項目の【✓】を外すことはできません。

📖 参考

- 設定内容が、初期状態から変更されているときは、【**AF**: 瞳検出の限定】の右端に「*」が表示されます。

縦位置／横位置のAFフレーム設定 **応用**

縦位置撮影と横位置撮影で、AFエリアの種類とAFフレームの位置を別々に設定することができます。



- : 同じ

縦位置撮影、横位置撮影とも、同じAFエリアで同じ位置のAFフレームまたはゾーンAFフレームが設定されます。

- : 別々に設定:エリア+フレーム

カメラの姿勢（(1) 横位置状態、(2) グリップを上にした縦位置状態、(3) グリップを下にした縦位置状態）ごとに、AFエリアの種類とAFフレームまたはゾーンAFフレームの位置を設定することができます（）。

姿勢に応じて自動的にAFエリアの種類とAFフレームまたはゾーンAFフレームの位置を切り換えたいときに有効です。

(1) (2) (3) のそれぞれの姿勢で設定した、AFエリアおよびAFフレームまたはゾーンAFフレームの位置が記憶されます。

- : 別々に設定:フレーム

カメラの姿勢（(1) 横位置状態、(2) グリップを上にした縦位置状態、(3) グリップを下にした縦位置状態）ごとに、AFフレームまたはゾーンAFフレームの位置を設定することができます。姿勢に応じて自動的にAFフレームまたはゾーンAFフレームの位置を切り換えたいときに有効です。

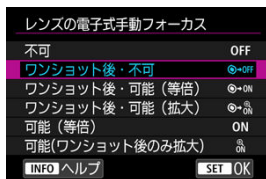
(1) (2) (3) のそれぞれの姿勢で設定した、AFフレームまたはゾーンAFフレームの位置が記憶されます。

注意

- **[🔧: カメラの初期化]** の **[設定項目を選んで初期化]** で **[基本設定]** を選ぶと（）、設定が **[同じ]** になります。また、(1) (2) (3) の姿勢で設定した内容が解除され、全域AFが選択された状態になります。
- 設定後に、レンズを交換すると、設定した内容が解除されることがあります。

レンズの電子式手動フォーカス 応用

電子式の手動フォーカス機能を備えたレンズを装着したときの、手動ピント調整の動作を設定できます。



- **OFF : 不可**

レンズのフォーカスモードスイッチが〈AF〉に設定されているときは、手動ピント調整を禁止します。

- **☉+OFF : ワンショット後・不可**

[: 撮影時ボタン カスタマイズ] の [シャッターボタン半押し] が [測光・AF開始] 以外になっている場合に、ワンショットAF動作を行ったあとの、手動ピント調整を禁止します。

- **☉+ON : ワンショット後・可能(等倍)**

ワンショットAF動作を行ったあと、シャッターボタン半押しを続けていれば、手動でピント調整ができます。

- **☉+ON : ワンショット後・可能(拡大)**

ワンショットAF動作を行ったあと、シャッターボタン半押しを続けていれば、手動でピント調整ができます。レンズのフォーカスリングを回すと、ピント位置が拡大され、手動でピント調整ができます。

- **ON : 可能(等倍)**

[電子式フルタイムMF] に対応したレンズを装着時で、カメラの電源が入った状態のときに、常に手動ピント調整ができます。

ただし、[電子式フルタイムMF] に対応したレンズでないときは、以下の条件を満たす場合のみ機能します。

- 静止画撮影時に [AF : プリAF] が [しない]
- 動画撮影時に [AF : 動画サーボAF設定] が [しない] または一時停止中

- **ON : 可能(ワンショット後のみ拡大)**

[可能(等倍)] の機能に加えて、ワンショットAF動作を行ったあとにレンズのフォーカスリングを回すと、ピント位置が拡大されます。

注意

- **「ワンショット後・可能（拡大）」** 設定時、撮影後、すぐにシャッターボタンを半押ししたときは、レンズのフォーカスリングを回しても拡大表示されないことがあります。そのときは、シャッターボタンから一旦指を離し、画面に【Q】が表示されたから、シャッターボタンを半押ししたまま、フォーカスリングを回すと拡大表示されます。

参考

- お使いのレンズの手動フォーカス機能の仕様は、レンズの使用説明書でご確認ください。
- **「電子式フルタイムMF」** に対応したレンズについては、キヤノンのホームページで確認してください ()。

👁 ボタンでMF拡大解除 応用

[する] を選ぶと、静止画撮影でフォーカスモードがMFのときにのみ、シャッターボタンを半押しすると拡大表示を解除することができます。

ピント確認などのために拡大表示したあとに、撮影直前に素早く画角調整を行いたい場合に便利です。



⚠ 注意

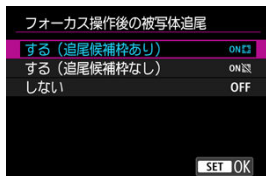
- レンズの電子式手動フォーカスによる拡大表示には機能しません。

フォーカス操作後の被写体追尾 応用

動画撮影でフォーカスモードがAFのときに、レンズのフォーカスリングを回すことでピントを合わせる被写体を切り換えることができます。

フォーカスリングを止めると、ピントが合っている被写体に対して追尾フレーム を表示します。

ピントが合っている被写体がない場合は、追尾フレーム は表示されません。



● ON : する（追尾候補枠あり）

レンズのフォーカスリングを回したときに、ピントを合わせる対象の被写体にオレンジ色の追尾候補枠を表示します。フォーカスリングを回すごとに、異なる被写界深度の被写体に追尾候補枠が表示され、ピントが切り換わります。

● ON : する（追尾候補枠なし）

機能を有効にしますが、追尾候補枠を表示しません。

● OFF : しない

機能が無効になります。

⚠ 注意

- どこにもピントが合っていない状態の場合や、動いている被写体は選択できません。
- 風景や遠景など、被写界深度差がない場合は被写体を選択できません。
- 焦点距離や絞り数値、撮影距離などの被写体条件によって被写界深度差が少ない領域は選択できないことがあります。
- この機能でフォーカスリング操作中は、タッチ操作による被写体選択やボタン操作によるトラッキング開始/停止はできません。

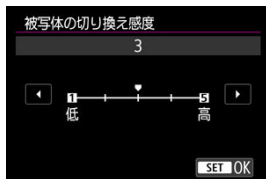
- この機能は、[レンズの電子式手動フォーカス] を設定時で以下の条件を満たす場合に、フォーカスリングの操作で主被写体を切り換えることができます。
 - [AF: AFエリア] が [フレキシブルゾーンAF1] ~ [フレキシブルゾーンAF3] または [全域AF]
 - [カメラ: デジタルズーム] が [切]
 - < AF ON > ボタンを押していない
- [カメラ: 動画記録サイズ] の解像度を [FHD] に設定し、フレームレート (S&F動画時は記録時のフレームレート) を150.0fps以上に設定した場合は、[AF: フォーカス操作後の被写体追尾] の設定が [しない] に固定されます。
- [AF: レンズの電子式手動フォーカス] の設定については、[レンズの電子式手動フォーカス](#)を参照してください。
- [動画サーボAF] を [する] に設定時

[AF: レンズの電子式手動フォーカス] を [可能 (等倍)] または [可能(ワンショット後のみ拡大)] に設定したときに、[電子式フルタイムMF] に対応したRFレンズにおいて、フォーカスリングの操作で主被写体を切り換えることができます。
- [動画サーボAF] を [しない] に設定、もしくは [動画サーボAF:一時停止] に設定時

[AF: レンズの電子式手動フォーカス] を [不可] 以外に設定したときに、[電子式フルタイムMF] に対応したRFレンズと [AF: レンズの電子式手動フォーカス] に対応したRFレンズにおいて、フォーカスリングの操作で主被写体を切り換えることができます。
- [AF: レンズの電子式手動フォーカス]、[電子式フルタイムMF] に対応したレンズについては、キヤノンのホームページを確認してください (🔗)。
- 同一の被写界深度に複数の被写体がある場合の動作は次のとおりです。
 - [AF: 検出する被写体] で設定した被写体を優先します。
 - [AF: 検出する被写体] で設定した被写体同士の場合、AFエリア中央の被写体が優先されます。
 - 物体と [AF: 検出する被写体] で設定した被写体がある場合、[AF: 検出する被写体] で設定した被写体が優先されます。
- [🔗: RFレンズ MF操作敏感度] でRFレンズのフォーカスリングを操作するときの感度を変更することができます (🔗)。

被写体の切り換え感度 応用

動画撮影で被写体を検出したときの、ピントの切り換わりやすさを設定できます。数値が高いほど切り換わりやすくなります。



● 低

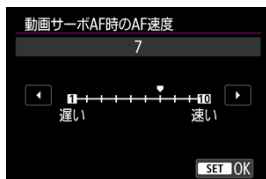
被写体がAFフレームから外れたときに、別の被写体に対して敏感に反応しない設定です。数値が小さいほど、より敏感に反応しなくなります。パンニングを行ったり、障害物がAFフレームを横切ったときに、意図しない別の被写体に、すぐにピントが移らないようにしたいときに有効です。

● 高

AFフレームで捉えている被写体に機敏に反応する設定です。数値が大きいほど、より敏感に反応します。動きの速い（撮影距離の変化が大きい）被写体にピントを合わせ続けたいときや、別の被写体にすぐにピントを合わせたいときに有効です。

動画サーボAF時のAF速度 **応用**

動画サーボAFのAF速度を設定することができます。この機能は【**AF**: 動画サーボAF設定】の【**動画サーボAF**】が【**する**】で、かつ「動画撮影時の低速ピント送り」対応レンズ*を使用時に機能します。



作画意図に合わせてAF速度を10段階で調整できます。

*「動画撮影時の低速ピント送り」対応レンズについて

2009年以降に発売されたUSMレンズ、およびSTMレンズが対応しています。詳しくはキヤノンのホームページでご確認ください（[🔗](#)）。

⚠ 注意

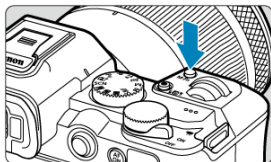
- 使用するレンズによっては、AF速度を調整しても、速度が変わらないことがあります。

📖 参考

- 機能しないときは、【**AF速度**】を【**7**】に設定したときと同じ動作になります。

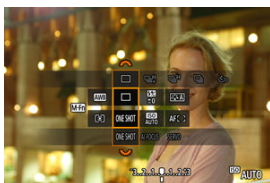
ドライブモードには1枚撮影と連続撮影があります。撮影シーンや被写体に応じてドライブモードを選びます。

1. 〈M-Fn〉 ボタンを押す (06)



- 画面に映像が表示された状態で、〈M-Fn〉 ボタンを押します。

2. ドライブモードの項目を選ぶ



- 〈M-Fn〉 ボタンを押して、ドライブモードの項目を選びます。

3. ドライブモードを選ぶ



- 〈〉を回して選びます。

● : 1枚撮影

シャッターボタンを全押しすると、1枚だけ撮影します。

● : 高速連続撮影+

シャッターボタンを全押しすると、押している間、[ : シャッター方式] の設定に応じて以下の連続撮影を行うことができます。

- [電子先幕] のとき：最高約6.0コマ/秒
- [電子シャッター] のとき：最高約40コマ/秒

● : 高速連続撮影

シャッターボタンを全押しすると、押している間、[ : シャッター方式] の設定に応じて以下の連続撮影を行うことができます。

- [電子先幕] のとき：最高約6.0コマ/秒
- [電子シャッター] のとき：最高約20コマ/秒

● : 低速連続撮影

シャッターボタンを全押しすると、押している間、[ : シャッター方式] の設定に応じて以下の連続撮影を行うことができます。

- [電子先幕] のとき：最高約3.0コマ/秒
- [電子シャッター] のとき：最高約5.0コマ/秒

● : セルフタイマー：10秒 / : セルフタイマー：2秒 / : セルフタイマー：連続撮影

セルフタイマー撮影については「セルフタイマー撮影」を参照してください ()。

❗ 注意

- [電子先幕] で [Q4] に設定したときに、連続撮影速度が約6.0コマ/秒となる条件は以下の通りです。
 - 常温 (23°C)
 - フル充電したLP-E17 (劣化したバッテリーでは、連続撮影速度が低下することがあります)
 - シャッタースピード: 1/1000秒以上
 - フリッカー低減処理: なし
 - ストロボ撮影: なし
 - マルチアクセサリシュー対応のアクセサリ装着: なし
 - 最高連続撮影速度に対応したレンズの絞り開放時
 - [電子シャッター] で [Q4] に設定したときに、連続撮影速度が約40コマ/秒となる条件は以下の通りです。
 - シャッタースピード: 1/40秒以上
- なお、以下の設定または連続撮影中の操作によっては、連続撮影速度が40コマ/秒以下となることがあります。
- 撮影モードが〈P〉〈Tv〉モード、または〈Fv〉モードで絞り数値が変化する設定の場合
 - ズーム操作を行った場合
 - 手動でピント合わせを行った場合
 - サーボAFによりフォーカス位置が変化した場合
 - バッテリーパック LP-E17またはDCカプラー DR-E6P以外を使用した場合
- 連続撮影速度は、バッテリー残量、温度、シャッタースピード、絞り数値、被写体条件、明るさ、AF動作、レンズの種類、ストロボ使用、撮影機能の設定などの条件により低下することがあります。
 - 最高連続撮影速度に対応するレンズについては、キヤノンのホームページを参照してください (🌐)。
 - サーボAF時は、被写体条件や使用レンズにより、連続撮影速度が低下することがあります。
 - フリッカー光源下で撮影を行うと、連続撮影速度が遅くなることがあります。
 - 連続撮影中に内部メモリーがいっぱいになると、一時的に撮影ができなくなるため (🌐)、連続撮影速度が途中から遅くなることがあります。
 - 撮影条件により、連続撮影速度が低下したり、ファインダーやモニターの映像が止まったりする場合があります。

📖 参考

- 各ドライブモードに記載している連続撮影速度は、カメラが初期状態のときの数値です。

セルフタイマーは記念撮影などに使用します。

1. 〈M-Fn〉 ボタンを押す (06)

- 画面に映像が表示された状態で、〈M-Fn〉 ボタンを押します。

2. ドライブモードの項目を選ぶ



- 〈M-Fn〉 ボタンを押して、ドライブモードの項目を選びます。

3. セルフタイマーを選ぶ



- 〈〉を回して、セルフタイマーを選びます。

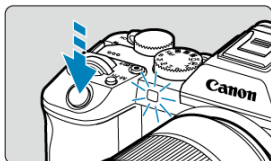
10 : 10秒後に撮影

2 : 2秒後に撮影

C : 10秒後に設定枚数を連続撮影*

* 連続撮影枚数 (2~10) は、[ : ドライブモード] またはクイック設定画面で設定します。

4. 撮影する



- ピントを合わせ、シャッターボタンを全押しします。
- セルフタイマーランプと電子音、モニターに表示される秒数の減算表示で作動を確認することができます。
- 撮影の約2秒前にセルフタイマーランプの点滅が速くなり、電子音が速く鳴ります。

⚠ 注意

- [📷] のときは、記録画質や外部ストロボ使用などの撮影条件により、連続撮影の間隔が長くなることがあります。

📖 参考

- [📷] は、三脚を使用した静物撮影や長秒時露光などで、撮影を開始する際、カメラから手を離しておきたいとき（カメラブレ防止）などに使用します。
- セルフタイマー撮影した画像は、その場で再生して (🔍)、ピントや露出を確認することをおすすめします。
- 自分一人だけをセルフタイマーで写すときは、自分が入る位置とほぼ同じ距離にあるものにフォーカスロックして撮影します (🔒)。
- セルフタイマー撮影を開始したあと、途中で中止するときは、モニターをタッチするか、(🔍) を押します。
- リモコン撮影ができる状態に設定されているときは、オートパワーオフまでの時間が長くなることがあります。

 [ワイヤレスリモートコントローラー BR-E2/BR-E1](#)

 [リモートスイッチ RS-80E3/RS-60E3](#)

ワイヤレスリモートコントローラー（別売/Bluetooth接続）、またはリモートスイッチ（別売/有線）を使用したリモコン撮影を行うことができます。

ワイヤレスリモートコントローラー BR-E2/BR-E1

カメラから最大約5m離れてリモコン撮影を行うことができます。

最初にカメラとワイヤレスリモートコントローラーのペアリングを行ってください (🔗)。操作方法については、ワイヤレスリモートコントローラーの使用説明書を参照してください。

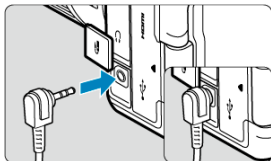
参考

- リモコン撮影ができる状態に設定されているときは、オートパワーオフまでの時間が長くなることがあります。
- 動画撮影時にワイヤレスリモートコントローラーを使用することもできます。

リモートスイッチ RS-80E3／RS-60E3

カメラに取り付けて、有線でリモコン撮影を行うことができます。
操作方法については、RS-80E3／RS-60E3の使用説明書を参照してください。

1. 端子カバーを開ける
2. リモコン端子にプラグを取り付ける



- ☑ [AFエリアを〈!\[\]\(746d018fdf6ab02bf5fb7681133e8b29_img.jpg\)〉で切り換える](#)
- ☑ [〈!\[\]\(5daa6eee1904cb6b9d765700250de764_img.jpg\)〉で複数の人物から被写体を選ぶ](#)
- ☑ [ゾーンAFフレームのサイズを変更する](#)

AFをカスタマイズする方法を紹介します。それぞれの設定を組み合わせて使うこともできます。

AFエリアを〈〉で切り換える

〈〉に、AFエリアの選択を割り当てることができます。

1. [: ダイヤル/リング カスタマイズ] で [] を選ぶ



2. [AFエリア選択] を選ぶ



- 〈〉でAFエリアを切り換えることができます。

参考

- フレキシブルゾーンAF1、フレキシブルゾーンAF2およびフレキシブルゾーンAF3を切り換えて使用するときは、あらかじめゾーンAFフレームを好みのサイズに変更しておくと便利です (🔗)。

〈※〉で複数の人物から被写体を選ぶ

複数の人物から被写体を選び、追尾フレームをロックさせます。

参考

- 次の状態を前提に説明しています。
 - [AFエリア] : [全域AF]
 - [サーボAF中の全域トラッキング] : [する]
 - [検出する被写体] : [人物]
 - [瞳検出] : [しない] 以外

1. [ : 撮影時ボタン カスタマイズ] で [AFフレームダイレクト選択] を選ぶ



2. 〈INFO〉ボタンを押し、[ダイレクト選択時の※中央押し] で [全域トラッキングの開始/停止] を選ぶ



3. シャッターボタンを半押してから指を離す



- 複数の被写体が検出されると、追尾フレーム（)が表示されます。

4. 〈※〉で被写体を決める



- 〈※〉をまっすぐに押すか、左右に動かします。
追尾フレームが  に変わり、被写体を追尾対象としてロックします。
- 追尾のロックを解除したいときは、 をタッチするか、〈※〉を押します。

注意

- 複数被写体を検出している場合でも、サーボAF中は枠の左右に  が表示されません。
- サーボAF中は追尾している被写体と種類の異なる被写体に切り換えることはできません。

ゾーンAFフレームのサイズを変更する

フレキシブルゾーンAF1、フレキシブルゾーンAF2、およびフレキシブルゾーンAF3で表示される、ゾーンAFフレームのサイズを変更します。

1. 撮影画面で〈〉ボタンを押す



2. 〈M-Fn〉ボタンを何度か押してフレキシブルゾーンAF1、フレキシブルゾーンAF2、またはフレキシブルゾーンAF3のいずれかを選び、〈MENU〉ボタンを押す



3. ゾーンAFフレームのサイズを変更する



- 〈〉〈〉でゾーンAFフレームのサイズを変更し、〈〉を押します。
- 〈INFO〉ボタンを押すと、初期設定に戻ります。

再生

この章では、撮影した画像（静止画／動画）を再生する方法や、メニュー機能の「：再生タブ」に含まれる項目など、再生に関連する内容について説明しています。

❗ 注意

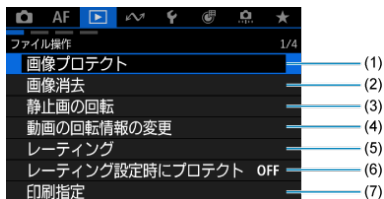
- 他のカメラで撮影した画像や、このカメラで撮影したあと、パソコンなどで画像を加工したり、ファイル名を変更した画像は、カメラで正常に表示／設定できないことがあります。
- 再生機能に使用できない画像が表示されることがあります。

- [メニュー目次：再生タブ](#)
- [画像の再生](#)
- [画像の拡大表示](#)
- [インデックス表示（複数画像表示）](#)
- [動画の再生](#)
- [動画の前後部分のカット](#)
- [4K動画からフレーム切り出し](#)
- [テレビで見る](#)
- [画像プロテクト](#)
- [画像消去](#)
- [静止画の回転](#)
- [動画の回転情報の変更](#)
- [レーティング](#)
- [レーティング設定時にプロテクト](#)
- [印刷指定／DPOF](#)
- [RAW現像](#) **応用**
- [クリエイティブアシスト](#)
- [クイック設定からのRAW現像](#) **応用**
- [JPEG/HEIF画像のリサイズ](#)
- [JPEG/HEIF画像のトリミング](#)
- [HEIF画像をJPEG画像に変換](#) **応用**
- [スライドショー](#)
- [画像検索の条件設定](#)
- [前回の画像から再生](#)
- [再生する情報の設定](#)
- [ハイライト警告表示](#)
- [AFフレーム表示](#)
- [再生時のグリッド](#)

- [動画再生カウント](#)

メニュー目次：再生タブ

● ファイル操作



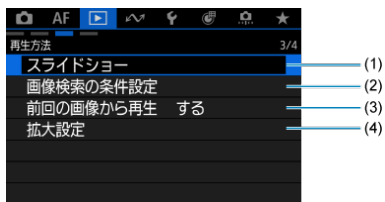
- (1) [画像プロテクト](#)
- (2) [画像消去](#)
- (3) [静止画の回転](#)
- (4) [動画の回転情報の変更](#)
- (5) [レーティング](#)
- (6) [レーティング設定時にプロテクト](#)
- (7) [印刷指定](#)

● 画像編集



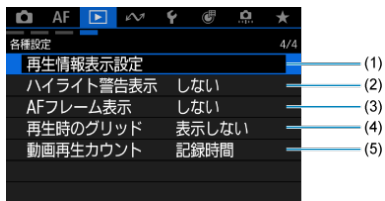
- (1) [RAW現像](#) **応用**
- (2) [クリエイティブアシスト](#)
- (3) [クイック設定からのRAW現像](#) **応用**
- (4) [リサイズ](#)
- (5) [トリミング](#)
- (6) [HEIF→JPEG変換](#) **応用**

● 再生方法



- (1) [スライドショー](#)
- (2) [画像検索の条件設定](#)
- (3) [前回の画像から再生](#)
- (4) [拡大設定](#)

● 各種設定



- (1) [再生情報表示設定](#)
- (2) [ハイライト警告表示](#)
- (3) [AFフレーム表示](#)
- (4) [再生時のグリッド](#)
- (5) [動画再生カウント](#)

画像の再生

- ☒ [1枚表示](#)
- ☒ [撮影情報表示](#)
- ☒ [タッチ再生](#)

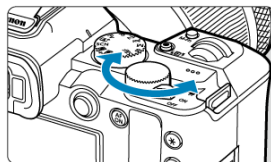
1枚表示

1. 画像を再生する



- 〈▶〉 ボタンを押します。
- 最後に撮影した画像、または最後に再生した画像が表示されます。

2. 画像を選ぶ



- 〈〉を回すと画像が切り換わります。撮影の順番にかかわらず、動画または静止画は続けて表示されます。
- 〈〉ボタンを押すと、最後に撮影した動画、または最も大きいフォルダ番号内の最も大きいファイル番号の静止画が表示されます。
- 〈INFO〉ボタンを押すたびに、表示形式が切り換わります。

情報表示なし



簡易情報表示



撮影情報表示

3. 再生を終了する

- 〈〉 ボタンを押すと再生が終了し、撮影準備状態に戻ります。

参考

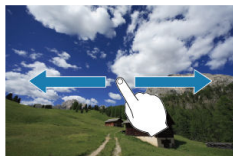
- [: 静止画クロップ/アスペクト] を [1:1 (アスペクト)] [4:3 (アスペクト)] [16:9 (アスペクト)] に設定して () 撮影したRAW画像は、再生したときに撮影範囲を示す線が表示されます。
- [: 画像検索の条件設定] で検索条件が設定されているときは ()、絞り込まれた画像だけが表示されます。
- [: トリミング情報の付加] を [しない] 以外に設定して () 撮影した画像は、再生したときに撮影範囲を示す線が表示されます。

撮影情報表示の画面 (🔍) が表示されている状態で (※) を上下に操作すると、表示される情報が切り換わります。なお、表示する情報は、[▶ : 再生情報表示設定] で任意に設定することができます (🔍)。

タッチ再生

カメラのモニターは、タッチ機能を備えています。スマートフォンなどと同じように、指で操作することができます。〈▶〉ボタンを押して画像を再生した状態で操作します。

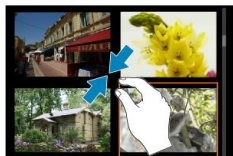
画像送り



ジャンプ表示



インデックス表示



拡大表示



参考

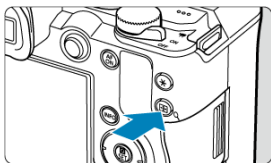
- 画面を指1本で素早く2回触れても（ダブルタップ）拡大表示ができます。

画像の拡大表示

- ☑ [拡大開始倍率を設定する](#)
- ☑ [拡大開始位置を設定する](#)
- ☑ [画像送りしたときの拡大位置の継続](#)

撮影した画像を拡大して表示することができます。

1. 画像を拡大する

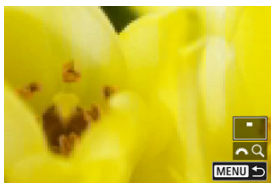
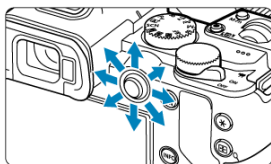


- 〈Q〉ボタンを押します。



- 拡大表示になります。画面右下に拡大位置 (1) と [🔍Q] が表示されます。
- 〈🔍〉を右に回すたびに拡大します。
- 〈🔍〉を左に回すたびに縮小します。さらに回していくと、インデックス表示 (🔍) になります。

2. 表示位置を移動する



- 〈※〉を操作した方向に表示位置が移動します。
- 〈Q〉ボタンまたは〈MENU〉ボタンを押すと、拡大表示が終了します。

参考

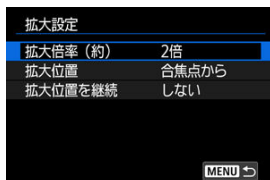
- 〈〉を回すと、拡大表示のまま画像が切り換わります。
- 動画は拡大表示できません。
- 〈※〉を中央押しても画像を拡大することができます（〈Q〉ボタンと同じ操作です）。

拡大開始倍率を設定する

拡大表示を開始したときの表示倍率を設定することができます。

1. [] : 拡大設定] を選ぶ ()

2. [拡大倍率 (約)] を選ぶ



3. 項目を選ぶ



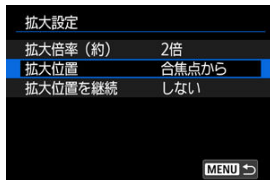
- **2倍／4倍／8倍／10倍**
選択した倍率で拡大表示が始まります。
- **等倍**
記録画像の画素を約100%で表示します。
- **前回と同じ倍率**
前回拡大表示を終了したときと同じ倍率で、拡大表示が始まります。

拡大開始位置を設定する

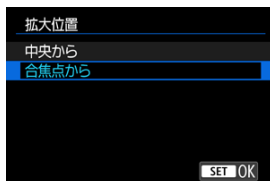
拡大表示を開始したときの表示位置を設定することができます。

1. [] : 拡大設定] を選ぶ ()

2. [拡大位置] を選ぶ



3. 項目を選ぶ



- 中央から

画面中央から拡大表示が始まります。

- 合焦点から

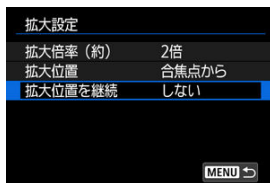
ピントが合ったAFフレームの位置から拡大表示が始まります。なお、手動ピント合わせで撮影した画像は、画面中央から拡大表示が始まります。

画像送りしたときの拡大位置の継続

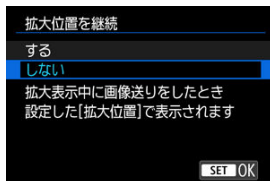
拡大表示中に画像送りをしたとき、現在表示中の拡大位置を継続するか、[拡大位置]で設定した位置で表示するか、設定することができます。

1. [] : 拡大設定] を選ぶ ()

2. [拡大位置を継続] を選ぶ



3. 項目を選ぶ



● する

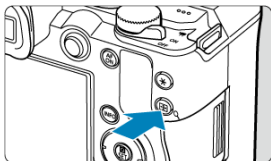
拡大表示中に画像送りをしたとき、現在表示中の拡大位置を継続します。

● しない

拡大表示中に画像送りをしたとき、[拡大位置]で設定した位置で表示されます。

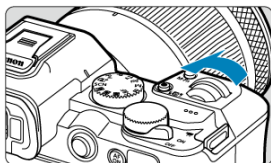
インデックス表示（複数画像表示）

1. 画像を拡大表示にする

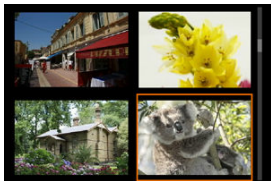


- 画像を再生した状態で〈Q〉ボタンを押します。
- 画面右下に $\left[\text{太陽} \text{Q} \right]$ が表示されます。

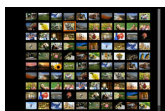
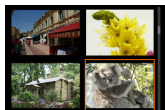
2. インデックス表示にする



- 〈 太陽 〉を左に回します。



- 4枚表示になります。選択されている画像にオレンジ色の枠が付きます。
- 〈 太陽 〉をさらに左に回すと、9枚→36枚→100枚表示になります。右に回すと、100枚→36枚→9枚→4枚→1枚表示になります。

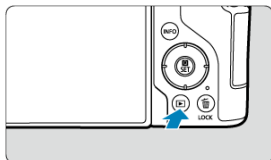


3. 画像を選ぶ



- 〈※〉または〈〉を操作してオレンジ色の枠を移動させ、画像を選びます。
- インデックス表示の状態で〈〉を押すと、選んだ画像が1枚表示されます。

1. 画像を再生する



- 〈▶〉ボタンを押します。

2. 動画を選ぶ



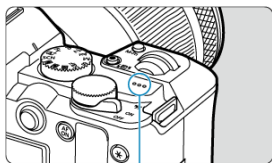
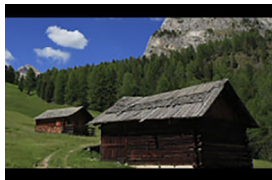
- 〈◀▶〉を回して再生する動画を選びます。
- 1枚表示のときに、画面左上に「SET」が表示されている画像が動画です。



- インデックス表示のときは、画面左側に縦帯の付いた画像が動画です。インデックス表示からは再生できませんので、〈◀▶〉を押して1枚表示にします。

3. 1枚表示の状態で〈〉を押す

4. を選ぶ



(1)

- 動画再生が始まります。音がスピーカー（1）から再生されます。
- 再生中に〈〉を押すと、再生が一時停止し、動画再生パネルが表示されます。もう一度押すと再開します。
- 〈▲〉〈▼〉を押すと、再生中でも音量を調整することができます。

動画再生パネル



項目	再生内容
◀ 前スキップ	〈◀〉を押すたびに約1秒戻します。〈◀〉を押し続けると早戻しします。
◀◀ フレーム戻し	〈◀◀〉を左に回すたびに1コマ戻します。
▶▶ 再生	〈▶▶〉を押すたびに再生／一時停止を繰り返します。
▶▶ フレーム送り	〈▶▶〉を右に回すたびに1コマ送ります。
▶ 次スキップ	〈▶〉を押すたびに約1秒送ります。〈▶〉を押し続けると早送りします。
▬	再生位置
hh:mm:ss	再生時間 (hh : 時、mm : 分、ss : 秒 / 【動画再生カウント : 記録時間】 設定時)
hh:mm:ss.ff (DF) hh:mm:ss:ff (NDF)	タイムコード (hh : 時、mm : 分、ss : 秒、ff : フレーム / 【動画再生カウント : タイムコード】 設定時)
🔊 音量	〈▲〉〈▼〉を押すと、スピーカー (🔊) の音量を調整することができます。
🖼️ 🔄	〈🖼️ 🔄〉ボタンを押すと、次の画面に進みます (🔄)。
MENU ↶	〈MENU〉ボタンを押すと、1枚表示に戻ります。



前の画面と異なる項目のみ説明します。

項目	再生内容
編集	編集画面を表示します (🔗)。
スロー再生	〈🌀〉を回すとスロー再生の速さを変えることができます。画面右上に速さの度合いが表示されます。
フレーム切り出し	4K動画再生時に選択することができます。画面に表示しているフレームを切り出して、静止画 (JPEG画像/HEIF画像) として保存することができます (🔗)。
MENU	〈MENU〉ボタンを押すと、前の画面に戻ります。

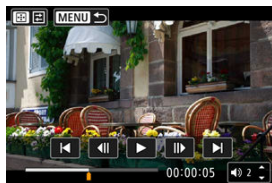
⚠ 注意

- カメラをテレビに接続して動画を再生するときは (🔗)、テレビ側で音量の調整を行ってください (⚡) を上下に押しても音量は変わりません)。
- カードの読み取り速度が遅いとき、動画ファイル内のフレームが壊れているときは、動画再生が終了することがあります。

動画の前後部分のカット

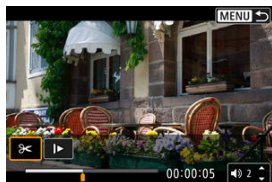
撮影した動画の前後部分を約1秒単位で削除することができます。

1. 動画を再生して一時停止させる

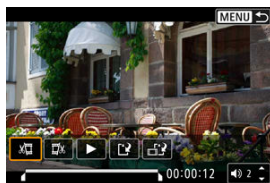


- 動画再生パネルが表示されます。

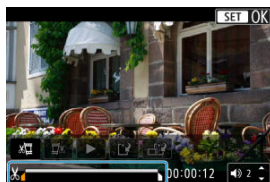
2. <[]> ボタンを押して、[] を選ぶ



3. 削除する範囲を指定する

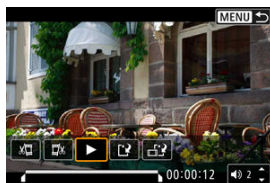


- [X] (前部を削除) か、[X] (後部を削除) を選びます。



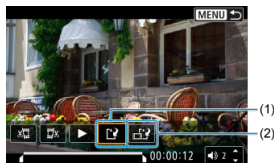
- <※> を左右に押すとフレームが送られます。押したままにすると早送りになります。<☺> を回すと1フレームずつ送られます。
- 削除する範囲が決まったら、<☺> を押します。画面下部に線で表示された範囲が残ります。

4. 編集内容を確認する



- [▶] (再生) を選ぶと、編集した動画が再生されます。
- 削除する範囲を変更するときは、手順3の操作を行います。
- 編集を中止するときは、<MENU> ボタンを押します。

5. 保存する



- [□→] (1) を選びます。
- 保存画面が表示されます。
- 別のファイルとして保存するときは**【新規保存】**、編集前の動画を残さないときは**【上書き保存】**を選びます。
[□→] (2) が表示されるときは、圧縮して別のファイルとして保存できます。
- 確認画面で**【OK】**を選ぶと、編集した動画が保存され、再生画面に戻ります。

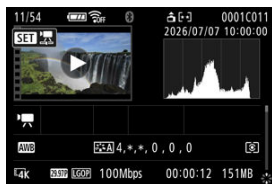
⚠ 注意

- 約1秒単位（画面下部に【✂】が表示される位置）で削除されるため、実際にカットされる位置が指定した位置と異なることがあります。
- 他のカメラで撮影した動画はこのカメラで編集できません。
- 4GBを超えて分割された動画では、前後部分のカットはできません。
- カメラとパソコンを接続しているときは編集できません。
- バッテリーの残量が少ない場合は、動画の圧縮が行われなかったことがあります。バッテリーを充電するか、家庭用電源アクセサリー（別売）の使用をおすすめします。
- 長時間の動画を編集するときは、家庭用電源アクセサリー（別売）の使用をおすすめします。

4K動画からフレーム切り出し

4K動画から任意のフレームを選び、静止画（JPEG画像、HEIF画像）として保存することができます。この機能を「フレーム切り出し」といいます。

1. 4K動画または4Kタイムラプス動画を選ぶ



- 〈〉を回して4K画質で撮影した動画を選びます。
- インデックス表示のときは、〈〉を押して1枚表示にします。

2. 1枚表示の状態で〈〉を押す

- 再生のクイック設定画面が表示されます。

3. 〈〉を選ぶ



- 動画再生が始まります。

4. <⏸>を押して、動画を一時停止させる

- 動画再生パネルが表示されます。

5. 切り出すフレームを選ぶ



- 動画再生パネルを操作して、静止画として切り出したいフレームを選びます。
- 動画再生パネルの操作方法は、[動画再生パネル](#)を参照してください。

6. <⏏> ボタンを押して、[⏏] を選ぶ



7. 保存する



- [OK] を選ぶと、画面に表示されているフレームが静止画（JPEG画像）として保存されます。
[📷: 📺HDR撮影(PQ)] を [HDR PQ] に設定して撮影した動画からフレームを切り出した場合は、HEIF画像で保存されます。
- 保存先のフォルダと画像番号を確認します。

8. 表示する画像を選ぶ

- [元の動画] または [切り出した静止画] を選びます。

⚠ 注意

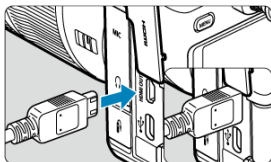
- 下記の4K動画からは、フレームを切り出すことはできません。
 - [📷: カラーモード] を [カスタムピクチャー] に設定して撮影した動画
 - 他のカメラで撮影した動画
- カメラとパソコンを接続しているときはフレーム切り出しできません。

テレビで見る

カメラとテレビを市販のHDMIケーブルで接続して、撮影した静止画や動画をテレビで見ることができます。

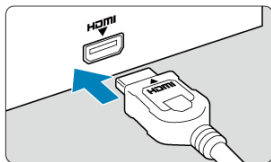
なお、テレビに映像が表示されないときは、[⚙️：システム周波数]の[59.94Hz:NTSC][50.00Hz:PAL]の設定を確認してください（テレビが対応している方式に合わせてください）。

1. HDMIケーブルをカメラに接続する



- HDMIケーブルを、カメラの〈HDMI OUT〉端子に差し込みます。

2. テレビにHDMIケーブルを接続する



- HDMIケーブルを、テレビのHDMI入力端子に接続します。

3. テレビの電源を入れ、テレビの入力切り換えで接続した端子を選ぶ

4. カメラの電源スイッチを〈ON〉にする

5. <▶> ボタンを押す



- 画像がテレビに表示されます (カメラのモニターには何も表示されません)。電源スイッチが「」の位置のときは、[: HDMI接続時の表示] の設定によって異なります。
- 接続したテレビに合わせて、自動的に最適な解像度で画像が表示されます。

⚠ 注意

- 動画再生時の音量はテレビ側で調整します。カメラ側から音量の調整はできません。
- ケーブルの取り付け／取り外しを行うときは、カメラとテレビの電源を切った状態で行ってください。
- 使用するテレビにより、表示内容の一部が欠けて表示されることがあります。
- 他の機器からの出力をカメラの「**HDMI OUT**」端子に入力しないでください。故障の原因になります。
- テレビとの相性により、映像が表示されないことがあります。
- カメラとテレビを接続したときは、画面にタッチして操作することはできません。

📖 参考

- 映像が再生されるまでに時間がかかることがあります。この現象が気になるときは、[: HDMI出力解像度] を [自動] 以外に設定してください (🔍)。なお、撮影時の設定が異なる動画がカード内に混在している場合は、映像が表示されるまでに時間がかかることがあります。

画像プロテクト

- ☒ [1枚ずつプロテクト](#)
- ☒ [範囲を指定してプロテクト](#)
- ☒ [フォルダ内／カード内全画像プロテクト](#)

大切な画像を誤って消去しないように、プロテクト（保護）することができます。

! 注意

- カードを初期化すると (🔗)、プロテクトされた画像も消去されます。

📖 参考

- プロテクトした画像は、カメラの消去機能で消去できません。画像を消去するときは、プロテクトを解除してください。
- 必要な画像をプロテクトしてから全画像消去 (🔗) を行うと、プロテクトした画像以外はすべて消去されます。不要な画像を一度にまとめて消去するときに便利です。

1枚ずつプロテクト

1. [📷: 画像プロテクト] を選ぶ (🔗)

2. [画像を選択] を選ぶ



3. プロテクトする画像を選ぶ

- 〈〉を回してプロテクトする画像を選びます。

4. プロテクトする

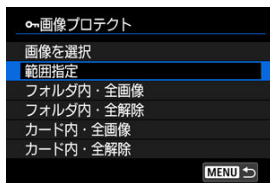


- 〈〉を押すと画像がプロテクトされ、画面の上に [] (1) が表示されます。
- もう一度 〈〉を押すと、プロテクトが解除され [] が消えます。
- 他にプロテクトしたい画像があるときは、手順3、4を繰り返します。

範囲を指定してプロテクト

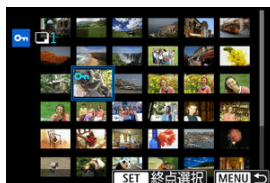
インデックス表示された画像を見ながら、プロテクトする範囲（始点／終点）を指定して、まとめてプロテクトすることができます。

1. 「範囲指定」を選ぶ



- [] : 「Image Protect」の「範囲指定」を選びます。

2. 範囲を指定する



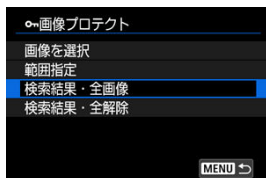
- 始めの画像（始点）を選びます。
- 続けて終わりの画像（終点）を選びます。指定した範囲の画像がプロテクトされ、[] が表示されます。
- 他にプロテクトしたい画像があるときは、手順2を繰り返します。

フォルダ内／カード内全画像プロテクト

フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめてプロテクトすることができます。



- [] : 画像プロテクト] で [フォルダ内・全画像] または [カード内・全画像] を選ぶと、その中のすべての画像がプロテクトされます。
- 解除するときは [フォルダ内・全解除] または [カード内・全解除] を選びます。
- [] : 画像検索の条件設定] で検索条件が設定されているときは (), 表示される内容が [検索結果・全画像] [検索結果・全解除] に変わります。



- [検索結果・全画像] を選ぶと、検索条件で絞り込まれたすべての画像がプロテクトされます。
- [検索結果・全解除] を選ぶと、絞り込まれた画像のプロテクトがすべて解除されます。

画像消去

- ☑ [1枚ずつ消去](#)
- ☑ [チェック \[✓\] を付けてまとめて消去](#)
- ☑ [範囲を指定して消去](#)
- ☑ [フォルダ内／カード内全画像消去](#)

不要な画像を1枚ずつ選んで消去したり、まとめて消去することができます。なお、プロテクト (🔒) をかけた画像は消去されません。

! 注意

- 消去した画像は復元できません。十分に確認してから消去してください。また、大切な画像は、誤って消去しないようプロテクトをかけてください。

1枚ずつ消去

1. 〈▶〉ボタンを押す

2. 消去する画像を選ぶ

- 〈🔍〉を回して消去する画像を選びます。

3. 〈🗑〉ボタンを押す



4. 消去する

JPEG画像／HEIF画像／RAW画像／動画



- 「消去」を選びます。

RAW+JPEG画像／RAW+HEIF画像



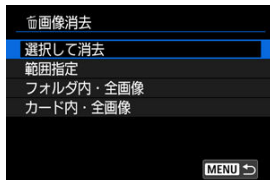
- 項目を選びます。
- ドライブモードを [RAW] [RAW+HEIF] [RAW+JPEG] に設定して撮影した画像を再生しているときは、「この画像を含む連写画像全てを消去」を選ぶと連続撮影された画像がまとめて消去されます。

チェック [✓] を付けてまとめて消去

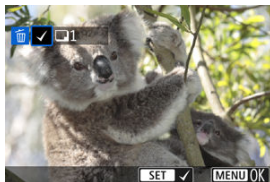
消去したい画像にチェックを付けて、まとめて消去することができます。

1. [: 画像消去] を選ぶ ()

2. [選択して消去] を選ぶ

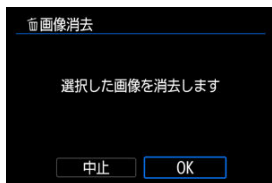


3. 画像を選ぶ



- 〈  〉を回して消去する画像を選び、〈  〉を押します。
- 他に消去したい画像があるときは、手順3を繰り返します。
- 〈MENU〉ボタンを押します。

4. 消去する

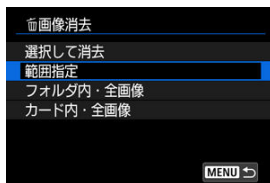


- [OK] を選びます。

範囲を指定して消去

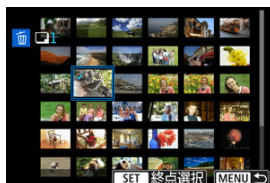
インデックス表示された画像を見ながら、消去する範囲（始点／終点）を指定して、まとめて消去することができます。

1. 「範囲指定」を選ぶ



- 「：画像消去」の「範囲指定」を選びます。

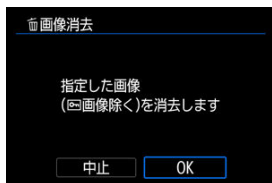
2. 範囲を指定する



- 始めの画像（始点）を選びます。
- 続けて終わりの画像（終点）を選びます。始点から終点までの範囲の画像に「」が表示されます。
- 他に消去したい画像があるときは、手順2を繰り返します。

3. 〈MENU〉ボタンを押す

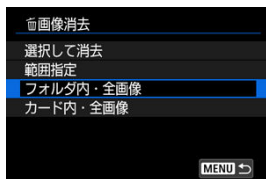
4. 消去する



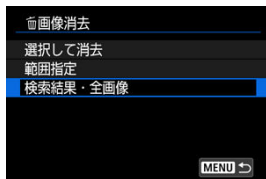
- [OK] を選びます。

フォルダ内／カード内全画像消去

フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめて消去することができます。



- []: 画像消去] で [フォルダ内・全画像] または [カード内・全画像] を選ぶと、その中のすべての画像が消去されます。
- []: 画像検索の条件設定] で検索条件が設定されているときは (🔍)、表示される内容が [検索結果・全画像] に変わります。



- [検索結果・全画像] を選ぶと、検索条件で絞り込まれたすべての画像が消去されます。

参考

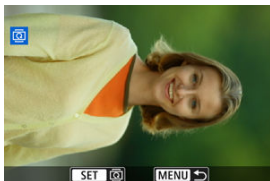
- プロテクトがかけられた画像を含め、すべての画像を消去したいときは、カード初期化を行います (🔄)。

静止画の回転

画像が表示される向きを変えたいときは、この方法で回転させることができます。

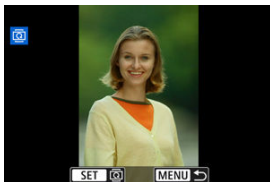
1. [静止画の回転] を選ぶ (🔍)

2. 回転させる画像を選ぶ



- 〈🔄〉を回して画像を選びます。

3. 回転させる



- 〈🔄〉を押すたびに、時計方向に回転 (90°→270°→0°) します。
- 他に回転したい画像があるときは、手順2、3を繰り返します。

📖 参考

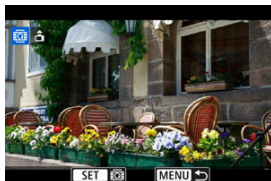
- [📷: 縦位置画像回転表示] を [する📷] (🔍) に設定して撮影すると、この機能で画像を回転させる必要がなくなります。
- 回転した画像が再生時に回転した向きで表示されないときは、[📷: 縦位置画像回転表示] を [する📷] に設定します。
- 動画は回転できません。

動画の回転情報の変更

動画再生時の回転情報（上の向きの情報）を手動で書き換えることができます。

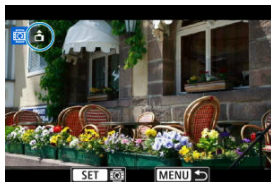
1. [ : 動画の回転情報の変更] を選ぶ ()

2. 動画を選ぶ



-  を回して回転情報を変更する動画を選びます。

3. 回転情報を変更する



- 画面左上に表示されるカメラと ▲ を見ながら、 を押して、上の向きを設定します。 を押すたびに [] → [] → [] の順に動画の回転情報が書き換わります。

❗ 注意

- カメラ、HDMI映像出力先で動画を再生したときは、[ : 縦位置情報の付加] () の設定に関わらず、横位置で再生されます。
- 他のカメラで撮影した動画は、動画の回転情報の書き換えはできません。

レーティング

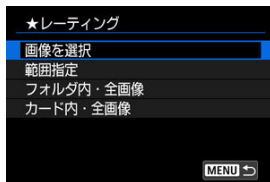
- ☑ [メニューから1枚ずつレーティング](#)
- ☑ [範囲を指定してレーティング](#)
- ☑ [フォルダ内／カード内全画像レーティング](#)

撮影した画像に、5種類のお気に入りマーク（[★]/[☆]/[☆☆]/[☆☆☆]/[☆☆☆☆]）を付加することができます。この機能を「レーティング」といいます。

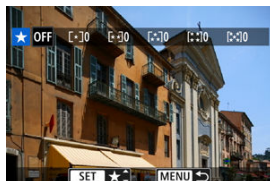
* レーティングは「評価」や「等級」などの意味です。

メニューから1枚ずつレーティング

1. [📷:レーティング] を選ぶ (🔍)
2. [画像を選択] を選ぶ



3. レーティングする画像を選ぶ



- <📷> を回してレーティングする画像を選びます。

4. レーティングを設定する

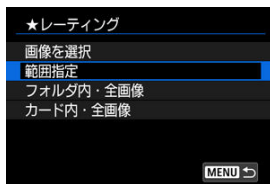


- 〈〉を押すと、図の位置に青い枠が表示されます。
- 〈〉を回してお気に入りマークを選び、〈〉を押します。
- お気に入りマークを付けると、そのマークの横にある数値がカウントされます。
- 他にレーティングを行いたい画像があるときは、手順3、4を繰り返します。

範囲を指定してレーティング

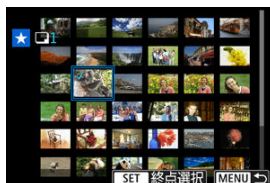
インデックス表示された画像を見ながら、レーティングする範囲（始点／終点）を指定して、まとめてレーティングすることができます。

1. 「範囲指定」を選ぶ



- [] : 「レーティング」の「範囲指定」を選びます。

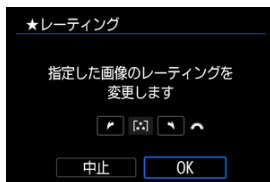
2. 範囲を指定する



- 始めの画像（始点）を選びます。
- 続けて終わりの画像（終点）を選びます。始点から終点までの範囲の画像に [✓] が表示されます。
- 他に指定したい画像があるときは、手順2を繰り返します。

3. 〈MENU〉ボタンを押す

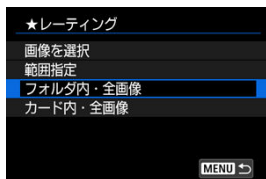
4. レーティングを設定する



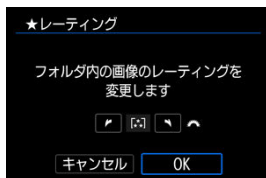
- 〈〉でお気に入りマークを選び、[OK] を選びます。
指定した範囲の画像に対して、まとめて（同一の）レーティングが行われます。

フォルダ内／カード内全画像レーティング

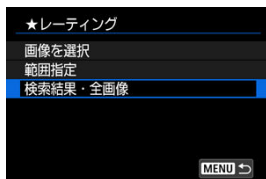
フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめてレーティングすることができます。



- [ : レーティング] で [**フォルダ内・全画像**] または [**カード内・全画像**] を選ぶと、その中のすべての画像がレーティングされます。



- <  > でレーティングを選び、[**OK**] を選びます。
- レーティングを行わないときや、解除するときは [**OFF**] を選びます。
- [ : 画像検索の条件設定] で検索条件が設定されているときは (), 表示される内容が [**検索結果・全画像**] に変わります。



- [**検索結果・全画像**] を選ぶと、検索条件で絞り込まれたすべての画像が、指定した内容でレーティングされます。

参考

- お気に入りマークの横に表示される数値が1000（枚）を超えると [**###**] と表示されます。

レーティング設定時にプロテクト

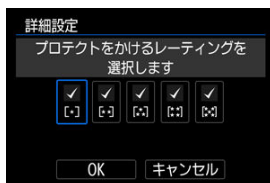
撮影した画像にレーティング（お気に入りマーク）を設定した際、その画像をプロテクト（保護）することができます。

1. [📷:レーティング設定時にプロテクト]を選ぶ (🔗)

2. <INFO> ボタンを押す

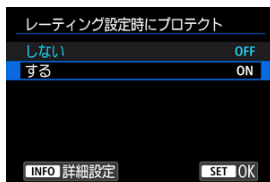
- [詳細設定] 画面が表示されます。

3. プロテクト対象のお気に入りマークを選ぶ



- <📷> でお気に入りマークを選びます。
- <👤> を押すごとに、[✓] を外したり付けたりできます。
- この手順を繰り返して、プロテクトするお気に入りマークに [✓] を付け、[OK] を選びます。

4. [する] を選ぶ



 参考

- レーティングを解除しても、プロテクトは解除されません。

印刷指定／DPOF

[印刷内容の設定](#)

[印刷する画像の指定](#)

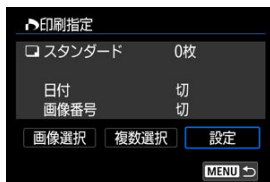
カードに記録されている画像の中から、印刷したい画像と印刷枚数などを指定することができるDPOF (Digital Print Order Format) 機能に対応しています。複数の画像を一度に印刷したいときや、写真店に印刷注文する際に使います。

印刷タイプや日付、画像番号の入／切といった印刷内容の設定を行います。この設定は、印刷指定したすべての画像に対して、一律に適用されます（1画像ごとに別々の設定はできません）。

印刷内容の設定

1.  : 印刷指定] を選ぶ ()

2. [設定] を選ぶ

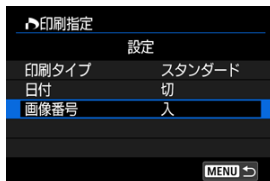


3. 項目の内容を設定する

- [印刷タイプ] [日付] [画像番号] の内容を設定します。

印刷タイプ		スタンダード	用紙1枚に1画像を印刷します。
		インデックス	用紙1枚に縮小画像を複数印刷します。
		両方	スタンダードとインデックスの両方を印刷します。
日付	入	[入] にすると、撮影画像に記録されている日付情報を入れて印刷します。	
	切		
画像番号	入	[入] にすると、画像番号を付けて印刷します。	
	切		

4. 設定を終了する

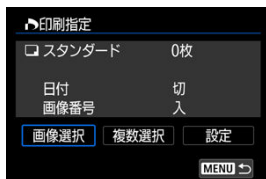


- 〈MENU〉ボタンを押します。
- 次に印刷指定画面の [画像選択] [複数選択] で、印刷する画像を指定します。

ⓘ 注意

- 画像サイズが大きい画像を[インデックス][両方]の設定で印刷すると(☑)、プリンターにより、インデックス印刷が行われないことがあります。そのときは、画像をリサイズしてから(☑)インデックス印刷を行ってください。
- [日付][画像番号]を[入]にしても、印刷タイプの設定やプリンターにより、印刷されないことがあります。
- [インデックス]に設定したときは、[日付]と[画像番号]を同時に[入]にできません。
- 印刷するときは、印刷指定を行ったカードを使用してください。画像データだけをカードから抜き出して印刷すると、指定した内容で印刷できません。
- DPOFに対応したプリンターの機種や、写真店の機器により、指定内容が反映されないことがあります。プリンターの場合は、プリンターの使用説明書を参照してください。写真店の場合は、事前にお店に確認してください。
- 他のカメラで印刷指定した画像を、このカメラに入れて再度印刷指定しないでください。印刷指定されている内容が、意図せずすべて書き換えられることがあります。また、画像の種類により、印刷指定できないことがあります。

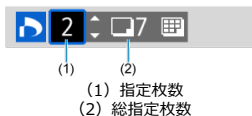
画像選択



画像を1枚ずつ選んで指定します。

〈MENU〉ボタンを押すと、指定した内容がカードに保存されます。

● スタンダード／両方



(1) 指定枚数
(2) 総指定枚数

〈〉を押すと、表示されている画像が1枚印刷指定されます。続けて〈〉を回すと、枚数を最大99枚に設定することができます。

● インデックス

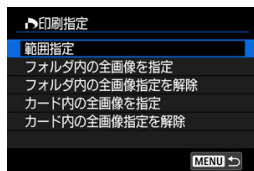


(3) チェックマーク
(4) インデックスマーク

〈〉を押して [✓] を付けた画像が、インデックス印刷用の画像として指定されます。

複数選択

● 範囲指定



〔複数選択〕の〔範囲指定〕を選びます。始めの画像（始点）と終わりの画像（終点）を選べば、始点から終点までの範囲の画像に〔✓〕が表示され、1画像1枚で印刷指定されます。

● フォルダ内の全画像

〔フォルダ内の全画像を指定〕を選び、フォルダを選択すると、フォルダ内のすべての画像が、1画像1枚で印刷指定されます。

〔フォルダ内の全画像指定を解除〕を選び、フォルダを選択すると、フォルダ内の印刷指定がすべて解除されます。

● カード内の全画像

〔カード内の全画像を指定〕を選べば、カードに記録されているすべての画像が、1画像1枚で印刷指定されます。

〔カード内の全画像指定を解除〕を選べば、カード内の印刷指定がすべて解除されます。

〔▶〕：画像検索の条件設定で検索条件が設定されているときは（☑）、〔複数選択〕を選んだときに、表示される内容が〔検索結果の全画像を指定〕〔検索結果の全画像の指定解除〕に変わります。

● 検索結果の全画像

〔検索結果の全画像を指定〕を選べば、検索条件で絞り込まれたすべての画像が、1画像1枚で印刷指定されます。

〔検索結果の全画像の指定解除〕を選べば、絞り込まれた画像の印刷指定がすべて解除されます。

❗ 注意

- RAW/HEIF画像と動画は印刷指定できません。また、〔複数選択〕でまとめて印刷指定を行っても、RAW/HEIF画像と動画は指定されません。

 [拡大表示](#)

 [アスペクト比を設定した画像の現像](#)

 [現像処理の項目](#)

RAWまたは**CRAW**で撮影した画像をカメラで現像して、JPEG画像やHEIF画像を作ることができます。RAW画像そのものは撮影時のまま何も変わりませんので、現像条件を変えたJPEG画像やHEIF画像を何枚も作ることができます。

RAW画像はEOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalで現像処理を行うこともできます。

 注意

- 拡張ISO感度（L、H）で撮影した**RAW**、**CRAW**はHEIFに現像できません。

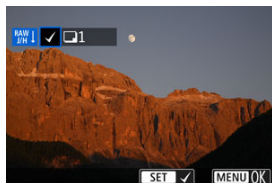
1. : RAW現像] を選ぶ (🔗)

2. 項目を選び、画像を選択する



- RAW現像を行う画像をまとめて選択（指定）することができます。

画像を選択



- 〈〉を回して現像する画像を選び、〈〉を押します。
- 〈MENU〉ボタンを押します。

範囲指定



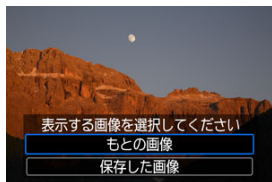
- 始めの画像（始点）を選びます。
- 続けて終わりの画像（終点）を選びます。始点から終点までの範囲の画像に「✓」が表示されます。
- 他に現像したい画像があるときは、この手順を繰り返します。
- 〈MENU〉ボタンを押します。

4. 保存する



- [細かく設定してJPEGに現像] [細かく設定してHEIFに現像] のときは [📁] (保存) を選びます。
- 内容を確認し、[OK] を選びます。
- 他に現像したい画像があるときは [はい] を選びます。

5. 表示する画像を選ぶ



- [もとの画像] または [保存した画像] を選びます。
- 選択した画像が表示されます。

拡大表示

〔細かく設定してJPEGに現像〕〔細かく設定してHEIFに現像〕を選んだあと、表示された画面で〈Q〉ボタンを押すと、画像を拡大することができます。拡大率は、〔記録画質〕の設定により異なります。〈※〉で拡大表示位置を変えることができます。
もう一度〈Q〉ボタンを押すと、拡大表示が終了します。

❗ 注意

- 〔デジタルレンズオブティマイザ〕を〔強め〕に設定して現像を行ったときの効果は、拡大表示時のみ反映されます。通常表示には反映されません。

アスペクト比を設定した画像の現像

〔📷：静止画クロップ/アスペクト〕(🔍) を〔1:1 (アスペクト)〕〔4:3 (アスペクト)〕〔16:9 (アスペクト)〕に設定して撮影したRAW画像を現像したときは、設定したアスペクト比のJPEG画像やHEIF画像が作られます。

● ±0 明るさ補正

1/3段ステップ±1段の範囲で明るさを補正することができます。

● ホワイトバランス (🔗)

ホワイトバランスを選ぶことができます。[AWB] を選んだときは、[オート(雰囲気優先)] [オート(ホワイト優先)] を選ぶことができます。[K] を選んだときは、色温度を設定することができます。

● ピクチャースタイル (🔗)

ピクチャースタイルを選ぶことができます。シャープネス、コントラストなどの調整を行うことができます。

* [細かく設定してHEIFに現像] 設定時は [A] [1] [2] [3] は選択できません。

● ±0 明瞭度 (🔗)

明瞭度を、-4～+4の範囲で変更することができます。

* [細かく設定してHEIFに現像] 設定時は選択できません。

● オートライティングオブティマイザ (🔗)

オートライティングオブティマイザの内容を設定します。

● 高感度撮影時のノイズ低減 (🔗)

ノイズ低減処理の内容を設定することができます。効果が分かりにくいときは、拡大表示 (🔗) で確認してください。

● 記録画質 (🔗)

JPEG画像、HEIF画像は生成する際の記録画質を設定することができます。

● sRGB 色空間 (🔗)

sRGBとAdobe RGBが選択できます。カメラのモニターはAdobe RGBに対応していないため、どちらを選んでも画像の見えかたはほとんど変わりません。

* [細かく設定してHEIFに現像] 設定時は [HDR PQ] が表示されますが、選択はできません。

● レンズ光学補正

● OFF 周辺光量補正 (🔍)

レンズの特性によって画像の四隅が暗くなる現象を補正することができます。[する]を選ぶと補正された画像が表示されます。効果が分かりにくいときは、拡大表示 (🔍) で画面の四隅を確認してください。なお、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional (🔍) で最大補正を行ったときよりも、控えめに補正されます。補正効果が確認できないときは、Digital Photo Professionalで周辺光量補正を行ってください。

● OFF 歪曲収差補正 (🔍)

レンズの特性によって起こる画像の「ゆがみ」を補正することができます。[する]を選ぶと補正された画像が表示されます。なお、画像処理の都合上、画像の周辺部がカットされます。
解像感が少し低下することがあるため、必要に応じてピクチャースタイルのシャープネスで調整してください。

● OFF デジタルレンズオプティマイザ (🔍)

レンズの収差、回折現象、ローパスフィルターに起因した解像劣化を、光学設計値を利用して補正することができます。[強め] [標準] 設定時の効果は拡大表示 (🔍) で確認してください。[強め] 設定時に画像全体を表示しているときは、デジタルレンズオプティマイザの効果は反映されません。なお、[強め] [標準] を選んだときは、色収差補正、回折補正の項目は表示されませんが、ともに[する]で現像されます。

● OFF 色収差補正 (🔍)

レンズの特性によって起こる色収差（被写体の輪郭部分に現れる色ズレ）を補正することができます。[する]を選ぶと補正された画像が表示されます。効果が分かりにくいときは、拡大表示 (🔍) で確認してください。

● OFF 回折補正 (🔍)

レンズの絞りの影響によって画像の鮮鋭さが低下する現象を補正することができます。[する]を選ぶと補正された画像が表示されます。効果が分かりにくいときは、拡大表示 (🔍) で確認してください。

⚠ 注意

- カメラで行うRAW現像の結果と、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalで行うRAW現像の結果は、完全には同じにはなりません。
- [明るさ補正]を行ったときは、補正効果とともにノイズや縞などが強調されることがあります。
- [デジタルレンズオブティマイザ] 設定時は、補正効果とともにノイズが強調されることがあります。
- [デジタルレンズオブティマイザ] 設定時は、撮影条件により画像に輪郭強調が強くなる場合があります。必要に応じてピクチャースタイルのシャープネスの調整を行ってください。
- [デジタルレンズオブティマイザ] を [強め] に設定しているときは、現像に時間がかかります。

📖 参考

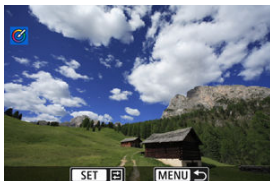
- レンズ光学補正の効果は、使用レンズや撮影条件などにより異なります。また、使用レンズや撮影条件などにより、効果が分かりにくい場合があります。

クリエイティブアシスト

RAW画像を現像して、好みの効果をつけたJPEG画像を作成することができます。

1. [] : クリエイティブアシスト] を選ぶ ()

2. 画像を選ぶ



- 〈 〉 を回して現像する画像を選び、〈 〉 を押します。

3. 効果を選ぶ



- 〈〉を回して効果を選びます。



- [プリセット] を選んで〈〉を押すと、[VIVID] や [SOFT] など、用意された設定から効果を選ぶことができます。なお、[AUTO1] [AUTO2] [AUTO3] は、画像の状態からカメラが判断したおすすめの効果です。



- [明るさ] [コントラスト] などは、〈〉を押したあと、〈〉を回して効果を選びます。
- 調整が終了したら 〈〉を押します。



- 〈〉ボタンを押すと、確認画面が表示され、[OK] を選ぶと設定内容がリセットされます。
- 〈〉ボタンを押して効果を確定します。

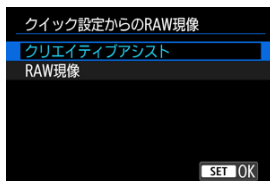
4. [OK] を選んで保存する



クイック設定画面から行うRAW現像の種類を選ぶことができます。

1. [📷: クイック設定からのRAW現像] を選ぶ (🔗)

2. 項目を選ぶ



● クリエイティブアシスト



好みの効果を付けたRAW現像ができます (🔗)。

● RAW現像



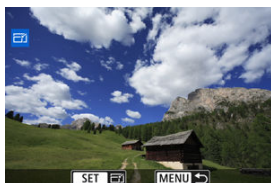
条件を設定したRAW現像ができます (🔗)。

JPEG/HEIF画像のリサイズ

撮影したJPEG画像、HEIF画像の画素数を少なくして、別画像として保存することができます。リサイズは、**S2**以外の**L**、**M**、**S1**のJPEG/HEIF（RAW+JPEG/RAW+HEIFも含む）で撮影した画像で行うことができます。**S2**、RAWで撮影した画像や動画、4K動画から切り出した画像は、リサイズできません。

1. [] : リサイズ] を選ぶ ()

2. 画像を選ぶ



- 〈 〉 を回してリサイズする画像を選びます。
- 〈 〉 を押すと、画像サイズが表示されます。

3. 画像サイズを選ぶ



- リサイズする画像サイズ (1) を選びます。

4. 保存する



- [OK] を選ぶと、リサイズされた画像が保存されます。
- 保存先のフォルダと画像番号を確認して [OK] を選びます。
- 他にリサイズしたい画像があるときは、手順2～4を繰り返します。

JPEG/HEIF画像のトリミング

撮影したJPEG画像、HEIF画像を部分的に切り抜いて、別画像として保存することができます。RAWで撮影した画像や、4K動画から切り出した画像は、トリミングできません。

1. [] : トリミング] を選ぶ ()

2. 画像を選ぶ



- < [] > を回してトリミングする画像を選びます。
- < [SET] > を押すと、トリミング枠が表示されます。

3. トリミング枠の設定を行う



- 枠で囲まれた範囲が切り抜かれます。
- **枠の大きさを変える**
〈〉を回すと、枠の大きさが変わります。枠を小さくするほど拡大してトリミングされます。
- **傾きを補正する**
 $\pm 10^\circ$ の範囲で傾きを補正することができます。〈〉を回して[]を選び、〈〉を押します。画面に表示されるグリッドで傾きを確認しながら、〈〉を回す（ 0.1° 単位）、または画面左上に表示された左右の矢印にタッチして（ 0.5° 単位）、傾きを補正します。補正が終わったら〈〉を押します。
- **枠のアスペクト比と縦横を変える**
〈〉を回して[]を選びます。〈〉を押すたびに、枠のアスペクト比が変わります。
- **枠を移動する**
〈〉を操作すると、枠が上下左右に移動します。

4. トリミング範囲を確認する



- 〈〉を回して[]を選び、〈〉を押します。トリミングされる範囲が表示されます。

5. 保存する



- 〈〉を回して [] を選び、〈〉を押します。
- [OK] を選ぶと、トリミングされた画像が保存されます。
- 保存先のフォルダと画像番号を確認して [OK] を選びます。
- 他にトリミングしたい画像があるときは、手順2～5を繰り返します。

⚠ 注意

- 傾き補正の角度によっては、トリミング枠の位置や大きさが変わることがあります。
- トリミング保存した画像を再度トリミングしたり、リサイズすることはできません。
- トリミングを行った画像には、AFフレーム表示用の情報 ()、ダストデリートデータ () は付加されません。
- 選択できるアスペクト比は、[ : トリミング] と [ : トリミング情報の付加] で異なります。

 [1枚ずつ変換](#) [範囲を指定して変換](#)

HDR設定で撮影したHEIF画像を、JPEG画像に変換して保存することができます。

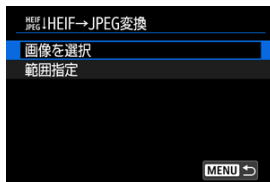
 参考

- シーンによっては、元画像と変換した画像を比べたときに、印象が異なることがあります。
- トリミング保存した画像、4K動画からフレーム切り出した画像は変換できません。
- JPEGに変換したことがあるHEIF画像は、**[JPEG↓]**が表示されます。

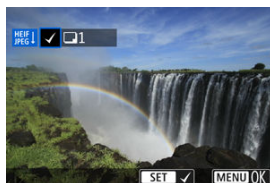
1枚ずつ変換

1.  : HEIF→JPEG変換 を選ぶ ()

2. [画像を選択] を選ぶ



3. 画像を選ぶ



- 〈〉を回してJPEGに変換するHEIF画像を選び、〈〉を押します。
- 他に変換したい画像があるときは、手順3を繰り返します。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、JPEGに変換処理されます。

4. 保存する



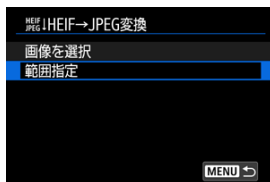
- [OK] を選ぶと、JPEG画像が保存されます。
- 他に変換したい画像があるときは[はい] を選びます。

5. 表示する画像を選択する

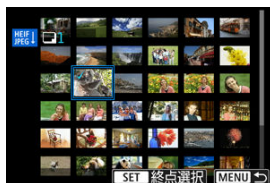


- [もとの画像] または [保存した画像] を選びます。
- 選択した画像が表示されます。

1. 「範囲指定」を選ぶ



2. 範囲を指定する



- 始めの画像（始点）を選びます。
- 続けて終わりの画像（終点）を選びます。始点から終点までの範囲の画像に「✓」が表示されます。
- 他に指定したい画像があるときは、手順2を繰り返します。

3. 〈MENU〉 ボタンを押す

4. 保存する



- [OK] を選ぶと、JPEG画像が保存されます。
- 他に変換したい画像があるときは[はい] を選びます。

5. 表示する画像を選択する



- [もとの画像] または [保存した画像] を選びます。
- 選択した画像が表示されます。

スライドショー

カードに記録されている画像を自動で連続再生することができます。

1. 再生する画像を指定する

- カード内の全画像を再生するときは、手順2に進みます。
- スライドショーで再生する画像を指定したいときは、[▶: 画像検索の条件設定] で絞り込みます (🔍)。

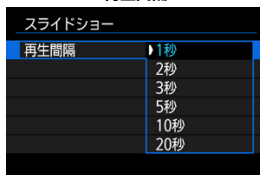
2. [▶: スライドショー] を選ぶ (🔍)

3. 再生内容を設定する

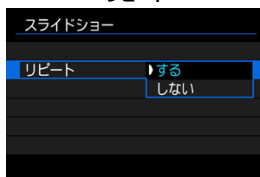


- [設定] を選びます。
- 静止画の [再生間隔] と [リピート] (繰り返し再生) を設定します。
- 設定が終わったら、〈MENU〉ボタンを押します。

再生間隔



リピート



4. スライドショーを開始する



- [スタート] を選びます。
- [画像読み込み中...] が表示されたあと、スライドショーが始まります。
- 動画がまとめて再生された後、静止画がまとめて再生されます。

5. スライドショーを終了する

- 〈MENU〉ボタンを押すと、スライドショーが終了し、設定画面に戻ります。

参考

- 一時停止したいときは〈⏸〉を押します。一時停止中は画面左上に [⏸] が表示されます。再度〈⏸〉を押すと再開します。
- 静止画を自動再生しているときに〈INFO〉ボタンを押すと、表示形式を切り換えることができます (ⓘ)。
- 動画再生中に〈⚙〉を上下に押すと音量を調整することができます。
- 自動再生中、または一時停止中に〈🔄〉を回すと、画像が切り換わります。
- 自動再生中にオートパワーオフは機能しません。
- 画像により表示時間が異なることがあります。

画像検索の条件設定

☑ 検索条件の解除

再生する画像を条件で絞り込むことができます。検索条件を設定して画像を再生すると、条件に該当する画像だけが表示されます。なお、画像の絞り込みを行った状態で、プロテクト、レーティング、スライドショー、消去などを行うこともできます。

1. [▶ : 画像検索の条件設定] を選ぶ (🔍)
2. 検索条件を設定する



(1)

- <🔍> を回して項目を選びます。
- <🔍> を回して内容を設定します。
- 項目の左端に [✓] (1) が付きます (検索条件として指定されます)。
- 項目を選び <INFO> ボタンを押すと、[✓] が消えます (指定が解除されます)。
- 設定が終わったら、<🔍> を押します。

項目	内容
★ レーティング	選択した (レーティング) 条件の画像を表示します。
📅 日付	選択した撮影日の画像を表示します。
📁 フォルダ	選択したフォルダ内にある画像を表示します。
🔒 プロテクト	選択した (プロテクト) 条件の画像を表示します。
📁 ファイルの種類1	選択した種類の画像ファイルを表示します。
📁 ファイルの種類2	

3. 検索条件を確定する



- 表示されるメッセージを確認し、[OK] を選びます。検索条件が設定されます。

4. 検索した画像を表示する



(2)

- 〈▶〉 ボタンを押します。
検索条件に該当する（絞り込まれた）画像だけが再生されます。
絞り込まれた状態で画像が表示されているときは、画面の外側に黄色い枠（2）が付きます。

⚠ 注意

- 設定した検索条件に該当する画像がないときは、手順2で 〈Ⓜ〉 を押せません。
- 動画の場合は、XFVCフォルダ内のファイルが検索可能です。DCIMフォルダ内の動画ファイルは、検索できません。

参考

- 電源やカード、画像編集、画像の追加や削除などに関連した操作を行うと、検索条件の設定が解除されることがあります。
- ：画像検索の条件設定] の画面を表示しているときは、オートパワーオフまでの時間が延長されることがあります。

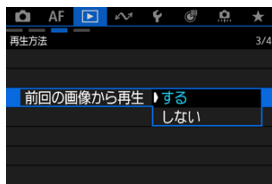
検索条件の解除

手順2の画面で  ボタンを押すと、すべての検索条件が解除されます。

前回の画像から再生

1. [▶ : 前回の画像から再生] を選ぶ (🔗)

2. 項目を選ぶ



- [する] を選んで画像を再生すると、前回再生したときに最後に表示されていた画像が最初に表示されます（撮影を行ったときを除く）。
- [しない] を選んで電源を入れ直すと、最新の画像が最初に表示されます。

再生する情報の設定

ヒストグラム

画像の再生時に表示する画面と、表示する内容（情報）を任意に設定することができます。

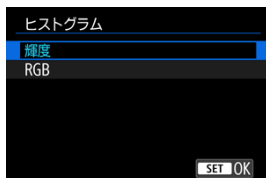
1.  : 再生情報表示設定 を選ぶ ()

2. 表示する画面の番号に [✓] を付ける



-  で番号を選びます。
-  を押すごとに、[✓] を外したり付けたりできます。
- この手順を繰り返して、表示する画面の番号に [✓] を付け、[OK] を選びます。
- 画像を再生して、 ボタンを押したり、撮影情報表示の画面 () で  を上下に押したときに、設定した内容が表示されます。

ヒストグラム



ヒストグラムは、各階調の信号量を表示するものです。露出レベルの傾向と全体の階調を確認できる輝度表示と、色の飽和と階調を確認できるRGB表示があります。[]: **再生情報表示設定**] の画面の左下に [**INFO**] が表示されているときに、〈INFO〉ボタンを押すと、表示するヒストグラムを切り換えることができます。

●【輝度】表示

このヒストグラムは、横軸に明るさ（左：暗、右：明）、縦軸に明るさごとの画素数を積み上げたグラフで、画像の輝度分布を表しています。画面の中の「暗い成分」ほどグラフの左寄りに積み上げられ、「明るい成分」ほどグラフの右寄りに積み上げられて表示されます。横軸の左端に積み上げられた成分は黒くつぶれ、右端に積み上げられた成分は白くとびます（ハイライト）。その他の成分は階調が再現されます。再生画像とそのヒストグラムを見ることで、露出レベルの傾向と全体の階調を確認することができます。

ヒストグラム例



暗い成分が多い



普通の明るさ



明るい成分が多い

●【RGB】表示

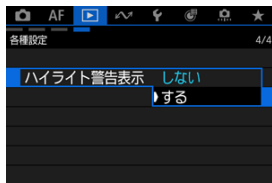
このヒストグラムは、横軸に色の明るさ（左：暗、右：明）、縦軸に色の明るさごとの画素数を積み上げたグラフで、R（赤）／G（緑）／B（青）別に色の輝度分布を表しています。画面の中の「暗く薄い色」ほどグラフの左寄りに積み上げられ、「明るく濃い色」ほどグラフの右寄りに積み上げられます。横軸の左端に積み上げられた成分は色の情報がなく、右端に積み上げられた色は飽和して階調がありません。RGBのヒストグラムを見ることで、色の飽和と階調の状態や、ホワイトバランスの傾向を確認することができます。

ハイライト警告表示

再生画面に、露出オーバーで白とびした部分を点滅表示することができます。階調を再現させたい部分が点滅しているときは、露出をマイナス補正して、もう一度撮影すると良い結果が得られます。

1. [▶: ハイライト警告表示] を選ぶ (🔗)

2. [する] を選ぶ

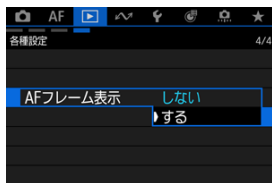


AFフレーム表示

再生画面に、ピント合わせを行ったAFフレームを赤い枠で表示することができます。

1. [] : AFフレーム表示] を選ぶ ()

2. [する] を選ぶ

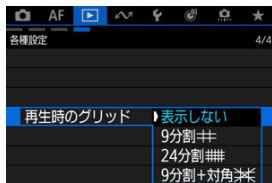


再生時のグリッド

静止画を1枚表示するときに、再生画像に重ねてグリッド（格子線）を表示することができます。撮影画像の水平／垂直の傾きや、構図を確認するときに便利です。

1. [ : 再生時のグリッド] を選ぶ ()

2. 項目を選ぶ



参考

- パノラマ画像を表示するとき、[再生時のグリッド] を [表示しない] 以外に設定している場合は、水平線1本と垂直線1本のグリッドを表示します。

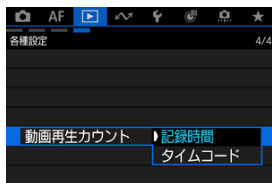


動画再生カウント

動画再生画面に表示する内容を選ぶことができます。

1. [▶ : 動画再生カウント] を選ぶ (🔍)

2. 項目を選ぶ



● **記録時間**

動画再生時に撮影時間または再生時間が表示されます。



● **タイムコード**

動画再生時にタイムコードが表示されます。



参考

- 「 : タイムコード」の「動画再生カウント」と「 : 動画再生カウント」は、設定が連動して切り換わります。
- 動画撮影時、および動画再生中は、「フレーム」は表示されません。

この章では、通信機能を使用した画像の送信や、リモート撮影などを行う方法について説明しています。

❗ 注意

必ずお読みください

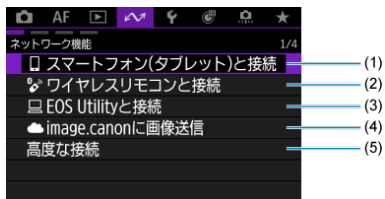
- このカメラを使用するために、誤った無線通信の設定を行った結果生じた損害に対して、弊社では補償できませんので、あらかじめご了承ください。また、このカメラを使用した結果生じた損害に対しても、弊社では補償できませんので、併せてご了承ください。
無線通信機能を使用する際には、お客様の責任と判断で必要なセキュリティを設定してご使用ください。不正侵入等によって生じた損害に対して、弊社では補償できませんので、あらかじめご了承ください。
- 本機は電気通信事業者の通信回線に直接接続することができません。本機をインターネットに接続する場合は、必ずルーター等を経由し接続してください。

- [メニュー目次：通信機能タブ](#)
- [スマートフォン（タブレット）と接続](#)
- [ワイヤレスリモコンと接続](#)
- [EOS Utilityと接続](#)
- [image.canonに画像送信](#)
- [Content Transfer Professionalを使用した画像転送](#)
- [高度な接続](#)
- [USB（UVC/UAC）接続で配信](#)
- [HDMI接続で配信](#)
- [Camera Connectで配信](#)
- [Live Switcher Mobileで配信](#)
- [機内モード](#)
- [Wi-Fi設定](#)
- [Bluetooth設定](#)
- [カメラの名前](#)
- [エラー内容の表示](#)
- [エラー表示の対応](#)
- [GPS機器の設定](#)
- [USB接続アプリの選択](#)
- [通信設定をカードに保存・読み込み](#)
- [通信の設定初期化](#)
- [通信機能の基本設定](#)
- [2回目以降のWi-Fi/Bluetooth接続](#)

- [仮想キーボードの操作方法](#)
- [無線通信機能での注意事項](#)
- [セキュリティについて](#)
- [ネットワークの設定を確認する](#)
- [無線通信機能の接続状態](#)

メニュー目次：通信機能タブ

● ネットワーク機能



(1) [スマートフォン\(タブレット\)と接続](#)

(2) [ワイヤレスリモコンと接続](#)

(3) [EOS Utilityと接続](#)

(4) [image.canonに画像送信](#)

(5) [高度な接続](#)

● ライブ配信



(1) [USB\(UVC/UAC\)接続で配信](#)

(2) [HDMI接続で配信](#)

(3) [Camera Connectで配信](#)

(4) [Live Switcher Mobileで配信](#)

● ネットワークの設定



- (1) [機内モード](#)
- (2) [Wi-Fi設定](#)
- (3) [Bluetooth設定](#)
- (4) [カメラの名前](#)
- (5) [エラー内容の表示](#)

● 各種設定



- (1) [GPS機器の設定](#)
- (2) [USB接続アプリの選択](#)
- (3) [通信設定をカードに保存・読込](#)
- (4) [通信の設定初期化](#)

⚠ 注意

- インターフェースケーブルでカメラとパソコンなどを接続しているときは、設定できないメニュー項目があります。
- カメラの電源を〈OFF〉にしたときや、カードスロットカバーやバッテリー収納部ふたを開けたときは、Wi-Fi接続を終了します。
- Wi-Fi接続中は、カメラのオートパワーオフ機能は働きません。

スマートフォン（タブレット）と接続

- ☑ [スマートフォンの準備](#)
- ☑ [Bluetooth機能を使ってスマートフォンとWi-Fi接続する](#)
- ☑ [Camera Connectの主な機能](#)
- ☑ [電源オフ中のカメラとのWi-Fi接続](#)
- ☑ [接続機器の編集／削除](#)
- ☑ [接続情報を使って再接続する](#)
- ☑ [撮影時にスマートフォンへ自動転送](#)
- ☑ [カメラからスマートフォンへ画像を送信](#)

カメラとスマートフォンを接続して、以下のことができます。

- スマートフォンのみの操作によるWi-Fi接続 (☑)
- 電源オフ中のカメラとのWi-Fi接続 (☑)
- スマートフォンで取得した位置情報の画像への付加 (☑)
- スマートフォンをリモコンにしたカメラの操作 (☑)

また、カメラとスマートフォンをWi-Fi接続して、以下のことができます。

- スマートフォンでのカメラ内の画像の閲覧および保存 (☑)
- スマートフォンでのカメラのリモート操作 (☑)
- カメラからスマートフォンへの画像の送信 (☑)

参考

- Bluetoothを使わず、スマートフォンと高度なWi-Fi接続をすることもできます (☑)。

スマートフォンのBluetooth機能とWi-Fi機能をONにする

スマートフォンの設定画面で、Bluetooth機能とWi-Fi機能をONにしておきます。なお、スマートフォンのBluetooth機能設定画面では、カメラとのペアリングはできません。

スマートフォンにCamera Connectをインストールする

AndroidまたはiOSがインストールされたスマートフォンに、専用アプリケーションのCamera Connect（無料）をインストールします。

- スマートフォンのOSは、最新のバージョンをお使いください。
- Camera Connectは、Google PlayまたはApp Storeからインストールすることができます。Google PlayまたはApp Storeは、スマートフォンとのペアリング時やWi-Fi接続時に表示されるQRコードからもアクセスできます。

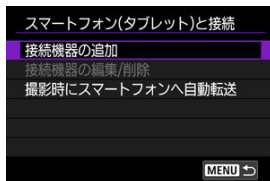


参考

- Camera Connectが対応しているOSのバージョンについては、Camera Connectのダウンロードサイトでご確認ください。
- カメラのファームウェアアップデートやCamera Connect、Android、iOSなどのバージョンアップにより、本書の記載と実際の画面例などが異なることがあります。

Bluetooth機能を使ってスマートフォンとWi-Fi接続する

1. [メニュー: スマートフォン(タブレット)と接続] を選ぶ (🔗)
2. [接続機器の追加] を選ぶ



- 撮影時にスマートフォンへ画像を自動転送するときは、[撮影時にスマートフォンへ自動転送] を設定します (🔗)。

3. [OK] を選ぶ

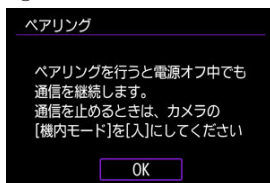


- すでに【Wi-Fi設定】および【Bluetooth設定】が【使う】になっているときは、この画面は表示されません。



- すでに他の機器とBluetooth接続されているときは、メッセージが表示されます。

4. <Ⓢ>を押す



5. ペアリングを開始する



- 〈〉を押してペアリングを開始します。
- Camera Connectのインストールが済んでいないときは、画面のQRコードをスマートフォンで読み取り、Google PlayまたはApp StoreにアクセスしてCamera Connectをインストールしてから、〈〉を押してペアリングを開始します。

6. Camera Connectを起動する

- アプリケーションの指示に従って、ペアリングするカメラを選びます。

7. Bluetooth接続を確立する



- スマートフォンにメッセージが表示されたら、スマートフォンを操作します。

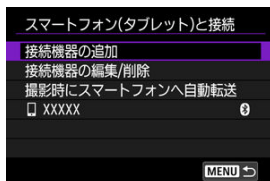


- 〈〉を押します。

8. 接続を完了する



- 〈〉を押します。



- 接続した機器の名前が表示されます。

! 注意

- 2台以上の機器と同時にBluetooth接続することはできません。Bluetooth接続するスマートフォンを切り換えるときは、[2回目以降のWi-Fi/Bluetooth接続](#)を参照してください。
- Bluetooth接続中は、カメラの電源を切った状態、あるいはオートパワーオフの状態でもバッテリーを消耗するため、カメラを使用するときにバッテリーの残量が少なくなっていることがあります。

ペアリングできないとき

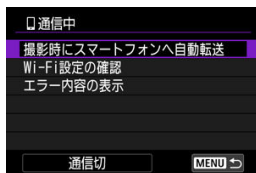
- スマートフォン側に、前回ペアリングしたときのカメラの登録が残っていると、ペアリングすることができません。スマートフォンのBluetooth設定画面で、前回ペアリングしたカメラの登録を解除してから、ペアリングをやり直してください。

9. Camera Connectの機能をタッチする

- Camera Connectの機能については[Camera Connectの主な機能](#)を参照してください。
- Camera Connectの機能をタッチすると、Wi-Fi接続が開始されます。

10. Wi-Fi接続完了を確認する

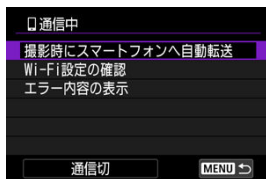
- Wi-Fi接続が完了すると、カメラの画面が撮影待機状態に切り換わります。
- [📶: 📱スマートフォン(タブレット)と接続] を選ぶと、カメラのモニターに [📶通信中] 画面が表示されます (🔗)。



これでスマートフォンとのWi-Fi接続は完了です。

- Wi-Fi接続を終了するときは、[📶通信中] 画面で [通信切] を選びます。
- Wi-Fi接続を終了するとBluetooth接続に切り換わります。
- 再接続するときは、Camera Connectを起動し、使用したい機能をタッチします。

【通信中】画面について



- **撮影時にスマートフォンへ自動転送**
撮影した画像をスマートフォンに自動送信することができます (📷)。
- **Wi-Fi設定の確認**
Wi-Fi接続の設定内容を確認できます。
- **エラー内容の表示**
Wi-Fi接続でエラーが発生したときに、エラー内容を確認できます (🔧)。
- **通信切**
Wi-Fi接続を終了します。

カメラ内の画像一覧

- 画像の閲覧、削除、レーティングを行うことができます。
- スマートフォンに画像を保存することができます。
- RAW画像に効果を付けてスマートフォンに保存することができます。

リモートライブビュー撮影

- スマートフォンでライブビュー映像を見ながらリモート撮影することができます。

撮影自動転送

- 撮影画像の自動送信時 (☑) のカメラやアプリケーションの設定を変更することができます。

Bluetoothリモートコントローラー

- Bluetooth接続中のスマートフォンをリモコンにして、カメラの操作を行うことができます。なお、Wi-Fi接続中は使用できません。
- Bluetoothリモートコントローラーの使用中は、カメラのオートパワーオフ機能は働きません。

カメラの日付/時刻設定

- カメラの日付と時刻の設定を変更することができます。

カメラファームウェアのアップデート

- カメラのファームウェアをアップデートすることができます。



参考

- ほかの機能については、Camera Connectのメイン画面から確認することができます。

電源オフ中のカメラとのWi-Fi接続

カメラとスマートフォンがBluetooth接続中であれば、カメラの電源が切れている状態でも、スマートフォンを操作し、カメラ内の画像の閲覧などができます。

電源オフ中にカメラとのWi-Fi/Bluetooth接続を行いたくないときは、[ : 機内モード] を [入] に設定するか、[ : Bluetooth設定] を [使わない] に設定してください。



⚠ 注意

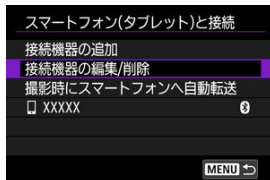
- 無線通信の設定を初期化したり、スマートフォンの接続情報を消去すると、本機能は使用できなくなります。

接続機器の編集／削除

接続機器の編集や削除は、Wi-Fi接続を終了してから行います。

1. [🏠: 📱スマートフォン(タブレット)と接続] を選ぶ (🔗)

2. [接続機器の編集/削除] を選ぶ



3. 接続先を選ぶ



4. 項目を選ぶ



ニックネームの変更

ニックネーム（接続機器の名前）を変更することができます。

接続情報の削除

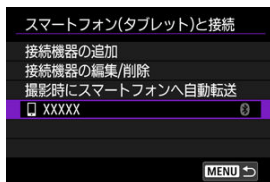
接続情報を削除することができます。

接続情報を使って再接続する

接続情報を使って再接続できます。

1. [📱: 📱スマートフォン(タブレット)と接続] を選ぶ (🔗)

2. 接続する機器を選ぶ



- 表示された履歴から、接続する項目を選びます。

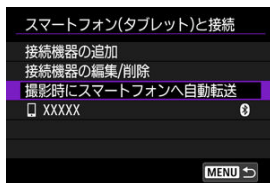
3. 画面の指示に従ってカメラと機器を接続する

撮影時にスマートフォンへ自動転送

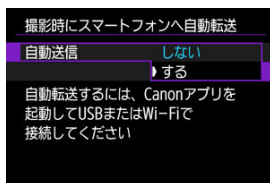
撮影しながらスマートフォンに画像を自動送信することができます。カメラとスマートフォンのWi-Fi接続を終了してから行います。

1. [📶: 📱スマートフォン(タブレット)と接続] を選ぶ (🔗)

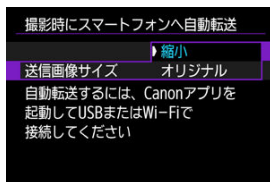
2. [撮影時にスマートフォンへ自動転送] を選ぶ



3. [自動送信] で [する] を選ぶ



4. [送信画像サイズ] を設定する



カメラからスマートフォンへ画像を送信

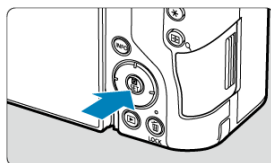
カメラとスマートフォンがWi-Fi接続された状態で、カメラを操作してスマートフォンへ画像を送信することができます。

メニューを表示する

1. 画像を再生する



2. 〈SET〉を押す

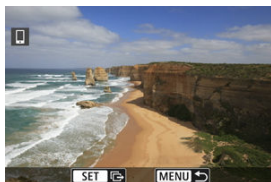


3. 「スマートフォンへ画像を送信」を選ぶ



- Bluetooth接続中にこの操作を行ったときは、Wi-Fi接続を促すメッセージが表示されます。〈SET〉を押した後、Camera Connectの機能をタッチしてWi-Fi接続された状態にしてから、もう一度手順1からやり直してください。

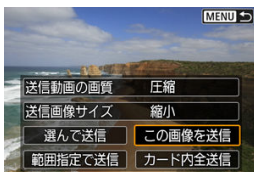
4. 画像を選ぶ



- 〈〉を回して送信する画像を選び、〈〉を押します。
- タッチ再生で、インデックス表示にして選ぶことができます ()。

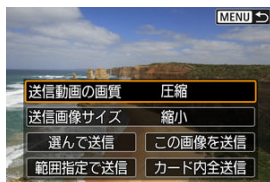
5. 〈〉を押す

- メニューが表示されます。



送信動画の画質を設定する

1. [送信動画の画質] を選ぶ



- 送信する動画の画質を選ぶことができます。

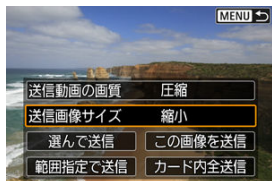


参考

- 複数動画を送信するときは、送信前の確認画面でも[送信動画の画質]を変更できます。
- 動画を圧縮するときは、同時に送信する動画がすべて圧縮されます。ただし、下記の動画は圧縮されません。
 - [カスタムピクチャー] で [Canon Log 3] のカスタムピクチャーファイルを選択して撮影した動画
 - [カメラアイコン] : [HDR撮影(PQ)] を [HDR PQ] に設定して撮影した動画
 - 動画記録サイズが FHD 29.97P (NTSC) / FHD 25.00P (PAL) / FHD 23.98P (NTSC) の動画

送信画像のサイズを設定する

1. 「送信画像サイズ」を選ぶ



- 送信する画像サイズを選ぶことができます。

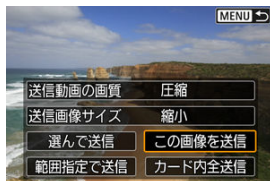


参考

- 複数画像を送信するときは、送信前の確認画面でも「送信画像サイズ」を変更できます。
- 静止画を縮小するときは、同時に送信する静止画がすべて縮小されます。ただし、S2サイズの静止画は縮小されません。

表示中の画像を送信する

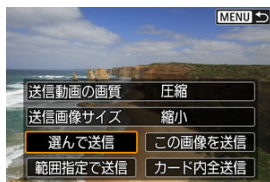
1. 「この画像を送信」を選ぶ



- 「この画像を送信」を選んだ状態で〈〉を押すと、すぐに画像が送信されます。

画像を選んで送信する

1. 「選んで送信」を選ぶ

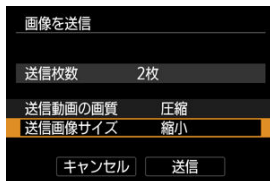


2. 送信する画像を選ぶ



- 〈〉を回して送信する画像を選び、〈〉を押します。
- 送信する画像の選択が終わったら、〈MENU〉ボタンを押します。
- メッセージが表示されたら、[OK] を選択します。

3. 項目を選ぶ



- [送信動画の画質] () および [送信画像サイズ] () を変更することができます。

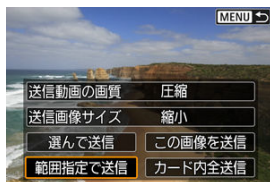
4. [送信]を選ぶ

画像を送信

送信枚数	2枚
送信動画の画質	圧縮
送信画像サイズ	縮小

範囲を選んで送信する

1. 「範囲指定で送信」を選ぶ



2. 範囲を指定する



- 始めの画像（始点）を選びます。
- 続けて終わりの画像（終点）を選びます。始点から終点までの範囲の画像に「✓」が表示されます。
- 指定を解除するときは、この操作を繰り返します。

3. 〈MENU〉 ボタンを押す

- メッセージが表示されたら、[OK] を選びます。

4. 項目を選ぶ

画像を送信

送信枚数 2枚

送信動画の画質 圧縮

送信画像サイズ 縮小

キャンセル 送信

- [送信動画の画質] (🔍) および [送信画像サイズ] (🔍) を変更することができます。

5. [送信]を選ぶ

画像を送信

送信枚数 2枚

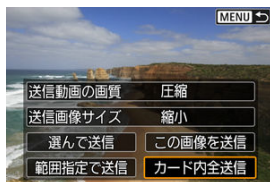
送信動画の画質 圧縮

送信画像サイズ 縮小

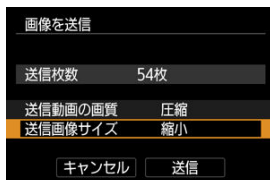
キャンセル 送信

カード内の画像をすべて送信する

1. 「カード内全送信」を選ぶ

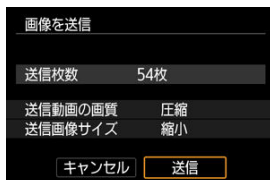


2. 項目を選ぶ



- 「送信動画の画質」(🔗) および 「送信画像サイズ」(🔗) を変更することができます。

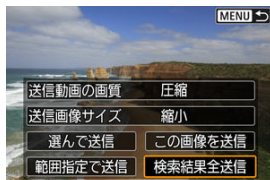
3. 「送信」を選ぶ



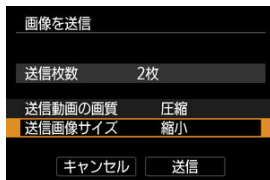
検索された画像を送信する

[]: 画像検索の条件設定] で検索条件が設定された画像をまとめて送信します。[]: 画像検索の条件設定] については、[画像検索の条件設定](#)を参照してください。

1. [検索結果全送信] を選ぶ

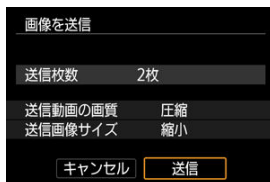


2. 項目を選ぶ



- [送信動画の画質] () および [送信画像サイズ] () を変更することができます。

3. [送信] を選ぶ



画像の送信の終了



- 画像の送信画面で〈MENU〉ボタンを押します。
- Wi-Fi接続を終了するときは、[通信中] 画面で [通信切] を選びます。

! 注意

- 画像送信の操作中は、カメラのシャッターボタンを押しても撮影できません。

📖 参考

- 画像の送信中に [キャンセル] を選ぶと、送信をキャンセルすることができます。
- 一度に999ファイルまで選択できます。
- Wi-Fi接続中は、スマートフォンの節電機能をオフにしておくことをおすすめします。
- カメラの電源にバッテリーを使用するときは、フル充電してから使用してください。

ワイヤレスリモコンと接続

☑ [接続情報の削除](#)

☑ [接続情報を使って再接続する](#)

ワイヤレスリモートコントローラー（別売／)とBluetooth接続して、ワイヤレスでリモコン撮影することができます。

1. [ :  ワイヤレスリモコンと接続] を選ぶ ()

2. [接続機器の追加] を選ぶ



3. [OK] を選ぶ

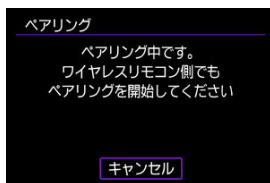


- すでにBluetooth設定が【使う】になっているときは、この画面は表示されません。



- すでに他の機器とBluetooth接続されているときは、メッセージが表示されます。【OK】を選ぶと、現在のBluetooth接続が切断されます。

4. ペアリングする



- 上記の画面が表示されたら、ワイヤレスリモートコントローラーの〈1〉ボタンと〈2〉ボタン（または〈W〉ボタンと〈T〉ボタン）を同時に3秒以上押します。
- 「****（ワイヤレスリモートコントローラーの個別名称）と接続しました」が表示されたら、〈〉を押します。

5. リモコン撮影できるように設定する

- このあとの操作は、ワイヤレスリモートコントローラーの使用説明書を参照してください。

注意

- カメラがオートパワーオフのときも、Bluetooth接続中はカメラのバッテリーが消耗します。

参考

- Bluetooth機能を使わないときは、[ : Bluetooth設定] を [使わない] に設定することをおすすめします ()。

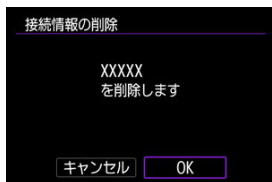
接続情報の削除

接続情報を削除することができます。Bluetooth接続中のワイヤレスリモートコントローラーはペアリングが解除されます。

1. [ワイヤレスリモコンと接続] を選ぶ (🔗)
2. [接続情報の削除] を選ぶ



3. [OK] を選ぶ



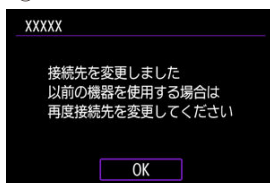
接続情報を使って再接続する

他の機器とBluetooth接続しているとき、接続情報を使って再接続できます。

1. [ワイヤレスリモコンと接続] を選ぶ (F7)
2. 機器を選ぶ



3. <F8> を押す



EOS Utilityと接続

☑ [EOS Utilityでカメラを操作](#)

☑ [接続機器の編集／削除](#)

☑ [接続情報を使って再接続する](#)

ここでは、カメラとパソコンをWi-Fi接続してEOS用または専用ソフトウェアと連携する方法について説明しています。パソコンに最新のソフトウェアをインストールしてからWi-Fi接続の設定を行ってください。

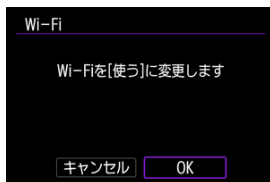
パソコンの操作方法については、パソコンの使用説明書を参照してください。

EOS Utilityでカメラを操作

EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使って、カメラ内の画像の取り込みや、カメラの操作などを行うことができます。

カメラ側の操作-1

1. [Wi-Fi :  EOS Utilityと接続] を選ぶ (☑)
2. [OK] を選ぶ



- すでに [Wi-Fi :  Wi-Fi設定] が [使う] になっているときは、この画面は表示されません。

3. [接続機器の追加] を選ぶ



4. SSID（ネットワーク名）とパスワードを確認する



- カメラのモニターに表示されているSSID（1）とパスワード（2）を確認します。
- ネットワークを変更する場合は、〈INFO〉ボタンを押します。通信機能の設定については、[通信機能の基本設定](#)を参照してください。

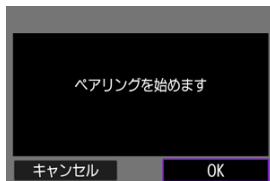
5. SSIDを選んでパスワードを入力する

パソコンの画面例

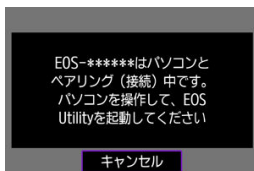


- パソコンのネットワークの設定画面から、[カメラ側の操作-1](#)の手順4で確認したSSIDを選びます。
- パスワード欄には、[カメラ側の操作-1](#)の手順4で確認したパスワードを入力します。

6. [OK] を選ぶ



- 下記のメッセージ画面が表示されます。なお、「*****」は、接続しようとしているカメラのMACアドレス下6桁です。



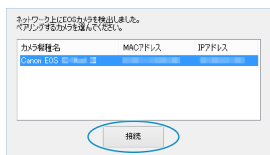
7. EOS Utilityを起動する

8. EOS Utilityの【Wi-Fi/LAN接続ペアリング】をクリックする



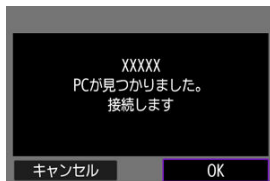
- ファイアウォールに関するメッセージが表示されたときは、【はい】を選びます。

9. 【接続】をクリックする



- 接続するカメラを選んで、【接続】をクリックします。

10. Wi-Fi接続を確立する

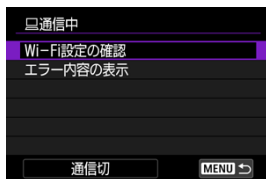


- [OK] を選ぶと、次の画面に進みます。
- カメラのモニターに [通信中] 画面が表示されます (🔗)。

これでパソコンとの接続は完了です。

- パソコンのEOS Utilityでカメラを操作します。
- 2回目以降のWi-Fi接続については、[2回目以降のWi-Fi/Bluetooth接続](#)を参照してください。

【通信中】画面について



● Wi-Fi設定の確認

Wi-Fi接続の設定内容を確認できます。

● エラー内容の表示

Wi-Fi接続でエラーが発生したときに、エラー内容を確認できます (🔗)。

● 通信切

Wi-Fi接続を終了します。

⚠ 注意

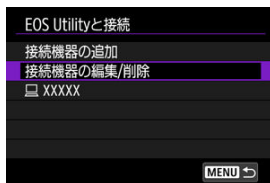
- リモート撮影で動画を記録中に、Wi-Fi接続が切断されたときの動作は、以下のようになります。
 - カメラが動画撮影モードのときは、動画撮影が継続します。
 - カメラが静止画撮影モードのときは、動画撮影が終了します。
- カメラが静止画撮影モードのときに、EOS Utilityの操作で動画撮影モードにしたときは、カメラを操作して撮影することはできません。
- EOS UtilityとWi-Fi接続中は、操作できない機能があります。
- リモート撮影では、AF速度が遅くなることがあります。
- 通信状態によっては、映像の表示が遅れたり、レリーズのタイミングが遅れることがあります。
- リモートライブビュー撮影では、インターフェーススケールでの接続時よりも通信速度が遅くなるため、動きのある被写体を滑らかに表示することはできません。

接続機器の編集／削除

接続機器の編集や削除は、Wi-Fi接続を終了してから行います。ここでは、[EOS Utilityでカメラを操作](#)に説明がない項目について説明します。

1. [🏠 : 📱 EOS Utilityと接続] を選ぶ (🔍)

2. [接続機器の編集/削除] を選ぶ



3. 機器を選ぶ



- 接続機器を選び、<🔍>を押します。

4. 項目を選ぶ



ニックネームの変更

ニックネーム（接続機器の名前）を変更することができます。

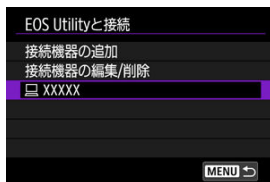
接続情報の削除

接続情報を削除することができます。

接続情報を使って再接続する

接続情報を使って再接続できます。

1. [📶 : 🖨 EOS Utilityと接続] を選ぶ (🔗)
2. 接続する機器を選ぶ



- 表示された履歴から、接続する項目を選びます。

3. 画面の指示に従ってカメラと機器を接続する

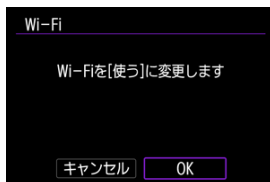
image.canonに画像送信

カメラをimage.canonに接続して、カメラから直接画像を送信します。

- インターネットに接続できるスマートフォンおよびブラウザが必要です。
- 本機能は、一部の国／地域では使用できません。また、一部の国／地域で販売されたカメラには表示されません。
- image.canonのサービスの使い方、対応している国／地域などは image.canon サイト (<https://image.canon/>) を確認してください。
- プロバイダーとの接続料金、およびプロバイダーのアクセスポイントへの通信料金は、別途かかります。

1. [📶: image.canonに画像送信] を選ぶ (🔗)

2. [OK] を選ぶ



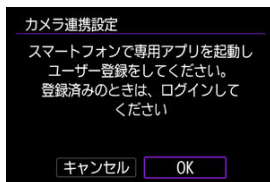
- すでに [📶: Wi-Fi設定] が [使う] になっているときは、この画面は表示されません。

3. [接続] を選ぶ



- 専用アプリのインストールが済んでいない場合は、[インストール] を選んでください。

4. [OK] を選ぶ

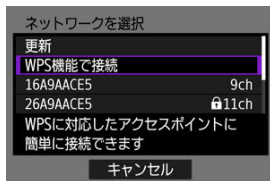


5. 専用アプリでQRコードを読み込む



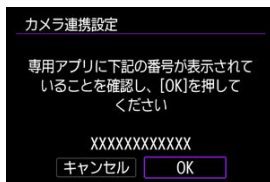
- [OK] を選びます。

6. Wi-Fi接続する



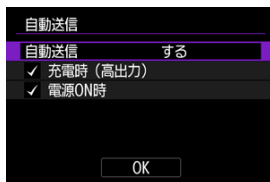
- 通信機能の設定については、[通信機能の基本設定](#)を参照してください。

7. 専用アプリに番号が表示されていることを確認する



- [OK] を選びます。

8. 自動送信を設定する



- [充電時（高出力）] は、カメラの電源がオフの状態で、USB接続をして充電を行うとき、自動送信を開始します。なお、バッテリーの残量が少なければ、しばらく充電した後、自動送信を開始します。
- [電源ON時] は、カメラの電源を入れたとき、自動送信を開始します。
- [OK] を選択し、〈〉を押します。

9. 設定を完了する



- 設定メニューが表示されます (🔗)。

📖 参考

- [☁️] が [🔗] になります。



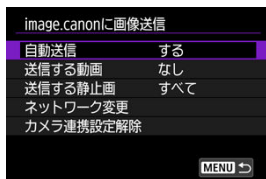
10. 専用アプリを確認する

- 専用アプリに機種名が登録されていることを確認します。

📖 参考

- 送信された画像は、オリジナルの画像サイズで30日間、容量無制限でimage.canonに保管されます。

[image.canonに画像送信] 画面について



- **自動送信**
自動送信の設定を変更できます。
- **送信する動画**
送信する動画の対象を選ぶことができます。
- **送信する静止画**
送信する静止画の対象を選ぶことができます。
- **ネットワーク変更**
Wi-Fi接続の設定を変更できます。
- **カメラ連携設定解除**
カメラ連携の設定を解除できます。

Content Transfer Professionalを使用した画像転送

Content Transfer Professionalは、本カメラで撮影した画像を、モバイル回線経由でFTPサーバーに転送するためのスマートフォン用アプリケーションソフトウェアです。
アプリケーションについては、[ソフトウェア/アプリケーション](#)を参照してください。

高度な接続

☒ [スマートフォン\(タブレット\)と接続](#)

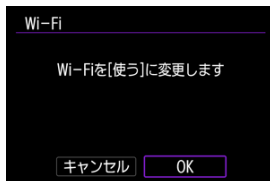
☒ [Camera Control API \(CCAPI\)](#)

スマートフォン(タブレット)と接続

カメラとスマートフォンを直接Wi-Fi接続して、Camera Connectでカメラを操作することができます。

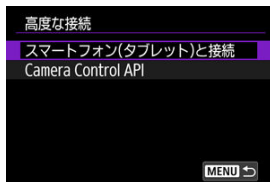
1. [高度な接続] を選ぶ (☑)

2. [OK] を選ぶ

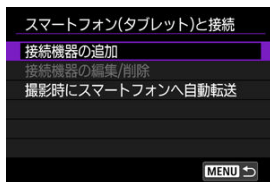


- すでに [高度な接続 : Wi-Fi設定] が [使う] になっているときは、この画面は表示されません。

3. [スマートフォン(タブレット)と接続] を選ぶ



4. [接続機器の追加] を選ぶ



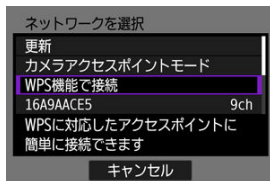
- 撮影時にスマートフォンへ画像を自動転送するときは、[撮影時にスマートフォンへ自動転送]を設定します (🔗)。

5. アクセスポイントの検索を開始する



- スマートフォンにCamera Connectをインストール済みのときは、〈🔍〉を押して検索を開始します。
- Camera Connectのインストールが済んでいないときは、画面のQRコードをスマートフォンで読み取り、Google PlayまたはApp StoreにアクセスしてCamera Connectをインストールしてから、〈🔍〉を押して検索を開始します。

6. Wi-Fi接続する



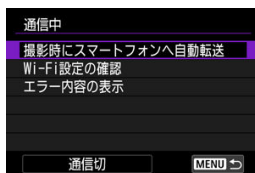
- 通信機能の設定については、[通信機能の基本設定](#)を参照してください。

7. Camera Connectを起動して、カメラ名をタッチする

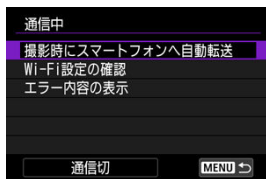
8. [OK] を選ぶ



- カメラのモニターに「通信中」画面が表示されます (🔗)。



【通信中】画面について



- **撮影時にスマートフォンへ自動転送**
撮影した画像をスマートフォンに自動送信することができます (📷)。
- **Wi-Fi設定の確認**
Wi-Fi接続の設定内容を確認できます。
- **エラー内容の表示**
Wi-Fi接続でエラーが発生したときに、エラー内容を確認できます (🔧)。
- **通信切**
Wi-Fi接続を終了します。

Camera Control API (CCAPI)

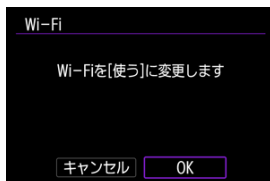
CCAPI (Camera Control API*) を使用したアプリケーションなどを使うときは、スマートフォン (タブレットを含む) またはパソコンをカメラに接続し、CCAPIで操作できるようにします。

* Camera Control APIとは、ネットワーク経由でキヤノンカメラを制御するHTTPベースのAPIです。

設定画面を開く

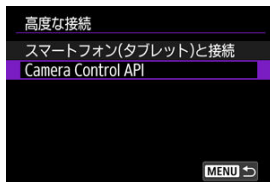
1. [高度な接続] を選ぶ (☑)

2. [OK] を選ぶ



- すでにWi-Fi設定が「使う」になっているときは、この画面は表示されません。

3. [Camera Control API] を選ぶ



- 「このカメラにニックネーム(識別用の名称)を登録してください。Wi-FiやBluetooth接続時に、ニックネームを利用して接続します」というメッセージが表示されたときには、カメラの名前を登録してください。

ポート番号を設定する

1. 項目を選ぶ



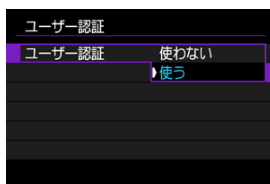
- **ポート番号(HTTP)**
HTTPのポート番号を変更することができます。
- **ポート番号(HTTPS)**
HTTPSのポート番号を変更することができます。
- **HTTPS**
HTTPを使うときは、**【使わない】** に設定します。

ユーザー認証を設定する

1. 【ユーザー認証】を選ぶ

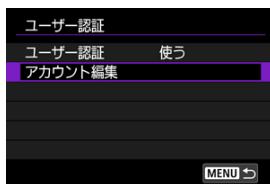


2. ユーザー認証の使用を選ぶ

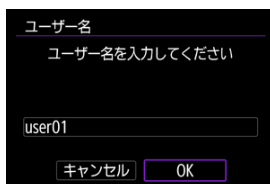


- [使う] を選んだときは、[アカウント編集] で [ユーザー名] と [パスワード] を設定します。

3. [アカウント編集] を選ぶ

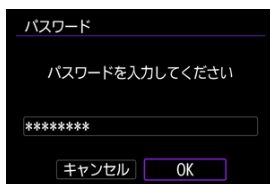


4. ユーザー名を設定する



- <Ⓜ>を押して仮想キーボード(<Ⓜ>)を表示し、ユーザー名を入力します。
- 入力したら[OK]を選びます。

5. パスワードを設定する



- 〈〉を押して仮想キーボード () を表示し、パスワードを入力します。
- 入力したら **【OK】** を選びます。

接続を設定する

1. **【接続】** を選ぶ

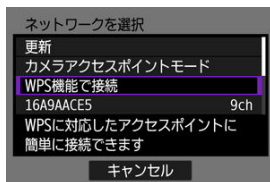


2. **【ウィザードで追加】** を選ぶ



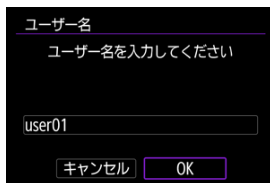
- 詳細な接続の設定をするときは、**【手動で追加】** を選びます。

3. Wi-Fi接続する



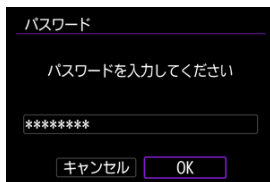
- アクセスポイントとWi-Fi接続します。通信機能の設定については、[通信機能の基本設定](#)を参照してください。

4. ユーザー名を設定する



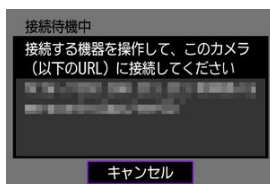
- 〈〉を押して仮想キーボード（）を表示し、ユーザー名を入力します。
- [OK] を選ぶと、次の画面に進みます。

5. パスワードを設定する

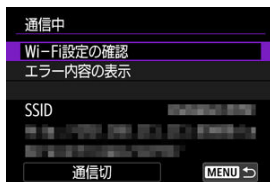


- 〈〉を押して仮想キーボード（）を表示し、パスワードを入力します。
- [OK] を選ぶと、次の画面に進みます。

6. Wi-Fi接続を確立させる



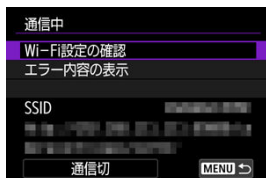
- カメラのモニターに上の画面が表示されたら、スマートフォンやパソコンなどで作成したアプリケーションから、表示されているURLにアクセスします。



- カメラのモニターに上の画面が表示されたら接続は完了です。
- 接続を終了するときは「通信切」を選びます。

【通信中】画面について

【通信中】の画面から、次の操作を行うことができます。



- **Wi-Fi設定の確認**

Wi-Fi接続の設定内容を確認できます。

- **エラー内容の表示**

Wi-Fi接続でエラーが発生したときに、エラー内容を確認できます (🔗)。

- **通信切**

接続を終了します。

設定を変更する

接続を終了した状態で、設定を変更することができます。

接続設定の確認／編集

接続先の設定の確認や変更ができます。

1. 【接続設定の確認／編集】を選ぶ



2. 接続先を選ぶ



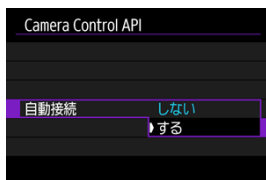
3. 確認や変更する項目を選ぶ



- **無線LAN**
SSID（ネットワーク名）と詳細設定（接続方法、セキュリティー、暗号方式など）を変更することができます。
- **TCP/IPv4**
TCP/IPv4設定を変更できます。
- **TCP/IPv6**
TCP/IPv6設定を変更できます。
- **接続設定の確認**
接続設定を確認することができます。
- **接続設定の消去**
接続設定を削除することができます。

自動接続

「**する**」を選んで、カメラの電源を切ると、次にカメラの電源を入れたときから、自動的に接続されます。



USB (UVC/UAC) 接続で配信

☒ [USB給電を有効にする](#)

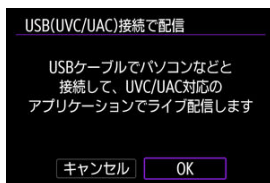
☒ [動画配信サイズを設定する](#)

USBケーブルでパソコンなどと接続し、UVC/UAC対応のアプリケーションを使用するときに選びます。

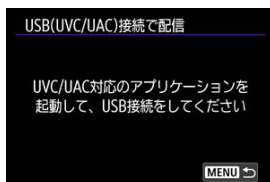
1. 動画撮影にする (📷)

2. [🏠 : 🖥️ USB(UVC/UAC)接続で配信] を選ぶ (📷)

3. [OK] を選ぶ



4. カメラと機器をUSBケーブルで接続する



- メッセージが表示されたら、カメラと機器をUSBケーブルで接続します。

5. 機器のアプリケーションを起動する

- 接続した機器で、映像の入力を確認してください。
- アプリケーションに映像が表示されると、撮影画面の表示が **[LIVE]** になります。

⚠ 注意

- 長時間カメラを使用するときは、USB給電または家庭用電源アクセサリー（別売）の使用をおすすめします。
- 外部マイク使用時にノイズが気になるときは、外部マイクを外部マイク入力端子側に配置して、できるだけカメラから遠ざけてください。
- ライブ配信のときは、カメラが高温になります。手持ち撮影せず、スタンドや三脚を使用するなどしてください。
- ライブ配信のときは、カードに映像は記録されません（ただしカメラにカードを入れておく必要があります）。
- ライブ配信のときは、事前にテスト配信を行い、映像の表示方向や傾きを確認して、カメラの姿勢を調整してください。
-  **オーディオ形式** が **[LPCM/24bit/4CH]** に設定されていても、出力は **LPCM/16bit/2CH（CH1/CH2）** となります。

USB給電を有効にする

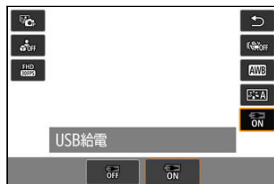
USB給電を有効にすると、パソコンなどからカメラに給電することができます。USB接続の状態から設定します。

1. 動画撮影画面の [Q] にタッチする

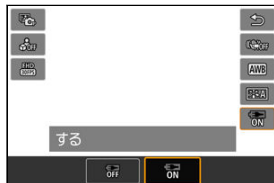


- クイック設定画面が表示されます。

2. [USB給電] を選ぶ



3. [する] を選ぶ



⚠ 注意

- 撮影画面の表示が【LIVE】の状態では設定できません。
- 【動画配信サイズ】で【^{4K}_{80FPS}】または【^{4K}_{60FPS}】が選択されているときは、【する】を選択できません。
- 出力DC 5V 1.5A以上のUSB Power Delivery規格に対応した機器に接続してください。
- USB Power Delivery規格に対応したUSBケーブルを使用してください。キヤノン純正品（インターフェースケーブル IFC-100U）の使用をおすすめします。
- 給電中もバッテリー残量が減ることがあります。撮影中にバッテリー残量が不足しないよう、フル充電したバッテリーを使用してください。

動画配信サイズを設定する

動画配信サイズを設定することができます。USB接続の状態から設定します。

1. 動画撮影画面の〔Q〕にタッチする



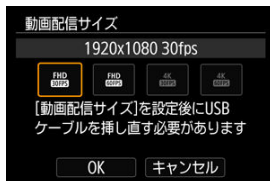
- クイック設定画面が表示されます。

2. [動画配信サイズ] を選ぶ



- 〈〉を押すと、[動画配信サイズ] 画面が表示されます。

3. 動画配信サイズの設定を変更する



- [OK] を選ぶとメッセージが表示されるので、USBケーブルを挿しなおしてください。

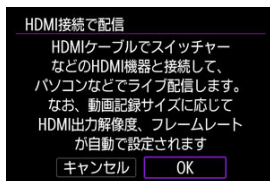
⚠ 注意

- 配信中の状態では設定できません。
- [USB給電] で [する] が選択されているときは、[^{4K}_{60FPS}] および [^{4K}_{30FPS}] を選択できません。
- [撮影モード] で [美肌動画] が選択されているときは、[^{4K}_{60FPS}] を選択できません。

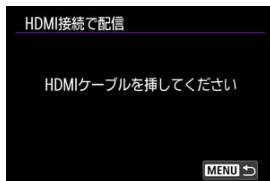
HDMI接続で配信

HDMIケーブルでHDMI対応機器と接続し、ライブ配信するときに選びます。

1. 動画撮影にする (📹)
2. [📺: HDMI接続で配信] を選ぶ (📺)
3. [OK] を選ぶ



4. カメラと機器をHDMIケーブルで接続する



5. 機器のアプリケーションを起動する

- 接続した機器で、映像の入力を確認してください。

ⓘ 注意

- [📷: オーディオ形式] が [LPCM/24bit/4CH] に設定されていても、出力は LPCM/16bit/2CH (CH1/CH2) となります。
- 長時間カメラを使用するときは、USB給電または家庭用電源アクセサリ（別売）の使用をおすすめします。
- 給電中もバッテリー残量が減ることがあります。撮影中にバッテリー残量が不足しないよう、フル充電したバッテリーを使用してください。
- 外部マイク使用時にノイズが気になるときは、外部マイクを外部マイク入力端子側に配置して、できるだけカメラから遠ざけてください。
- ライブ配信のときは、カメラが高温になります。手持ち撮影せず、スタンドや三脚を使用するなどしてください。
- ライブ配信のときは、カードに映像は記録されません。
- ライブ配信のときは、事前にテスト配信を行い、映像の表示方向や傾きを確認して、カメラの姿勢を調整してください。
- HDMI出力時の解像度、フレームレートは動画記録サイズに連動して変わります。実際の解像度とフレームレートは、動画撮影画面で確認してください。
- [📷: 動画記録サイズ] で4K以上の画像サイズが選択されているとき、HDMI出力映像にはつぎの制約事項があります。
 - 画像サイズは、4Kになります。
 - フレームレートの上限が59.94fps (NTSC) または50.00fps (PAL) になります。
- [📷: 動画記録サイズ] で1920×1080の画像サイズが選択されていると、フレームレートは59.94fps (NTSC) または50.00fps (PAL) に固定されます。フレームレートが29.97fps (NTSC)、23.98fps (NTSC) または25.00fps (PAL) に設定されているときは、プルダウンによりそれぞれ59.94fps (NTSC) または50.00fps (PAL) になります。

Camera Connectで配信

☑ [カメラとスマートフォンをBluetooth接続する](#)

☑ [ライブ配信の設定](#)

☑ [接続機器の編集／削除](#)

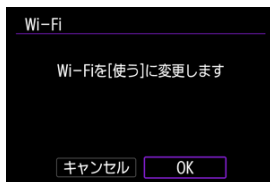
☑ [接続情報を使って再接続する](#)

スマートフォンとBluetooth接続し、Camera Connectを使ってライブ配信するときを選びます。

あらかじめ、配信先のサービスの、ライブ配信に必要な要件や利用規約を確認してください。

カメラとスマートフォンをBluetooth接続する

1. 動画撮影にする (📷)
2. [📷 : 📺 Camera Connectで配信] を選ぶ (📷)
3. [OK] を選ぶ



- すでにWi-Fi設定が「使う」になっているときは、この画面は表示されません。

4. [OK] を選ぶ



5. 〈〉を押す

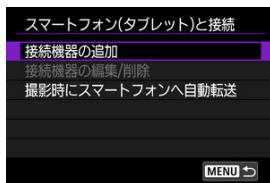


6. [OK] を選ぶ



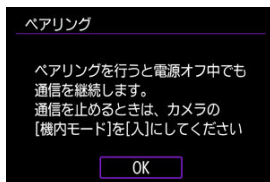
- すでにBluetooth設定が【使う】になっているときは、この画面は表示されません。

7. [接続機器の追加] を選ぶ



- すでに他の機器とBluetooth 接続されているときは、メッセージが表示されます。[OK] を選ぶと、現在のBluetooth 接続が切断されます。

8. <Ⓢ>を押す



9. ペアリングを開始する



- 〈〉を押してペアリングを開始します。
- Camera Connectのインストールが済んでいないときは、画面のQRコードをスマートフォンで読み取り、Google PlayまたはApp StoreにアクセスしてCamera Connectをインストールしてから、〈〉を押してペアリングを開始します。

10. Camera Connectを起動する

- アプリケーションの指示に従って、ペアリングするカメラを選びます。

11. Bluetooth接続を確立する

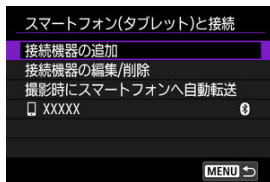


- 〈〉を押します。

12. 接続を完了する



- 〈〉を押します。
- スマートフォンにメッセージが表示されたら、スマートフォンを操作します。

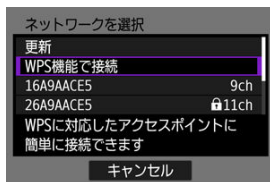


- 接続した機器の名前が表示されます。
- 〈MENU〉ボタンを押します。

1. [🔗: 📷Camera Connectで配信] を選ぶ (🔗)
2. [OK] を選ぶ

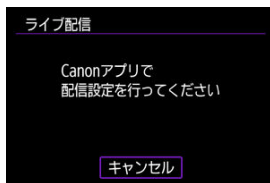


3. 通信機能を設定する



- 通信機能の設定については、[通信機能の基本設定](#)を参照してください。

4. Camera Connectで配信設定を行う



- 利用したいライブ配信プラットフォームを選択し、設定します。
- 配信先を選択する画面で、配信先のURLを入力することができます。
- 通信環境に応じて、配信画質を設定します。

5. 配信する

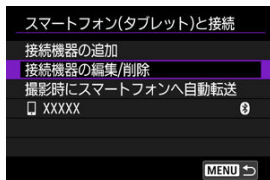
- 撮影待機画面に、[STBY] が表示されます。
- ライブ配信の開始と終了は、Camera Connectで行います。カメラの動画撮影ボタンでも配信を開始または終了することができます。

ⓘ 注意

- 長時間カメラを使用するときは、USB給電または家庭用電源アクセサリ（別売）の使用をおすすめします。
- ライブ配信のときは、通信環境によって映像および音声にノイズが発生することがあります。そのため、事前にテスト撮影を行い、映像および音声を確認してから撮影することをおすすめします。
- 映像及び音声にノイズや途切れが発生する場合、以下をお試してください。改善することがあります。
 - カメラとアクセスポイント（無線ルーター、テザリングスマートフォンなど）の距離を近づける、配置を変更する、人や遮蔽物が間に入らないよう設置する
 - 室内で使用する場合、アクセスポイントとカメラは同じ部屋に設置する
 - 2.4GHz帯の周波数を使用する電子レンジやコードレス電話機などの機器から離して設置する
- 外部マイク使用時にノイズが気になるときは、外部マイクを外部マイク入力端子側に配置して、できるだけカメラから遠ざけてください。
- Camera Connectで、3.5Mbpsの配信画質を選択すると、通信環境によっては6Mbpsより安定した動画配信ができますが、画質は低下します。
- ライブ配信のときは、カメラが高温になります。手持ち撮影せず、スタンドや三脚を使用するなどしてください。
- 第三者が提供するサービスについて、キヤノンはいかなる責任も負いかねます。あらかじめご了承ください。
- ライブ配信のときは、カードに映像は記録されません。
- ライブ配信のときは、事前にテスト配信を行い、映像の表示方向や傾きを確認して、カメラの姿勢を調整してください。
- [無線通信機能での注意事項](#)をお読みください。

1. [ :  スマートフォン(タブレット)と接続] を選ぶ ()

2. [接続機器の編集/削除] を選ぶ



3. 接続機器を選ぶ



4. 項目を選ぶ



ニックネームの変更

ニックネーム（接続機器の名前）を変更することができます。

接続情報の削除

接続情報を削除することができます。

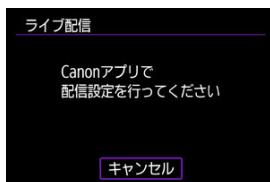
接続情報を使って再接続する

接続情報を使って再接続できます。

1. [📶 : 📷 Camera Connectで配信] を選ぶ (🔍)
2. [OK] を選ぶ



3. Camera Connectで配信設定を行う



Live Switcher Mobileで配信

☑ [カメラとスマートフォンをWi-Fi接続する](#)

☑ [接続機器の編集／削除](#)

☑ [接続情報を使って再接続する](#)

スマートフォンとWi-Fi接続し、Live Switcher Mobileを使ってライブ配信するときを選びます。

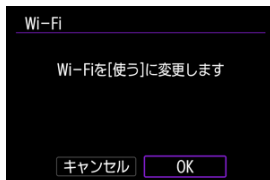
あらかじめ、配信先のサービスの、ライブ配信に必要な要件や利用規約を確認してください。

カメラとスマートフォンをWi-Fi接続する

1. 動画撮影にする (📷)

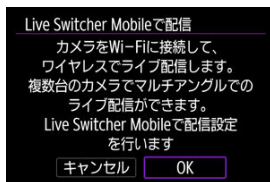
2. [📶 : 📱Live Switcher Mobileで配信] を選ぶ (📶)

3. [OK] を選ぶ

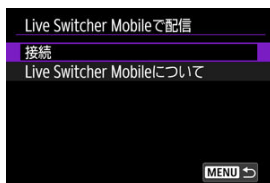


- すでにネットワーク設定が「使う」になっているときは、この画面は表示されません。

4. [OK] を選ぶ



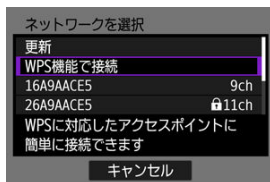
5. [接続] を選ぶ



6. [接続機器の追加] を選ぶ

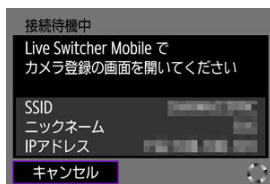


7. 通信機能を設定する



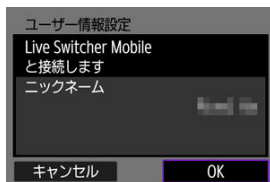
- 通信機能の設定については、[通信機能の基本設定](#)を参照してください。
- スマートフォンと接続中のときは、この画面は表示されません。

8. SSIDを確認する



- Live Switcher Mobileで、接続するカメラを選択します。

9. [OK] を選ぶ



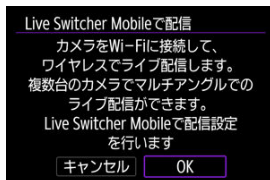
10. Live Switcher Mobileで配信設定を行う

ⓘ 注意

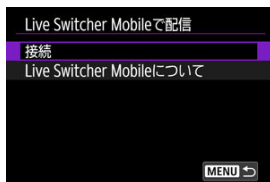
- 長時間カメラを使用するときは、USB給電または家庭用電源アクセサリー（別売）の使用をおすすめします。
- 給電中もバッテリー残量が減ることがあります。撮影中にバッテリー残量が不足しないよう、フル充電したバッテリーを使用してください。
- ライブ配信のときは、通信環境によって映像および音声にノイズが発生することがあります。そのため、事前にテスト撮影を行い、映像および音声を確認してから撮影することをおすすめします。
- 映像及び音声にノイズや途切れが発生する場合、以下をお試しください。改善することがあります。
 - カメラとアクセスポイント（無線ルーター、テザリングスマートフォンなど）の距離を近づける、配置を変更する、人や遮蔽物が間に入らないよう設置する
 - 室内で使用する場合、アクセスポイントとカメラは同じ部屋に設置する
 - 2.4GHz帯の周波数を使用する電子レンジやコードレス電話機などの機器から離して設置する
- 外部マイク使用時にノイズが気になるときは、外部マイクを外部マイク入力端子側に配置して、できるだけカメラから遠ざけてください。
- ライブ配信のときは、カメラが高温になります。手持ち撮影せず、スタンドや三脚を使用するなどしてください。
- ライブ配信のときは、カードに映像は記録されません。
- 第三者が提供するサービスについて、キヤノンはいかなる責任も負いかねます。あらかじめご了承ください。
- ライブ配信のときは、事前にテスト配信を行い、映像の表示方向や傾きを確認して、カメラの姿勢を調整してください。
- [無線通信機能での注意事項](#)をお読みください。

1. [📷: 📱Live Switcher Mobileで配信] を選ぶ (🔗)

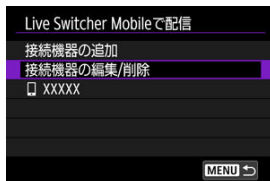
2. [OK] を選ぶ



3. [接続] を選ぶ



4. [接続機器の編集/削除] を選ぶ



5. 接続機器を選ぶ



6. 項目を選ぶ



ニックネームの変更

ニックネーム（接続機器の名前）を変更することができます。

接続情報の削除

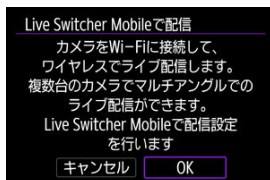
接続情報を削除することができます。

接続情報を使って再接続する

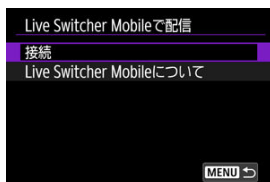
接続情報を使って再接続できます。

1. [📶: 📺Live Switcher Mobileで配信] を選ぶ (🔗)

2. [OK] を選ぶ



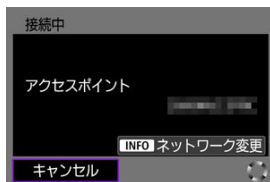
3. [接続] を選ぶ



4. 機器を選ぶ



5. アクセスポイントを確認する



- ネットワークを変更する場合は、〈INFO〉ボタンを押します。通信機能の設定については、[通信機能の基本設定](#)を参照してください。

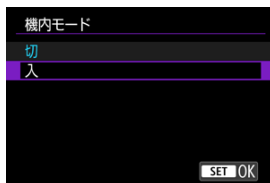
6. Live Switcher Mobileを起動する

機内モード

Wi-Fi機能、Bluetooth機能を一時的にオフにすることができます。

1. [機内モード] を選ぶ (🔒)

2. [入] に設定する



- 画面に [↑] が表示されます。

参考

- 静止画撮影時や動画撮影時、再生時は、表示設定によって [↑] が表示されないこともあります。表示されないときは、〈INFO〉ボタンを何度か押して詳細情報表示の画面にします。

1. [Wi-Fi設定] を選ぶ

2. 項目を選ぶ



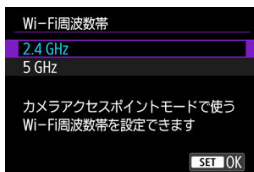
● Wi-Fi

飛行機内や病院内などで、電子機器や無線機器の使用が禁止されているときは、**【使わない】** に設定してください。



● Wi-Fi周波数帯

カメラアクセスポイントモードで使用する周波数帯を選択できます。また、Bluetooth機能を使ってWi-Fi接続するときも、ここで設定した周波数帯が選択されます。



- **MACアドレス**

カメラのMACアドレスの確認ができます。



⚠ 注意

動画の転送について

- 動画は1ファイルあたりの容量が大きく、Wi-Fiでは大容量ファイルの送信に時間がかかります。[無線通信機能での注意事項](#)の記載内容を参考にして、各機器がアクセスポイントや本機と安定して通信できる環境を構築しておいてください。

Wi-Fi周波数帯について

- [5GHz] で使用するとき、接続する機器が5GHzの周波数帯を使用できることを確認してください。
- [チャンネル設定] でチャンネルを手動で設定したときは、設定したチャンネルの周波数帯が使用されます (📶)。

1. [🏠 : Bluetooth設定] を選ぶ (🔗)

2. 項目を選ぶ



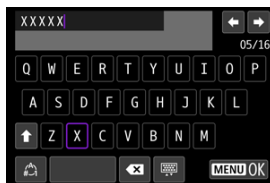
- **Bluetooth**
Bluetooth機能を使わないときは「**使わない**」を選びます。
- **Bluetoothアドレス**
カメラのBluetoothアドレスを確認できます。
- **接続先の名称**
ペアリングした機器の名前や通信状態を確認できます。

カメラの名前

スマートフォンやカメラで表示される、このカメラの名前を変更することができます。

1. [📷 : カメラの名前] を選ぶ (🔗)

2. カメラの名前を変更する



- 仮想キーボード (🔗) を操作し、カメラの名前を入力します。

3. 〈MENU〉 ボタンを押して [OK] を選ぶ

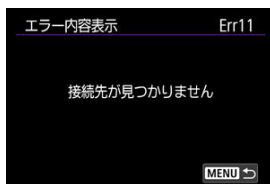
エラー内容の表示

カメラに発生している通信機能のエラー内容を表示することができます。

1. [メニュー: エラー内容の表示] を選ぶ (🔍)

- 発生しているエラーの内容が表示されます。

2. エラーの内容を確認する



- エラーの詳細については、[エラー表示の対応](#)を参照してください。

エラー表示の対応

エラーが発生したときは、下記のいずれかの方法でエラー内容を表示してください。その後、この章の対応例を参考にしてエラーの原因を取り除いてください。

- **[ : エラー内容の表示]** を選ぶ。
- **[通信中]** 画面の **[エラー内容の表示]** を選ぶ。

下記のエラー番号をクリックすると該当の項目にジャンプします。

11	12						
21	22	23					
61	64	65					
91							
121	125	127					
130	131	132	133	134	135	136	137
161							
171	172	173					

参考

- エラーが発生したときは、**[ : エラー内容の表示]** の右側に **[Err**]** と表示されます。カメラの電源を〈OFF〉にすると表示されなくなります。

11：接続先が見つかりません

- **【 スマートフォン(タブレット)と接続】の場合、アプリケーションは起動していますか？**
 - アプリケーションから接続操作を行ってください (🔗)。
- **【 EOS Utilityと接続】の場合、EOS Utilityは起動していますか？**
 - EOS Utilityを起動して、再度接続操作を行ってください (🔗)。
- **カメラとアクセスポイントで、同じ認証用の暗号キーを設定していますか？**
 - 暗号化されているアクセスポイントを利用する設定で、暗号キーを間違えると、このエラーになります。
大文字、小文字の使い分けも確認して、正しい認証用の暗号キーをカメラに設定してください (🔗)。

12：接続先が見つかりません

- **接続先の機器やアクセスポイントの電源は入っていますか？**
 - 接続先の機器やアクセスポイントの電源を入れて、しばらくお待ちください。それでも接続できないときは、再度接続操作を行ってください。

21：DHCPサーバーからアドレスが割り当てられていません

カメラの確認内容

- **カメラの設定がIPアドレス【自動設定】になっています。この設定で間違いありませんか？**
 - DHCPサーバーを使用していない場合は、カメラをIPアドレス【手動設定】にして設定を行ってください (🔗)。

DHCPサーバーの確認内容

- **DHCPサーバーの電源は入っていますか？**
 - DHCPサーバーの電源を入れてください。
- **DHCPサーバーから割り当てられるアドレスに余裕はありますか？**
 - DHCPサーバーが割り振るアドレスを増やしてください。
 - DHCPサーバーからアドレスが割り振られている端末を、ネットワークから外して減らしてください。
- **DHCPサーバーは正常に機能していますか？**
 - DHCPサーバーの設定を確認して、DHCPサーバーとして正常に機能しているか確認してください。
 - ネットワーク管理者がいるときは、DHCPサーバーを使用できる状態にするよう依頼してください。

ネットワーク全体の確認内容

- 接続しようとしているネットワークに、ゲートウェイ機能を持つルーターなどが使用されていませんか？
 - ネットワーク管理者がいるときは、ネットワークのゲートウェイアドレスを聞いて、その内容をカメラに設定してください (🔗、🔗)。
 - カメラを含むネットワーク機器すべてに、ゲートウェイアドレスを正しく設定してください。

22 : DNSサーバーから応答がありません

カメラの確認内容

- カメラに設定しているDNSサーバーのIPアドレスは合っていますか？
 - 使用するDNSサーバーと同じIPアドレスをカメラに設定してください (🔗、🔗)。

DNSサーバーの確認内容

- DNSサーバーの電源は入っていますか？
 - DNSサーバーの電源を入れてください。
- DNSサーバーにIPアドレスと、そのアドレスに対応する名前を正しく設定していますか？
 - DNSサーバーにIPアドレスと、そのアドレスに対応する名前を正しく設定してください。
- DNSサーバーは正常に機能していますか？
 - DNSサーバーの設定を確認して、DNSサーバーとして正常に機能しているか確認してください。
 - ネットワーク管理者がいるときは、DNSサーバーを使用できる状態にするよう依頼してください。

ネットワーク全体の確認内容

- 接続しようとしているネットワークに、ゲートウェイ機能を持つルーターなどが使用されていませんか？
 - ネットワーク管理者がいるときは、ネットワークのゲートウェイアドレスを聞いて、その内容をカメラに設定してください (🔗、🔗)。
 - カメラを含むネットワーク機器すべてに、ゲートウェイアドレスを正しく設定してください。

23 : ネットワーク上に同じIPアドレスの機器が存在します

- カメラと同じネットワークに接続している機器が、カメラと同じIPアドレスを使用していないか？
 - カメラのIPアドレスを変更して、同じネットワークに接続している機器とIPアドレスが重複しないようにしてください。または、IPアドレスが重複している他の機器のIPアドレスを変更してください。
 - DHCPサーバーを使用するネットワーク環境で、カメラがIPアドレス [手動設定] の設定になっているときは、IPアドレス [自動設定] の設定にしてください (🔗)。

参考

エラー20番台の対応について

- エラー21～23が表示された場合は、以下の確認も行ってください。
カメラとアクセスポイントで、同じ認証用のパスワードを設定していますか？
 - 暗号化されているアクセスポイントを利用する設定で、暗号キーを間違えるとこのエラーになります。大文字、小文字の使い分けも確認して、正しい認証用のパスワードをカメラに設定してください (🔗)。

61 : 同じSSIDの無線LANネットワークが見つかりません

- アクセスポイントのアンテナとカメラの間に、見通しをさえぎる障害物はありませんか？
 - アクセスポイントのアンテナを、カメラからよく見える場所に移動させてください。

カメラの確認内容

- カメラにアクセスポイントと同じSSIDを設定していますか？
 - アクセスポイントのSSIDを確認して、同じSSIDをカメラに設定してください (🔗)。

アクセスポイントの確認内容

- アクセスポイントの電源は入っていますか？
 - アクセスポイントの電源を入れてください。
- MACアドレスでフィルタリングしている場合、使用しているカメラのMACアドレスをアクセスポイントに登録していますか？
 - 使用しているカメラのMACアドレスをアクセスポイントに登録してください。
MACアドレスは [MACアドレス] 画面で確認できます (🔗)。

64：無線LAN端末に接続できません

- カメラとアクセスポイントで、同じ暗号化方式を設定していますか？
 - カメラで設定できる暗号化方式については、[主な仕様](#)を参照してください。
- MACアドレスでフィルタリングしている場合、使用しているカメラのMACアドレスをアクセスポイントに登録していますか？
 - 使用しているカメラのMACアドレスをアクセスポイントに登録してください。
MACアドレスは[MACアドレス]画面で確認できます (🔍)。

65：無線LANの接続が切れました

- アクセスポイントのアンテナとカメラの間に、見通しをさえぎる障害物はありませんか？
 - アクセスポイントのアンテナを、カメラからよく見える場所に移動させてください。
- 何らかの理由で、無線LANの接続が切れ、再接続できない状態になっています。
 - アクセスポイントにほかの端末からのアクセスが集中している場合や、電子レンジなどが近くで使用されている場合 (IEEE 802.11b/g/n (2.4GHz帯))、雨天や高温度などの影響が考えられます。

91：その他のエラー

- エラー11～65以外の異常が発生しました。
 - カメラの電源スイッチを入れ直してください。

121：サーバーの空き容量が不足しています

- 送信先Webサーバーの空き容量が不足しています。
 - Webサーバー内の不要な画像を削除し、Webサーバーの空き容量を確認してから再度送信してください。

125：ネットワークの設定を確認してください

- ネットワークが接続されていますか？
 - ネットワークの接続状態を確認してください。

127 : エラーが発生しました

- Webサービスの接続中に、エラー121～126以外の異常が発生しました。
 - WebサービスのWi-Fi接続をやり直してください。

130 : サーバーが混みあっています しばらくたってからもう一度実行してください

- Webサービスに一時的に負荷が集中しています。
 - しばらくしてからWebサービスのWi-Fi接続をやり直してください。

131 : もう一度実行してください

- WebサービスのWi-Fi接続でエラーが発生しました。
 - WebサービスのWi-Fi接続をやり直してください。

132 : サーバーでエラーが発生しました しばらくしてから実行してください

- Webサービスがメンテナンス中です。
 - しばらくしてからWebサービスのWi-Fi接続をやり直してください。

133 : Webサービスにログインできません

- Webサービスのログインでエラーが発生しました。
 - Webサービスの設定を確認してください。
 - しばらくしてからWebサービスのWi-Fi接続をやり直してください。

134 : 日付/時刻を正しく設定してください

- 日付/時刻/エリアが正しく設定されていません。
 - [📅 : 日付/時刻/エリア] の設定を確認してください。

**135 : image.canonの連携を解除したため、サービスを利用できません。
カメラで連携設定を解除し、連携をやり直してください**

- **Webサービスの設定が変更されています。**
 - Webサービスの設定を確認してください。

**136:カメラに表示されたQRコードを専用アプリで正しく読み取れません
でした。カメラ連携設定をやり直してください**

- **スマートフォンでQRコードが正しく読み取れていません。**
 - カメラ連携設定をやり直し、新しくカメラに表示されるQRコードを読み取ってください。

**137:カメラに表示されたQRコードの有効期限が切れました。カメラ連携
設定をやり直してください**

- **表示されたQRコードの有効期限が切れています。**
 - カメラ連携設定をやり直し、新しくカメラに表示されるQRコードを読み取ってください。

161 : エラーが発生しました

- **ライブ配信時にエラーが発生しました。**
 - ライブ配信の配信設定を見直してください。
 - ライブ配信をやり直してください。

171 : エラーが発生しました

- **Live Switcher Mobile配信時にエラーが発生しました。**
 - Live Switcher Mobileの配信設定を見直してください。
 - Live Switcher Mobileをやり直してください。

172 : エラーが発生しました

- **Live Switcher Mobile接続時にエラーが発生しました。**
 - Live Switcher Mobileの配信設定を見直してください。
 - Live Switcher Mobileをやり直してください。

173 : エラーが発生しました

- **Live Switcher Mobile送信時にエラーが発生しました。**
 - Live Switcher Mobileの配信設定を見直してください。
 - Live Switcher Mobileをやり直してください。

GPS機器の設定

☒ [GPSレシーバー GP-E2](#)

☒ [スマートフォン](#)

☒ [GPS接続表示](#)

GPSレシーバー GP-E2（別売）やスマートフォンを使用して、位置情報を画像に付加することができます。

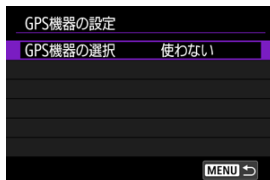
GPSレシーバー GP-E2

1. GP-E2をカメラに取り付ける

- GP-E2*をカメラのアクセサリシューに取り付けて電源を入れます。
詳しくはGP-E2の使用説明書を参照してください。
* マルチアクセサリシューアダプター AD-E1（別売）が必要

2. [⌂ : GPS機器の設定] を選ぶ (⌂)

3. [GPS機器の選択] を選ぶ



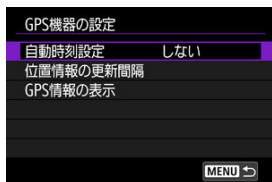
4. 「GPSレシーバー」を選ぶ



5. 「設定」を選ぶ



6. GPS機器を設定する



- 「設定」について、詳しくはGP-E2の使用説明書を参照してください。

注意

GP-E2を使用するときのご注意

- 使用可能な国や地域を確認の上、法令等の規制にしたがってください。
- GP-E2のファームウェアをVer.2.0.0以上にアップデートしてください。
ファームウェアをアップデートする際は、インターフェースケーブルが必要です。
アップデートの方法については、キヤノンのホームページを参照してください。
- このカメラとGP-E2を、ケーブルで接続して使用することはできません。
- このカメラでは撮影方位は記録されません。

スマートフォン

スマートフォンにCamera Connectをインストール（）してから設定を行ってください。

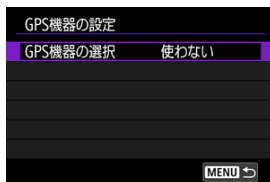
1. スマートフォンの位置情報機能をオンにする

2. Bluetooth接続する

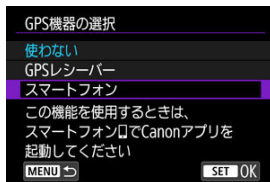
- Camera Connectを起動して、カメラとスマートフォンをBluetooth接続してください。

3. [: GPS機器の設定] を選ぶ（）

4. [GPS機器の選択] を選ぶ



5. [スマートフォン] を選ぶ



6. 撮影する

- スマートフォンが取得した位置情報が画像に付加されます。

GPS接続表示

静止画撮影画面（）または動画撮影画面（）のGPS接続表示で、スマートフォンからの位置情報の取得の状態を確認することができます。

- グレー：位置情報機能がオフの状態
- 点滅：位置情報が取得できない状態
- 点灯：位置情報を取得済

なお、GP-E2使用時のGPS接続表示については、GP-E2の使用説明書を参照してください。

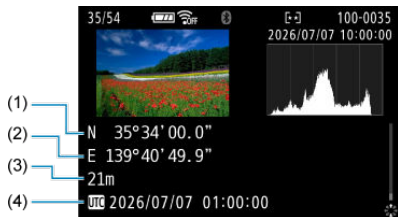
撮影時に位置情報を画像に付加する

モニターに「**GPS**」が点灯した状態で撮影すると、画像に位置情報が付加されます。



画像に付加される位置情報について

撮影した画像を再生し、〈INFO〉ボタンを押して再生画面を詳細情報表示にした状態で〈※〉を上下に押すと、位置情報を確認することができます。



- (1) 緯度
- (2) 経度
- (3) 標高
- (4) 協定世界時 (UTC)

⚠ 注意

- スマートフォンによる位置情報の取得は、カメラとスマートフォンがBluetooth接続している時のみに行われます。
- 方位情報は取得されません。
- 移動条件やスマートフォンの状態によって、取得される位置情報が正確でない場合があります。
- 電源スイッチを入れてから、スマートフォンの位置情報を取得するまでに、時間がかかることがあります。
- 以下の操作を行うと、位置情報が取得できなくなります。
 - ワイヤレスリモコンとBluetooth接続する
 - カメラの電源を切る
 - Camera Connectを終了する
 - スマートフォンの位置情報機能をオフにする
- 以下の状態になると、位置情報が取得できなくなります。
 - カメラの電源が切れる
 - Bluetooth接続が終了する
 - スマートフォンのバッテリーの残量が少なくなる

参考

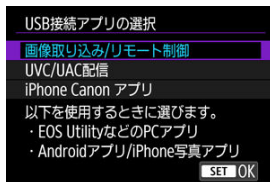
- 動画撮影のときは、撮影を開始したときの位置情報が記録されます。
- 協定世界時 (UTC: Coordinated Universal Time) は、グリニッジ標準時とほぼ同じ時刻です。

USB接続アプリの選択

カメラとスマートフォンやパソコンをインターフェースケーブルで接続し、画像を転送したり、スマートフォンやパソコンに取り込むことができます。

1. [🔌 : USB接続アプリの選択] を選ぶ (🔌)

2. 項目を選ぶ



● 画像取り込み/リモート制御

パソコンと接続してEOS Utilityを使用するとき、Android版アプリケーションやiOSの写真アプリケーションを使用するときを選びます。

● UVC/UAC配信

パソコンと接続して、UVC/UAC対応のアプリケーションを使用するときを選びます。

[UVC/UAC配信] を選んだあと、インターフェースケーブルでパソコンと接続し、アプリケーションを起動します。

[📷 : オーディオ形式] が [LPCM/24bit/4CH] に設定されていても、出力はLPCM/16bit/2CH (CH1/CH2) となります。

● iPhone Canon アプリ

iPhoneのアプリケーションを使用するときを選びます。

カメラとスマートフォンの接続に必要なケーブルについては、キヤノンのホームページを参照してください (🌐)。

❗ 注意

- [UVC/UAC配信] で長時間カメラを使用するときは、USB給電または家庭用電源アクセサリ（別売）の使用をおすすめします。
- [UVC/UAC配信] を選択したときは、動画配信サイズを設定することができます (🔌)。

通信設定をカードに保存・読込

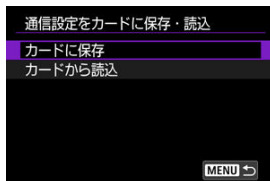
通信タブの設定をカードに保存し、ほかのカメラに適用することができます。また、ほかのカメラで設定した通信タブの設定を、使用するカメラに適用することができます。

参考

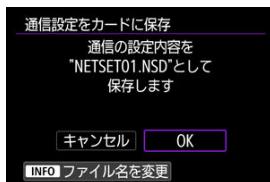
- [📷: カメラ設定をカードに保存・読込] で、カメラ内のすべての通信設定のカードへの保存や、他カメラ内のすべての通信設定のカードからの読み込みを行うことができます。

設定内容を保存する

1. [📷: 通信設定をカードに保存・読込] を選ぶ (🔗)
2. [カードに保存] を選ぶ



3. [OK] を選ぶ



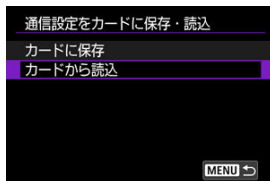
- ファイル名はカメラが自動的に設定します。〈INFO〉ボタンを押すと、ファイル名を任意に設定することができます。
- カードに設定内容が保存されます。
- 設定内容のファイルは、カードを開いたところ（ルートディレクトリ上）に保存されます。



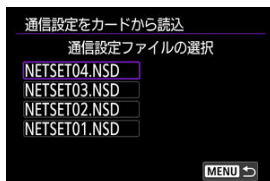
参考

- 1枚のカードに10件まで保存できます。すでに10件保存されているときは、上書き保存するか、別のカードに交換するか、保存するカードを変更してください。

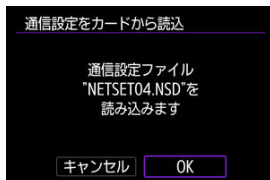
1. [⌂ : 通信設定をカードに保存・読込] を選ぶ (🔗)
2. [カードから読込] を選ぶ



3. 設定ファイルを選ぶ



4. [OK] を選ぶ



- 設定ファイルの内容が読み込まれます。

注意

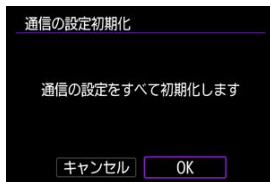
- パソコンなどで、カードに設定内容のファイルを11個以上保存しても、カメラの読み込み画面では10個までしか表示できません。設定内容のファイルが11個以上ある場合は、複数のカードに分けて保存してください。
- 異なる機種のカメラで保存した設定ファイルを読み込むことはできません。
- 設定を保存するときと、読み込むときに、カメラのファームウェアバージョンが異なると、設定ファイルが読み込めないことがあります。

通信の設定初期化

無線通信の設定をすべて削除します。カメラを貸与したり譲渡したときに、無線通信の設定情報が流出することを防ぐことができます。

1. [🔍 : 通信の設定初期化] を選ぶ (🔍)

2. [OK] を選ぶ



⚠ 注意

- カメラとスマートフォンをペアリングしていたときは、スマートフォンのBluetooth設定画面で、無線通信の設定を初期化したカメラの登録を解除してください。

📖 参考

- [🔍 : カメラの初期化] の [設定項目を選んで初期化] [通信の設定] で無線通信の設定を全て削除できます。

通信機能の基本設定

- ☒ [アクセスポイントの種類を確認する](#)
- ☒ [WPS（PBC方式）で接続する場合](#)
- ☒ [WPS（PIN方式）で接続する場合](#)
- ☒ [検出したネットワークに手動で接続する場合](#)
- ☒ [ネットワークに手動で接続する場合](#)
- ☒ [カメラアクセスポイントモードで接続する場合](#)
- ☒ [IPアドレスを設定する](#)

アクセスポイントの種類を確認する

アクセスポイントを使用して接続するときは、お使いのアクセスポイントが、Wi-Fi機器同士を簡単に接続することができるWPS*に対応しているか確認してください。お使いのアクセスポイントがWPSに対応しているか分からないときは、アクセスポイントの使用説明書などを参照して確認してください。

* Wi-Fi Protected Setup（ワイファイ プロテクトド セットアップ）の略

● WPSに対応している場合

下記の2種類の接続方法が選択できます。WPS（PBC方式）の方が簡単に接続できます。

- WPS（PBC方式）で接続する場合 
- WPS（PIN方式）で接続する場合 

● WPSに対応していない場合

- 検出したネットワークに手動で接続する場合 
- ネットワークに手動で接続する場合 

アクセスポイントの暗号化について

認証方式と暗号方式については[認証方式とデータ暗号化方式](#)を参照してください。

注意

- アクセスポイントのステルス機能を有効にしていると、接続できない場合があります。ステルス機能を無効にしてください。
- ネットワーク管理者がいるネットワークに接続するときは、ネットワーク管理者に設定の詳細をお問い合わせください。

参考

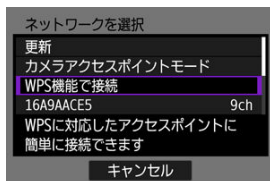
- お使いのネットワークでMACアドレスのフィルタリングをしているときは、アクセスポイントに本機のMACアドレスを登録してください。MACアドレスは「**MACアドレス**」画面で確認できます (🔗)。

WPS（PBC方式）で接続する場合

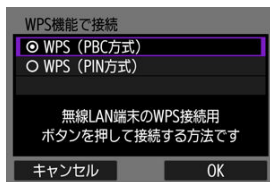
この項では、[アクセスポイントの種類を確認する](#)からの続きを説明しています。
WPSに対応したアクセスポイント使用時の接続方法です。PBC方式（プッシュボタン接続方式）では、アクセスポイントのWPS用ボタンを押すことで、カメラとアクセスポイントを簡単に接続することができます。

- 周囲に複数のアクセスポイントが稼働していると、うまく接続できないことがあります。このような場合は、**[WPS（PIN方式）]**で接続してください。
- アクセスポイントに付いているWPS用ボタンの場所を、あらかじめ確認しておいてください。
- 接続開始から完了まで1分程度かかる場合があります。

1. [ネットワークを選択] 画面で [WPS機能で接続] を選ぶ

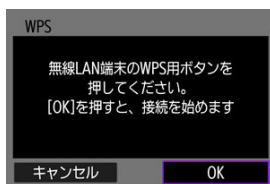


2. [WPS（PBC方式）] を選ぶ



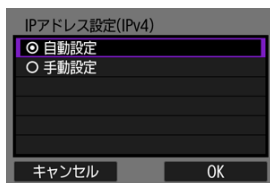
- **[OK]** を選びます。

3. アクセスポイントに接続する



- アクセスポイントのWPS用ボタンを押します。ボタンの場所とボタンを押す時間は、アクセスポイントの使用説明書を参照してください。
- [OK] を選ぶと、アクセスポイントとの接続を開始します。
- アクセスポイントとの接続が完了すると、次の画面に進みます。

4. IPアドレスを設定する



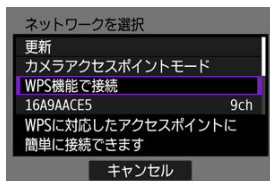
- [IPアドレスを設定する](#)に進んでください。

WPS（PIN方式）で接続する場合

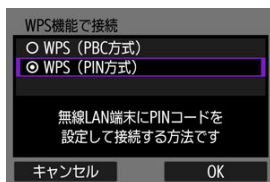
この項では、[アクセスポイントの種類を確認する](#)からの続きを説明しています。
WPSに対応したアクセスポイント使用時の接続方法です。PIN方式（ピンコード接続方式）では、カメラが指定する8桁の識別番号をアクセスポイントに設定して接続します。

- 周囲に複数のアクセスポイントが稼働している状況でも、共通の識別番号で比較的確実に接続することができます。
- 接続開始から完了まで1分程度かかる場合があります。

1. [ネットワークを選択] 画面で [WPS機能で接続] を選ぶ

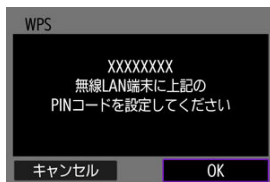


2. [WPS（PIN方式）] を選ぶ



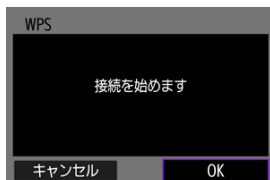
- [OK] を選びます。

3. PINコードを設定する



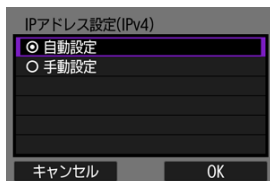
- カメラのモニターに表示される8桁のPINコードをアクセスポイントに設定します。
- アクセスポイントへのPINコードの入力方法は、アクセスポイントの使用説明書を参照してください。
- PINコードを設定したら【OK】を選びます。

4. アクセスポイントに接続する



- 【OK】を選ぶと、アクセスポイントとの接続を開始します。
- アクセスポイントとの接続が完了すると、次の画面に進みます。

5. IPアドレスを設定する



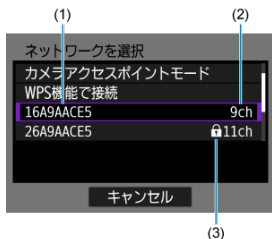
- [IPアドレスを設定する](#)に進んでください。

検出したネットワークに手で接続する場合

この項では、[アクセスポイントの種類を確認する](#)からの続きを説明しています。
近くで稼働中のアクセスポイントの一覧から、接続するアクセスポイントのSSID（またはESS-ID）を選んで接続します。

アクセスポイントを選ぶ

1. 「ネットワークを選択」画面でアクセスポイントを選ぶ



- (1) SSIDを表示
- (2) 使用しているチャンネルを表示
- (3) アクセスポイントが暗号化されているときはアイコンを表示

- 〈〉で、アクセスポイントの一覧から接続するアクセスポイントを選びます。

⚠ 注意

- 同一名のSSIDが複数検出されると(2)は空白で表示されます。(2)が空白なSSIDを選ぶと、電波強度が一番強いアクセスポイントに接続されます。

📖 参考

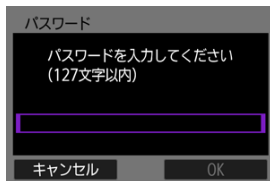
【更新】について

- 【更新】は、手順1の画面をスクロールすると表示されます。
- 【更新】を選ぶと、アクセスポイントを再検索します。

アクセスポイントの暗号キーを入力する

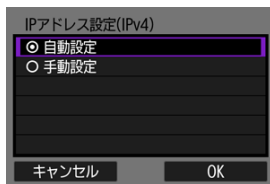
- アクセスポイントに設定されている暗号キー（パスワード）を入力します。設定されている暗号キーについては、アクセスポイントの使用説明書を参照してください。
- **[IPアドレス設定]** 画面が表示されたときは、[IPアドレスを設定する](#)に進んでください。

2. 暗号キーを入力する



- **〈⌘〉**を押して仮想キーボード（**⌘**）を表示し、暗号キーを入力します。
- **[OK]** を選ぶと、アクセスポイントとの接続を開始します。
- アクセスポイントとの接続が完了すると、次の画面に進みます。

3. IPアドレスを設定する



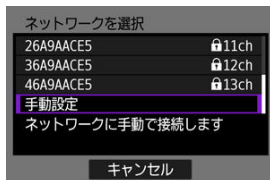
- [IPアドレスを設定する](#)に進んでください。

ネットワークに手動で接続する場合

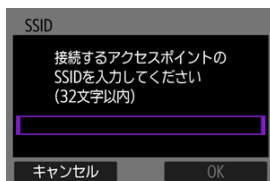
この項では、[アクセスポイントの種類を確認する](#)からの続きを説明しています。
接続するアクセスポイントのSSID（またはESS-ID）を入力して接続します。

SSIDを入力する

1. [ネットワークを選択] 画面で [手動設定] を選ぶ

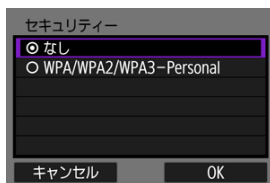


2. SSID (ネットワーク名) を入力する



- 〈〉を押して仮想キーボード () を表示し、SSIDを入力します。
- [OK] を選びます。

3. セキュリティーを選ぶ

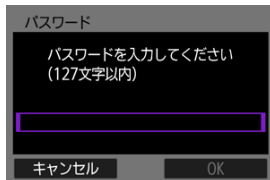


- 項目を選んで【OK】を選ぶと、次の画面に進みます。

アクセスポイントの暗号キーを入力する

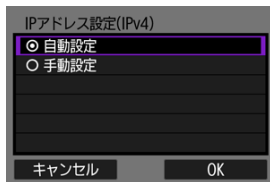
- アクセスポイントに設定されている暗号キー（パスワード）を入力します。設定されている暗号キーについては、アクセスポイントの使用説明書を参照してください。
- **[IPアドレス設定(IPv4)]** 画面が表示されたときは、[IPアドレスを設定する](#)に進んでください。

4. 暗号キーを入力する



- を押して仮想キーボード を表示し、暗号キーを入力します。
- **[OK]** を選ぶと、アクセスポイントとの接続を開始します。
- アクセスポイントとの接続が完了すると、次の画面に進みます。

5. IPアドレスを設定する



- [IPアドレスを設定する](#)に進んでください。

カメラアクセスポイントモードで接続する場合

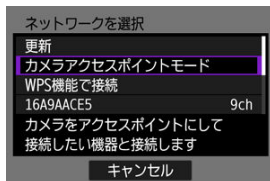
カメラアクセスポイントモードは、アクセスポイントを使用せず、カメラと各機器を直接Wi-Fiで接続する接続方法です。以下の2種類の接続方法が選択できます。

簡単接続で接続

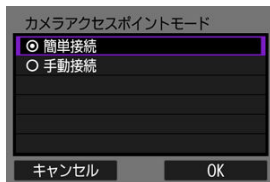
カメラアクセスポイントモードのネットワーク設定を自動で行います。

- 接続する機器の操作については、各機器の使用説明書を参照してください。

1. [ネットワークを選択] 画面で [カメラアクセスポイントモード] を選ぶ



2. [簡単接続] を選ぶ



- [OK] を選びます。

3. 接続する機器を操作してカメラに接続する



(1) SSID（ネットワーク名）

(2) 暗号キー（パスワード）

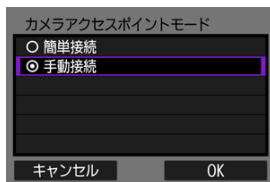
- 接続する機器のWi-Fi機能で、カメラのモニターに表示された内容に従って、SSID（ネットワーク名）を選び、パスワードを入力します。

4. 接続先の機器に応じて接続設定を行う

手動接続で接続

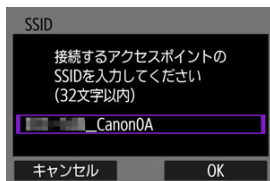
カメラアクセスポイントモードのネットワーク設定を手動で行います。

1. [手動接続] を選ぶ



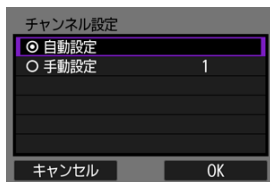
- [OK] を選びます。

2. SSID (ネットワーク名) を入力する



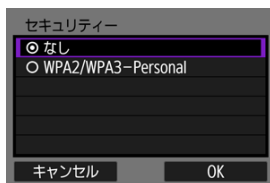
- 〈〉を押して仮想キーボード () を表示し、SSIDを入力します。入力したら〈MENU〉ボタンを押します。
- [OK] を選びます。

3. チャンネル設定を選ぶ



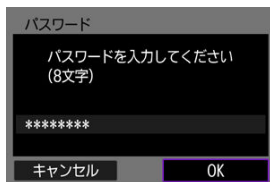
- 手動で設定するときは、[手動設定] を選び、 で設定します。
- [OK] を選ぶと、次の画面に進みます。

4. セキュリティーを選ぶ



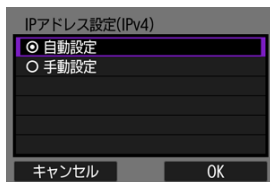
- [OK] を選ぶと、次の画面に進みます。
- [なし] を選択したときは、[IPアドレス設定(IPv4)] 画面が表示されます ()。
- 接続先とカメラで、同じ暗号方式を設定してください。認証方式と暗号方式については[認証方式とデータ暗号化方式](#)を参照してください。

5. パスワードを入力する



- <Ⓜ>を押して仮想キーボード(<Ⓜ>)を表示し、パスワードを入力します。
- [OK] を選ぶと、次の画面に進みます。

6. [自動設定] を選ぶ



- [OK] を選びます。
- [自動設定] でエラーが表示されたときは、IPアドレスを手動で設定してください(<Ⓜ>)。

7. 接続する機器を操作してカメラに接続する



(1) SSID（ネットワーク名）

(2) 暗号キー（パスワード）

8. 通信機能に応じて接続設定を行う

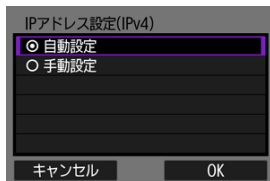
IPアドレスを設定する

IPアドレスの設定方法を選択し、カメラにIPアドレスを設定します。IPv6を使用するときは、IPv6のみで接続します。IPv4での接続はできません。

IPアドレスを自動で設定する場合

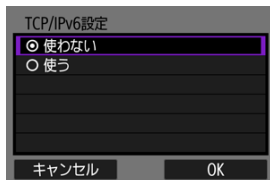
IPアドレス設定を自動で行います。

1. [自動設定] を選ぶ



- [OK] を選びます。
- [自動設定] でエラーが表示されたときは、IPアドレスを手動で設定してください (🔗)。

2. IPv6設定を選ぶ



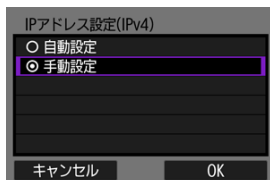
- 項目を選んで [OK] を選ぶと、次の画面に進みます。
- IPv6を使う場合は、[使う] を選びます。

3. 接続先の機器に応じて接続設定を行う

IPアドレスを手動で設定する場合

IPアドレス設定を手動で行います。なお、表示される項目は通信機能によって異なります。

1. 「手動設定」を選ぶ



IPアドレス設定(IPv4)

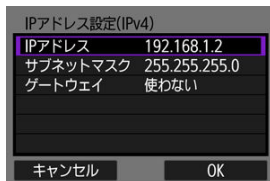
☐ 自動設定

☒ 手動設定

キャンセル OK

- 「OK」を選ぶと、次の画面に進みます。

2. 設定する項目を選ぶ



IPアドレス設定(IPv4)

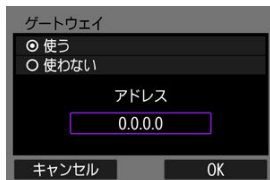
IPアドレス 192.168.1.2

サブネットマスク 255.255.255.0

ゲートウェイ 使わない

キャンセル OK

- 表示される項目は通信機能によって異なります。
- 項目を選ぶと、数値の入力画面が表示されます。



ゲートウェイ

☒ 使う

☐ 使わない

アドレス

0.0.0.0

キャンセル OK

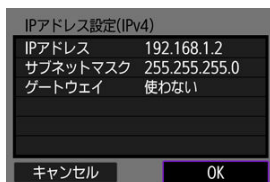
- ゲートウェイを使う場合は、「使う」を選んでから「アドレス」を選びます。

3. 数値を入力する



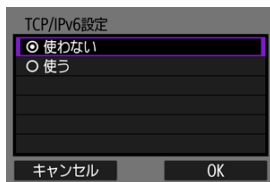
- 〈〉で上側の入力場所を選び、〈〉で入力する数値を選びます。
〈〉を押すと選んだ数値が入力されます。
- [] を選ぶと、直前に入力した数値が削除されます。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、入力を確定して手順2の画面に戻ります。

4. [OK] を選ぶ



- 必要な項目の設定が完了したら **[OK]** を選びます。次の画面に進みます。
- 設定する内容が分からない場合は、[ネットワークの設定を確認する](#)を参照するか、ネットワーク管理者などに問い合わせてください。

5. IPv6設定を選ぶ



- 項目を選んで【OK】を選ぶと、次の画面に進みます。
- IPv6を使う場合は、【使う】を選びます。

6. 接続先の機器に応じて接続設定を行う

2回目以降のWi-Fi/Bluetooth接続

一度Wi-Fi接続またはBluetooth接続した機器は、接続設定がカメラに登録されます。登録された接続設定を利用して、同じ機器に再接続することができます。

1. 項目を選ぶ



- 通信中の画面や、他の機器と接続中のメッセージが表示されたときは、現在の接続を切断します。

2. 接続する機器を選ぶ



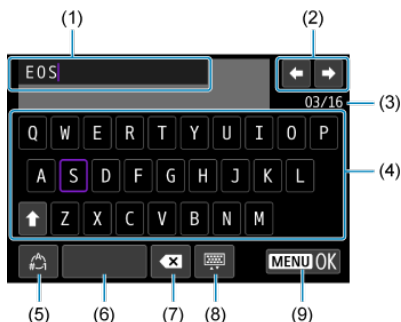
- 表示された履歴から、接続する項目を選びます。

参考

- 通信機能全体で、接続設定を10個まで登録することができます。

3. 画面の指示に従ってカメラと機器を接続する

仮想キーボードの操作方法



(1) 文字を入力するエリア（入力エリア）

(2) 入力エリアでのカーソルの移動

(3) 入力した文字数／入力できる文字数

(4) キーボード

(5) 入力モードの切り換え

(6) スペース

(7) 入力エリアでの文字の削除

(8) キーボードの種類の変更

(9) 入力の終了

- (1) は〈〉で移動します。
- (2)、(4) ～ (8) は〈〉〈〉で移動します。
- 入力する文字の決定や、入力モードの切り換えなどを行うときは〈〉を押します。

無線通信機能での注意事項

- ☑ [カメラとスマートフォンとの距離について](#)
- ☑ [アクセスポイントのアンテナの設置場所について](#)
- ☑ [近くにある電子機器について](#)
- ☑ [カメラを複数使うときの注意](#)

無線通信機能使用時に「通信速度が遅くなる」、「接続が途切れる」などの現象が起きたときは、下記の例を参考にして対応してみてください。

カメラとスマートフォンとの距離について

カメラとスマートフォンが離れすぎていると、Bluetooth接続は可能でもWi-Fi接続ができないことがあります。その場合は、カメラとスマートフォンを近づけてWi-Fi接続を行ってください。

アクセスポイントのアンテナの設置場所について

- 室内で使用する場合、カメラを使用している部屋に設置してください。
- カメラとの間に、人や遮蔽物が入らない場所に設置してください。

近くにある電子機器について

下記の電子機器の影響でWi-Fiの通信速度が遅くなるときは、電子機器の使用をやめるか、機器から離れた場所で通信を行ってください。

- カメラのIEEE 802.11b/g/nは、2.4GHz帯の電波を使用してWi-Fiの通信を行っています。そのため、同じ周波数帯を使用するBluetooth機器や電子レンジ、コードレス電話機、マイク、スマートフォン、他のカメラなどを使うとWi-Fiの通信速度が遅くなります。

カメラを複数使うときの注意

- 1つのアクセスポイントに複数のカメラをWi-Fi接続するときは、カメラのIPアドレスが重複しないよう注意してください。
- 1つのアクセスポイントに複数のカメラをWi-Fi接続すると、通信速度が遅くなります。
- IEEE 802.11b/g/n (2.4GHz帯) のアクセスポイントが複数あるときは、電波干渉を少なくするために、Wi-Fiのチャンネルを、「1/6/11」、「2/7」、「3/8」というように5チャンネル分、間を開けてください。

セキュリティーについて

カメラをネットワークに接続する際は、セキュリティーで保護されたネットワーク環境でご利用ください。

カメラの設定は初期状態のまま使用することをおすすめします。

カメラをネットワークに接続する際は、意図しない第三者からの不正アクセスやサイバー攻撃のリスクがあります。外部ネットワークからのアクセスが不要な場合は、物理的・論理的に遮断し、特定のデバイスのみがアクセスできるように設定してください。また、Wi-Fi（無線LAN）は、悪意ある第三者が電波を傍受することで、通信内容を盗み見られる恐れがあります。

外部ネットワークへのアクセスが必要な場合は、外部からのアクセスを遮断できるVPN（仮想プライベートネットワーク）の利用など、安全に通信できる方法を導入することが重要です。Wi-Fiは、セキュリティーで保護された環境でご利用ください。暗号化はAESの利用をおすすめします。

特に、下記機能ではカメラとの通信においてプロトコル暗号化に対応していないため、セキュリティーで保護されたネットワーク環境でご利用ください。

- Content Transfer Professional
- Camera Connect
- EOS Utility

⚠ 注意

- ネットワークのセキュリティー上の問題により発生した直接、間接の損害については、弊社は一切の責任を負いかねます。
- カメラは電気通信事業者（移動通信会社、固定通信会社、インターネットプロバイダーなど）の通信回線（公衆無線LANを含む）に直接接続することができません。カメラをインターネットに接続する場合は、必ずルーターなどを経由して接続してください。

ネットワークの設定を確認する

Windowsの場合

Windowsの[コマンドプロンプト]を開き、`ipconfig /all`と入力して〈Enter〉キーを押します。

パソコンに割り当てられているIPアドレスのほかに、サブネットマスク、ゲートウェイ、DNSサーバーの情報が表示されます。

macOSの場合

macOSの[ターミナル]を開き、`ifconfig -a`と入力して〈Return〉キーを押します。[enX] (Xは数字) 項目 [inet] の***.***.***.***がパソコンに割り当てられているIPアドレスです。

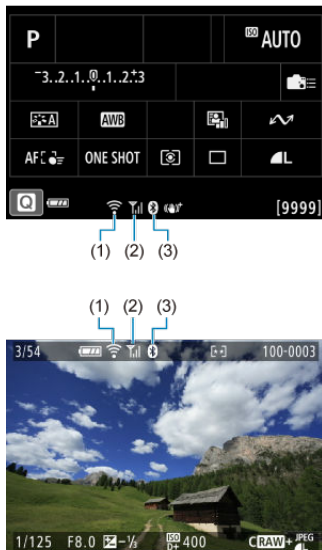
[ターミナル]については、macOSのヘルプを参照してください。

なお、[IPアドレスの手動設定](#)でカメラに割り当てるIPアドレスを設定するときは、パソコンやほかのネットワーク接続機器とIPアドレスが重複しないよう、一番右側の数字を変えて設定します。

例) 192.168.1.10

無線通信機能の接続状態

モニターで、無線通信機能の接続状態を確認することができます。



- (1)Wi-Fi機能
- (2)電波強度
- (3)Bluetooth機能

通信状態		モニター	
		Wi-Fi機能	電波強度
未接続	Wi-Fi：使わない		非表示
	Wi-Fi：使う		
接続開始			
接続中			
送信中			
接続エラー			

Bluetooth機能の表示

Bluetooth機能	接続状態	モニター
[使わない] 以外	Bluetooth接続中	
	Bluetooth未接続	
[使わない]	Bluetooth未接続	非表示

機能設定

この章では、メニュー機能の「🔧：機能設定タブ」の項目について説明しています。

- [メニュー目次：機能設定タブ](#)
- [フォルダの設定](#)
- [静止画画像番号](#)
- [動画クリップ番号](#)
- [ファイル名の設定](#)
- [カード初期化](#)
- [縦位置画像回転表示](#)
- [動画縦位置情報の付加](#)
- [日付／時刻／エリア](#)
- [言語](#)
- [システム周波数](#)
- [ヘルプ機能](#)
- [機能ガイド](#)
- [電子音](#)
- [音量](#)
- [音声モニター](#)
- [モニターの明るさ](#)
- [ファインダーの明るさ](#)
- [ファインダーの色調微調整](#)
- [画面の表示先設定](#)
- [メニュー画面の拡大](#)
- [HDMI出力解像度](#)
- [センサークリーニング](#)
- [パスワードの管理](#)
- [拡張機能の有効化](#)
- [節電](#)
- [カメラの初期化](#) **応用**
- [カスタム撮影モード（C1-C3）](#) **応用**
- [カメラ設定をカードに保存・読込](#) **応用**
- [バッテリー情報](#)
- [著作権情報](#) **応用**
- [その他の情報](#)

メニュー目次：機能設定タブ

● ファイル・カード設定



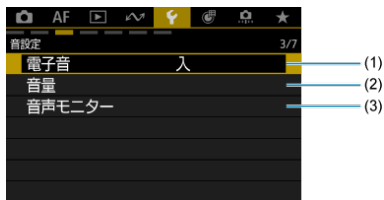
- (1) [フォルダ選択](#)
- (2) [画像番号](#)
- (3) [クリップ番号](#)
- (4) [ファイル名の設定](#)
- (5) [カード初期化](#)
- (6) [縦位置画像回転表示](#)
- (7) [縦位置情報の付加](#)

● 国・地域/ガイダンス



- (1) [日付/時刻/エリア](#)
- (2) [言語](#)
- (3) [システム周波数](#)
- (4) [ヘルプの文字サイズ](#)
- (5) [機能ガイド](#)

● 音設定



- (1) [電子音](#)
- (2) [音量](#)
- (3) [音声モニター](#)

● 表示カスタマイズ



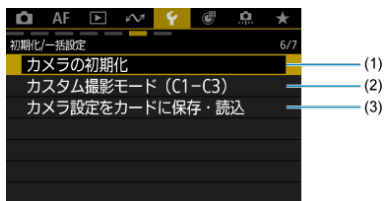
- (1) [モニターの明るさ](#)
- (2) [ファインダーの明るさ](#)
- (3) [ファインダーの色調微調整](#)
- (4) [画面の表示先設定](#)
- (5) [メニュー画面の拡大](#)
- (6) [HDMI出力解像度](#)

● 各種設定



- (1) [センサークリーニング](#)
- (2) [パスワードの管理](#)
- (3) [拡張機能の有効化](#)
- (4) [節電](#)

● 初期化/一括設定



- (1) [カメラの初期化](#) 応用
- (2) [カスタム撮影モード \(C1-C3\)](#) 応用
- (3) [カメラ設定をカードに保存・読込](#) 応用

● 各種情報



- (1) [バッテリー情報](#)
- (2) [著作権情報](#) 応用
- (3) [ログの表示](#)
- (4) [使用説明書・ソフトウェア URL](#)
- (5) [認証マーク表示](#) 応用
- (6) [ファームウェア](#)

フォルダの設定

☑ [フォルダの作成](#)

☑ [フォルダ名の変更](#)

☑ [フォルダの選択](#)

静止画を保存するフォルダを任意に作成／選択することができます。またフォルダ名を変更することもできます。

参考

- 動画ファイルは、以下のフォルダに保存されます（****はリール番号）。
 - XF-HEVC S/XF-AVC S動画ファイル（.MP4）：「XFVC」フォルダ内の「REEL_****」フォルダ（最大999ファイル）
- 新しいカードを入れると、[📁：ファイル名の設定]の[動画]の[リール番号]で設定したリール番号でフォルダが作成されます。フォルダの新規作成やフォルダ名の変更はできません。

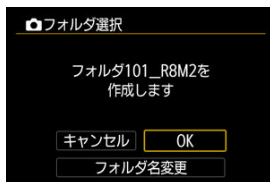
フォルダの作成

1. [📁：📷フォルダ選択] を選ぶ (🔍)

2. [フォルダ作成] を選ぶ

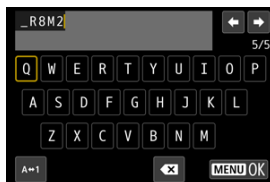


3. [OK] を選ぶ

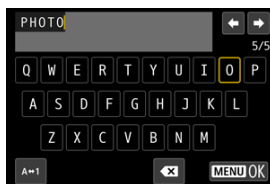


- フォルダ名を変更したいときは「**フォルダ名変更**」を選びます。

1. 任意の英数字を入力する



- 5文字入力できます。
- [A⇄1] を選ぶと、入力モードが切り換わります。
- [X] を選ぶと、1文字消去されます。



- 〈〉〈〉〈〉を操作して文字を選び、〈〉を押すと入力されます。

2. 設定を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押して [OK] を選びます。

フォルダの選択



- (1) フォルダ内画像数
- (2) 最小番号画像
- (3) フォルダ名
- (4) 最大番号画像

- フォルダ選択画面でフォルダを選びます。
- 撮影画像は選択したフォルダに記録されます。

参考

フォルダについて

- 1つのフォルダには、画像が最大9999枚保存されます（画像番号0001～9999）。フォルダ内の画像がいっぱいになると、番号が1つ繰り上がったフォルダが自動的に作成されます。また、強制リセット（)を行ったときもフォルダが自動的に作成されます。フォルダは100～999まで作成することができます。

パソコンを使ったフォルダ作成

- カードを開いたところに「DCIM」という名前のフォルダを作ります。次にDCIMフォルダを開いたところに、画像を記録するフォルダを必要な数だけ作ります。フォルダ名は、「100ABC_D」のように、必ず100～999までの3桁の番号に続けて、5文字の英数字を付けます。使用できる文字は、半角アルファベットA～Z（大文字、小文字混在可）、半角の「_」（アンダーバー）、および数字です。スペースは使用できません。また、同じフォルダ番号（例：100ABC_D、100W_XYZ）を付けたときは、カメラがフォルダを認識できません。

静止画画像番号

☒ [通し番号](#)

☒ [オートリセット](#)

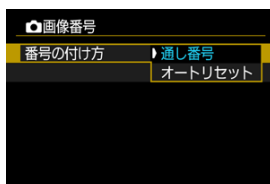
☒ [強制リセット](#)

撮影した静止画画像には0001～9999の順で画像番号が付けられ、1つのフォルダに保存されます。画像番号は、用途に応じて付け方を変えることができます。

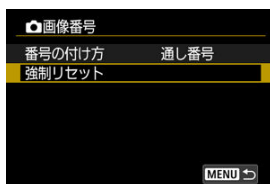
(例)
IMG_0001.JPG
└──
(1)
(1) 画像番号

1. [🔍: 📷画像番号] を選ぶ (🔍)

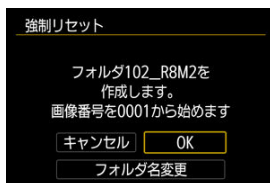
2. 項目を設定する



- [番号の付け方] を選びます。
- [通し番号] [オートリセット] のいずれかを選びます。



- 画像番号をリセットしたいときは、[強制リセット] を選びます (🔗)。



- [OK] を選ぶと、新しいフォルダが作成され、画像番号が0001から始まります。

⚠ 注意

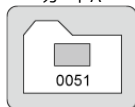
- フォルダ番号999のフォルダに画像番号9999の画像が保存されると、カードに空き容量があっても撮影できなくなります。カードの交換を促すメッセージが表示されますので、新しいカードに交換してください。

カード交換やフォルダ作成を行っても連番で保存したいとき

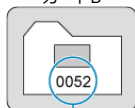
カード交換やフォルダ作成を行っても、画像番号9999の画像ができるまで、連続した番号が付けられ、保存されます。複数のカード、またはフォルダにまたがった0001～9999までの画像を、パソコンで1つのフォルダにまとめて保存したいときなどに有効です。ただし、交換したカードや、作成したフォルダにすでに画像が入っているときは、その画像に付けられた番号の続き番号になることがあります。画像を通し番号で保存したいときは、初期化したカードを使用してください。

カードを交換した場合

カードA



カードB

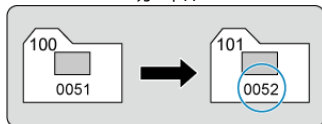


(1)

(1) 続きの画像番号

フォルダを作成した場合

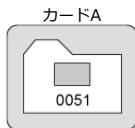
カードA



カード交換やフォルダ作成で、画像番号を0001にしたいとき

カード交換やフォルダ作成を行うと、画像番号0001から順に番号が付けられ、保存されます。カード単位、またはフォルダ単位で画像を分類したいときなどに有効です。ただし、交換したカードや、作成したフォルダにすでに画像が入っているときは、その画像に付けられた番号の続き番号になることがあります。0001から順に保存したいときは、初期化したカードを使用してください。

カードを交換した場合

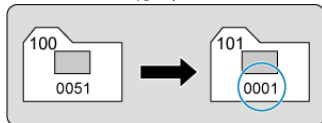


(1)

(1) 画像番号リセット

フォルダを作成した場合

カードA



任意に画像番号を0001にしたり、新しいフォルダで画像番号0001から撮影したいとき

この操作を行うと、自動的に新しいフォルダが作られ、そのフォルダに画像番号0001から順に番号が付けられ、保存されます。
前の日に撮影した画像と、今日撮影する画像を別々のフォルダに保存したいときなどに有効です。

動画クリップ番号

☒ [通し番号](#)

☒ [オートリセット](#)

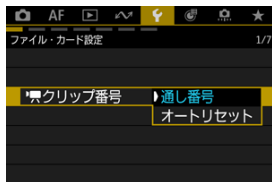
撮影した動画には001～999の順でクリップ番号が付けられ、1つのフォルダに保存されます。クリップ番号は、用途に応じて付け方を変えることができます。

(例)
A_0001**C001**Ayymmdd_hhmmssXX_CANON
(1)

(1) クリップ番号

1.  **クリップ番号** を選ぶ (🔍)

2. 項目を設定する



- **通し番号** **オートリセット** のいずれかを選びます。

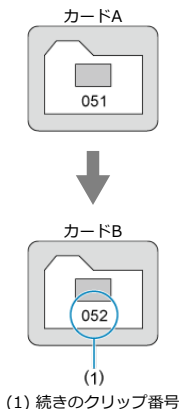
参考

- XFVCフォルダには、999ファイルまで保存できます。[ : 画像検索の条件設定] (🔍) で、動画ファイル数を確認することができます。すでに999ファイルを保存しているときは、動画を削除するか、別のカードに交換するか、保存するカードを変更してください。

カード交換を行っても連番で保存したいとき

カード交換を行っても、クリップ番号999の動画ができるまで、連続した番号が付けられ、保存されます。複数のカードにまたがった001～999までの動画を、パソコンで1つのフォルダにまとめて保存したいときなどに有効です。

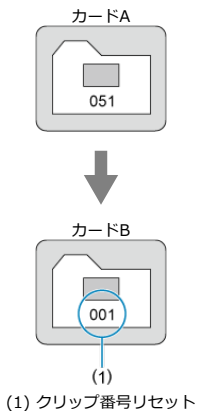
ただし、交換したカードにすでに動画が入っているときは、その動画に付けられた番号の続き番号になることがあります。動画を通し番号で保存したいときは、初期化したカードを使用してください。



カード交換で、クリップ番号を001にしたいとき

カード交換を行うと、クリップ番号001から順に番号が付けられ、保存されます。カード単位で動画を分類したいときなどに有効です。

ただし、交換したカードにすでに動画が入っているときは、その動画に付けられた番号の続き番号になることがあります。001から順に保存したいときは、初期化したカードを使用してください。



ファイル名の設定

☑ [静止画ファイル名の登録・変更](#)

☑ [動画ファイル名の設定](#)

静止画ファイル名の登録・変更

ファイル名は、先頭4文字の英数字、4桁の画像番号 (☑)、拡張子で構成されています。先頭4文字の初期設定は、工場出荷時に決められた、カメラ固有の英数字になっています、これを任意に変更することができます。

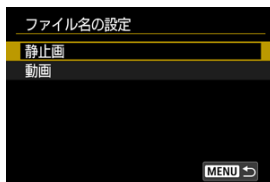
ユーザー設定1は、任意の4文字を登録することができます。ユーザー設定2は、任意の3文字を登録して撮影すると、先頭から4文字目に画像サイズが自動的に付加されます。

(例)

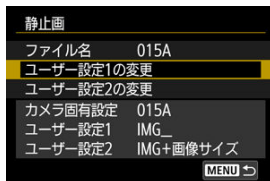
015A0001.JPG

1. [F: ファイル名の設定] を選ぶ (☑)

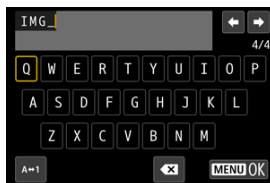
2. [静止画] を選ぶ



3. [ユーザー設定*の変更] を選ぶ



4. 任意の英数字を入力する



- ユーザー設定1は4文字、ユーザー設定2は3文字入力します。
- [A⇌1] を選ぶと、入力モードが切り換わります。
- [X] を選ぶか、〈⏮〉ボタンを押すと、1文字消去されます。

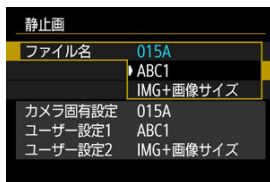


- 〈⚙〉〈✦〉〈✳〉を操作して文字を選び、〈⏮〉を押すと入力されます。

5. 設定を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押して [OK] を選びます。

6. 登録したファイル名を選ぶ



- 「**ファイル名**」を選び、登録したファイル名を選びます。

⚠ 注意

- 「**_**」(アンダーバー)を1文字目に指定することはできません。

📖 参考

【ユーザー設定2】について

- ユーザー設定2で登録した「***+画像サイズ」を選択して撮影すると、そのとき設定されていた画像サイズ(1文字)が、ファイル名の先頭から4文字目に自動的に付加されます。付加される文字の意味は次のとおりです。

「***L」= / / RAW

「***M」= / M

「***S」= S1 / S1

「***T」= S2

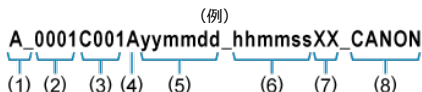
「***C」= CRAW

パソコンに画像を取り込んだときに、自動付加された4文字目を読み取ることで、画像を開かずに画像サイズを判別することができます。なお、RAW画像、JPEG画像、HEIF画像は、拡張子から判別することができます。

動画ファイル名の設定

動画ファイル（クリップ）のファイル名の付け方を設定します。

動画ファイル名の構成

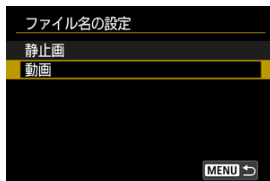


	項目	内容
(1)	カメラインデックス	A～Zからなる2文字です。2文字目は「_」も選択可能です。カメラごとに異なる文字を設定します。
(2)	リール番号	0001～9999の4桁の数字です。カードごとに異なる番号が自動的に振られます。任意の初期値を指定できます。新しいカード*に交換すると、初回の記録時に番号が1つ繰り上がります。 * 購入または初期化直後のカード
(3)	クリップ番号	001～999の3桁の数字で、先頭に「C」が付いてC001～C999となります。C999の次は「D」が先頭に付きます。クリップ番号はクリップ（動画ファイル）ごとに自動的に振られます。任意の初期値を設定できます。
(4)	コーデック種別	メイン動画のコーデック種別がH.264の場合は「A」、HEVCの場合は「H」、RAWの場合は「X」が自動的に設定されます。
(5)	撮影開始日	撮影を開始した年月日が自動的に設定されます。
(6)	撮影開始時刻	撮影を開始した時分秒が自動的に設定されます。
(7)	ランダムID	クリップ（動画ファイル）ごとにランダムに設定される、A～Z、0～9からなる2文字です。
(8)	ユーザー定義	A～Z、0～9からなる5文字です。デフォルトはCANON。

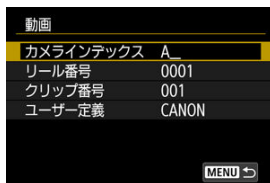
動画ファイル名を設定する

1. [📁: ファイル名の設定] を選ぶ (🔗)

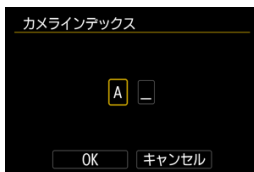
2. [動画] を選ぶ



3. 動画ファイル名を設定する



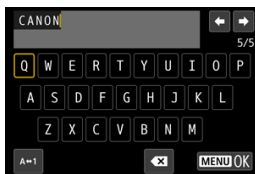
- カメラインテックス
任意の2文字を設定します。



- 必要に応じて、[リール番号] や [クリップ番号] の初期値を設定します。

● ユーザー定義

任意の英数字を入力します。



- 5文字入力できます。
- [A⇄1] を選ぶと、入力モードが切り換わります。
- [X] を選ぶか、〈X〉ボタンを押すと、1文字消去されます。



- 〈☺〉〈✦〉〈✳〉を操作して文字を選び、〈☺〉を押すと入力されます。

カード初期化

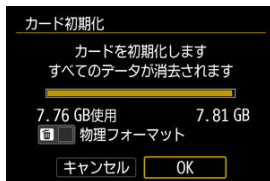
新しく買ったカードや、他のカメラ、パソコンで初期化したカードは、このカメラで初期化（フォーマット）してください。

❗ 注意

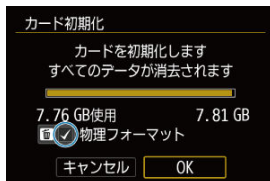
- カードを初期化すると、カードに記録されている内容は、画像だけでなくすべて消去されます。プロテクトをかけた画像も消去されますので、記録内容を十分に確認してから初期化してください。必要なデータは、初期化する前に必ずパソコンなどに保存してください。

1. [⚙ : カード初期化] を選ぶ (🔗)

2. 初期化する



- [OK] を選びます。



- 物理フォーマットを行うときは、〈⏏〉ボタンを押して、[物理フォーマット] の横に [✓] が付いた状態で [OK] を選びます。

カードの初期化が必要な場合

- 新しく買ってきたカードを使うとき
- 他のカメラやパソコンで初期化したカードを使うとき
- 画像やデータでカードがいっぱいになったとき
- カードに関するエラーが表示されたとき (🔍)

物理フォーマット

- 物理フォーマットは、カードへの書き込み／読み取り速度が遅くなったと感じたときや、データを完全に消去するときなどに行います。
- 物理フォーマットは、カード内の全記憶領域に渡って初期化を行うため、通常のカード初期化よりも時間がかかります。
- 物理フォーマット中に「キャンセル」を選ぶと、初期化を中止することができます。中止した場合でも、通常の初期化は完了しているため、カードはそのまま問題なく使用できます。

カード初期化時のファイルフォーマットについて

- SDカードはFAT12形式またはFAT16形式、SDHCカードはFAT32形式、SDXCカードはexFAT形式でフォーマットされます。
- exFAT形式でフォーマットされたカードを使用して動画撮影を行ったときは、1回の撮影でファイルサイズが4GBを超える場合でも、(ファイルが分割されず) 1つの動画ファイルに記録されます (4GBを超える動画ファイルが作成されます)。

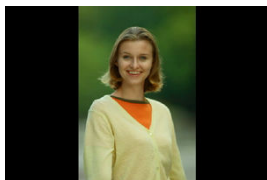
注意

- このカメラで初期化したSDXCカードは、他のカメラでは使用できないことがあります。また、exFAT形式でフォーマットされたカードは、パソコンのOSやカードリーダーによっては、正しく認識されないことがあります。
- カード内のデータは、初期化や削除では完全には消去されません。譲渡・廃棄するときは、注意してください。カードを廃棄するときは、カードを破壊するなどして個人情報の流出を防いでください。

参考

- カード初期化画面に表示されるカードの総容量は、カードに表記されている容量よりも少なくなることがあります。
- 本機器はMicrosoftからライセンスされたexFAT技術を搭載しています。

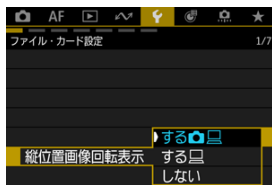
縦位置画像回転表示



縦位置で撮影した画像を再生または表示するときの自動回転の設定を変更することができます。

1. [📷：縦位置画像回転表示] を選ぶ (🔗)

2. 項目を選ぶ



- **する📷🖨️**

カメラでの再生とパソコンでの表示で自動回転表示を行います。

- **する🖨️**

パソコンでの表示で自動回転表示を行います。

- **しない**

自動回転しません。

⚠ 注意

- [しない] で撮影した画像は、[する📷🖨️] または [する🖨️] に設定して再生しても、自動回転表示は行われません。

参考

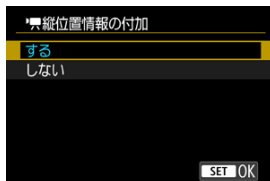
- カメラを上や下に向けて撮影すると、自動回転表示が正しく行われなかったことがあります。
- パソコンの画面で自動回転表示しないときは、EOS用ソフトウェアの使用をおすすめします。

動画縦位置情報の付加

カメラを縦位置にして撮影した動画を、スマートフォンなどで再生したときに、動画が撮影したときと同じ向き（縦位置）で再生されるように、撮影時に回転情報（上の向きの情報）を自動付加するかどうかを設定できます。

1. [📷: 縦位置情報の付加] を選ぶ (🔗)

2. 項目を選ぶ



- **する**
スマートフォンなどで動画を再生したときに、撮影したときと同じ向きで再生されます。
- **しない**
スマートフォンなどで動画を再生したときは、撮影したときの向きに関わらず、横位置で再生されます。

⚠ 注意

- カメラ、HDMI映像出力先で動画を再生したときは、設定に関わらず、横位置で再生されます。

日付／時刻／エリア

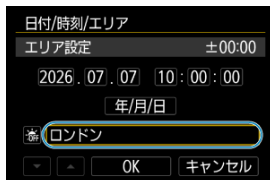
初めて電源を入れたときや、日付／時刻／エリアの設定が解除されているときは、以下の操作手順に従ってエリア（地域）から設定してください。

エリアから設定しておく、エリア設定を変更するだけで、そのエリアの日付／時刻に変更されます。

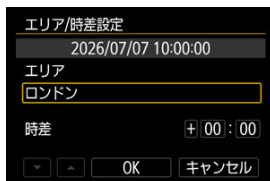
撮影画像には撮影日時の情報が付加されますので、必ず設定してください。

1. [📅：日付/時刻/エリア] を選ぶ (🔍)

2. エリアを設定する



- <📅> で [エリア設定] を選び、<🔍> を押します。



- <🔍> を押します。

エリア設定

2026/07/07 10:00:00

サンパウロ	-03:00
フェルナンド	-02:00
アソレス諸島	-01:00
ロンドン	±00:00
パリ	+01:00

SET OK

- 〈▲〉〈▼〉でエリアを選び、〈⌂〉を押します。
- 該当するエリアがないときは、〈MENU〉ボタンを押して「時差」(協定世界時との時差)で設定します。

エリア/時差設定

2026/07/07 10:00:00

エリア

時差 + 09 : 15

▼ ▲ OK キャンセル

- 〈◀〉〈▶〉で「時差」の項目(+/-/時/分)を選び、〈⌂〉を押します。
- 〈▲〉〈▼〉で設定し、〈⌂〉を押します。
- エリア/時差の設定が終わったら、[OK]を選びます。

3. 日付/時刻を設定する

日付/時刻/エリア

(2026/07/07)

2026 . 07 . 07 10 : 00 : 00

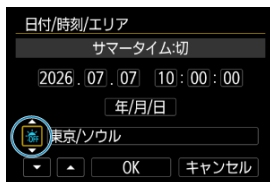
年/月/日

東京/ソウル

▼ ▲ OK キャンセル

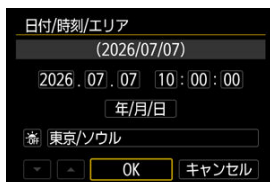
- 〈◀〉〈▶〉で項目を選び、〈⌂〉を押します。
- 〈▲〉〈▼〉で設定し、〈⌂〉を押します。

4. サマータイムを設定する



- 必要に応じて設定します。
- [ON] または [OFF] を選び、<OK>を押します。
- サマータイムを [ON] にすると、手順3で設定した時刻が1時間進みます。[OFF] にするとサマータイムが解除され、1時間戻ります。

5. 設定を終了する



- [OK] を選びます。

❗ 注意

- カメラからバッテリーを取り出して保管したときや、カメラのバッテリー残量がなくなったとき、カメラを氷点下に長時間放置したときは、日付/時刻/エリアの設定が解除されることがあります。そのときは再度設定してください。
- [エリア/時差設定] の内容を変更したときは、日付/時刻が正しく設定されているか確認してください。

📖 参考

- [📷: 日付/時刻/エリア] の画面を表示しているときは、オートパワーオフまでの時間が延長されることがあります。

1. [🔊 : 言語🗨️] を選ぶ (🔗)
2. 言語を設定する

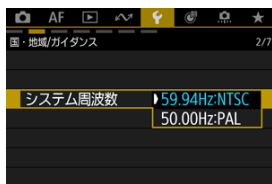


システム周波数

テレビの映像方式を設定します。この設定に応じて、動画撮影時に選択できるフレームレートが変わります。

1. [🔧 : システム周波数] を選ぶ (🔗)

2. 項目を選ぶ



- **59.94Hz:NTSC**

テレビの映像方式が「NTSC」地域（北米、日本、韓国、メキシコなど）のときに設定します。

- **50.00Hz:PAL**

テレビの映像方式が「PAL」地域（ヨーロッパ、ロシア、中国、オーストラリアなど）のときに設定します。

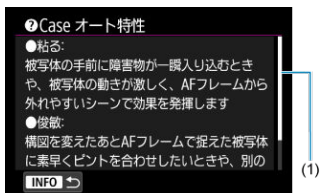
☑ ヘルプの文字サイズの変更

【INFO ヘルプ】が表示されているときに〈INFO〉ボタンを押すと、機能の説明（ヘルプ）が表示されます。もう一度押すと表示が終了します。画面の右側にスクロールバー（1）が表示されたときは、〈〉を回します。

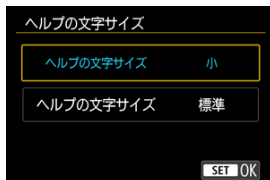
● 【Case オート特性】の例



〈INFO〉



1. [🔧 : ヘルプの文字サイズ] を選ぶ (🔗)
2. 項目を選ぶ

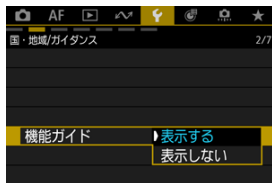


機能ガイド

撮影モード設定時、クイック設定時に、機能・項目の簡単な説明（機能ガイド）を表示することができます。

1. [🔍：機能ガイド] を選ぶ (🔍)

2. 項目を選ぶ



画面例



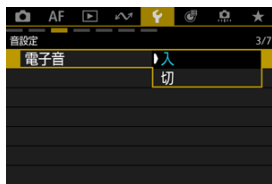
(1) 機能ガイド

📖 参考

- 説明の表示中に、説明をタッチしたり、操作を続けると説明は消えます。

1. [🔊 : 電子音] を選ぶ (🔍)

2. 項目を選ぶ



- 入
合焦時、タッチ操作時などに電子音を出します。
- 切
電子音を消します。

参考

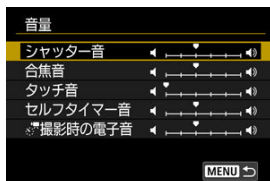
- タッチ音の初期設定は音量 [0] に設定されています (🔍)。

音量

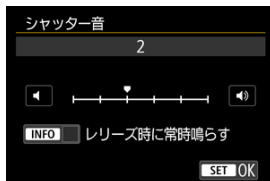
カメラの各種動作音の音量を変えられます。

1. [🔊: 音量] を選ぶ (🔊)

2. 項目を選ぶ



3. 音量を調節する



- 〈🔊〉を回して音量を調節し、〈🔊〉を押します。

🔊 参考

- [シャッター音] の設定画面で、[リリース時に常時鳴らす] にチェックを付けると、[📷: シャッター方式] の設定にかかわらず、シャッター作動時に電子音が鳴ります。

音声モニター

☑ [ヘッドフォン](#)

☑ [HDMI](#)

音声モニター（カメラに接続したヘッドフォンなどからの音声出力）を設定することができます。

ヘッドフォン

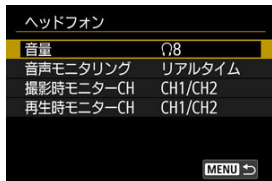
音量を調整する

1. [🔊 : 音声モニター] を選ぶ (☑)

2. [ヘッドフォン] を選ぶ



3. [音量] を選ぶ



4. 音量を調節する



- 〈〉を回して音量を調節し、〈〉を押します。

⚠ 注意

- カメラにヘッドフォンを接続するときは、プラグが根元までしっかりと差し込まれているか確認してください。

📖 参考

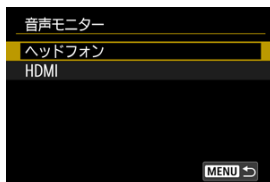
- **〔📷: 録音〕**が**〔する〕**のときは、内蔵マイクまたは外部マイクからの音をヘッドフォンで確認することができます。

音声モニタリング

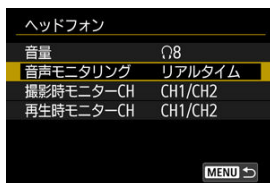
動画記録時に、ヘッドフォンから出力される音声を選択できます。記録される音声のノイズを低減するには、[音声ノイズ低減] (Ⓔ) を設定してください。

1. [🔊 : 音声モニター] を選ぶ (Ⓔ)

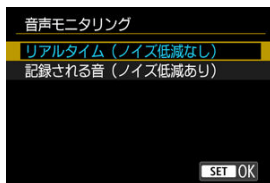
2. [ヘッドフォン] を選ぶ



3. [音声モニタリング] を選ぶ



4. 項目を選ぶ



- **リアルタイム (ノイズ低減なし)**
ノイズ低減処理をせず音声が出力されます。
- **記録される音 (ノイズ低減あり)**
ノイズ低減処理をして音声が出力されます。

! 注意

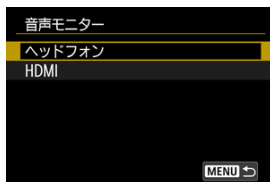
- **「記録される音 (ノイズ低減あり)」**を選択したときは、映像に対して音声若干遅延して出力されます。ただし、記録される動画に音声の遅延はありません。

ヘッドホン端子の出力チャンネルを選択する

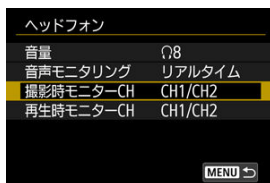
撮影時または再生時に、ヘッドホン端子から出力されるチャンネルの組み合わせを選択できます。スピーカー（）から音声を出力するときも、この設定が適用されます。

1. [：音声モニター] を選ぶ（）

2. [ヘッドホン] を選ぶ



3. [撮影時モニターCH] または [再生時モニターCH] を選ぶ



4. 出力音声（L/R）の組み合わせを選ぶ

撮影時モニターCH



再生時モニターCH



- 「CH1+2」はCH1とCH2のミックスした信号であることを示します。「CH1+3」、「CH3+4」なども同様です。

注意

- [📷: オーディオ形式] (🔊) を [AAC/16bit/2CH] に設定して撮影した場合は、CH3およびCH4には音声記録されないため、[再生時モニターCH] のCH3およびCH4からは音が出ません。

参考

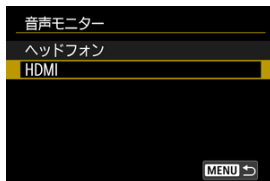
- 動画撮影画面に表示される録音レベルメーター (🔊) には、[撮影時モニターCH] で選択したチャンネルが表示されます。
- [📷: オーディオ形式] (🔊) を [AAC/16bit/2CH] に設定したときは、[撮影時モニターCH] でCH3またはCH4を含む項目は選択できません。

HDMI出力端子の出力チャンネルを選ぶ

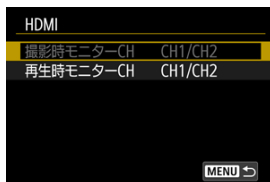
撮影時または再生時に、HDMI出力端子から出力されるチャンネルの組み合わせを選択できます。

1. [🔊：音声モニター] を選ぶ (🔊)

2. [HDMI] を選ぶ

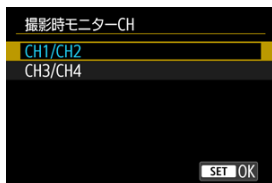


3. [撮影時モニターCH] または [再生時モニターCH] を選ぶ

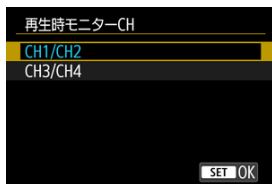


4. [CH1/CH2] または [CH3/CH4] を選ぶ

撮影時モニターCH



再生時モニターCH



⚠ 注意

- [📷: オーディオ形式] (🔊) を [AAC/16bit/2CH] に設定して撮影した動画を再生するとき、[再生時モニターCH] を [CH3/CH4] に設定すると音が出ません。

モニターの明るさ

1. [☛ : モニターの明るさ] を選ぶ (☑)

2. 調整する



- グレーチャートを参考にして〈☛〉を回し、〈☑〉を押します。効果はモニターで確認してください。

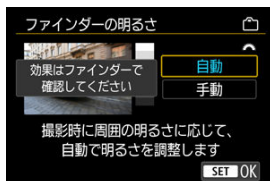
参考

- 撮影した画像の露出を確認するときは、ヒストグラム (☑) で確認することをおすすめします。

ファインダーの明るさ

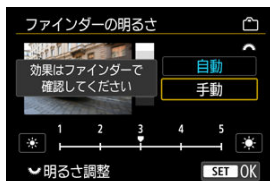
1. [🔍: ファインダーの明るさ] を選ぶ (🔍)
2. <⚙️> を回し、[自動] または [手動] を選ぶ

自動



- <🔍> を押します。効果は撮影時にファインダーで確認してください。

手動



- <⚙️> を回してファインダーの明るさを調整し、<🔍> を押します。効果はファインダーで確認してください。

ファインダーの色調微調整

1. [P: ファインダーの色調微調整] を選ぶ (P)
2. 調整する



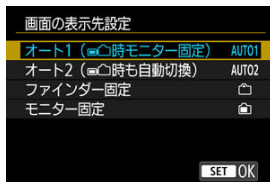
- グレーチャートを参考にして〈※〉を動かし、〈P〉を押します。効果はファインダーで確認してください。

画面の表示先設定

モニターを開いているときに、意図せずファインダー内のファインダーオンセンサーが反応してしまうことを防ぐために、画面の表示先を設定することができます。

1. [F: 画面の表示先設定] を選ぶ (F)

2. 項目を選ぶ



- **AUTO1 : オート1 (F時モニター固定)**

モニターが開いているときは、常にモニター表示になります。
モニターを閉じて、画面を表向きにしているときは、通常はモニター表示を行い、ファインダーをのぞくとファインダー表示に切り換わります。

- **AUTO2 : オート2 (F時も自動切換)**

画面を表向きにしているときは、通常はモニター表示を行い、ファインダーをのぞくとファインダー表示に切り換わります。

- **F : ファインダー固定**

常にファインダー表示になります。

- **M : モニター固定**

モニターを開いているときは常にモニター表示になります。

参考

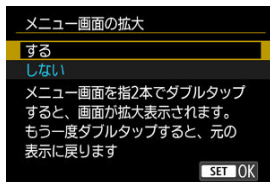
- ボタンカスタマイズで登録した切換ボタンを押してファインダー表示、モニター表示を切り換えることもできます。[AUTO1]、[AUTO2] 設定時はファインダーオンセンサーの反応があった場合はその状態に従って動作します。
- [AUTO1] 設定時、モニターを開いているときは、ファインダーオンセンサーは反応しません。

メニュー画面の拡大

指2本で、メニュー画面をダブルタップすると、メニュー画面を拡大して表示することができます。再度、ダブルタップすると元の表示サイズに戻ります。

1. [🔍:メニュー画面の拡大]を選ぶ (🔍)

2. [する]を選ぶ



⚠ 注意

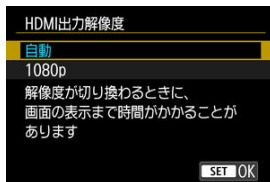
- 拡大表示した状態で、メニュー機能の設定を行うときは操作部材で操作してください。タッチして操作することはできません。

HDMI出力解像度

カメラとテレビや外部記録機器などを、HDMIケーブルで接続して映像を出力するときに、解像度を設定することができます。

1. [🔧 : HDMI出力解像度] を選ぶ (🔗)

2. 項目を選ぶ



- **自動**
接続したテレビに合わせて、自動的に最適な解像度で画像が表示されます。
- **1080p**
1080pの解像度で出力します。解像度が切り換わる時の表示や時間が気になるときに選びます。

参考

- 撮影時の設定が異なる動画がカード内に混在している場合は、映像が表示されるまでに時間がかかることがあります。

センサークリーニング

☑ [今すぐクリーニング](#)

☑ [自動クリーニング](#)

☑ [手作業での清掃](#)

このカメラは、撮像素子前面を清掃する、センサークリーニング機能を備えています。

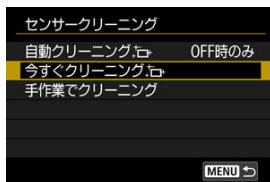
参考

- 机の上などにカメラを置き、底面が机に付いた状態で行うと、効果的にゴミを除去できます。

今すぐクリーニング

1. [🔧: センサークリーニング] を選ぶ (☑)

2. [今すぐクリーニング🔧] を選ぶ

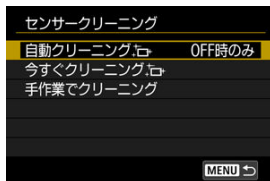


- 確認画面で [OK] を選びます。

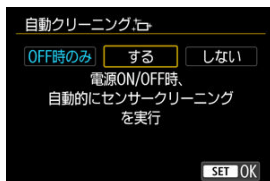
参考

- 繰り返してクリーニングしても効果は大きく変わりません。なお、清掃終了直後は、[今すぐクリーニング🔧] が選べないことがあります。

1. [自動クリーニング] を選ぶ



2. 項目を選ぶ



- 〈〉を回して項目を選び、〈〉を押します。

参考

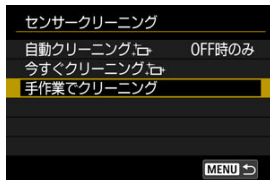
- [OFF時のみ] または [する] のときは、モニターの表示が消えるとき（モニターオフ時）も、センサークリーニングが実行されます。

自動クリーニングで取りきれないゴミやほこりがあったときに、市販品のプロアーなどを使用して、手作業で撮像素子を清掃することができます。

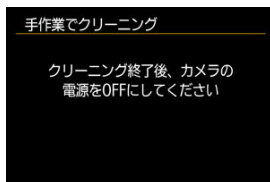
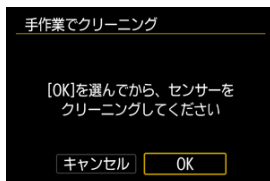
必ずフル充電したバッテリーを使用してください。

撮像素子は非常にデリケートな部品です。直接清掃が必要なときは、できるだけ修理受付窓口にお申し付けください。

1. 「手作業でクリーニング」を選ぶ



2. 「OK」を選ぶ



3. レンズを取り外して撮像素子を清掃する

4. 清掃を終了する

- 電源スイッチを〈OFF〉にします。

参考

- 家庭用電源アクセサリ（別売）の使用をおすすめします。

注意

- 清掃中は絶対に次のことを行わないでください。電源が切れてシャッターが閉じるため、撮像素子やシャッター幕が損傷する恐れがあります。
 - 電源スイッチを〈OFF〉にする
 - バッテリーを取り出す／入れる
- 撮像素子の表面は非常にデリケートな部分です。細心の注意を払って清掃してください。
- ブロアーはブラシの付いていないものを使用してください。ブラシが撮像素子に触れると、撮像素子の表面に傷が付くことがあります。
- ブロアーはレンズマウント面より内側に入れないでください。電源が切れるとシャッターが閉じ、シャッター幕を破損する原因になります。
- 高圧の空気やガスを吹き付けて清掃しないでください。圧力により撮像素子が破損したり、吹き付けたガスが凍結することで、撮像素子の表面に傷が付くことがあります。
- 撮像素子の清掃中にバッテリーの残量が少なくなると、警告のため電子音が鳴ります。作業を中止し、清掃を終了してください。
- ブロアーで除去できない汚れがあったときは、修理受付窓口に撮像素子の清掃をお申し付けください。

パスワードの管理

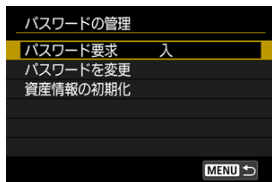
- ☑ [パスワード要求](#)
- ☑ [パスワードを変更する](#)
- ☑ [資産情報を初期化する](#)

カメラの電源スイッチを〈ON〉にしたときや、オートパワーオフから復帰したときに入力するパスワードを管理します。カメラ起動時のパスワード設定方法については、[パスワードを設定する](#)を参照してください。

パスワード要求

カメラの電源スイッチを〈ON〉にしたときや、オートパワーオフから復帰したときに、パスワードを要求するかどうかを設定できます。

1. [🔑:パスワードの管理] を選ぶ (🔑)
2. [パスワード要求] を選ぶ



3. 初回起動時に設定したパスワードを入力する

パスワード

パスワードを入力してください

キャンセル OK

0/6

1	2	3	←	→
4	5	6	✕	
7	8	9		
0			OK	

パスワード

パスワードを入力してください

キャンセル OK

4. 項目を選ぶ

パスワード要求

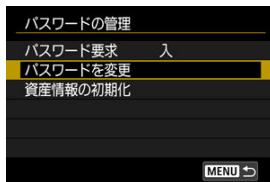
入
切

SET OK

パスワードを変更する

カメラの電源スイッチを〈ON〉にしたときや、オートパワーオフから復帰したときに入力するパスワードを変更します。

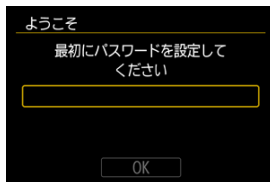
1. 「パスワードを変更」を選ぶ



2. 初回起動時に設定したパスワードを入力する

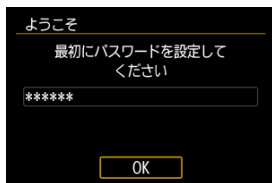
- [パスワード要求](#)の手順3の操作を行います。

3. 新しいパスワードを入力する

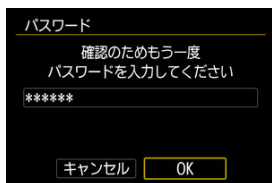


- 6桁の数字を入力し、〈MENU〉ボタンを押します。

4. [OK] を選ぶ



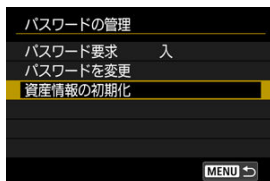
5. もう一度パスワードを入力し、[OK] を選ぶ



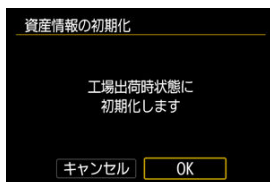
資産情報を初期化する

撮影機能やメニュー機能の設定とパスワードを初期状態に戻すことができます。

1. [資産情報の初期化] を選ぶ



2. [OK] を選ぶ



拡張機能の有効化

有償の拡張機能を有効化します。

拡張機能の有効化については、下記のサイトでご確認ください。

- <https://sas.image.canon/st/activation-guide>

! 注意

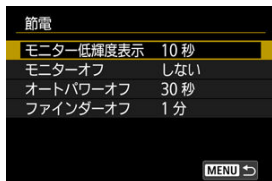
- [📷: カメラの初期化] で [工場出荷時初期化] を実行したときは、拡張機能が無効になります。そのときは、上記のURLにアクセスし、再度有効化してください。
- カメラのファームウェアをアップデートしたときは、拡張機能が無効になることがあります。そのときは、上記のURLにアクセスし、機能の有効化の手順に従ってアクティベーションファイルをカードに保存のうえ、再度有効化してください。
- アクティベーションファイルはダウンロード時のファイル名のまま、カードに保存してください。ファイル名を変更すると、カメラで正しく認識されないことがあります。

節電

カメラを操作しない状態でモニターが暗くなるまでの時間（モニター低輝度表示）、モニターが暗くなってから画面が消えるまでの時間（モニターオフ）、カメラの電源が切れるまでの時間（オートパワーオフ）やファインダーの表示が消えるまでの時間（ファインダーオフ）を変えることができます。

1. [🔋：節電] を選ぶ (🔍)

2. 項目を選ぶ



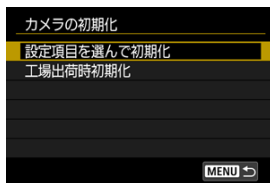
📖 参考

- [モニター低輝度表示] と [モニターオフ] は撮影画面の表示時に機能します。メニューや再生画面の表示時は機能しません。
- メニューや再生画面の表示時は、[モニター低輝度表示] [モニターオフ] [オートパワーオフ] の設定時間後にカメラの電源が切れます。
- [モニターオフ] と [オートパワーオフ] を [しない] に設定していても、液晶を保護するため、モニターが暗くなってから30分後に画面の表示が消えます（カメラの電源は切れません）。
- モニター表示時も、[ファインダーオフ] の設定は有効です。設定時間後、ファインダーオンセンサーが無効になります。
- ファインダー表示時は、[ファインダーオフ] の設定のみ有効です。設定時間後、ファインダーオンセンサーが無効になり、さらにファインダーの表示が消えます。
- 静止画撮影待機時、低輝度表示になると、モニターに表示される映像のフレームレートは低下します。
- Camera ConnectなどとUSB接続中は、オートパワーオフは機能しません。

撮影機能やメニュー機能の設定を初期状態に戻すことができます。

1. [📷: カメラの初期化] を選ぶ (🔗)

2. 項目を選ぶ



- **設定項目を選んで初期化**
選択した項目の設定内容を初期化することができます。
- **工場出荷時初期化**
すべての項目を初期状態に戻します。

3. 初期化する

- 確認画面で **[OK]** を選びます。

参考

- **「設定項目を選んで初期化」の「カスタム撮影モード (C1-C3)」を選択したとき、静止画撮影状態のときは静止画のカスタム撮影モード、動画撮影状態のときは動画のカスタム撮影モードが、初期化されます。**

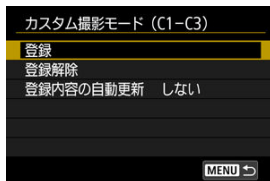
☑ [登録内容の自動更新](#)

☑ [カスタム撮影モードの登録解除](#)

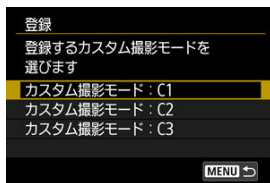
撮影機能やメニュー機能、カスタム機能など、現在カメラに設定されている内容を、モードダイヤルの〈**C1**〉〈**C2**〉〈**C3**〉にカスタム撮影モードとして登録することができます。静止画撮影時、動画撮影時のそれぞれに登録することができます。

1. [**C** : カスタム撮影モード（C1-C3）] を選ぶ (🔍)

2. [登録] を選ぶ



3. 登録する



- 登録するカスタム撮影モードを選び、[登録]の画面で[OK]を選びます。
- カメラの設定内容がカスタム撮影モードのC*に登録されます。
- 静止画撮影時は、登録された撮影モードがカスタム撮影モードのアイコンに反映されます（例 [C1_{IV}] [C2_{Av}] [C3_M]）。
- 動画撮影時は、カスタム撮影モードのアイコンが [C1_{IV}] [C2_{Av}] [C3_M] に変わります。
- メニュー項目によっては、他の撮影モードで変更した設定内容がカスタム撮影モードの設定に引き継がれない場合があります。

登録内容の自動更新

カスタム撮影モードで撮影しているときに、設定変更した内容を登録内容に自動反映することができます（自動更新）。自動更新するときは、手順2で【登録内容の自動更新】を【する】に設定します。

⚠ 注意

- USB（UVC/UAC）接続（）している場合、登録内容は自動更新されません。

カスタム撮影モードの登録解除

手順2で「登録解除」を選ぶと、各モードの設定内容を、登録を行う前の初期状態に戻すことができます。

参考

- カスタム撮影モードのときも、撮影機能やメニュー機能などの設定を変更することができます。

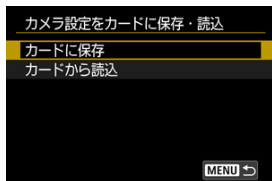
☑ カメラ設定の保存

☑ カメラ設定の読み込み

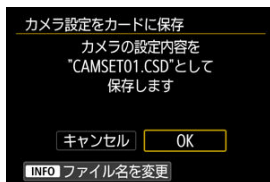
撮影機能やメニュー機能、カスタム機能など、現在カメラに設定されている内容を、「カメラ設定ファイル」としてカードに保存することができます。ファイルの読み込みを行うと、保存されている内容と同じ設定状態になります。撮影シーンごとに最適な設定を保存して使い分けたり、別のEOS R8 Mark IIでファイルを読み込んで同じ設定状態にすることができます。

カメラ設定の保存

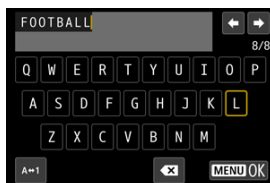
1. [📁 : カメラ設定をカードに保存・読込] を選ぶ (🔍)
2. [カードに保存] を選ぶ



3. [OK] を選ぶ



- カメラの設定内容がカードに保存されます。



- 手順3の画面で〈INFO〉ボタンを押すと、ファイル名（8文字）を任意に変更してから保存することができます。
- 操作方法については、[ファイル名の設定](#)を参照してください。操作方法は同じです。

⚠ 注意

- EOS R8 Mark II以外のカメラで保存したカメラ設定ファイルを、このカメラで読み込むことはできません。
- カメラ設定を保存するときに、読み込むときに、カメラのファームウェアバージョンが異なると、カメラ設定ファイルが読み込めないことがあります。

📖 参考

- 1枚のカードに10件まで保存できます。すでに10件保存されているときは、上書き保存するか、別のカードに交換してください。

カメラ設定の読み込み

[カメラ設定の保存](#)の手順2で「**カードから読み込**」を選ぶと、カードに記録されているカメラ設定ファイルが最大10件表示されます。希望するファイルを選ぶと、読み込みが行われ、保存されている内容と同じ設定状態になります。

バッテリー情報

使用しているバッテリーの状態を画面で確認することができます。

1. [🔋: バッテリー情報] を選ぶ (🔍)



(1) 使用しているバッテリー、または家庭用電源の型式が表示されます。

(2) バッテリー残量 (🔋) が表示されます。

(3) バッテリーの劣化状態が3段階で表示されます。

■■■ (緑) : 劣化していません

■■□ (緑) : 少し劣化しています

■□□ (赤) : バッテリーの買い換えをおすすめします

📢 注意

- キヤノン純正のバッテリーパック LP-E17のご使用をおすすめします。純正品以外のバッテリーを使用すると、カメラ本来の性能を発揮できない恐れや、故障の原因になることがあります。

📖 参考

- バッテリー通信エラーに関するメッセージが表示されたときは、メッセージに従って操作してください。

☑ [著作権情報の確認](#)

☑ [著作権情報の消去](#)

著作権情報の設定を行うと、その内容がExif（イグジフ）情報として画像に記録されます。

⚠ 注意

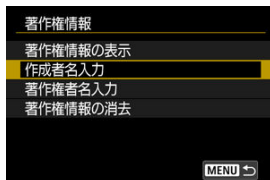
- 入力した作成者名または著作権者名が長いときは、**「著作権情報の表示」**を選んだ際に、入力した文字の一部が表示されないことがあります。

📖 参考

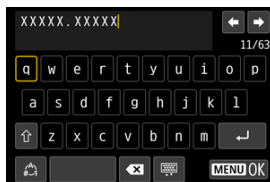
- EOS用ソフトウェアのEOS Utility (🔗) から、著作権情報を設定・確認することもできます。

1. **「🔗：著作権情報」**を選ぶ (🔗)

2. 項目を選ぶ



3. 文字を入力する

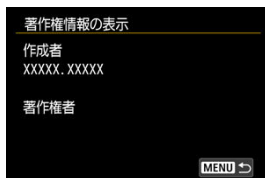


- 〈〉で文字を選び、〈〉を押すと入力されます。
- [] を選ぶと、入力モードが切り換わります。
- [] を選ぶと、1文字消去されます。

4. 設定を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押して [OK] を選びます。

著作権情報の確認



手順2で「著作権情報の表示」を選ぶと、入力した「作成者」「著作権者」の情報を確認することができます。

著作権情報の消去

手順2で「**著作権情報の消去**」を選ぶと、**【作成者】****【著作権者】**の情報が消去されます。

その他の情報

● ログの表示

〔🔍：ログの表示〕を選ぶと、パスワード変更やネットワーク情報変更などの履歴を確認できます。

● 使用説明書・ソフトウェア URL

〔🔍：使用説明書・ソフトウェア URL〕を選んで (📄)、表示されるQRコードをスマートフォンで読み取り、使用説明書をダウンロードすることができます。また、表示されるURLのWebサイトにパソコンでアクセスして、ソフトウェアをダウンロードすることができます。

● 認証マーク表示 **応用**

〔🔍：認証マーク表示〕を選ぶと (🔍)、このカメラが対応している認証マークの一部を確認できます。また、その他の認証マークは、カメラ本体、カメラが入っていた箱にも表記されています。

● ファームウェア

このカメラまたは使用中のレンズなどの対応アクセサリーのファームウェアをアップデートするとき 사용합니다。

〔📶 image.canonに画像送信〕などインターネットに接続する機能が設定されていて、インターネットに接続可能なとき、キヤノンのサーバーに最新ファームウェアがあれば、🔍アイコンおよび〔🔍：ファームウェア〕に〔*〕マークが表示されます。〔🔍：ファームウェア〕を選び、画面の指示に従って、ファームウェアをアップデートすることができます。〔📶：Wi-Fi設定〕の〔Wi-Fi〕を〔使わない〕にしたとき、または接続先を切り換えたときは〔*〕マークは消えます。

なお、カメラのファームウェアのアップデートは、Camera Connectからでもできます (📄)。

操作カスタマイズ

よく使う機能を、自分が操作しやすいボタンやダイヤルに割り当てることができます。

- [メニュー目次：操作カスタマイズタブ](#)
- [操作カスタマイズで変更できる内容](#)

メニュー目次：操作カスタマイズタブ

● 撮影時 操作カスタマイズ



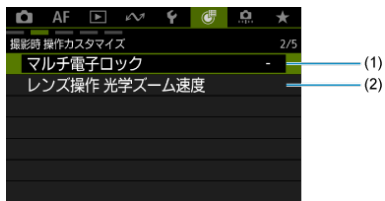
- (1) [撮影時ボタン カスタマイズ](#) **応用**
- (2) [動画撮影時シャッターボタンの機能](#)
- (3) [ダイヤル/リング カスタマイズ](#) **応用**
- (4) [Tv/Av値設定時の☀️回転](#) **応用**
- (5) [Tv/Av値設定時の⌚️回転](#) **応用**
- (6) [撮影時☀️と⌚️の入れ換え](#) **応用**

● 撮影時 操作カスタマイズ（静止画撮影）



- (1) [タッチシャッター](#)
- (2) [マルチ電子ロック](#)
- (3) [レンズ操作 光学ズーム速度](#) **応用**

● 撮影時 操作カスタマイズ（動画撮影）



- (1) [マルチ電子ロック](#)
- (2) [レンズ操作 光学ズーム速度](#) **応用**

● 撮影時 操作カスタマイズ



- (1) [タッチ&ドラッグAF設定](#)
- (2) [※AFフレーム選択の敏感度](#)
- (3) [フォーカス/コントロールリング](#) **応用**
- (4) [フォーカスリングの回転](#)
- (5) [RFレンズ MF操作敏感度](#)

● 再生時 操作カスタマイズ



(1) [再生時ボタン カスタマイズ](#) **応用**

(2) [⤴での画像送り](#)

(3) [±c+⤴での画像送り](#) **応用**

● 操作カスタマイズ/初期化



(1) [タッチ操作](#)

(2) [操作カスタマイズ一括解除](#) **応用**

操作カスタマイズで変更できる内容

☑ [\[撮影時 操作カスタマイズ\]](#)

☑ [\[再生時 操作カスタマイズ\]](#)

☑ [\[操作カスタマイズ/初期化\]](#)

撮影スタイルに応じて、[\[📷\]](#) タブでカメラの機能を細かく設定することができます。

[撮影時 操作カスタマイズ]

撮影時ボタン カスタマイズ

撮影時によく使う機能を、自分が操作しやすいボタンに割り当てることができます。また、静止画撮影時と動画撮影時で、同じボタンに別の機能を割り当てることができます。

1. [\[📷: 撮影時ボタン カスタマイズ\]](#) を選ぶ (☑)
2. 操作部材を選ぶ



- <INFO> ボタンを押すと、[\[📷: 再生時ボタン カスタマイズ\]](#) に切り換わります (☑)。

3. 割り当てる機能を選ぶ



- 〈〉を押すと設定されます。
- 画面左下に [**INFO**] が表示される機能は、〈INFO〉ボタンを押すと、さらに詳細設定を行うことができます。

参考

- [**L-Fn**] は、手ブレ補正機能付きの超望遠レンズに装備されている「AFストップボタン」または「レンズファンクションボタン」を表しています。
- [] は、外部ストロボに装備されている「メニューダイレクト」を表しています。
- [**1st**] [**2nd**] は、ワイヤレスリモートコントローラー BR-E2（別売）に装備されている「リモコンファンクションボタン」を表しています。
- [：撮影時ボタン カスタマイズ] で設定した内容を解除するときは、[：操作 カスタマイズ一括解除] を選んでください。

割り当て可能な機能一覧（静止画撮影）

●：初期値 ○：機能割り当て可能

AF：測光・AF開始															
●	-	-	●	○	○	-	-	-	-	-	-	○	○	○	-
AF-OFF：AF停止															
-	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-
*AF-OFF：AEロック・AF停止															
-	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
：AFフレーム選択															
-	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	-	○	-	-
：AFフレームダイレクト選択															
-	-	-	-	-	-	-	○	○	○	○	-	●	-	-	-
：AFフレーム中央戻し															
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-
：全域トラッキングの開始/停止															
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-
：AFエリアダイレクト選択															
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-
：検出する被写体ダイレクト選択															
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-
ONE SHOT SERVO：ワンショットAF ↔ サーボAF															
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-
AF：検出した被写体でAF															
-	-	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-
AF：瞳AF															
-	-	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-
：瞳検出															
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	-

スポット検出																
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-	-	-
登録人物優先																
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-	-
AF MF : フォーカスマード																
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-	-
PEAK : ピーキング																
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	-
フォーカスガイド																
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-	-
Fp : フォーカスプリセット登録																
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-	-
Fp' : フォーカスプリセット再生																
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-	-
測光開始																
○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
* : AEロック																
-	○	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
*H : AEロック (ホールド)																
-	○	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	○	○	○	-
* : AEロック(押している間)																
○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
AE FE : AEロック/FEロック																
-	○	○	○	●	○	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
*OFF : AEロック解除																
-	○	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
露出補正 (押しながら)																
-	-	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-	-
ISO : ISO感度																
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-	-

●：初期値 ○：機能割り当て可能

ISO ：ISO感度設定（押しながら）															
-	-	-	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-	-
：ストロボ機能設定															
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-	●
Gr：クイックストロボグループ制御															
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-	○
：ストロボの発光															
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-	-
ETTL M：ETTL M（FEM時有効）															
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-	-
FEL：FEロック															
-	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
：動画撮影															
-	●	○	○	○	○	-	-	-	-	○	-	○	-	-	-
：動画サーボAF一時停止															
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	-
：オーディオステータス															
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-	-
DIAL FUNC：ダイヤルファンクション設定															
-	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-	-
：モニターを一時的に明るくする															
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	-
：パワーオフ															
-	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	○	●	○	-
：モニターオフ															
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	-

: サイレントシャッター機能															
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-	-
: フォーカス/コントロールリング切換															
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-	-
: 絞り込み															
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-	-
AUTO : Fvモード時、選択項目をリセット															
-	○	○	○	○	○	●	●	○	○	○	-	○	-	-	-
ALL AUTO : Fvモード時、Tv,Av,,ISOをリセット															
-	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	○	-	○	-	-
Q : クイック設定画面															
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	-	○	-	-
ZOOM TELE : シネマズーム(テレ側)															
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-	-
ZOOM WIDE : シネマズーム(ワイド側)															
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-	-
Q : 拡大/縮小															
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	-
: 画像の再生															
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	-
: 再生画像の拡大															
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-	-
MENU : メニュー表示															
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-	-
: 記録画質選択															
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-	-
RAW JPEG : ワンタッチ記録画質切換															
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-	-
RAW JPEG H : ワンタッチ記録画質切換 (ホールド)															
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-	-

PRE : プリ連続撮影															
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-	-
: 自動水平補正															
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-	-
: タッチシャッター															
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-	-
OVF.VA : OVFビューアシスト															
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-	-
: 表示フレームレート設定															
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-	-
: 通信機能															
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-	-
: 機内モード															
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-	-
: フォルダ選択															
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-	-
: フォルダ作成															
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-	-
: 画面の表示先切り換え															
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-	-
INFO : INFOボタン															
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	●	-
OFF : 無効															
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	-	○

割り当て可能な機能一覧（動画撮影）

●：初期値 ○：機能割り当て可能

M-Fn	AF-ON	*										
AF：測光・AF開始												
-	●	○	○	-	-	-	-	-	-	○	○	○
AF-OFF：AF停止												
○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	●	-	-
*AF-OFF：AEロック・AF停止												
○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	○	-	-
：AFフレーム選択												
○	○	○	●	○	○	○	○	○	-	○	-	-
：AFフレームダイレクト選択												
-	-	-	-	○	○	○	○	-	●	-	-	-
：AFフレーム中央戻し												
○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-
：全域トラッキングの開始/停止												
○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-
：瞳検出												
○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○
：スポット検出												
○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-
：登録人物優先												
○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-
AF ME ：フォーカスモード												
○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-
PEAK：ピーキング												
○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○
：フォーカスガイド												
○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-

☑️ FP : フォーカスプリセット登録													
○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-	-
☑️ FP' : フォーカスプリセット再生													
○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-	-
👁️ OUT : フォーカスアウト													
○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○
👁️ OUT : フォーカスアウト設定													
○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-	-
✳️ A : AEロック													
○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
✳️ H : AEロック (ホールド)													
○	○	●	○	-	-	-	-	-	-	○	○	○	○
✳️ OFF : AEロック解除													
○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
🌞 i : 露出補正 (押しながら🌞)													
-	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-	-
ISO : ISO感度													
○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-	-
ISO i : ISO感度設定 (押しながら🌞)													
-	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-	-
🌈 F : フォルスカラー													
○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○
🌈 Z : ゼブラ													
○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○
🎥 M : 動画撮影													
○	○	○	○	-	-	-	-	○	-	○	-	-	-
🎥 Servo AF : 動画サーボAF一時停止													
○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○

● : 初期値 ○ : 機能割り当て可能

M-Fn	AF-ON	※	Ⓔ	▲	◀	▶	▼	SET	※	L-Fn	1 [Ⓔ]	2 [Ⓔ]
♪ [Ⓔ] : オーディオステータス												
○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-
📷 [Ⓔ] : 被写体検出AF												
○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○
DIAL FUNC : ダイヤルファンクション設定												
●	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-
📺 [Ⓔ] : モニターを一時的に明るくする												
○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○
🔌 : パワーオフ												
○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	○	●	○
📺 [Ⓔ] : モニターオフ												
○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○
🔍 [Ⓔ] : フォーカス/コントロールリング切換												
○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-
📺 [Ⓔ] : クイック設定画面												
○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	-	○	-
ZOOM TELE : シネマズーム(テレ側)												
○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-
ZOOM WIDE : シネマズーム(ワイド側)												
○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-
🔍 : 拡大/縮小												
○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○
▶ : 画像の再生												
○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○
🔍 : 再生画像の拡大												
○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-
MENU : メニュー表示												
○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-

: デジタルズーム												
☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	-	☐	-	-
: フリッカー検知												
☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	-	☐	☐	☐
: 高周波フリッカーレス手動設定(Tv値)												
☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	-	☐	-	-
COLOR : カラーモード												
☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	-	☐	-	-
: ピクチャスタイル選択												
☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	-	☐	-	-
: カラーフィルター												
☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	-	☐	-	-
: カスタムピクチャー												
☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	-	☐	-	-
: オートライティングオブティマイザ												
☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	-	☐	-	-
WB : ホワイトバランス選択												
☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	-	☐	-	-
: 色温度切り換え												
☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	-	☐	☐	☐
: WB補正												
☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	-	☐	-	-
: AWBホールド												
☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	-	☐	-	-
PRE● : プレ記録												
☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	-	☐	-	-
: シネマビュー												
☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	-	☐	-	-
: 動画セルフタイマー												
☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	-	☐	☐	☐

● : 初期値 ○ : 機能割り当て可能

M-Fn	AF-ON	*	[E]	▲	◀	▶	▼	SET	*	L-Fn	1 st	2 nd
📺 : 動画電子IS												
○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	●
-📷- : 📷自動水平補正												
○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-
🔥 : 温度上昇緩和												
○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-
📶 : 通信機能												
○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-
LIVE : ライブ配信												
○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-
⬆️ : 機内モード												
○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-
📁 : フォルダ選択												
○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-
🔄 : 画面の表示先切り換え												
○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-
INFO : INFOボタン												
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○
OFF : 無効												
○	○	○	○	○	●	●	○	○	○	○	-	-

フォーカスプリセット登録／フォーカスプリセット再生

RFレンズ／RF-Sレンズ使用時は、任意のピント位置をプリセット（カメラに登録）しておくことができます。プリセットしたピント位置は、撮影待機中に、ボタン操作で呼び出すことができます。

任意のピント位置をカメラに登録する

プリセットしたい撮影距離にピントを合わせて、**【フォーカスプリセット登録】**を割り当てたボタンを押します。

プリセットしたピント位置を呼び出す

【フォーカスプリセット再生】を割り当てたボタンを押します。

参考

- フォーカスプリセット機能は、フォーカスモードがAF/MFのどちらの場合でも使用できます。
- レンズを交換する、またはカメラのバッテリーを交換すると、プリセットしたピント位置は初期化されます。

フォーカスアウト／フォーカスアウト設定

動画撮影中にピントを徐々にぼかしていくことができます。場面転換など、より印象的な動画を撮影したいときに有効です。

フォーカスアウトで撮影する

動画撮影中に**【フォーカスアウト】**を割り当てたボタンを押すと、ピント位置が移動して被写体がぼけていきます。ピント位置の移動中にもう一度割り当てたボタンを押すと、動作が止まります。

フォーカスアウトを設定する

【フォーカスアウト設定】を割り当てたボタンを押して、**【フォーカスアウト】**のぼかし量と速さを設定します。

- **ぼかし量**
1～5の値でぼかし量を設定することができます。
- **速度**
1～10の値でピント位置を移動する速さを設定することができます。

参考

- フォーカスアウト後、動画サーボAFは一時停止されます。
- 使用するレンズや撮影シーンなどによっては、設定したぼかし量や速度の効果が十分に得られないことがあります。

AWBホールド

〔：撮影時ボタン カスタマイズ〕で〔AWBホールド〕を割り当てたボタンを押すと、動画撮影中にオートホワイトバランスの動作を一時停止させることができます。もう一度押すと解除されます。

動画撮影時シャッターボタンの機能

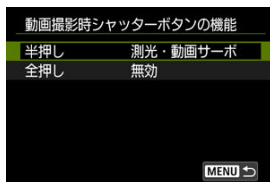
動画撮影時にシャッターボタンを半押し／全押ししたときの動作を設定することができます。

！ 注意

- 〔：撮影時ボタン カスタマイズ〕でシャッターボタンに機能が割り当てられていても、動画撮影時は〔動画撮影時シャッターボタンの機能〕の設定が優先されます。

1. 〔：動画撮影時シャッターボタンの機能〕を選ぶ (🔍)

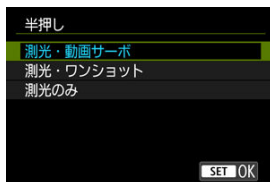
2. 項目を選ぶ



- 半押し
シャッターボタンを半押ししたときの動作を設定することができます。
- 全押し
シャッターボタンを全押ししたときの動作を設定することができます。

3. 項目を選ぶ

【半押し】選択時



- **測光・動画サーボ**

シャッターボタンを半押ししている間、被写体にピントを合わせ続けま
す。〈^{AF}_{ON}〉ボタンを押すと、1回だけピント合わせを行います。

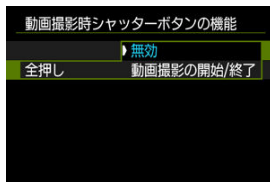
- **測光・ワンショット**

シャッターボタンを半押しすると、1回だけピント合わせを行います。

- **測光のみ**

シャッターボタンを半押しすると測光が行われます。ピント合わせは
〈^{AF}_{ON}〉ボタンを押します。

【全押し】選択時



- **【全押し】を「動画撮影の開始/終了」に設定すると、動画撮影ボタンの
ほか、シャッターボタンの全押し、または別売のリモートスイッチで、
動画撮影を開始/終了することができます。**

ダイヤル/リング カスタマイズ

〈〉〈〉〈〉に、よく使う機能を割り当てることができます。

1. [: ダイヤル/リング カスタマイズ] を選ぶ ()

2. 操作部材を選ぶ



3. 割り当てる機能を選ぶ



- 〈〉を押すと設定されます。
- 画面左下に [**INFO**] が表示される機能は、〈**INFO**〉ボタンを押すと、さらに詳細設定を行うことができます。

参考

- [: ダイヤル/リング カスタマイズ] で設定した内容を解除するときは、[: 操作カスタマイズ一括解除] を選んでください。

各ダイヤルに割り当てできる機能の一覧

● : 初期値 ○ : 機能割り当て可能

機能名			
Tv  : Tv値変更 (測光するボタン押しながら)	-	-	○
Av  : Av値変更 (測光するボタン押しながら)	-	-	○
ISO  : ISO感度設定 (測光するボタン押しながら)	-	-	○
  : 露出補正 (測光するボタン押しながら)	-	-	●
  : 調光補正/発光量 (測光するボタン押しながら)	-	-	○
AF  : AFエリア選択 (測光するボタン押しながら)	-	-	○
  : ピクチャースタイル選択 (測光するボタン押しながら)	-	-	○
WB  : ホワイトバランス選択 (測光するボタン押しながら)	-	-	○
  : 色温度選択 (測光するボタン押しながら)	-	-	○
Tv : Tv値変更	-	-	○
Av : Av値変更	-	-	○
Tv : Mモード時、シャッタースピード変更	●	○	-
Av : Mモード時、絞り数値変更	○	●	-
ISO : ISO感度設定	-	○	○
 : 露出補正	-	○	○
AF  : AFエリア選択	-	○	○
  : ピクチャースタイル選択	-	○	○
WB : ホワイトバランス選択	-	○	○
 : 色温度選択	-	○	○
OFF : 無効	○	○	○

参考

- 〈Fv〉モード時、〈〉はカスタマイズできません。
-  は、RFレンズとマウントアダプターに装備されている「コントロールリング」を表しています。

Tv/Av値設定時の^{⚙️}回転

シャッタースピード、絞り数値設定時のダイヤルによる設定方向を反転させることができます。

撮影モードが〈M〉のときは〈^{⚙️}〉〈^{⚙️}〉、それ以外の撮影モードでは〈^{⚙️}〉の設定方向が反転します。〈M〉モード時に〈^{⚙️}〉を操作したときの設定方向と、〈P〉〈Tv〉〈Av〉モード時に〈^{⚙️}〉を操作して露出補正を行ったときの設定方向が同じになります。

- ^{⚙️} : 通常
- ^{⚙️} : 設定方向を反転

Tv/Av値設定時の^{⚙️}回転

RFレンズ／RF-Sレンズおよびマウントアダプターに搭載されたコントロールリングによる、シャッタースピードや絞り数値設定の設定方向を反転させることができます。

- ^{⚙️} : 通常
- ^{⚙️} : 設定方向を反転

撮影時^{⚙️}と^{⚙️}の入れ換え

〈^{⚙️}〉と〈^{⚙️}〉に割り当てた機能を入れ換えることができます。

- OFF : しない
- ON : する

タッチシャッター

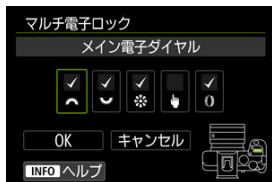
タッチシャッター機能を設定することができます。[する]にすると、撮影画面左下の[^{⚙️}]が[^{⚙️}]になり、タッチシャッター機能が有効になります。

タッチシャッター機能の使いかたについては、[タッチシャッターで撮影する](#)を参照してください。

マルチ電子ロック

マルチ電子ロック機能をオンにしたときに操作を禁止する操作部材を設定します。不用意な操作による設定変更を防止することができます。

1. [🔒: マルチ電子ロック] を選ぶ (🔒)
2. 操作を禁止する操作部材を選ぶ



- 操作部材を選んで〈🔒〉を押すと、[✓] が表示されます。

3. [OK] を選ぶ

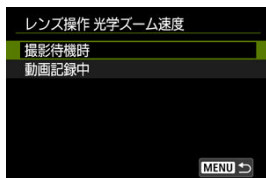
- マルチ電子ロックボタンを押すと、[✓] をつけた操作部材がロックされます。

📖 参考

- 初期状態から設定が変更されているときは、[🔒: マルチ電子ロック] の右端に「*」が表示されます。

レンズ操作 光学ズーム速度

パワーズーム内蔵レンズ装着時に設定できます。
レンズのズームリングを回す角度で、光学ズームの速さを設定することができます。
撮影待機状態、動画記録中のそれぞれに設定することができます。



- **ズームスピード**

ズームの速さを設定します。

速い：撮影待機時のズーム操作に適しています。

遅い：動画撮影中など、ゆっくりとしたズーム操作に適しています。

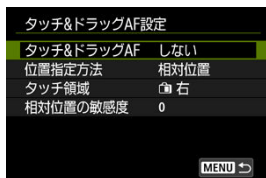
- **スピードレベル**

ズームリングの移動量ごとに、ズームスピードに応じたズームの速さを変化させることができます。

ズームスピードの「速い」および「遅い」に対して、1～15の値でズームスピードを設定することができます。

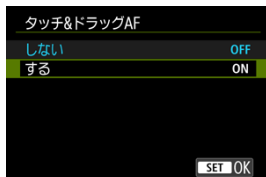
タッチ&ドラッグAF設定

ファインダーを見ながら画面をタッチしたりドラッグしたりして、AFフレーム（またはゾーンAFフレーム）を移動することができます。



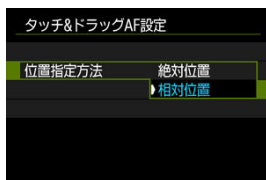
タッチ&ドラッグAF

[する] を選ぶと、タッチ&ドラッグAFが有効になります。



位置指定方法

タッチやドラッグしたときの位置の指定方法を設定することができます。



- **絶対位置**
画面をタッチやドラッグした位置にAFフレームが移動します。
- **相対位置**
画面の位置に関係なく、ドラッグした方向と移動量に応じてAFフレームが移動します。

タッチ領域

タッチの反応領域を設定することができます。



参考

- **[AF: AFエリア]** を **[全域AF]** に設定時は、画面をタッチすると、オレンジ色の丸い枠 [C] が表示されます。AFフレームを移動したい位置で指を離すと [F] が表示され、その被写体を追尾します。画面上の [Off] をタッチすると、被写体の指定が解除されます。

相対位置の敏感度

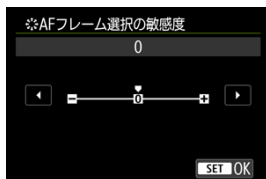
「位置指定方法」を「相対位置」にしたときの、タッチやドラッグの移動量を設定することができます。



AFフレームの移動量が、+側に設定すると大きくなり、-側に設定すると小さくなります。

※AFフレーム選択の敏感度

AFフレームの移動をマルチコントローラーで行う際の操作敏感度を設定することができます。



フォーカス/コントロールリング

本メニューでは、レンズの「フォーカス/コントロールリング」の機能設定ができます。

フォーカス/コントロールリング切換えスイッチが非搭載のレンズ

- **FOCUS : フォーカスリングとして使用**
フォーカス/コントロールリングは、フォーカスリングとして動作します。
- **CONTROL : コントロールリングとして使用**
フォーカス/コントロールリングは、コントロールリングとして動作します。なお、**[AF : フォーカスモード]** を **[AF]** で固定するときは、**[Fn]** ボタンを押して **[コントロールリングとして使用するときは、AF固定]** に **[✓]** を付けてください。

フォーカスリングとコントロールリングの両方を搭載し、本メニューが表示されるレンズ

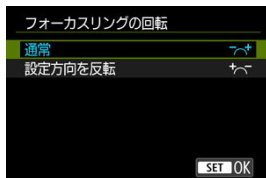
- **FOCUS : フォーカスリングとして使用**
フォーカスリング、コントロールリングの動作は変わりません。
- **CONTROL : コントロールリングとして使用**
フォーカスリングは、コントロールリングとして動作します。コントロールリングは機能しくなります。

参考

- フォーカス/コントロールリング切換えスイッチを搭載したレンズでは、本メニューは表示されません。フォーカス/コントロールリングの機能設定はレンズ側で行ってください。
- フォーカスリングとコントロールリングの両方を搭載し、本メニューが表示されるレンズについては、キヤノンのホームページを参照してください。
- **[ :  クイック設定カスタマイズ]** や **[ :  クイック設定カスタマイズ Q1]** でカスタマイズすると、クイック設定画面からも設定できます ()。

フォーカスリングの回転

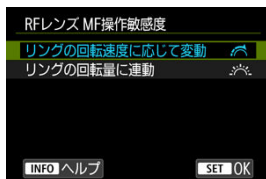
RFレンズのフォーカスリングの設定方向を反転させることができます。



- ➡ : 通常
- ➡ : 設定方向を反転

RFレンズ MF操作敏感度

RFレンズのフォーカスリングを操作するときの感度を設定することができます。



- 速度計 : リングの回転速度に応じて変動
リングの回転速度により、感度が変わります。
- 太陽 : リングの回転量に連動
リングの回転速度に関わらず、回転量に応じてピントが移動します。

[再生時 操作カスタマイズ]

再生時ボタン カスタマイズ

再生時によく使う機能を、自分が操作しやすいボタンに割り当てることができます。

1. [🔊: 再生時ボタン カスタマイズ] を選ぶ (🔊)

2. 操作部材を選ぶ



- 〈INFO〉ボタンを押すと、[🔊: 撮影時ボタン カスタマイズ] に切り換わります (🔊)。

3. 割り当てる機能を選ぶ



- 〈🔊〉を押すと設定されます。
- 画面左下に [INFO] が表示される機能は、〈INFO〉ボタンを押すと、さらに詳細設定を行うことができます。

📖 参考

- [🔊: 再生時ボタン カスタマイズ] で設定した内容を解除するときは、[🔊: 操作カスタマイズ一括解除] を選んでください。

割り当て可能な機能一覧

●：初期値 ○：機能割り当て可能

機能名	M-Fn
On：プロテクト	○
★：レーティング	○
🗑️：画像消去	○
📁📷：📷+📷での画像送り	○
✂️：トリミング	○
🔍：画像の検索	○
🔍：拡大/縮小	○
📱：スマートフォンへ画像を送信	●
📷：撮影時ボタン カスタマイズに従う	○
OFF：無効	○

での画像送り

1枚表示の再生画面で〈〉を回してジャンプ表示する際の、ジャンプ方法を設定することができます。



参考

- [指定した枚数ごとに画像を表示] を選んだときは、〈〉でジャンプする枚数を設定します。
- [指定したレーティングの画像を表示] を選んだときは、〈〉でレーティング (👤) を指定します。★を選んだときは、画像送りを行うと、レーティングが設定されているすべての画像が表示されます。
- 1枚表示の再生画面で〈※〉を左右に押して、ジャンプ方法を変更することもできます。

⏮+🔧での画像送り

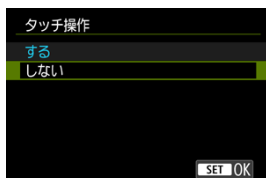
1枚表示の再生画面で [⏮🔧] 機能を割り当てたボタンを押しながら〈🔧〉を回してジャンプ表示する際の、ジャンプ方法を設定することができます。



📖 参考

- この機能は、[🔧: 再生時ボタン カスタマイズ] で [⏮🔧] をボタンに割り当てたときに、設定することができます (🔧)。
- [指定した枚数ごとに画像を表示] を選んだときは、〈🔧〉でジャンプする枚数を設定します。
- [指定したレーティングの画像を表示] を選んだときは、〈🔧〉でレーティング (🔧) を指定します。★を選んだときは、画像送りを行うと、レーティングが設定されているすべての画像が表示されます。

タッチ操作



- タッチ操作を禁止するときは、[しない]を選びます。

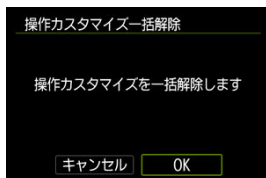
! 注意

タッチパネル操作時の注意事項

- 爪やボールペンなど、先のとがったもので操作しないでください。
- 濡れた指で操作しないでください。モニターに水滴がついていたり、濡れた指で操作すると、反応しなくなったり、誤動作することがあります。カメラの電源を一旦切ってから、布などでふき取ってください。
- モニターに市販の保護シートやシールを貼ると、タッチの反応が悪くなることがあります。

操作カスタマイズ一括解除

[: 操作カスタマイズ一括解除] を選ぶと、操作カスタマイズの設定を一括で解除することができます。



撮影スタイルに応じて、カメラの機能を細かく変更することができます。また、設定変更の頻度が高いメニュー機能とカスタム機能を選んで、マイメニュータブに登録することができます。

- [メニュー目次：カスタム機能タブ](#)
- [カスタム機能で変更できる内容](#)
- [メニュー目次：マイメニュータブ](#)
- [マイメニューの登録](#)

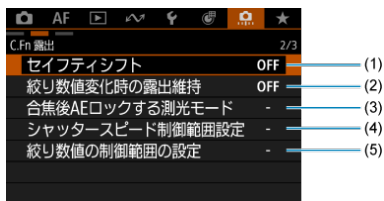
メニュー目次：カスタム機能タブ

● C.Fn 露出



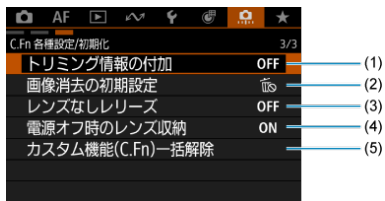
- (1) [露出設定ステップ](#)
- (2) [ISO感度設定ステップ](#)
- (3) [ISOオートで測光中にISO感度変更](#)
- (4) [ブラケティング自動解除](#)
- (5) [ブラケティング順序](#)
- (6) [ブラケティング時の撮影枚数](#)

● C.Fn 露出



- (1) [セーフティシフト](#)
- (2) [絞り数値変化時の露出維持](#)
- (3) [合焦後AEロックする測光モード](#)
- (4) [シャッタースピード制御範囲設定](#)
- (5) [絞り数値の制御範囲の設定](#)

● C.Fn 各種設定/初期化



- (1) [トリミング情報の付加](#)
- (2) [画像消去の初期設定](#)
- (3) [レンズなしリリース](#)
- (4) [電源オフ時のレンズ収納](#)
- (5) [カスタム機能\(C.Fn\)一括解除](#)

[🔧 : カスタム機能(C.Fn)一括解除] を選ぶと、設定されているカスタム機能がすべて解除されます。

カスタム機能で変更できる内容

☑ [\[C.Fn 露出\]](#)

☑ [\[C.Fn 各種設定/初期化\]](#)

撮影スタイルに応じて、[\[C.Fn\]](#) タブでカメラの機能を細かく設定することができます。初期設定から変更した内容は、設定値が青色で表示されます。

[C.Fn 露出]

露出設定ステップ

シャッタースピードと絞り数値、および露出補正、AEB、ストロボ調光補正などの設定ステップを1/2段ステップにすることができます。

- 1/3 : 1/3段
- 1/2 : 1/2段

参考

- [1/2段] 設定時は、図のように表示されます。



- シャッタースピードが下限値に設定されている場合など、設定によっては露出設定ステップがずれることがあります。

ISO感度設定ステップ

ISO感度の手動設定ステップを1段ステップに変更することができます。

- 1/3 : 1/3段
- 1/1 : 1段

参考

- [1段] に設定しても、ISOオート設定時は1/3段ステップで自動設定されます。

ISOオートで測光中にISO感度変更

〈P〉〈Tv〉〈Av〉〈M〉〈B〉モードで、ISO感度がオートのときに、測光中または測光タイマー中に、ISO感度を変更した場合に、測光タイマー完了後のISO感度の状態を設定することができます。

- **AUTO** → **測光タイマー後オートに戻す**
- **AUTO** → **測光タイマー後オートに戻さない**

ブラケットング自動解除

電源スイッチを〈OFF〉にしたときの、AEBとWBブラケットングの解除を設定することができます。

- **ON** : する
- **OFF** : しない

ブラケットング順序

AEBの撮影順序と、WBブラケットング撮影時の画像の記録順序を変更することができます。

- **0-+ : 0→-→+**
- **-0+ : -→0→+**
- **+0- : +→0→-**

AEB	WBブラケットング	
	B/A方向設定時	M/G方向設定時
0 : 標準露出	0 : 基準ホワイトバランス	0 : 基準ホワイトバランス
- : マイナス補正	- : ブルー寄りに補正	- : マゼンタ寄りに補正
+ : プラス補正	+ : アンバー寄りに補正	+ : グリーン寄りに補正

ブラケットング時の撮影枚数

AEB撮影、WBブラケットング撮影時の撮影枚数を変更することができます。
 なお、**「ブラケットング順序」**を**「0→-→+」**に設定したときは、下表のように撮影されます。

- 3 : 3枚
- 2 : 2枚
- 5 : 5枚
- 7 : 7枚

(1段ステップ設定時)

	1枚目	2枚目	3枚目	4枚目	5枚目	6枚目	7枚目
3 : 3枚	標準 (0)	-1	+1				
2 : 2枚	標準 (0)	±1					
5 : 5枚	標準 (0)	-2	-1	+1	+2		
7 : 7枚	標準 (0)	-3	-2	-1	+1	+2	+3

参考

- **「2枚」**設定時は、AEBレベルを設定するときに補正方向（+または-）を選ぶことができます。WBブラケットング設定時は、B/A方向、またはM/G方向のマイナス補正になります。

セーフティシフト

被写体の明るさが変化して、自動露出で標準露出が得られる範囲を超えたとき、手動設定値をカメラが自動的に変更して、標準露出で撮影することができます。[Tv値/Av値]は〈Tv〉、〈Av〉モードで機能します。[ISO感度]は〈P〉、〈Tv〉、〈Av〉モードで機能します。

- OFF : しない
- Tv/Av : Tv値/Av値
- ISO : ISO感度

参考

- [ :  ISO感度に関する設定] で、[ISO感度の範囲] [オートの低速限界] が初期状態から変更されていても、標準露出が得られないときは、セーフティシフトが優先されます。
- ISO感度でセーフティシフトが行われたときの下限感度、上限感度は、[オートの範囲] の設定によります ()。ただし、手動設定されているISO感度が [オートの範囲] を超えているときは、手動設定した感度までの範囲でセーフティシフトが行われます。
- ストロボ撮影時も状況に応じてセーフティシフトが行われます。

絞り数値変化時の露出維持

〈M〉モード（マニュアル露出撮影）+ISO感度任意設定時に（ISOオート設定時を除く）、（1）レンズを交換したとき、（2）エクステンダーを装着したとき、（3）開放絞り数値が変化するズームレンズを使用したときは、開放絞り数値が大きい数値（小絞り側）に変化することがあります。絞り開放の設定のまま撮影を行うと、開放絞り数値が暗くなった段数分、露出アンダー（露出不足）になりますが、ISO感度、またはシャッタースピード（Tv値）を自動的に変更して、（1）、（2）または（3）を行う前と同じ露出で撮影することができます。[ISO感度/Tv値] は、ISO感度設定範囲内でISO感度を自動的に変更します。ISO感度を変更しても露出が維持できないときは、シャッタースピード（Tv値）を自動的に変更します。

- OFF : しない
- ISO : ISO感度
- ISO/Tv : ISO感度/Tv値
- Tv : Tv値

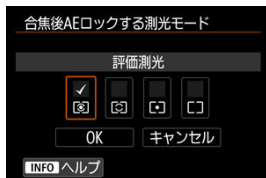
⚠ 注意

- マクロレンズ使用時の（撮影倍率の変更による）実効絞り数値の変化には対応していません。
- [ISO感度] 設定時に、[ISO感度の範囲] で設定した範囲内で露出が維持できないときは、（1）、（2）または（3）を行う前と同じ露出になりません。
- [Tv値] 設定時に、[ : シャッタースピード制御範囲設定] で設定した範囲内で露出が維持できないときは、（1）、（2）または（3）を行う前と同じ露出になりません。
- [ : シャッター方式] が [電子シャッター ] のとき、[絞り数値変化時の露出維持] を [Tv値] または [ISO感度/Tv値] に設定すると、Tv値が1/8000に制限されます。

📖 参考

- この機能は最大絞り数値（最小絞り）の変化にも対応しています。
- [ISO感度] [ISO感度/Tv値] [Tv値] の設定で（1）、（2）または（3）を行ったあと、ISO感度、シャッタースピード、絞り数値を任意に変更せずに（1）、（2）または（3）を行う前の状態に戻すと、露出設定が元の状態に戻ります。
- [ISO感度] 設定時に、拡張ISO感度に達したときは、露出維持のためシャッタースピードが変化することがあります。

合焦後AEロックする測光モード



ワンショットAFでピントが合ったときに、露出を固定（AEロック）するかどうかを、測光モードごとに設定することができます。シャッターボタンを半押ししている間、露出が固定されます。AEロックする測光モードを選び、[✓] を付けます。[OK] を選ぶと設定されます。

シャッタースピード制御範囲設定

シャッタースピードの制御範囲を、[📷: シャッター方式] ごとに設定することができます。〈Fv〉〈Tv〉〈M〉モードのときは、設定した範囲でシャッタースピードを手動設定することができます。〈P〉〈Av〉モードのときや、〈Fv〉モードでシャッタースピードを[AUTO]にしたときは、設定した範囲でシャッタースピードが自動設定されます（動画撮影時を除く）。[OK] を選ぶと設定されます。

● 電子先幕

- 低速側：30秒～1/2000秒の範囲で設定することができます。
- 高速側：1/4000～15秒の範囲で設定することができます。

● 電子シャッター

- 低速側：30秒～1/8000秒の範囲で設定することができます。
- 高速側：1/16000～15秒の範囲で設定することができます。

❗ 注意

- 高周波フリッカーレス撮影時は、本設定は適用されません。

絞り数値の制御範囲の設定

絞り数値の制御範囲を設定することができます。〈Fv〉〈Av〉〈M〉〈B〉モードのときは、設定した範囲で絞り数値を手動設定することができます。〈P〉〈Tv〉モードのときや、〈Fv〉モードで絞り数値を〔AUTO〕にしたときは、設定した範囲で絞り数値が自動設定されます。〔OK〕を選ぶと設定されます。

- **開放側**
F1.0～F64の範囲で設定することができます。
- **小絞り側**
F91～F1.4の範囲で設定することができます。



参考

- 絞り数値の制御範囲は、使用するレンズの最小絞り数値と開放絞り数値により異なります。

トリミング情報の付加

トリミング情報の設定を行うと、撮影時に設定した比率に応じた縦線が画面に表示され、6×6cm、4×5inchなど、中判／大判カメラと同じ構図で撮影することができます。撮影を行うと、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalでトリミングを行うための縦横比の情報が、画像に付加されます（トリミングされた画像が、カードに記録されるわけではありません）。パソコンに画像を取り込み、Digital Photo Professionalを使用すると、撮影時に設定した縦横比で簡単にトリミングすることができます。

- OFF : しない
- 6:6 : 比率6:6
- 3:4 : 比率3:4
- 4:5 : 比率4:5(六切)
- 6:7 : 比率6:7
- 5:6 : 比率5:6(四切)
- 5:7 : 比率5:7

⚠ 注意

- [📷 : 静止画クロップ/アスペクト] が [フルサイズ] 以外に設定されているときは、トリミング情報は設定できません。
- トリミング情報が付加されたRAW画像をカメラで現像処理しても (🔍)、JPEG/HEIF画像はトリミングされた状態では保存されません。RAW現像を行ったときは、トリミング情報が付加されたJPEG/HEIF画像が保存されます。

📖 参考

- 設定した比率に応じた縦線が画面に表示されます。

画像消去の初期設定

画像再生時や撮影直後の画像表示中に〈〉ボタンを押すと、消去メニューが表示されますが（）、そのときにどの項目が選択されているかを設定することができます。

〔キャンセル〕以外に設定したときは、〈〉を押すだけで画像を素早く消去することができます。

-  : [キャンセル]を選択
-  : [消去]を選択
- **RAW** : [RAWのみ消去]を選択
- **J/H** : [RAW以外を消去]を選択

⚠ 注意

- [キャンセル]以外に設定したときは、画像を誤って消去しないように注意してください。

レンズなしリリース

レンズを取り付けていないときに、静止画撮影や動画撮影を許可するかどうかを設定することができます。

- **OFF** : しない
- **ON** : する

電源オフ時のレンズ収納

カメラの電源スイッチを〈OFF〉にしたときに、ギアタイプのSTMレンズ（例：RF35mm F1.8 Macro IS STM）の繰り出している部分の自動収納を設定することができます。

- **ON：する**
- **OFF：しない**

注意

- オートパワーオフのときは、設定に関わらずレンズは収納されません。
- レンズが収納されたことを確認してからレンズを取り外してください。

参考

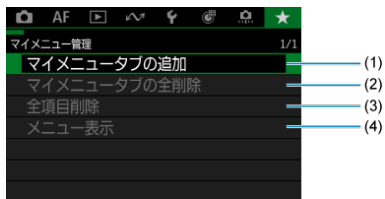
- **〔する〕** 設定時は、レンズのフォーカスモードスイッチの設定（AF/MF）に関わらず機能します。

カスタム機能(C.Fn)一括解除

〔：カスタム機能(C.Fn)一括解除〕 を選ぶと、カスタム機能の設定を一括で解除することができます。

メニュー目次：マイメニュータブ

● マイメニュー管理



- (1) [マイメニュータブの追加](#)
- (2) [マイメニュータブの全削除](#)
- (3) [全項目削除](#)
- (4) [メニュー表示](#)

マイメニューの登録

- ☒ [マイメニュータブの追加（作成）](#)
- ☒ [マイメニュータブに項目を登録](#)
- ☒ [マイメニュータブの設定](#)
- ☒ [マイメニュータブの全削除／全項目削除](#)
- ☒ [メニュー表示の設定](#)

設定変更の頻度の高いメニュー機能とカスタム機能を選んで、マイメニュータブに登録することができます。

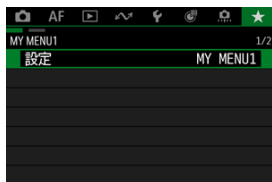
マイメニュータブの追加（作成）

1. [★：マイメニュータブの追加] を選ぶ (🔖)
2. [OK] を選ぶ



- 手順1、2を繰り返すと、[MY MENU5] まで作成することができます。

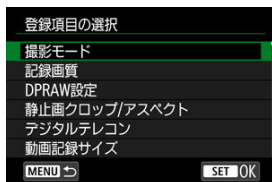
1. [MY MENU* : 設定] を選ぶ



2. [登録項目の選択] を選ぶ



3. 項目を登録する



- 項目を選び〈MENU〉を押します。
- 確認画面で〔OK〕を選ぶと登録されます。
- 6項目まで登録できます。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、手順2の画面に戻ります。

マイメニュータブの設定



タブに登録した項目の並び替え、項目またはタブの削除、タブの名称の変更を行うことができます。

- **登録項目の並び替え**

登録した項目の並び順を変えることができます。[登録項目の並び替え]を選び、並び順を変える項目を選んで〈〉を押します。[◆]が表示された状態で〈〉を回して並び順を変え、〈〉を押します。

- **選択して削除／タブ内の全項目削除**

登録した項目を削除することができます。[選択して削除]を選ぶと1項目ずつ削除、[タブ内の全項目削除]を選ぶと、タブ内に登録されている項目がすべて削除されます。

- **タブの削除**

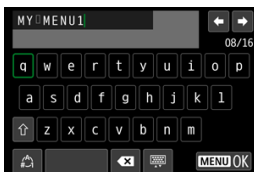
現在設定しているタブを削除することができます。[タブの削除]を選ぶと、[MY MENU *] のタブが削除されます。

- **タブ名の変更**

タブの名称を [MY MENU*] から任意の名称に変更することができます。

1. [タブ名の変更] を選ぶ

2. 文字を入力する

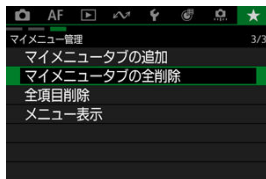


- 〈〉〈〉を操作して文字を選び、〈〉を押すと入力されます。
- [] を選ぶと、入力モードが切り換わります。
- [] を選ぶか、〈〉ボタンを押すと、1文字消去されます。

3. 入力を確定する

- 〈MENU〉ボタンを押して [OK] を選びます。

マイメニュータブの全削除／全項目削除



作成したすべてのタブの削除、作成したすべてのタブに登録されている全項目の削除を行うことができます。

● マイメニュータブの全削除

作成したタブをすべて削除することができます。[マイメニュータブの全削除]を選ぶと、[MY MENU1] ～ [MY MENU5] のタブがすべて削除され、[★] タブが初期状態に戻ります。

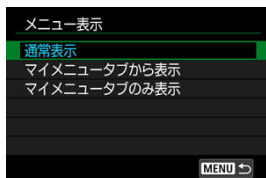
● 全項目削除

[MY MENU1] ～ [MY MENU5] タブに登録されている項目だけを、すべて削除することができます。タブ自体は削除されません。[全項目削除]を選ぶと、作成したすべてのタブに登録されている全項目が削除されます。

❗ 注意

- [タブの削除] [マイメニュータブの全削除] を行くと、[タブ名の変更] で設定した名前も削除されます。

メニュー表示の設定



【メニュー表示】を選ぶと、〈MENU〉ボタンを押したときに表示する画面を設定することができます。

- **通常表示**

前回操作を行ったときに、最後に表示していたメニュー画面が表示されます。

- **マイメニュータブから表示**

〔★〕タブの画面から表示されます。

- **マイメニュータブのみ表示**

〔★〕タブの画面だけが表示されます（〔📷〕〔AF〕〔▶〕〔⤴〕〔🔍〕〔🔍〕〔🔍〕タブは表示されません）。

この章では、撮影の参考になるカメラの機能情報などの説明を行っています。

- [パソコンへの画像の取り込み](#)
- [スマートフォンへの画像の取り込み](#)
- [エクステンショングリップを使う](#)
- [故障かな？と思ったら](#)
- [エラー表示](#)
- [情報表示](#)
- [主な仕様](#)

パソコンへの画像の取り込み

☒ [カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続する](#)

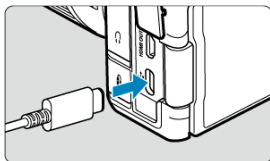
☒ [カードリーダーを使う](#)

☒ [カメラとパソコンをWi-Fi接続する](#)

EOS用のソフトウェアを使って、カメラで撮影した画像をパソコンに取り込むことができます。

カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続する

1. EOS Utilityをインストールする (📎)
2. [📷 : USB接続アプリの選択] で [画像取り込み/リモート制御] を選ぶ (📎)
3. カメラとパソコンを接続する



- インターフェースケーブルを使用します。
- パソコンのUSB端子にプラグを差し込みます。

4. EOS Utilityを使って画像を取り込む

- EOS Utility使用説明書を参照してください。

 注意

- Wi-Fi接続中に、カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続しても、パソコンと通信できません。

カードリーダーを使う

カードリーダーを使って画像をパソコンに取り込むことができます。

1. Digital Photo Professionalをインストールする (📎)

2. カードリーダーにカードを差し込む

3. Digital Photo Professionalを使って画像を取り込む

- Digital Photo Professional使用説明書を参照してください。



参考

- EOS用ソフトウェアを使わずに、カードリーダーを使って画像を取り込むときは、カード内のフォルダ（DCIM、XFVC）をパソコンにコピーしてください。

カメラとパソコンをWi-Fi接続する

カメラとパソコンをWi-Fi接続して、画像をパソコンに取り込むことができます (📷)。

スマートフォンへの画像の取り込み

[準備](#)

[Camera Connectを使用する場合](#)

[スマートフォンの機能を使用する場合](#)

マルチアクセサリ—シュースmartフォンリンクアダプター AD-P1（別売／Androidスマートフォンのみ）またはUSBケーブルでカメラとスマートフォンを接続して、カメラで撮影した画像をスマートフォンに取り込むことができます。

準備

1. : USB接続アプリの選択] で項目を選ぶ

- Androidスマートフォンと接続するとき、またはiOSスマートフォンと接続して写真アプリを使用するときは、**[画像取り込み/リモート制御]** を選びます。
- iOSスマートフォンと接続して、Camera Connectを使用するときは **[iPhone Canon アプリ]** を選びます。
- 設定が終了したら、カメラの電源を切ります。

2. AD-P1またはUSBケーブルでカメラとスマートフォンを接続する

- AD-P1を使用する場合は、AD-P1に同梱の使用説明書を参照してください。
- Androidスマートフォンと接続するUSBケーブルは、キヤノン純正品（インターフェースケーブル IFC-100UまたはIFC-400U）の使用をおすすめします。
- iOSスマートフォンと接続するUSBケーブルについては、キヤノンのホームページを参照してください。

1. スマートフォンにインストールしたCamera Connectを起動する

- Camera Connectのインストールについては、『スマートフォンにCamera Connectをインストールする』を参照してください (24)。

2. カメラの電源を入れる

3. [カメラ内の画像一覧] をタップする

- 表示された画像を選んで、スマートフォンに取り込みます。

1. カメラの電源を入れる

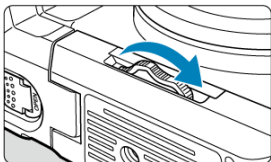
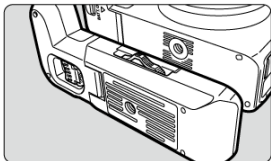
2. スマートフォンを操作して画像を取り込む

- Androidスマートフォンの場合は、Camera Connectを使って画像を取り込みます (📷)。
- iOSスマートフォンの場合は、写真アプリを起動して、カード内の画像を取り込みます。

エクステンショングリップを使う

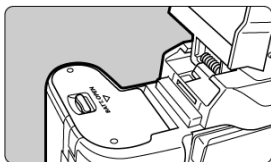
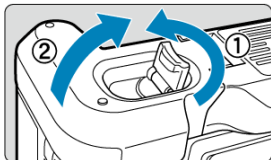
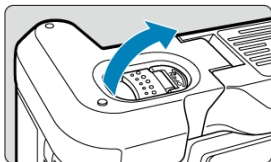
エクステンショングリップ EG-E2（別売）は、カメラをさらに持ちやすくするための専用アクセサリーです。カメラに取り付けた状態で、バッテリーを入れたり取り出したりすることができます。

1. エクステンショングリップを固定する



- 図のように取り付け、着脱ダイヤルを回して固定します。

2. エクステンショングリップのふたを開く



- バッテリーの入れ方と取り出し方は[バッテリーを入れる／取り出す](#)を参照してください。

故障かな？と思ったら

- ☒ [電源関連](#)
- ☒ [撮影関連](#)
- ☒ [通信機能関連](#)
- ☒ [操作関連](#)
- ☒ [表示関連](#)
- ☒ [再生関連](#)
- ☒ [センサークリーニング関連](#)
- ☒ [パソコン接続関連](#)
- ☒ [マルチアクセサリシュー関連](#)

「カメラが故障したのかな？」と思ったら、下記の例を参考にしてカメラをチェックしてください。なお、チェックしても状態が改善しないときは、修理受付窓口にご相談ください。

充電器でバッテリーが充電できない

- 純正のバッテリーパック LP-E17を使用してください。
- 充電、または充電器に関する不具合は、[バッテリーを充電する](#)を参照してください。

充電器のランプが点滅する

- (1) 充電器またはバッテリーに異常が発生した場合や、(2) バッテリーと通信できない場合（純正以外のバッテリー使用時）は、保護回路が働き充電が中止され、オレンジ色のランプが点滅します。(1) の場合は、充電器のプラグをコンセントから抜き、バッテリーの取り外し／取り付けを行ってから、2～3分後にもう一度コンセントに差し込んでください。改善しない場合は、修理受付窓口にご相談ください。

USB電源アダプター（別売）で充電できない

- カメラの電源スイッチが〈ON〉〈〉のときは充電は行われません。ただし、オートパワーオフ中は充電が行われます。
- バッテリー残量が十分なときは、充電は行われません。
- 充電中にカメラを操作すると、充電は中断されます。

USB電源アダプターでの充電中にアクセスランプが点滅する

- 充電中に異常が発生した場合は、保護回路が働き充電が中止され、アクセスランプが緑色に点滅します。電源プラグをコンセントから抜き、バッテリーの取り外し／取り付けを行ってから、2～3分後にもう一度コンセントに差し込んでください。改善しない場合は、修理受付窓口にご相談ください。
- バッテリーの内部温度が高い、または低い場合は、保護回路が働き充電が中止され、アクセスランプが緑色に点滅します。このときは、バッテリーを周囲の温度になじませてから、再度充電してください。

USB電源アダプターでの充電でアクセスランプが点灯しない

- USB電源アダプターのプラグを一度抜いてから差し直してください。

USB電源アダプターで給電できない

- バッテリー収納部を確認してください。バッテリーパックがない状態では、給電は行われません。
- バッテリー残量を確認してください。バッテリー残量がないときは、充電が行われます。給電は行われません。

電源スイッチを〈ON〉にしてもカメラが作動しない

- バッテリーがカメラにきちんと入っているか確認してください (🔍)。
- カードスロットカバーが閉じているか確認してください (🔍)。
- バッテリーを充電してください (🔍)。

電源スイッチを〈OFF〉にしてもアクセスランプが点灯／点滅する

- カードへの画像記録中に電源を切ると、アクセスランプが数秒間点灯／点滅します。画像記録が終了すると、自動的に電源が切れます。

「ご使用のバッテリーにCanonのロゴはありますか？」と表示される

- 純正のバッテリーパック LP-E17を使用してください。
- バッテリーの出し入れを行ってください (🔍)。
- バッテリーの接点が汚れているときは、やわらかい布などでふいてください。

バッテリーの消耗が早い

- フル充電したバッテリーを使用してください (🔍)。
- バッテリーの性能が劣化している可能性があります。[🔍: バッテリー情報] でバッテリーの劣化状態を確認してください (🔍)。劣化している場合は、新しいバッテリーをお買い求めください。
- 下記の操作を行うとバッテリーが早く消耗します。
 - シャッターボタン半押し状態を長く続ける
 - AF動作だけを行って撮影しない操作を頻繁に行う
 - 手ブレ補正機能を使用する
 - Wi-Fi機能、Bluetooth機能を使用する
 - モニターを頻繁に使用する
 - マルチアクセサリシュー対応アクセサリを使用する

電源が勝手に切れる

- オートパワーオフ機能が働いています。自動的に電源が切れないようにしたいときは、**[🔋：節電]**の**[オートパワーオフ]**を**[しない]**にしてください (🔗)。
- **[オートパワーオフ]**を**[しない]**に設定していても、**[モニターオフ]**や**[ファインダーオフ]**で設定した時間放置すると、モニターやファインダーの表示が消えます (カメラの電源は切れません)。

レンズが装着できない

- EFレンズ、EF-Sレンズを装着するにはマウントアダプターが必要です。なお、EF-Mレンズは使用できません (🔗)。

撮影・記録ができない

- カードが正しくセットされているか確認してください (🔗)。
- カードの書き込み禁止スイッチを、書き込み・消去可能な位置にしてください (🔗)。
- カードの空き容量がない場合は、空き容量のあるカードに交換するか、不要な画像を消去してください (🔗、🔗)。
- ピントを合わせたときに、AFフレームがオレンジ色のときは撮影できません。もう一度シャッターボタンを半押ししてピントを合わせなおすか、手動でピントを合わせてください (🔗、🔗)。

カードが使えない

- カードのトラブルに関するメッセージが表示されたときは、[カードを入れる／取り出す、エラー表示](#)を参照してください。

カードを他のカメラに入れるとエラーになる

- SDXCカードはexFAT形式でフォーマットされるため、このカメラで初期化したカードを他のカメラに入れると、エラーが表示され使用できないことがあります。

画像がボケている／ブレている

- フォーカスモードを「AF」にしてください (🔗)。
- 手ブレを起こさないように、シャッターボタンを静かに押してください (🔗)。
- 手ブレ補正機能を搭載したレンズのときは、手ブレ補正スイッチを〈ON〉にしてください。
- 暗い場所では、シャッタースピードが遅くなることがあります。シャッタースピードを速くする (🔗)、ISO感度を上げる (🔗)、ストロボを使用する (🔗)、三脚を使用するなどの方法で撮影してください。
- [ブレの少ない画像を撮影するには](#)を参照してください。

ピントを固定したまま構図を変えて撮影できない

- AF動作をワンショットAFにしてください (🔗)。サーボAFのときは、フォーカスロック撮影はできません。

連続撮影速度が遅い

- 高速連続撮影時の連続撮影速度は、バッテリー残量、温度、フリッカー光源、シャッタースピード、絞り数値、被写体条件、明るさ、AF動作、レンズの種類、ストロボ使用、撮影機能の設定などにより低下することがあります (🔋、🌡️)。

連続撮影可能枚数が少なくなる

- 芝生など細かいパターンの被写体を撮影すると、1枚あたりのファイルサイズが大きくなり、実際に連続撮影できる枚数が、静止画記録の[ファイルサイズ/撮影可能枚数/連続撮影可能枚数](#)に目安として示した連続撮影可能枚数より少なくなることがあります。

カードを変えても連続撮影可能枚数の表示が変わらない

- 別のカードに変えても (例：高速タイプのカードを使用しても)、ファインダー内に表示される連続撮影可能枚数は変わりません。また、静止画記録の[ファイルサイズ/撮影可能枚数/連続撮影可能枚数](#)の表に記載している連続撮影可能枚数は、その試験条件のカードで実際に連続撮影できる枚数を示しています (書き込み速度が高速なカードなほど、実際に連続撮影できる枚数が多くなります)。そのため、表示される連続撮影可能枚数と、実際に連続撮影できる枚数は異なることがあります。

クロップ撮影時に一部の記録画質が選択できない

- [1.6倍 (クロップ)] 設定時、およびRF-S/EF-Sレンズ使用時は、記録画質  /  /  /  は選択できません。

高速連続撮影時に高速表示が行われない

- [高速表示](#) を参照して、高速表示が行われる条件を確認してください。

アスペクト比が設定できない

- RF-S/EF-Sレンズ使用時は、アスペクト比の設定はできません ([1.6倍 (クロップ)] に自動設定されます)。
- [🔍：トリミング情報の付加] が [しない] 以外に設定されているときは、アスペクト比の設定はできません。

静止画撮影時にISO100に設定できない

- [📷：高輝度側・階調優先] が [する] [強] に設定されているときは、ISO感度の設定範囲がISO200～になります。

静止画撮影時に拡張ISO感度が選択できない

- [📷: ISO感度に関する設定] で [ISO感度の範囲] の設定を確認してください。
- [📷: 高輝度側・階調優先] が [する] [強] に設定されているときは、拡張ISO感度は設定できません。
- [📷: 📷HDR撮影(PQ)] が [HDR PQ] に設定されているときは、拡張ISO感度は設定できません。

露出を暗めに補正したのに明るく撮影される

- [📷: オートライティングオブティマイザ] を [しない] に設定してください (🔒)。
[弱め] [標準] [強め] に設定されているときは、露出補正、ストロボ調光補正で露出を暗めに補正しても、明るく撮影されることがあります。

マニュアル露出+ISOオート時に露出補正ができない

- [M: マニュアル露出](#) を参照して露出補正を行ってください。

レンズ光学補正設定時に一部の項目が表示されない

- [デジタルレンズオブティマイザ] が [標準] または [強め] に設定されているときは、[色収差補正] [回折補正] は表示されませんが、ともに [する] の設定で撮影されます。
- 動画撮影時に [デジタルレンズオブティマイザ] の項目は表示されません。

〈P〉〈Av〉モードでストロボ撮影するとシャッタースピードが遅くなる

- [📷: 外部ストロボ制御] の [スローシンクロ] を、[1/*-1/60秒自動] *1または[1/*秒固定] *1に設定してください (🔒)。

1: 「1/」の値は設定状況によって異なります。

ストロボが発光しない

- カメラにストロボがしっかり取り付けられているかどうか確認してください。

ストロボがいつもフル発光する

- EL/EXスピードライト以外のストロボを使用して、自動調光モードで撮影すると、常時フル発光します (🔗)。
- ストロボカスタム機能の「調光方式」が「1:TTL」(自動調光) に設定されていると、常時フル発光します (🔗)。

ストロボ調光補正ができない

- ストロボ側で調光補正量が設定されているときは、カメラで補正量の設定はできません。ストロボ側の設定を解除 (ゼロに設定) すると、カメラで設定できるようになります。

〈Fv〉〈Av〉モードでハイスピードシンクロができない

- 「📷: 外部ストロボ制御」の「スローシンクロ」を、「1/*秒固定」*1以外に設定してください (🔗)。

1: 「1/」の値は設定状況によって異なります。

リモコン撮影ができない

- ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1使用時は、リモコンの撮影タイミング切り換えスイッチの位置を確認してください。
- リモコンを使用してタイムラプス動画撮影を行うときは、「タイムラプス動画」を参照してください (🔗)。

動画撮影時に白い [0] または赤い [🔥] が表示される

- カメラ内部の温度が上昇していることを示しています。詳細は、[撮影中のインジケータ表示](#)を参照してください。

📷: 📷HDR撮影(PQ) の設定が「しない」に変更される

- 「📷: 📷HDR撮影(PQ)」を「HDR PQ」に設定した後でタイムラプス動画撮影を行った場合、タイムラプス動画で設定した動画記録形式の色深度 (10bitまたは8bit) が、通常の動画撮影で設定した動画記録形式の色深度と異なっていると、「📷: 📷HDR撮影(PQ)」の設定は「しない」に変更されます。

動画撮影が勝手に終了する

- 書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画撮影が自動的に終了することがあります。動画が記録できるカードについては、[記録時間、映像ビットレート、ファイルサイズの目安、要求カード性能](#)を参照してください。なお、書き込み速度については、カードメーカーのホームページなどで確認してください。
- カードへの書き込み／読み取り速度が遅くなったときは、物理フォーマットでカードを初期化してください (㊟)。
- 動画撮影を開始してから1回の撮影上限時間を経過すると、動画撮影が自動的に終了します。

動画撮影時にISO感度が設定できない

- [M] [M] モードのときはISO感度を任意に設定することができます (㊟)。それ以外の撮影モードのときはISO感度は自動設定されます。
- [高輝度側・階調優先] が [する] [強] に設定されているときは、ISO感度の設定範囲がISO200～になります。

動画撮影時に拡張ISO感度が選択できない

- [高輝度側・階調優先] [ISO感度に関する設定] で [ISO感度の範囲] の設定を確認してください。
- [高輝度側・階調優先] が [する] [強] に設定されているときは、拡張ISO感度は設定できません。

動画撮影時に露出が変化する

- 動画撮影中にシャッタースピードや絞り数値の変更を行うと、露出変化が記録されることがあります。
- 動画撮影中にズーム操作を行うときは、テスト撮影をおすすめします。動画撮影中にズーム操作を行うと、露出変化やレンズの作動音が記録されたり、ピントがズレることがあります。

動画撮影時に画面がちらつく／横縞が写る

- 蛍光灯やLED照明などの光源下で動画撮影を行うと、画面のちらつきや、横縞（ノイズ）や露出ムラが記録されることがあります。また、露出（明るさ）や色あいの変化が記録されることがあります。[M] モードのときは、シャッタースピードを遅くすると、現象が緩和されることがあります。なお、タイムラプス動画を撮影したときは、現象がより強く発生することがあります。

動画撮影時に被写体がゆがむ

- 動画撮影中にカメラを左右に動かしたり（パンニング）、動きのある被写体を撮影すると、像がゆがんで写ることがあります。なお、タイムラプス動画を撮影したときは、現象がより強く発生することがあります。

動画に音声記録されない

- S&F動画には、音声は記録されません。

動画撮影時に静止画が撮影できない

- 動画撮影時に静止画は撮影できません。静止画を撮影するときは、動画撮影を終了して、静止画の撮影モードを選んでから撮影してください。

静止画撮影時に動画撮影ができない

- 映像表示状態を長時間続けるなどして、カメラ内部の温度が上昇しているときは、静止画撮影時からの動画撮影ができないことがあります。カメラの電源を切るなどして、カメラ内部の温度が下がるのを待ってください。
- 動画記録サイズを下げると、撮影可能になることがあります。

動画撮影ができない

- 使用するカードは、このカメラで初期化（フォーマット）してください（）。

カメラが振動する

- 手ブレ補正機能の作動が、振動として感じられることがあります。故障ではありません。

カメラを振ると音がする

- カメラの電源スイッチを〈OFF〉にしたときに、カメラを振ると手ブレ補正機構が移動する音がします。これは故障ではありません。

スマートフォンとペアリングできない

- Bluetooth Specification Version 4.1以上に対応しているスマートフォンを使用してください。
- スマートフォンの設定画面で、Bluetooth機能をONにしてください。
- スマートフォンのBluetooth機能設定画面では、カメラとのペアリングはできません。スマートフォンに専用アプリケーションのCamera Connect（無料）をインストールしてください（🔗）。
- 一度ペアリングしたスマートフォンと再びペアリングするときに、スマートフォン側に前回ペアリングしたときのカメラの登録が残っていると、ペアリングすることができません。そのときは、スマートフォンのBluetooth設定で残っているカメラの登録を解除してから、ペアリングをやり直してください（🔗）。

Wi-Fi機能の設定ができない

- カメラとパソコンなどを、インターフェースケーブルで接続しているときは、Wi-Fi機能の設定はできません。インターフェースケーブルを取り外してから、設定を行ってください（🔗）。

インターフェースケーブルで接続した機器が使えない

- Wi-Fi接続中は、カメラとパソコンなどを、インターフェースケーブルで接続して使用することはできません。Wi-Fi接続を終了してからインターフェースケーブルで接続してください。

撮影や再生などの操作ができない

- Wi-Fi接続中は、撮影や再生などの操作ができないことがあります。Wi-Fi接続を終了してから操作を行ってください。

スマートフォンに再接続できない

- 同じカメラとスマートフォンの組み合わせでも、設定を変更したり、異なる設定を選んでいるときは、同じSSIDを選んでも再接続できなくなることがあります。そのときは、スマートフォンのWi-Fi設定で、カメラとの接続設定を削除してから、接続設定をやり直してください。
- 接続設定をやり直すときに接続先のアプリケーションを起動したままにしていると、接続できないことがあります。そのときは、接続先のアプリケーションを一旦終了させてから再起動してください。

静止画撮影から動画撮影、または動画撮影から静止画撮影に変更すると、設定した内容が変更される

- 設定内容は、静止画撮影時、動画撮影時のそれぞれに記憶されます。

〈〉〈〉〈〉〈〉〈〉で設定を変更できない

- 〈LOCK〉ボタンを押して、マルチ電子ロックを解除してください (🔓)。
- [ : マルチ電子ロック] の設定内容を確認してください (🔓)。

タッチ操作ができない

- [ : タッチ操作] が [する] に設定されているか確認してください (🔓)。

ボタンやスイッチなどが思ったとおりに動かない

- 動画撮影時は [ : 動画撮影時シャッターボタンの機能] の設定を確認してください (🔓)。
- [ : 撮影時ボタン カスタマイズ]、[ : ダイヤル/リング カスタマイズ] の設定内容を確認してください (🔓、🔓)。

メニュー画面に表示されるタブや項目が少ない

- メニュー画面に表示されるタブや項目は、静止画撮影時、動画撮影時で異なります。

【★】マイメニュータブから表示される／【★】タブしか表示されない

- 【★】タブの【メニュー表示】が【マイメニュータブから表示】または【マイメニュータブのみ表示】に設定されています。【通常表示】に設定してください (🔗)。

ファイル名の先頭文字がアンダーバー (「_」) になる

- 【📷 : 色空間】を【sRGB】に設定してください。【Adobe RGB】に設定されているときは、先頭文字がアンダーバーになります (🔗)。

静止画のファイル名の4文字目が変化する

- 【📁 : ファイル名の設定】の【静止画】が【***+画像サイズ】に設定されています。【カメラ固有設定】のファイル名、または【ユーザー設定1】に登録したファイル名を選択してください (🔗)。

画像番号が0001から始まらない

- 画像が記録されているカードを使用すると、撮影した画像の番号が0001から始まらないことがあります (🔗)。

撮影年月日／時刻が正しく表示されない

- 日付／時刻が正しく設定されているか確認してください (🔗)。
- エリア、サマータイムの設定を確認してください (🔗)。

画像に日付／時刻が写し込まれない

- 撮影した画像に日付／時刻は写し込まれません。画像データに撮影情報として記録されます。写真を印刷するときに、その情報を利用して用紙に日付／時刻を入れることができます (🔗)。

【###】が表示される

- カードに記録されている画像数が、カメラで表示できる桁数を超えると【###】と表示されます。

モニターの表示が不鮮明になる

- モニターが汚れているときは、やわらかい布などでふいてください。
- 液晶の特性で低温下での表示反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されます。

画像の一部が黒く点滅する

- [▶ : ハイライト警告表示] が [する] に設定されています (🔗)。

画像に赤い枠が表示される

- [▶ : AFフレーム表示] が [する] に設定されています (🔗)。

画像再生時にAFフレームが表示されない

- 以下の画像を再生したときは、AFフレームは表示されません。
 - トリミングを行った画像
 - HDR撮影で [画像位置自動調整 : する] に設定して撮影した画像

画像が消去できない

- プロテクトされている画像は消去できません (🔗)。

画像（静止画／動画）が再生できない

- 他のカメラで撮影した画像は再生できないことがあります。
- パソコンで編集した動画はカメラで再生できません。

再生できる画像が少ない

- [▶ : 画像検索の条件設定] で再生する画像の絞り込みが行われています (🔗)。検索条件を解除してください。

動画を再生すると作動音や操作音がする

- 動画撮影中にAF動作を行ったり、カメラ／レンズの操作を行うと、カメラに内蔵されたマイクにより、レンズの作動音やカメラ／レンズの操作音が一緒に録音されることがあります。その場合、出力プラグを備えた外部マイクを、カメラやレンズから遠ざけて使用することで、これらの音を低減できることがあります。

動画再生が勝手に終了する

- 動画再生を長時間行ったり、高温下で動画再生を行うと、カメラ内部の温度が上昇し、動画再生が自動的に終了することがあります。
そのときは、カメラ内部の温度が下がるまで、再生ができなくなりますので、一旦電源を切り、しばらく休止してください。

動画が一瞬止まって見える

- 自動露出撮影時に、大きな露出変化が生じると、明るさが安定するまでの一瞬の間、記録を止める仕様になっています。このようなときは、**[M]** モードで撮影してください (🔍)。

テレビに映像が表示されない

- **[📺 : システム周波数]** の **[59.94Hz:NTSC]** **[50.00Hz:PAL]** の設定を確認してください (テレビが対応している方式に合わせてください)。
- HDMIケーブルのプラグが根元までしっかりと差し込まれているか確認してください (🔍)。

カードリーダーでカードを認識できない

- SDXCカードは、お使いのカードリーダーやパソコンのOSにより、カードリーダーに差し込んでも正しく認識されないことがあります。そのときは、カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続し、EOS用ソフトウェアのEOS Utility (🔍) を使って画像を取り込んでください。

画像をリサイズ／トリミングできない

- JPEGの**S2**、RAW画像、4K動画からフレーム切り出しを行い静止画として保存した画像は、カメラでリサイズできません (🔍)。
- RAW画像、4K動画からフレーム切り出しを行い静止画として保存した画像は、カメラでトリミングできません (🔍)。

画像に輝点が発生する

- 撮像素子が宇宙線などの影響を受けると、撮影画像に「輝点（白、赤、青など）」が生じることがあります。**[📷 : センサークリーニング]** の **[今すぐクリーニング:🔍]** を行うと (🔍)、輝点の発生が改善することがあります。

センサークリーニング関連

センサークリーニング中にシャッター音がする

- [今すぐクリーニング 

撮像素子の自動清掃が行われない

- 電源スイッチの〈ON〉〈OFF〉を短い時間で繰り返すと、[] が表示されないことがあります (🔒)。

パソコンに画像が取り込めない

- EOS用ソフトウェアのEOS Utilityをパソコンにインストールしてください (🔗)。
- EOS Utilityのメイン画面が表示されていることを確認してください。
- Wi-Fi接続中は、インターフェースケーブルを使用してパソコンと通信を行うことはできません。
- アプリケーションのバージョンを確認してください。

カメラとパソコンを接続しても通信できない

- EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使用するときは、[📷: タイムラプス動画] を [しない] に設定してください (🔗)。

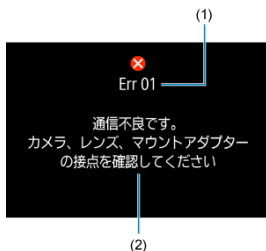
アクセサリーを取り付けると、モニターにメッセージが表示される

- **「通信エラーが発生しました アクセサリーを付けなおしてください」**と表示されたときは、アクセサリーを取り付け直してください。再度取り付けて同じメッセージが表示される場合は、マルチアクセサリースイッチまたはアクセサリーの端子にゴミや水滴などが付着していないかを確認してください。なお、ゴミや水滴などが除去できないときは、修理受付窓口にお申し付けください。
- **「アクセサリーが使用できない状態です」**と表示されたときは、マルチアクセサリースイッチまたはアクセサリーの端子を確認するか、アクセサリーが故障していないかを確認してください。

マルチアクセサリースイッチスマートフォンリンクアダプター AD-P1を使用時に、本体側のUSBが使用できない

- マルチアクセサリースイッチスマートフォンリンクアダプター AD-P1を使用してUSB接続する場合、本体側のUSBは使用できません。本体側のUSBを使用する場合は、AD-P1を取り外してください。

エラー表示



- (1) エラー番号
(2) 原因・対処方法

カメラに異常が発生すると、エラー画面が表示されます。表示される内容に従って対応してください。

問題が解決しないときは、エラー番号（Err xx）を控えて、修理をご依頼ください。

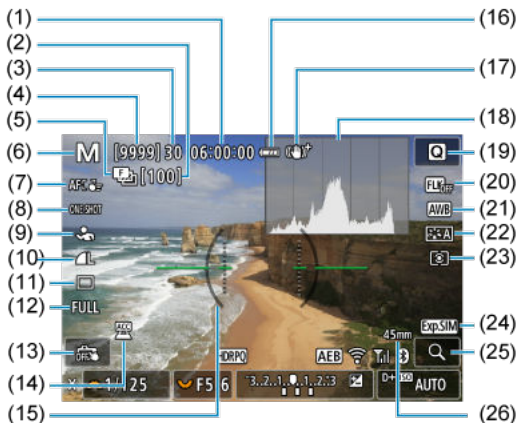
情報表示

- ☒ 静止画撮影画面
- ☒ 動画撮影画面
- ☒ シーン判別アイコン
- ☒ 再生画面

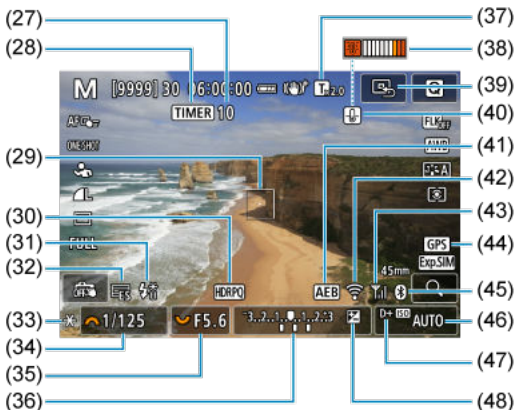
静止画撮影画面

〈INFO〉ボタンを押すと、押すたびに情報表示内容が切り換わります。

- 設定に応じた部分のみ表示されます。



(1)	動画撮影可能時間
(2)	フォーカスブラケット撮影残り枚数／多重露出撮影重なる枚数
(3)	連続撮影可能枚数／多重露出撮影残り枚数
(4)	撮影可能枚数／セルフタイマー撮影秒数
(5)	フォーカスブラケット撮影／HDRモード／多重露出撮影／プリ連続撮影
(6)	撮影モード
(7)	AFエリア
(8)	AF動作
(9)	検出する被写体
(10)	記録画質
(11)	ドライブモード
(12)	静止画クロップ/アスペクト比
(13)	タッチシャッター／フォルダ作成
(14)	アクセサリ取り付け表示
(15)	水準器
(16)	バッテリー残量
(17)	手ブレ補正 (IS機能)
(18)	ヒストグラム (輝度／RGB)
(19)	クイック設定ボタン
(20)	フリッカーレス撮影
(21)	ホワイトバランス／ホワイトバランス補正
(22)	ピクチャースタイル
(23)	測光モード
(24)	表示Simulation／OVFビューアシスト
(25)	拡大ボタン
(26)	焦点距離表示



- (27) インターバルタイマー残り枚数
- (28) インターバルタイマー撮影/バルブタイマー撮影
- (29) AFフレーム (1点AF)
- (30) HDR撮影 (PQ)
- (31) ストロボ充電完了/FEロック/ハイスピードシンクロ
- (32) 電子シャッター/サイレントシャッター機能
- (33) AEロック
- (34) シャッタースピード
- (35) 絞り数値
- (36) 露出レベル表示 (露出補正量、AEBレベル)
- (37) デジタルテレコン
- (38) 温度上昇警告
- (39) AFフレーム中央戻し
- (40) 静止画画質劣化警告
- (41) AEB撮影/FEB撮影
- (42) Wi-Fi機能
- (43) Wi-Fi電波強度/機内モード
- (44) GPS接続表示
- (45) Bluetooth機能
- (46) ISO感度
- (47) 高輝度側・階調優先
- (48) 露出補正

参考

- 〈INFO〉 ボタンを押したときに表示する内容を設定することができます (🔗)。
- カメラとテレビをHDMIケーブルで接続したときは、水準器は表示されません。
- この他に、設定を変更したときに一時的に表示されるアイコンもあります。

動画撮影画面

〈INFO〉ボタンを押すと、押すたびに情報表示内容が切り換わります。

- 設定に応じた部分のみ表示されます。

撮影待機中



動画撮影中



- | | |
|------|------------------------------|
| (1) | 動画縦位置情報 |
| (2) | 動画撮影可能時間 |
| (3) | 撮影モード |
| (4) | 動画撮影可能回数 |
| (5) | 動画記録サイズ |
| (6) | ヘッドフォン音量 |
| (7) | 録音レベル（マニュアル入力） |
| (8) | 動画サーボAF |
| (9) | 動画セルフタイマー |
| (10) | 温度上昇緩和 |
| (11) | 録音レベルメーター |
| (12) | 動画撮影ボタン（撮影開始） |
| (13) | ピクチャースタイル/カラーフィルター/カスタムピクチャー |
| (14) | デジタルズーム |
| (15) | 露出レベル表示（測光値） |
| (16) | ガンマ、色空間/HDR動画撮影/ピュアアシスト表示 |
| (17) | 撮影経過時間 |
| (18) | 温度上昇警告 |
| (19) | 動画撮影中 |
| (20) | 動画撮影ボタン（撮影終了） |

* 記載のない項目は[静止画撮影画面](#)と共通のため、説明を省いています。

❗ 注意

- 〈INFO〉ボタンを押したときに表示する内容を設定することができます (🔗)。
- カメラとテレビをHDMIケーブルで接続したときは、水準器は表示されません。
- 動画撮影中にヒストグラムを表示することはできません（表示した状態で動画撮影を開始すると、表示が消えます）。
- 「動画撮影可能時間」は、撮影が始まると「撮影経過時間」に変わります。

📖 参考

- この他に、設定を変更したときに一時的に表示されるアイコンもあります。

シーン判別アイコン

モードダイヤルが  のときは、カメラがシーンを判別して、シーンに合った全自動撮影が行われます。判別したシーンは、画面の左上に表示されます。

背景	被写体	人物*1		人物以外の被写体			背景色
			動いているとき*2	自然や屋外シーン	動いているとき*2	近いとき*3	
明るい						灰色	
							
青空を含む						水色	
							
夕景	*4				*4	オレンジ色	
スポットライト						紺色	
暗い							
三脚使用時*1	 *5*6	*4	 *5*6	*4			

*1：タイムラプス動画撮影時は、人物を検知しても「人物以外の被写体」のアイコンが表示されません。

*2：動画撮影中は表示されません。

*3：距離情報を持っているレンズを使用しているときに表示されます。なお、エクステンションチューブやクローズアップレンズ併用時は、実際のシーンと異なるアイコンが表示されることがあります。

*4：判別可能なシーンから選ばれたアイコンが、適宜表示されます。

*5：下記の条件が揃ったときに表示されます。

「撮影シーンが暗いとき」「夜景撮影時」「三脚などでカメラを固定しているとき」

*6：下記のレンズを使用したときに表示されます。

- EF300mm F2.8L IS II USM
- EF400mm F2.8L IS II USM
- EF500mm F4L IS II USM
- EF600mm F4L IS II USM
- 2012年以降に発売された手ブレ補正機能内蔵レンズ

*5と*6の条件がすべて揃ったときは、シャッタースピードが遅くなります。

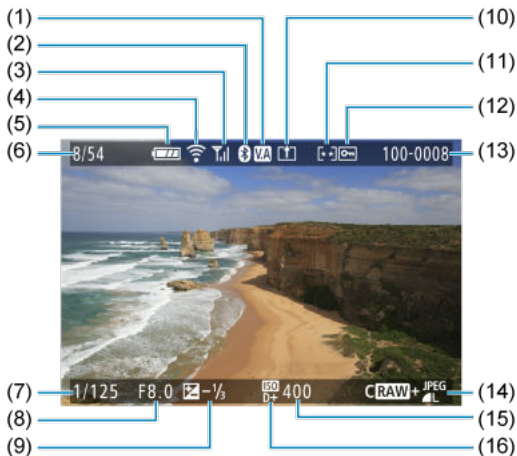
参考

- シーンや撮影状態によっては、実際のシーンと異なるアイコンが表示されることがあります。

〈INFO〉ボタンを押すと、押すたびに情報表示内容が切り換わります。

- 設定に応じた部分のみ表示されます。

静止画の簡易情報表示

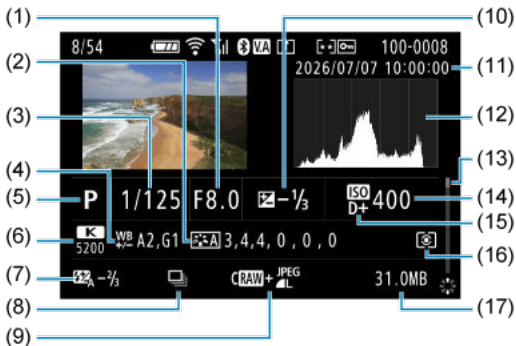


- | | |
|------|----------------------------|
| (1) | HDRビューアシスト |
| (2) | Bluetooth機能 |
| (3) | 電波強度 |
| (4) | Wi-Fi機能 |
| (5) | バッテリー残量 |
| (6) | 再生番号／総記録画像数／検索結果画像数 |
| (7) | シャッタースピード |
| (8) | 絞り数値 |
| (9) | 露出補正量 |
| (10) | パソコン／スマートフォンに送信済み |
| (11) | レーティング |
| (12) | 画像プロテクト |
| (13) | フォルダ番号-画像番号 |
| (14) | 記録画質／画像加工済み／トリミング／フレーム切り出し |
| (15) | ISO感度 |
| (16) | 高輝度側・階調優先 |

! 注意

- 他のカメラで撮影した画像は、一部の撮影情報が表示されないことがあります。
- このカメラで撮影した画像は、他のカメラで再生できないことがあります。

静止画の詳細情報表示1



- | | |
|------|----------------------|
| (1) | 絞り数値 |
| (2) | ピクチャースタイル（画像特性、設定内容） |
| (3) | シャッタースピード |
| (4) | WB補正/BKT設定 |
| (5) | 撮影モード/多重露出/フレーム切り出し |
| (6) | ホワイトバランス |
| (7) | ストロボ調光補正量/バウンス |
| (8) | 連写したシーンの先頭画像 |
| (9) | 記録画質/画像加工済み/トリミング |
| (10) | 露出補正量 |
| (11) | 撮影日時 |
| (12) | ヒストグラム（輝度/RGB） |
| (13) | スクロールバー |
| (14) | ISO感度 |
| (15) | 高輝度側・階調優先 |
| (16) | 測光モード |
| (17) | ファイルサイズ |

* 記載のない項目は**静止画の簡易情報表示**と共通のため、説明を省いています。

* RAW+JPEG/HEIFで撮影した画像は、RAW画像のファイルサイズが表示されます。

* RAW、RAW+JPEGの設定で、アスペクト比を設定して撮影した画像は、、撮影範囲が線で表示されます。

* トリミング情報が付加された画像は、トリミング範囲のみの画像が表示されます。

* 調光補正なしでストロボ撮影を行ったときは、が表示されます。

* 夜景効果を付けて撮影した画像は、夜景効果のアイコン（）が表示されます。

* バウンス撮影を行った画像は、が表示されます。

* 多重露出撮影を行った画像は、が表示されます。

* タイムラプス動画で、テスト撮影した静止画は、が表示されます。

* RAW現像、リサイズ処理、トリミング、HEIF画像をJPEG画像に変換、フレーム切り出しを行って保存した画像は、が表示されます。

* トリミングを行って保存した画像は、が表示されます。

* JPEGに変換したことがあるHEIF画像は、**JPEG↓**が表示されます。

静止画の詳細情報表示2



(1) オートライティングオプティマイザ

* 記載のない項目は[静止画の簡易情報表示](#)、[静止画の詳細情報表示1](#)と共通のため、説明を省いています。

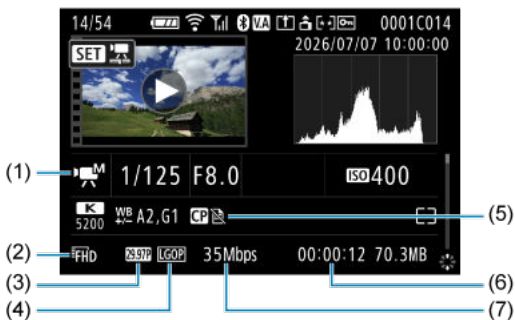
動画の簡易情報表示



- (1) 動画再生
- (2) 動画の縦横情報
- (3) リール番号＋クリップ番号
- (4) 記録時間／タイムコード

* 記載のない項目は[静止画の簡易情報表示](#)と共通のため、説明を省いています。

動画の詳細情報表示1



- | | |
|-----|---|
| (1) | 撮影モード |
| (2) | 動画記録サイズ |
| (3) | フレームレート |
| (4) | 圧縮方式 |
| (5) | ピクチャースタイル（画像特性、設定内容）／カラーフィルター／カスタムピクチャー |
| (6) | 記録時間／タイムコード |
| (7) | ビットレート |

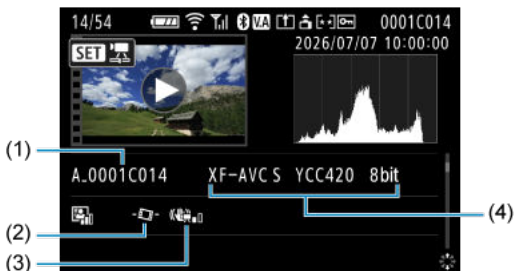
* 記載のない項目は[静止画の簡易情報表示](#)、[静止画の詳細情報表示1](#)、[動画の簡易情報表示](#)と共通のため、説明を省いています。

* S&F動画のフレームレートは、撮影時（左）と再生時（右）の両方が表示されます。

参考

- 動画再生時、ピクチャースタイルは「シャープネス」の「細かさ」「しきい値」が「*,*」と表示されます。

動画の詳細情報表示2



(1) 動画ファイル名

(2) 動画自動水平補正

(3) 手ブレ補正（動画電子IS）

(4) 動画記録形式

* 記載のない項目は[静止画の簡易情報表示](#)、[静止画の詳細情報表示1](#)、[静止画の詳細情報表示2](#)、[動画の簡易情報表示](#)、[動画の詳細情報表示1](#)と共通のため、説明を省いています。

主な仕様

形式

型式：デジタル一眼ノンフレックスAF・AEカメラ

レンズマウント：キヤノンRFマウント

使用レンズ：キヤノンRFレンズ群（RF-Sレンズを含む）

* マウントアダプターEF-EOS R使用時：キヤノンEF / EF-Sレンズ使用可能（EF-Mレンズを除く）

レンズ焦点距離：

RF / EF レンズ使用時：レンズ表記焦点距離と同じ

RF-S / EF-Sレンズ使用時：レンズ表記焦点距離の約1.6倍に相当

撮像素子

型式：フルサイズCMOSセンサー

カメラ部有効画素数*1,*2	最大約2420万画素
総画素数*1	約2560万画素
画面サイズ	約36.0×24.0 mm
デュアルピクセルCMOS AF	対応

* 1：1万の位を四捨五入

* 2：RF / EFレンズ使用時
使用するレンズまたは画像処理により、有効画素が減少することがある

記録方式

記録画像形式：DCF2.0、Exif3.00に準拠

記録画像タイプ/記録形式/拡張子

記録画像タイプ/記録形式		拡張子
静止画	JPEG	.JPG
	HEIF	.HIF
	RAW	.CR3
	C-RAW	
動画*1	XF-HEVC S YCC422 10bit XF-HEVC S YCC420 10bit XF-AVC S YCC422 10bit XF-AVC S YCC420 8bit	.MP4

* 1：[CPファイル付加：入] の設定で動画を撮影したときは、「.CPF」ファイルが作成される

記録メディア

カードスロット：シングルスロット

記録媒体：SDXC / SDHC / SDメモリーカード

* UHS-II / UHS-I / UHSスピードクラス / SDスピードクラス対応

静止画記録

記録画素数

画像サイズ		記録画素数（画素）				
		静止画クロップ/アスペクト				
		3 : 2	1.6倍（クロップ） ^{*1}	1 : 1	4 : 3	16 : 9
JPEG / HEIF	Large	2400万 (6000×4000)	約930万 (3744×2496)	1600万 (4000×4000)	約2130万 ^{*2} (5328×4000)	約2020万 ^{*2} (6000×3368)
	Medium	約1060万 (3984×2656)		約710万 (2656×2656)	約950万 (3552×2664)	約890万 ^{*2} (3984×2240)
	Small 1	約590万 (2976×1984)		約390万 (1984×1984)	約530万 (2656×1992)	約500万 ^{*2} (2976×1680)
	Small 2	約380万 (2400×1600)	約380万 (2400×1600)	約260万 (1600×1600)	約340万 ^{*2} (2112×1600)	約320万 ^{*2} (2400×1344)
RAW	RAW / CRAW	2400万 (6000×4000)	約930万 (3744×2496)	2400万 ^{*2} (6000×4000)		

* 記録画素数は、1万の位を四捨五入した値

* RAW / C-Rawは「3 : 2」の画像を生成し、設定したアスペクト比情報を画像に付加

* JPEG / HEIFは設定したアスペクト比の画像を生成

* リサイズ処理時も、上記アスペクト比と画素数が適用される

* 1：表記焦点距離の約1.6倍相当の画角となる

* 2：この画像サイズは、正確な比率にならない

ファイルサイズ/撮影可能枚数/連続撮影可能枚数

記録画質		ファイルサイズ (約・MB)	撮影可能枚数 (約・枚)	連続撮影可能枚数 (約・枚) *1	
				電子先幕	電子シャッター
JPEG*2	 Large	8.2	14810	1000枚以上	190
	 Large	4.4	27270	1000枚以上	190
	 Medium	4.5	26520	1000枚以上	180
	 Medium	2.6	45790	1000枚以上	180
	 Small 1	3.0	39270	1000枚以上	180
	 Small 1	1.8	51350	1000枚以上	180
	Small 2	1.8	65160	1000枚以上	180
HEIF*3	 Large	8.2	14420	1000枚以上	180
	 Large	6.3	18770	1000枚以上	180
	 Medium	5.0	23330	1000枚以上	180
	 Medium	3.9	29610	1000枚以上	180
	 Small 1	3.4	33560	1000枚以上	180
	 Small 1	2.8	41060	1000枚以上	180
	Small 2	1.8	56980	1000枚以上	180
RAW*2	 RAW	26.1	4710	1000枚以上	73
	 CRAW	13.1	9400	1000枚以上	150
RAW+JPEG*2	 RAW+  Large	26.1+8.2	3570	1000枚以上	73
	 CRAW+  Large	13.1+8.2	5750	1000枚以上	150
RAW+HEIF*3	 RAW+  Large	28.6+8.2	3290	150	51
	 CRAW+  Large	15.7+8.2	5060	390	150

* 1 : 連続撮影可能枚数は、キヤノン試験基準UHS-II対応128 GBのカード使用時の枚数

* 2 :  **HDR撮影(PQ) : しない** 設定時

* 3 :  **HDR撮影(PQ) : HDR PQ** 設定時

* 連続撮影可能枚数は、キヤノン試験基準 (ワンショットAF、高速連続撮影+、ISO 100、ピクチャースタイル : スタンダード、常温 : +23°C) で測定

* ファイルサイズは、撮影条件 (クロップ/アスペクト、被写体、ISO感度、カラーモードなど) により異なる

* 撮影可能枚数、連続撮影可能枚数は、撮影条件 (クロップ / アスペクト、被写体、カードの銘柄、ISO感度、カラーモード、カスタム機能、バッテリー残量、温度など) により異なる

動画記録

動画記録形式

動画記録形式	ビデオコーデック	カラーサンプリング 方式	ビット深度	ファイル拡張子
XF-HEVC S YCC422 10bit	H.265 / HEVC	YCbCr 4 : 2 : 2	10 bit	MP4
XF-HEVC S YCC420 10bit	H.265 / HEVC	YCbCr 4 : 2 : 0	10 bit	MP4
XF-AVC S YCC422 10bit	H.264 / MPEG-4 AVC	YCbCr 4 : 2 : 2	10 bit	MP4
XF-AVC S YCC420 8bit	H.264 / MPEG-4 AVC	YCbCr 4 : 2 : 0	8 bit	MP4

動画記録形式/動画記録サイズ/フレームレート

動画記録形式	動画記録サイズ	圧縮方式	フレームレート (fps)		
			179.8	150.0	119.9
XF-HEVC S YCC422 10bit	4K	標準LGOP			
XF-HEVC S YCC420 10bit	フルHD				
XF-AVC S YCC422 10bit			○*1	○*1	○*1
XF-AVC S YCC420 8bit					

動画記録形式	動画記録サイズ	圧縮方式	フレームレート (fps)		
			100.0	59.94	50.00
XF-HEVC S YCC422 10bit	4K	標準LGOP		○	○
XF-HEVC S YCC420 10bit	フルHD		○*1	○	○
XF-AVC S YCC422 10bit					
XF-AVC S YCC420 8bit					

動画記録形式	動画記録サイズ	圧縮方式	フレームレート (fps)		
			29.97	25.00	23.98
XF-HEVC S YCC422 10bit	4K	標準LGOP	○	○	○
XF-HEVC S YCC420 10bit	フルHD		○	○	○
XF-AVC S YCC422 10bit					
XF-AVC S YCC420 8bit					

* 1 : exFATでフォーマットされたカードのみ記録可能 (FAT32カードへの記録不可)

オーディオ設定

内蔵マイク：ステレオマイク

外部マイク（マルチアクセスリシーブ入力）：指向性ステレオマイク ロホンDM-E1D対応

外部マイク（外部マイク入力端子）：Φ3.5mmステレオミニジャック（3極）

記録時間、映像ビットレート、ファイルサイズの目安、要求カード性能

4K

記録形式	圧縮方式	フレームレート (fps)	カードごとの総記録時間（約）		
			64GB	256GB	1TB
XF-HEVC S YCC422 10bit	標準LGOP	59.94	37分	2時間31分	9時間51分
		50.00			
		29.97	1時間3分	4時間12分	16時間25分
		25.00			
		23.98			
XF-HEVC S YCC420 10bit XF-AVC S YCC420 8bit	標準LGOP	59.94	56分	3時間47分	14時間47分
		50.00			
		29.97	1時間25分	5時間40分	22時間9分
		25.00			
		23.98			
XF-AVC S YCC422 10bit	標準LGOP	59.94	34分	2時間16分	8時間52分
		50.00			
		29.97	56分	3時間47分	14時間47分
		25.00			
		23.98			

記録形式	圧縮方式	フレームレート (fps)	映像ビットレート (約・Mbps)	ファイルサイズ (約・MB/分)	要求カード性能
XF-HEVC S YCC422 10bit	標準LGOP	59.94	225	1612	U3
		50.00			
		29.97	135	968	
		25.00			
		23.98			
XF-HEVC S YCC420 10bit XF-AVC S YCC420 8bit	標準LGOP	59.94	150	1075	U3
		50.00			
		29.97	100	718	
		25.00			
		23.98			
XF-AVC S YCC422 10bit	標準LGOP	59.94	250	1791	V60
		50.00			
		29.97	150	1075	U3
		25.00			
		23.98			

* 映像ビットレートの数値は、映像のみで、音声、メタデータは含まない

* [オーディオ形式 : AAC / 16bit / 2CH] 設定時

* 1回の上限時間を超えた場合、動画記録が停止する

フルHD

記録形式	圧縮方式	フレームレート (fps)	カードごとの総記録時間（約）		
			64GB	256GB	1TB
XF-HEVC S YCC422 10bit	標準LGOP	179.8	56分	3時間47分	14時間47分
		150.0			
		119.9	1時間25分	5時間40分	22時間9分
		100.0			
		59.94	2時間49分	11時間19分	44時間12分
		50.00			
		29.97			
		25.00			
		23.98			
XF-HEVC S YCC420 10bit XF-AVC S YCC420 8bit	標準LGOP	179.8	1時間21分	5時間24分	21時間6分
		150.0			
		119.9	2時間1分	8時間5分	31時間37分
		100.0			
		59.94	4時間2分	16時間7分	63時間1分
		50.00			
		29.97			
		25.00			
		23.98			
XF-AVC S YCC422 10bit	標準LGOP	179.8	56分	3時間47分	14時間47分
		150.0			
		119.9	1時間25分	5時間40分	22時間9分
		100.0			
		59.94	2時間49分	11時間19分	44時間12分
		50.00			
		29.97			
		25.00			
		23.98			

記録形式	圧縮方式	フレームレート (fps)	映像ビットレート (約・Mbps)	ファイルサイズ (約・MB/分)	要求カード性能
XF-HEVC S YCC422 10bit	標準LGOP	179.8	150	1075	U3
		150.0			
		119.9	100	718	
		100.0			
		59.94	50	360	
		50.00			
		29.97			
		25.00			
		23.98			
XF-HEVC S YCC420 10bit XF-AVC S YCC420 8bit	標準LGOP	179.8	105	753	U3
		150.0			
		119.9	70	503	
		100.0			
		59.94	35	253	
		50.00			
		29.97			
		25.00			
		23.98			
XF-AVC S YCC422 10bit	標準LGOP	179.8	150	1075	U3
		150.0			
		119.9	100	718	
		100.0			
		59.94	50	360	
		50.00			
		29.97			
		25.00			
		23.98			

* 映像ビットレートの数値は、映像のみで、音声、メタデータは含まない

* [オーディオ形式 : AAC / 16bit / 2CH] 設定時

* 1回の上限時間を超えた場合、動画記録が停止する

動画撮影の自動停止

1回の撮影上限時間：通常動画

100.0 fps以上	最大2時間
100.0 fps 未満	最大6時間

* 1回に撮影できる最長時間

* 発熱、電源、エラーなどの要因による動画記録停止を除く

1回の撮影上限時間：S&F動画（NTSC）

（最大約・分）

▶ fps	📺 fps								
	180	120	60	30	12	6	3	2	1
59.94	120	180	360	360	360	360	360	360	360
29.97	60	90	180	360	360	360	360	360	360
23.98	48	72	144	288	360	360	360	360	360

* 1回に撮影できる最長時間

* 発熱、電源、エラーなどの要因による動画記録停止を除く

1回の撮影上限時間：S&F動画（PAL）

（最大約・分）

▶ fps	📺 fps								
	150	100	50	25	12	6	3	2	1
50.00	120	180	360	360	360	360	360	360	360
25.00	60	90	180	360	360	360	360	360	360

* 1回に撮影できる最長時間

* 発熱、電源、エラーなどの要因による動画記録停止を除く

オートフォーカス (AF)

フォーカス方式 : デュアルピクセルCMOS AF

測距輝度範囲

静止画撮影時

EV -7.5~21

(F1.2レンズ*・中央測距点・ワンショットAF・常温・ISO 100時)

* DS (Defocus Smoothing) コーティングを採用したRFレンズを除く

* その他の測定条件は、当社試験基準による

動画撮影時

• 4K 29.97 fps : EV -5.5~21

• フルHD 29.97 fps : EV -5.0~21

(F1.2レンズ*・中央測距点・ワンショットAF・常温・ISO 100・29.97 / 25.00 fps時)

* DS (Defocus Smoothing) コーティングを採用したRFレンズを除く

* その他の測定条件は、当社試験基準による

フォーカス動作

	静止画撮影	動画撮影
AF動作 ^{*1}	ワンショットAF AIフォーカスAF サーボAF	ワンショットAF 動画サーボAF
手動ピント合わせ (MF)	対応	対応

* 1 : 応用撮影ゾーン時に選択可能。かんたん撮影ゾーン時は、撮影モードに応じて自動設定

* AIフォーカスAF設定時は、被写体の動きに応じて、ワンショットAFからサーボAFに自動的に切り換わる (連写中を含む)

* 静止画撮影のかんたん撮影ゾーン時は設定不可

フォーカスモード : AF / MF

* フォーカスモードスイッチ非搭載のRF / RF-Sレンズ使用時に有効

* フォーカスモードスイッチ搭載レンズ使用時は、レンズ側の設定が優先される

測距エリアごとのレンズ対応 : キヤノンのホームページを参照 (🔗)

自動選択時AFエリア分割数

測距エリア		横 : 約100%、縦 : 約100%
分割数	静止画	最大1053分割 (39×27)
	動画 ^{*1}	最大1053分割 (39×27)

* 設定により異なることがある

* 1 : 4K設定時

AFフレーム選択可能ポジション

測距エリア		横：約90%、縦：約100%
ポジション数	静止画	最大4368ポジション（78×56）
	動画 ^{*1}	最大3588ポジション（78×46）

* 1点AF、マルチコントラローラーによる選択時

* AFフレーム選択可能ポジションは、AF性能を示す値ではない

* 1：4K設定時

ファインダー

型式：OLEDカラー電子ビューファインダー

画面サイズ：0.39型

ドット数：約236万ドット

倍率/視野角：約0.70倍/約33.0°（50 mmレンズ・ ∞ 、 -1 m^{-1} ）

視野率：約100%（JPEG Large（3：2）、アスペクト3:2、アイポイント約22 mm時）

アイポイント：約22 mm（ -1 m^{-1} 時/接眼レンズ最後尾から）

視度調整：約 $-4.0\sim+1.0\text{ m}^{-1}$

モニター

画面サイズ：3.0型（画面比率3：2）

ドット数：約162万ドット

視野角：上下／左右ともに約170°

視野率：約100%（画像サイズL、アスペクト比3:2）

モニターの明るさ：7段階（1～7）で手動調整可能

タッチパネル：静電容量方式

露出制御

各撮影状態の測光機能

項目		静止画撮影	動画撮影
測光センサー		撮像素子の出力信号による384分割（24×16）測光 ^{*1}	
測光モード	評価測光	○	○
	部分測光	○ 画面中央の約5.9 % ^{*3}	
	スポット測光 ^{*2}	○ 画面中央の約3.0 % ^{*3}	
	中央部重点平均測光	○	
測光輝度範囲（常温・ISO 100）		EV -3～20	EV -1～20

* 1：[1.6倍（クローズアップ）] 設定時も同様

* 2：マルチスポット測光不可（非対応）

* 3：フルサイズ時。1.6倍（クローズアップ）、デジタルテレコン設定時は数値が異なる

静止画撮影時のISO感度（推奨露光指数）

ISO感度：

常用ISO感度：ISO 100～102400

拡張ISO感度：L（ISO 50相当）、H（ISO 204800相当）

* [高輝度側・階調優先] 設定時の手動設定範囲は、ISO 200～102400

* [HDRモード] [HDR撮影(PQ)：HDR PQ] 設定時は、拡張ISO感度設定不可

ISO感度の範囲：

- 下限値：L（ISO 50相当）～102400
- 上限値：ISO 100～H（ISO 204800相当）

オートの範囲：

- 下限値：ISO 100～51200
- 上限値：ISO 200～102400

オート詳細

撮影モード		ストロボなし	ストロボ使用時	
			E-TTL ISOオート 上限可変制御対応レ ンズ使用時	E-TTL ISOオート 上限可変制御非対応 レンズ使用時
応用撮影ゾーン	Fv / P / Tv / Av / M	ISO 100* ¹ ～ 102400* ²	ISO 100* ¹ ～6400* ²	ISO 100* ¹ ～1600* ²
	B	ISO 400* ³	ISO 400* ³	
かんたん撮影ゾーン		ISO 100～25600	ISO 100～6400	ISO 100～1600
	SCN	撮影モードにより異なる		

* 1 : [高輝度側・階調優先：する/ 強] 設定時はISO 200

* 2 : [オートの範囲] の [上限値] [下限値] の設定による

* 3 : 設定範囲外の場合はISO 400に最も近い値に変更

E-TTL ISOオート上限可変制御：対応

動画撮影時のISO感度（推奨露光指数）

ISO感度（Mモード時）

	カスタムピクチャー	ISO感度
常用ISO感度	切* ²	ISO 100～25600
	Canon 709 / PQ / HLG	ISO 400～25600
	Canon Log 3	ISO 800～25600
	BT.709 Standard	ISO 160～25600
拡張ISO感度* ¹	切* ^{3,4}	H (ISO 32000 / 40000 / 51200 / 64000 / 80000 / 102400相当)
	Canon 709 / PQ / HLG	L (ISO 100 / 125 / 160 / 200 / 250 / 320相当) H (ISO 32000 / 40000 / 51200 / 64000 / 80000 / 102400相当)
	Canon Log 3	L (ISO 100 / 125 / 160 / 200 / 250 / 320 / 400 / 500 / 640相当) H (ISO 32000 / 40000 / 51200 / 64000 / 80000 / 102400相当)
	BT.709 Standard	L (ISO 100 / 125相当) H (ISO 32000 / 40000 / 51200 / 64000 / 80000 / 102400相当)

* 1 : 4K 59.94p / 50.00p 設定時は、拡張感度が最高ISO51200 相当となる

* 2 : [高輝度側・階調優先] 設定時は、低感度側がISO 200～となる

* 3 : [HDR撮影(PQ) : HDR PQ] 設定時は、拡張ISO感度不可

* 4 : [高輝度側・階調優先] 設定時は、拡張ISO感度不可

* ISO感度手動設定時の最高ISO感度は、[ISO感度の範囲] の設定による

ISO感度 (P / Tv / Av / C1 / C2 / C3 / S&Fモード/タイムラプス動画、Mモード+ ISOオート設定時)

	カスタムピクチャー	ISO感度
常用ISO感度	切 ^{*2}	ISO 100～25600
	Canon 709 / PQ / HLG	ISO 400～25600
	Canon Log 3	ISO 800～25600
	BT.709 Standard	ISO 160～25600
拡張ISO感度 ^{*1}	切 ^{*3*4}	H (ISO 32000 / 40000 / 51200 / 64000 / 80000 / 102400相当)
	Canon 709 / PQ / HLG	
	Canon Log 3	
	BT.709 Standard	

* 手動設定不可

* 1 : 4K 59.94p / 50.00p 設定時は、拡張感度が最高ISO51200 相当となる

* 2 : [高輝度側・階調優先] 設定時は、低感度側がISO 200～となる

* 3 : [HDR撮影(PQ) : HDR PQ] 設定時は、拡張ISO感度不可

* 4 : [高輝度側・階調優先] 設定時は、拡張ISO感度不可

* ISO感度自動設定時の最高ISO感度は、[オートの上限] の設定による

ISO感度の範囲：

下限値：ISO 100～25600

上限値：ISO 200～25600、H (ISO 51200 / 102400相当)

オートの上限：

ISO 6400 / 12800 / 25600 / H (ISO 51200 / 102400相当)

タイムラプス動画のオートの上限：

ISO 400 / 800 / 1600 / 3200 / 6400 / 12800 / 25600

シャッター

静止画撮影

型式：

電子制御式フォーカルブレンシャッター

撮像素子によるローリングシャッター

シャッター方式

方式	ストロボ撮影
電子先幕	可能
電子シャッター	不可

シャッタースピード

方式	設定範囲
電子先幕	1/4000～30秒、バルブ
電子シャッター	1/16000*1*2*3、1/8000～30秒、バルブ

* 1：1/16000秒が設定できるのは、Fv / Tv / Mモードのみ（P / Avモード時は1/8000秒まで）

* 2：1/16000 秒に設定したときは、1/3 段、1/2 段ステップの露出制御ができないため、撮影条件により、絞り数値、ISO 感度による調整が行われる場合がある

* 3：HDRモード、フォーカスブラケット撮影、絞り数値変化時の露出維持（ISO感度/Tv値、Tv値）設定時は、1/8000秒まで

ストロボ同調速度

EL / EX スピードライト		汎用ストロボ
フルサイズ	1.6倍（クロップ）	
1/200秒	1/250秒	1/200秒

* 電子シャッター時、ストロボ撮影不可

動画撮影

型式：撮像素子によるローリングシャッター

シャッタースピード：

Tv / M モード時：1/8000 ～ 1/8秒

その他：1/8000 ～ 1/25秒

* 撮影モードやフレームレートにより下限値が変化する

* 179.8 / 150.0 fps 設定時は下限が1/200 秒（NTSC） / 1/160 秒（PAL）、119.9/ 100.0 fps 設定時は下限が1/125 秒（NTSC） / 1/100 秒（PAL）となる

手ブレ補正 (IS機能) : あり

ドライブ

連続撮影速度

(最高・約)

ドライブモード	AF動作	電子先幕	電子シャッター
1枚撮影		○	○
高速連続撮影+ [Q _{AF}]	ワンショットAF AIフォーカスAF サーボAF	6.0コマ/秒	40コマ/秒
高速連続撮影 [Q _{AF}]	ワンショットAF AIフォーカスAF サーボAF	6.0コマ/秒	20コマ/秒
低速連続撮影 [Q _{AF}]	ワンショットAF AIフォーカスAF サーボAF	3.0コマ/秒	5.0コマ/秒
セルフタイマー : 10秒		○	○
セルフタイマー : 2秒		○	○
セルフタイマー : 連続撮影		○	○

外部ストロボ

アクセサリ用接点 : 21ピン (マルチアクセサリシュー対応製品用)、5ピン (X接点、通信用接点)

調光補正 : ±3段 (1/3、1/2段ステップ)

動画のフレーム切り出し

本機で撮影した4K動画の1フレームを、約830万画素 (3840×2160) の静止画 (JPEG / HEIF) として保存可能

* 通常動画はJPEG 画像、HDR 撮影 (PQ) 動画はHEIF 画像として保存される

* 切り出した静止画は、カメラ内でのリサイズ、トリミング、(再生時) クリエイティブアシスト不可

* [カスタムピクチャー] で撮影した動画から静止画のフレーム切り出し不可

印刷指定 (DPOF)

DPOF Version 1.1準拠

外部インターフェース

デジタル端子

端子形状	USB Type-C®
通信	USB 10 Gbps (SuperSpeed Plus USB / USB 3.2 Gen 2) 相当
用途	PC / スマートフォン通信用 USB充電/給電用

HDMI出力端子：HDMIマイクロ端子（タイプD）

* 解像度自動切り換え

* HDMI CEC非対応

外部マイク入力端子：Φ3.5 mmステレオミニジャック（3極）

* プラグインパワーの機能を使用するときは、ステレオマイクロホンDM-E100を使用すること

ヘッドフォン端子：Φ3.5 mmステレオミニジャック

リモコン端子：E3タイプ端子

電源関連

使用電池

対応バッテリーパック	LP-E17
使用個数	1個

USB充電・給電：USB電源アダプター PD-E2使用/PD-E1使用

AC電源：ACアダプターAC-E6N、およびDCカプラーDR-E18

撮影可能枚数

撮影方法	温度	撮影可能枚数（約・枚）	
		省電力優先*1	なめらかさ優先*2
ファインダー撮影*3	+23°C	220	150
モニター撮影*4		340	270

* 1：CIPA規格準拠

* 2：CIPA規格を基準にした当社測定条件による

* 3：[ファインダー固定] 設定時

* 4：[モニター固定] 設定時

* 新品・フル充電のLP-E17使用時

* 撮影環境により、撮影可能枚数が大きく変動することがある

* マルチアクセサリシュー対応のアクセサリ装着時は、カメラからアクセサリに給電が行われるため、撮影可能枚数が少なくなることがある

動作可能時間

使用条件			温度	動作可能時間
バルブ撮影可能時間			+23°C	約3時間
ライブビュー撮影可能時間			+23°C	約2時間30分
動画撮影可能時間*1	4K	- 標準LGOP 59.94 / 50.00 fps	+23°C	約40分
			0°C	約40分
	フルHD	- 標準LGOP 29.97 / 25.00 fps	+23°C	約2時間
			0°C	約1時間50分
動画再生可能時間 (通常再生)	4K	- 標準LGOP 59.94 / 50.00 fps	+23°C	約2時間40分

* 新品・フル充電のLP-E17使用時

* モニター使用時

* 1: [動画サーボAF: しない] [動画クロップ: しない] 設定時

大きさ・質量

大きさ

幅 × 高さ × 奥行	約131.4×90.0×79.7 mm
-------------	---------------------

* CIPAガイドラインによる

質量

本体 (バッテリー、カードを含む) * CIPAガイドラインによる	約546 g
本体のみ	約499 g

* ボディキャップ、シューカバーを含まず

動作環境

使用可能温度: 0～+40°C

使用可能湿度: 85%以下

Wi-Fi（無線LAN）

対応規格（IEEE 802.11b/g/n/a/ac/ax規格相当）

Wi-Fi規格（相当）	伝送方式	リンク速度（最高）	
		5GHz帯	2.4GHz帯
IEEE 802.11ax	OFDM変調方式 (CSMA / CA)	143.4 Mbps	
IEEE 802.11ac		86.7 Mbps	—
IEEE 802.11n		72.2 Mbps	
IEEE 802.11a		54 Mbps	—
IEEE 802.11g		—	54 Mbps
IEEE 802.11b	DSSS変調方式	—	11 Mbps

* MIMO（multiple-input and multiple-output）に非対応

送信周波数（中心周波数）

2.4GHz帯

周波数	2412～2462 MHz
チャンネル	1～11 ch

5GHz帯

周波数	5180～5825 MHz
チャンネル	36～165 ch

* 国・地域により仕様が異なる

認証方式とデータ暗号化方式

2.4GHz帯/ 5GHz帯

接続方式	認証方式	暗号方式
カメラアクセスポイント	オープン	しない
	WPA2 / WPA3-Personal	AES
インフラストラクチャー	オープン	しない
	WPA / WPA2 / WPA3-Personal	AES

Bluetooth

準拠規格：Bluetooth Specification Version 5.3準拠（Bluetooth low energy技術）

伝送方式：GFSK変調方式

- 記載データはすべて当社試験基準、またはCIPA試験基準／ガイドラインによります。
- サイズ、質量はCIPAガイドラインによります（カメラ本体のみの質量を除く）。
- 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。
- 他社製のレンズを使用して不具合が生じた場合は、そのレンズメーカーへお問い合わせください。

商標・ライセンスについて

☑ [商標について](#)

☑ [MPEG-4使用許諾について](#)

☑ [アクセサリについて](#)

商標について

- Adobeは、米国およびその他の国におけるAdobeの登録商標または商標です。
- Microsoft、Windowsは、Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- App Store、macOSは、米国およびその他の国で登録されたApple Inc.の商標です。
- Google PlayおよびAndroidはGoogle LLCの商標です。
- IOSは、Ciscoの米国およびその他の国における商標または登録商標であり、ライセンスに基づき使用されています。
- QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。
- SDXCロゴは、SD-3C LLC.の商標です。
- HDMI、HDMI High-Definition Multimedia Interface、HDMIのトレードドレスおよびHDMIのロゴは、HDMI Licensing Administrator, Inc.の商標または登録商標です。
- USB Type-C®およびUSB-C®はUSB Implementers Forumの登録商標です。
- カメラの設定画面と本書内で使用されている「WPS」は、Wi-Fi Protected Setupを意味しています。
- Bluetooth®のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標であり、キヤノン株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標およびトレードネームは、それぞれの所有者に帰属します。
- その他の社名、商品名などは、各社の商標または登録商標です。



"This product is licensed under AT&T patents for the MPEG-4 standard and may be used for encoding MPEG-4 compliant video and/or decoding MPEG-4 compliant video that was encoded only (1) for a personal and non-commercial purpose or (2) by a video provider licensed under the AT&T patents to provide MPEG-4 compliant video. No license is granted or implied for any other use for MPEG-4 standard."

THIS PRODUCT IS LICENSED UNDER THE AVC PATENT PORTFOLIO LICENSE FOR THE PERSONAL USE OF A CONSUMER OR OTHER USES IN WHICH IT DOES NOT RECEIVE REMUNERATION TO (i) ENCODE VIDEO IN COMPLIANCE WITH THE AVC STANDARD ("AVC VIDEO") AND/OR (ii) DECODE AVC VIDEO THAT WAS ENCODED BY A CONSUMER ENGAGED IN A PERSONAL ACTIVITY AND/OR WAS OBTAINED FROM A VIDEO PROVIDER LICENSED TO PROVIDE AVC VIDEO. NO LICENSE IS GRANTED OR SHALL BE IMPLIED FOR ANY OTHER USE. ADDITIONAL INFORMATION MAY BE OBTAINED FROM MPEG LA, L.L.C. SEE [HTTP://WWW.MPEGLA.COM](http://WWW.MPEGLA.COM)

* 規定により英語で表記しています。

アクセサリについて

アクセサリはキヤノン純正品のご使用をおすすめします

本製品は、キヤノン純正の専用アクセサリと組み合わせて使用した場合に最適な性能を発揮するように設計されておりますので、キヤノン純正アクセサリのご使用をおすすめいたします。

なお、純正品以外のアクセサリの不具合（例えばバッテリーの液漏れ、破裂など）に起因することが明らかな、故障や発火などの事故による損害については、弊社では一切責任を負いかねます。また、この場合のキヤノン製品の修理につきましては、保証の対象外となり、有償とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

❗ 注意

- バッテリーパック LP-E17は、キヤノン製品専用です。指定外の充電器、および製品と組み合わせて使用した場合の故障、事故に関しては一切保証できません。

最新の対応アクセサリについては、下記のサイトでご確認ください。

- <https://cam.start.canon/H002/>



無線機能について

- 本製品には、電波法に基づく認証を受けた無線装置が内蔵されており、証明ラベルは無線設備に添付されています。
- 次の事項を行うと、法律で罰せられることがあります。
 - 本製品を分解、改造すること
 - 本製品上の証明ラベルをはがすこと
- 医療用の装置や、電子機器の近くで本製品を使用しないでください。医療用の装置や、電子機器の動作に影響を及ぼす恐れがあります。

EOS R8 Mark IIの使用可能な地域と制限事項

- 本製品は電気通信事業者の通信回線に直接接続することができません。
本製品をインターネットに接続する場合は、必ずルータ等を経由し接続してください。
- 本製品は、世界各地の電波規制に準拠するため、地域別に「DS126944」「DS126945」「DS126946」「DS126947」「DS126948」のタイプを販売しています。
それぞれのタイプは、使用可能地域以外では、使用できませんのでご注意ください。
それぞれのタイプが使用できる地域の情報は、キヤノンのWebサイトでご確認ください。

無線LANの使用制限について

無線LANは、下記表の灰色で示したチャンネルの条件では使用できません。これは、各使用可能地域の法律によって定められていますので、厳守してください。
そのほかのチャンネルは使用できます。ただし、「*」印のチャンネルは、一部使用制限がありますので、表の注釈をお読みください。

		(1)	(2)					
				W52	W53	W56		W58
DS126944	(3)	(5)	1-11	36-48	52-64	100-140		149-165
		(6)	1-11	36-48	52-64	100-140		149-165
	(4)	(5)	1-11	36-48	52-64	100-140		149-165
		(6)	1-11	36-48	52-64	100-140		149-165
DS126945	(3)	(5)	1-11	36-48	52-64	100-116	120-128	132-140
		(6)	1-11	36-48	52-64	100-140		149-165
	(4)	(5)	1-11	36-48	52-64	100-116	120-128	132-140
		(6)	1-11	36-48	52-64	100-140		149-165
DS126946	(3)	(5)	1-11	36-48	52-64	100-140		149-165
		(6)	1-11	36-48	52-64	100-140		149-165
	(4)	(5)	1-11	36-48	52-64	100-140		149-165
		(6)	1-11	36-48	52-64	100-140		149-165
DS126947	(3)	(5)	1-11	36-48	52-64	100-140		149-165
		(6)	1-11	36-48	52-64	100-140		149-165
	(4)	(5)	1-11	36-48	52-64	100-140		149-165
		(6)	1-11	36-48	52-64	100-140		149-165
DS126948	(3)	(5)	1-11	36-48	52-64	100-140*		149-165
		(6)	1-11	36-48	52-64	100-140		149-165
	(4)	(5)	1-11	36-48	52-64	100-140*		149-165
		(6)	1-11	36-48	52-64	100-140		149-165

(1):無線LAN接続方法

(2):チャンネル

(3):屋内

(4):屋外

(5):インフラストラクチャー

(6):カメラアクセスポイントモード

* ロシアでは、100～128チャンネルは使用禁止です。

DS126944、DS126945、DS126946、DS126947、DS126948は、無線モジュール
(Model:ES206) を搭載しています。



® 007-AQ0036

電波干渉について

この機器の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）、および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）、およびアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

- (1) この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局、および特定小電力無線局、およびアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
- (2) 万が一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するか、または電波の発射を停止した上、お客様相談センターにご連絡いただき、混信回避のための処置等（例えば、パーティションの設置など）についてご相談ください。
- (3) その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局、あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、お客様相談センターへお問い合わせください。

2.4 DS/OF 2



2.4 XX 8



「2.4」：2.4GHz帯を使用している無線機器であることを意味します。

「DS/OF/XX」：変調方式を表します。DSはDS-SS方式、OFはOFDM方式、XXはその他の方式であることを意味します。

「2」：想定される干渉距離が20m以下であることを意味します。

「8」：想定される干渉距離が80m以下であることを意味します。

：一部領域（2402～2472MHz）を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味します。

：全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避不可であることを意味します。

- 本製品は、他の電波を発する機器から、電波干渉を受ける場合があります。これらの機器からできるだけ遠く離すか、ご利用時間を分けるなどして、電波干渉を避けて使用してください。
- W52/W53：5.2GHz帯高出力データ通信システムの基地局又は陸上移動中継局と通信する場合を除き屋内においてのみ可能である。
"W52/W53：In door use only, except for connection to Base stations or Land mobile relay stations for a 5.2 GHz band high-power data communication system"